

取扱説明書

 **Takakita**

細断型ホーローッパ収穫機

WB1030HC



本製品を安全に、また正しくお使いいただくために
必ず本取扱説明書をお読みください。
お読みになった後も大切に保管してください。

株式会社 **タカキタ**

は じ め に

このたびは本製品をお買い上げいただき、ありがとうございました。

この取扱説明書は、**細断型ホールクロップ収穫機**の取扱方法と使用上の注意事項について記載してあります。ご使用前には必ず、この取扱説明書を熟知するまでお読みの上、正しくお取扱いただき最良の状態でご使用ください。

- お読みになったあとも**必ず製品に近接して保存**してください。
- 製品を貸与または譲渡される場合は、この取扱説明書を製品に添付してお渡しください。
- この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、速やかにお買い上げの販売店または当社にご注文ください。
- 本書は、《参考》・《重要》として知っておくとお得な製品の性能や、製品自体の損傷防止に関する留意事項を書いてあります。
- なお、本製品については不断の研究成果を新しい技術として直ちに製品に取り入れておりますので、お手元の製品と本書の内容が一致しない場合もありますので、あらかじめご了承ください。
- ご不明なことやお気付のことがございましたら、お買い上げの販売店または当社にご相談ください。

⚠ 警 告 サ イ ン

⚠ 印付きの下記マークは安全上、特に重要な項目ですので、よく読んで必ずお守りください。

⚠ 危険

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。

⚠ 警告

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。

⚠ 注意

その警告に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示します。

目 次

 安全に作業するために	1
1. 本製品の使用目的とサービスについて	14
2. 機体方向説明	15
3. 各部の名称とはたらき	16
1. 全体	16
2. レバー・ペダル関係	18
3. スイッチ・ダイヤル関係	20
4. 主変速レバーグリップ	23
5. パワステグリップ	24
6. コンビネーションメータパネル	25
7. リヤケース連動クラッチ	39
4. 運転に必要な装置の取扱い	40
1. チャンバー開閉装置の取扱い	40
2. 安全装置の取扱い	40
3. 満了感知装置の取扱い	41
4. ネット繰出しスイッチの取扱い	41
5. ネット装置のスライド	42
6. ネットをセットする	43
7. 使用時にこれだけは守りましょう	44
8. 使用できるネット	44
9. ネット巻数の設定	44
10. ネットブレーキの調整	45
11. タイトチェーン注油装置の取扱い	45
12. パイロットランプについて	45
13. 圧力ゲージの見方・調整	46
5. 作業前点検	47
1. 運転席に座る前に	47
2. 運転席に座って	48
3. 運転席でメインスイッチを「入」にして	48
4. エンジンを始動して	49
6. 運転のしかた	50
1. 運転席の調節のしかた	50
2. エンジン始動と停止のしかた	51
3. 走行のしかた	55
4. 自動車等への積み・降ろしのしかた	60
7. 圃場での準備	64
1. コンバイン作業ができる作物とほ場	64
2. ほ場での準備	64
3. 収穫機の準備	65
8. 作業前に必要な調節	68
1. 作業前に必要な調節	68
2. 作業に必要な調節	71

9. 刈り取り作業のしかた	74
1. 刈取作業に関する注意	74
2. ほ場の刈りかた	75
3. 湿田ほ場の刈りかた	75
4. 刈取かき込みペダルの使いかた	76
5. 条合わせのしかた	77
6. 刈高さの合わせかた	77
7. 回行のしかた	77
8. 車高スイッチの使いかた	78
9. 傾斜スイッチの使いかた	78
10. 緊急エンジン停止スイッチの使いかた	78
11. 旋回力アップスイッチの使いかた	79
12. 旋回モードスイッチ	81
13. パワーステアリングレバー 感度調整ダイヤル	82
10. ロールベアラの作業方法	84
1. 作業手順と要点	84
2. ブザーが鳴りパトライトが 点灯します	85
3. 連続電子ブザーが鳴り詰りを 知らせたら	85
4. 連続電子ブザーが鳴り ロック外れを知らせたら	85
5. 誤ってネット繰出しスイッチを 押した時は	86
6. ロール放出のしかた	86
11. 自動装置について	87
1. 刈取・フィードチェーン 自動停止装置	87
2. 刈高さ制御装置	88
3. オートリフト装置	89
4. IQ アクセル装置	89
5. 車体水平制御装置	90
6. 湿田制御装置	92
7. センサチェックモード	93
12. メンテナンスモードについて	97
1. メンテナンスモードについて	97
2. エンジン始動設定と始動のしかた	98
3. 液晶コントラスト調整のしかた	103
4. メンテナンス情報表示のしかた	104
5. メンテナンス案内について	108
13-1. 各部の開閉のしかた	109
1. ラジエータカバー	109
2. オイルクーラ	109
3. 搬送チェンレール	110
4. 引起しカバー	110
5. 刈取部	112
13-2 添加器の作業方法	117
1. 仕様	117
2. 作業方法	117
3. 添加量の目安	118
4. 不調診断	118
5. メンテナンス	117
14. キャビンについて	119
1. 各部の名称	119
2. 各部の使い方	120
3. エアコン	126

15-1. ロールベアラ部の簡単な手入れと処置	130
1. タイトチェーンの張り調整	130
2. シェアボルトの交換	130
3. 自動注油	130
4. ミッション給油	131
5. 各部の注油・グリスアップ	131
6. リヤチャンバーの清掃	132
15-2. 点検整備	133
1. 点検整備に関する注意	133
2. 定期点検一覧表	134
3. 燃料給油のしかた	136
4. オイル交換のしかた	136
5. グリース注入のしかた	141
6. ベルトの点検と調整のしかた	144
7. チェンの点検と調整のしかた	149
8. ワイヤの点検と調整のしかた	153
9. エアコンの点検	153
10. その他の点検と調整について	156
16. ロールベアラ部の点検・調整	171
1. チェンの点検・調整	171
2. カッター部の点検・調整	172
3. スピンナー部の点検・調整	175
4. ベルトの点検・調整	176
5. 感知装置の点検・調整	176
6. リヤケース連動クラッチの 点検・調整	177
17. 格納時の手入れ	178
1. 手入れに関する注意	178
2. 日常の格納	178
3. 長期の格納	179
18. 不調時の診断と処置	180
1. 異常発生時の処置	180
2. ロールベアラ部の不調診断	185
19. 付表	186
1. 主要諸元	186
2. 電装の位置	187
3. 配線図	189
4. 付属品一覧	191
5. 推奨潤滑油一覧表	191
6. 主要消耗品	192
7. ロールベアラ消耗部品 (純正部品を使いましょう)	195
8. オプション一覧	196

⚠ 安全に作業するために

取扱説明書と本機に貼ってある⚠ 表示ラベルをよく読み、機械の使い方をよく理解した上で使用してください。また、機械を点検して異常がないかを確認してから使用してください。

機械を他人に貸すとき、または他人に運転をさせるときは、運転の仕方を教え、本書も貸与し必ず読んでもらってください。

1. 安全作業をするため次のことがらを必ず守ってください。

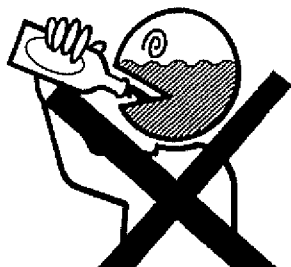
(1) 安全指示順守

- 本書及び機械の警告ラベル・注意ラベルをよく読み理解してください。
- 警告ラベル・注意ラベルはいつもきれいにしておいてください。
- 破損・紛失したときは、注文して再度貼付けてください。
- 正しい運転、作業方法を覚えてください。
- 製品を勝手に改造しないでください。安全性をそこなったり、機能や寿命低下の原因になります。
- 本書記載事項以外についても、安全には細心の注意を払ってください。



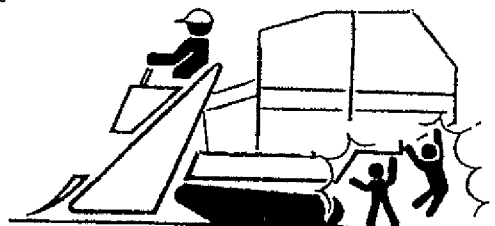
(2) 適格者運転

- 運転操作には的確な判断が必要です。
- お酒を飲んでいる方、睡眠不足の方、妊娠中のご婦人、16才未満の方、過労、病気の人は使用しないでください。
- 初めて運転する人は操作に慣れるまで低速で運転してください。



(3) 子供が近づくのは危険

- 点検・整備中及び収穫作業中、機械に子供を近づけないでください。見えない所で機体にさわったり、かくれたりして危険です。



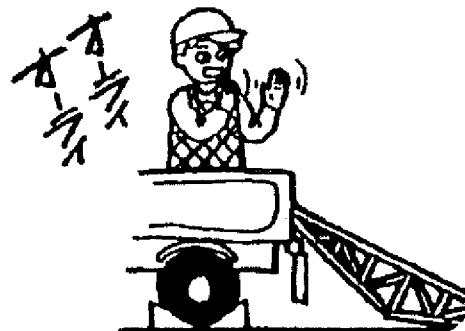
2. 道路走行・輸送するときは

(1) 公道走行はできません

本機は公道を走行すると、道路運送車両法に違反します。公道を移動するときはトラックなどで運送してください。

(2) トラックなどへの積込み・積降しは

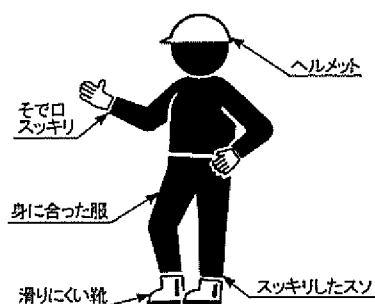
平坦な場所でトラックが移動しないようエンジンを止め、サイドブレーキをかけ、車止めをし、幅・長さ・強度が充分あるスリップしないアユミ板をかけ、最低速度でクラッチを使わずに行なってください。積込んだ機械は車止めをし、強度が充分にあるロープで確実に固定してください。



⚠ 安全に作業するために

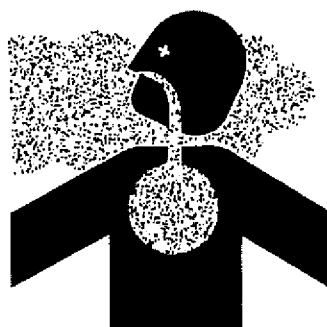
(3) 安全な服装

- 運転者・補助者とも作業に適した服を着用してください。
- レバーや作動部に誤って引っ掛かり、ケガをすることがありますのでだぶついた服は、着用しないでください。また、そで口はきっちりと止めてください。
- はち巻き、首巻き、腰タオルの着用は禁止です。
- サンドル、スリッパなどの履物の着用は禁止です。



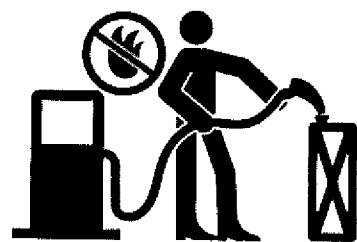
(4) 排気ガスに注意

- エンジンの排気ガスは有毒です。
- 屋内で運転するときは、適切な換気をしてください。
- 排気管を屋外に延長するか、ドアや窓を開け、外気が充分入るようにしてください。



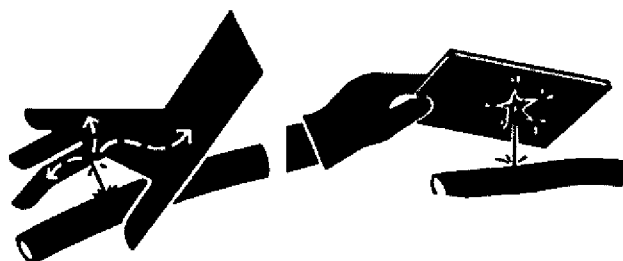
(5) 燃料の取扱いは安全に一火気厳禁

- 燃料は非常に燃えやすく危険です。取扱いには充分注意してください。
- 燃料補給するときはエンジンを必ず止めてください。
- 燃料補給中は火気厳禁です。くわえタバコや裸火照明は近づけないでください。
- 燃料やオイルをこぼしたときは、きれいにふき取ってください。



(6) 定期点検整備

- 1年ごとに定期点検整備を受け、各部の保守をしてください。
- フューエルパイプ、ラジエータホース、オイルドレングムホースは2年ごとに交換してください。（“定期交換”の項参照）
- 電気配線は毎年点検してください。（“定期点検と調整”の項参照）
- 高圧噴油が皮膚に浸入すると危険です。
- 燃料噴射管や油圧パイプなどからの高圧油のものは厚紙や板などを使って点検してください。高圧噴油に直接、手や体を触れないようにしてください。もし、高圧噴油に触れた場合、直ちに医者診断を受けてください。油が皮膚に浸入した場合、数時間以内に取除かないと壊疽（えそ）にかかる恐れがあります。



⚠ 安全に作業するために

(7) 作業前点検（日常点検）の実施

- 運転の前には点検項目（“日常点検項目”の項参照）の点検をしてください。異常があれば整備してから運転してください。



- 点検・整備・調整・掃除・給油・グリスアップするときはエンジンを必ず止めてください。
- ロールベアラクラッチ・刈取りクラッチは“切”にし、駐車ブレーキを掛けてください。
- マフラ部周辺・ベルトカバー内・配線部・バッテリー周辺に、わらくずがたまっていると火災の原因となりますのできれいに取除いてください。
- 燃料・オイル・グリースは指定のものを使ってください。

- 取外した安全カバー、保護カバーは必ず取付けて作業してください。



(8) 機械を動かす場合は安全に注意

- 機械を動かす場合は周囲の安全に気を付けてください。
- エンジンを始動するときは、運転座席に必ず座って、変速レバーを“中立”にし各クラッチを“切”にし、ホーンを鳴らすなどの合図をしてください。
- 機械を発進するときや各クラッチを入れるときは、ホーンを鳴らすなどの合図をして、機械に人を近づけないでください。
- 前進・後進・旋回するときは、必ず周囲の安全を確認してください。

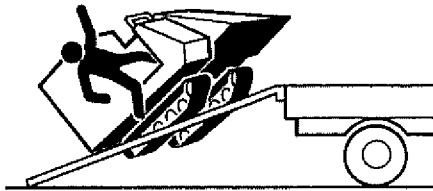


(9) 安全なトラック輸送

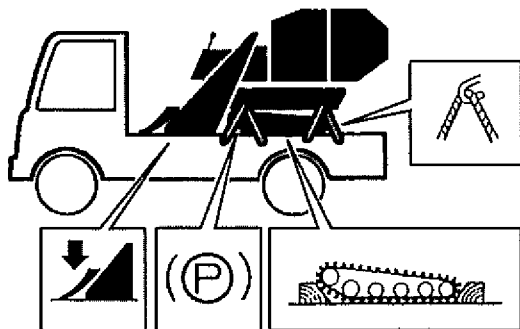
- 積み込み・積み降しはトラックの駐車ブレーキをしっかりと掛けてください。
- トラックへの積み込み積み降しは、平地を選んで、最低速で行なってください。
- あゆみ板はフックが付いているものを使用し、トラックの荷台に段差のないように確実に掛けてください。また、あゆみ板は段差の4倍以上の長さで、すべり止めがあり、強度が充分ある基準にあったものを使ってください。
- あゆみ板は平行において、安定していることを確認してください。
- チャンバー内は空にしておいてください。
- 自動車体水平制御は機体を一番下げた状態にしてください。
- 積み込みは前進で、積み降しは後進で行なってください。

⚠ 安全に作業するために

- あゆみ板の途中でパワーステアリングレバー・副変速レバー・駐車ブレーキを操作すると、機械の移動方向が変化したり、急降下、落下する危険がありますので操作しないでください。方向を変えるときは、いったん地上又は荷台にもどって方向を修正し、再度上り下りし直してください。



- トラックの上では刈取部を床まで降し駐車ブレーキを掛け、車止めをし、ロープでしっかり床に固定します。
- 防じんカバーが開いていると風圧で破損・脱落の恐れがありますので、必ず閉じてください。
- 輸送中の急発進・急ブレーキ・急ハンドルは積荷が動いて危険ですから、絶対しないでください。

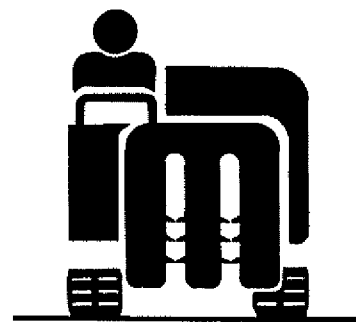


あゆみ板の基準

長さ	トラックの荷台の高さの4倍以上
幅	60cm以上
数量	2枚
強度	1枚が2800kg以上の重量に耐えうる

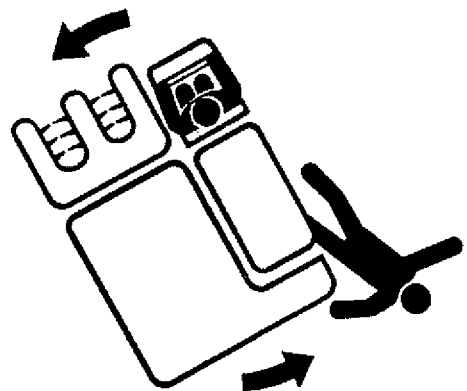
(10) 安全な移動走行

- 補助デッキ・左分草かんを収納して機体幅を狭くしてください。
- 刈取部の先にデバイダカバーを取付けてください。
- 各作業クラッチを切り、運転者以外乗らないでください。
- 自動車体水平制御は、機体を一番下げた状態にしてください。
- ロールは排出してから移動してください。
- リヤケースは必ず閉めた状態で移動してください。



(11) 高速走行の場合の注意

- 高速走行するときに、急激なパワーステアリングレバーの操作をすると急旋回し危険です。
- 方向を変えるときは速度を低速にしてください。

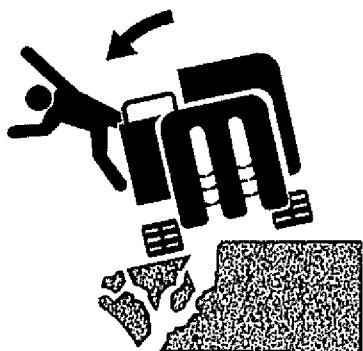


⚠ 安全に作業するために

(12) 転倒・転落注意

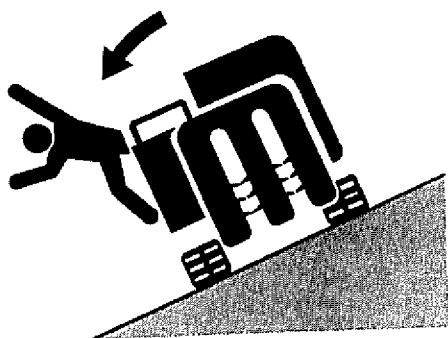
■転倒・転落は重大事故になります。

- 溝・穴・土手の近くは路肩が弱いことがあります。機体の重みでくずれ場合がありますので、走行しないでください。
- 道幅に余裕がなく高所にある道路（土手）で運転を誤ると、転落して死亡事故になることがありますので走行しないでください。
- 刈取り作業時以外（特にあぜ越え時、移動走行時、運搬時、格納時）はローラーを排出して、各クラッチを“切”にし、自動車体水平制御は、機体を一番下げた状態にしてください。

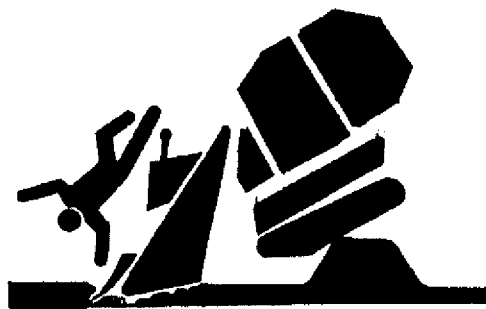


■坂道走行・ほ場の出入口・傾斜地作業は転倒・転落の危険があります。注意しましょう。

- 坂道の途中や傾斜地では速度を落としペダル・変速レバー・パワーステアリングレバーを操作しないでください。
- 斜め走行は危険です。機械を傾斜の方向に合わせた作業（走行）をしてください。
- 坂道・傾斜地で旋回はしないでください。

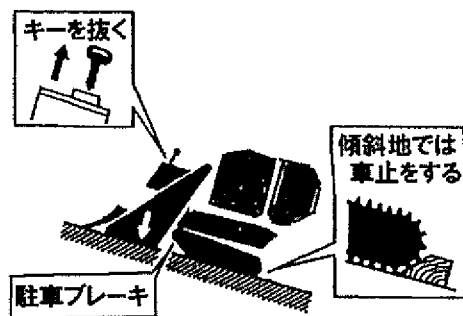


- 10cm以上の段差のあるところでは、段差の4倍以上の長さで滑り止めがある基準にあったあゆみ板を使ってください。
- 低速で段差に直角に進入してください。
- 途中でペダル・変速レバー・パワーステアリングレバーの操作はしないでください。



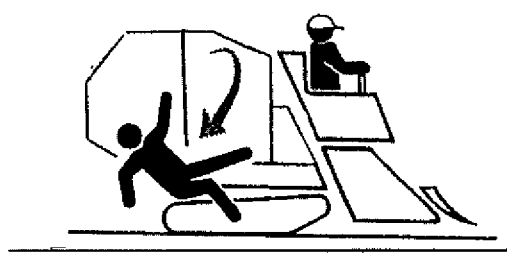
(13) 安全な駐車のしかた

- 駐車するとき（運転席を離れるとき）は駐車ブレーキを掛け、刈取部を地面に当るまで降しキーを抜いてください。
- 傾斜地に駐車するときは車止めをしてください。



(14) 運転者以外の搭乗禁止

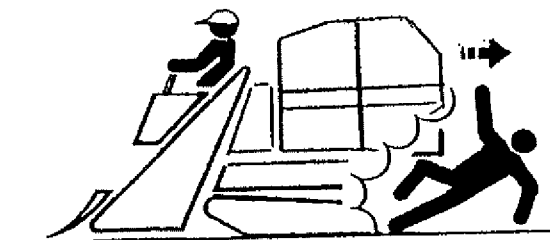
- 運転者以外の人を乗せて運転しないでください。
- ふり落とされたり、障害物にぶつかったりすることがあり危険です。
- 運転者は動いている機体にとび乗ったり、飛び降りたりしないでください。



⚠ 安全に作業するために

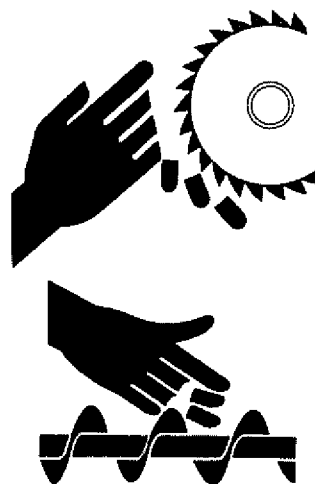
(15) 共同作業の安全確保

- 補助者は運転席からみえにくい位置にすることがあります。補助者の安全にも配慮してください。
- エンジン始動時、各クラッチを入れるときは合図し、補助者のOKをもらってください。
- 補助者が機体に近づくときは、運転者に知らせることを徹底させてください。



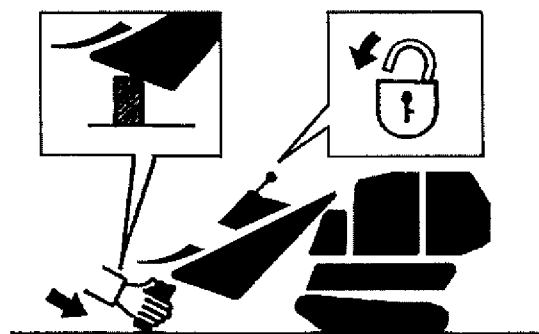
(16) 安全な収穫作業

- 異常に気付いたらすぐエンジンを止めてください。
- 危険ですので運転中にわらの巻付きや詰まりを取除くことはしないでください。エンジンを必ず止めて処置してください。
- カッタにわらが詰まったときは、すぐ各クラッチを切りエンジンを止めて処置してください。
- カッタに詰まったわらなどを取除くときは、厚手の手袋をして、少しずつ取ってください。素手で刃先には触れないでください。
- ベルトカバー・チェーンカバーなどの内部には回転物があります。危険ですのでカバーの下に手を入れたり、カバーを外したままで運転しないでください。
- 各部の掃除口、点検窓の内部には高速回転物があり危険です。掃除口や点検窓を開けるときはエンジンを止めてください。



(17) 安全な点検・整備

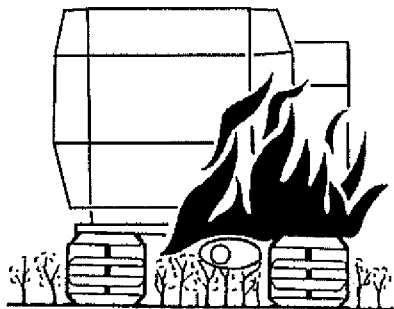
- 点検・整備は水平で平坦な場所で行ってください。
- エンジンをかけたままでの点検・整備・清掃は危険です。エンジンを必ず止めて駐車ブレーキを掛けてください。
- 刈取部を上げて点検・調整・清掃をするとき、昇降部をロックするとともに、落下防止の歯止めをしてください。
- 刈取部の下へもぐったり、足や手をつっこんだりしないでください。
- 刈取部の刈刃・カッタ部のカッタ刃を交換するときは手袋を着用し、刃先に手が触れないようにしてください。



⚠ 安全に作業するために

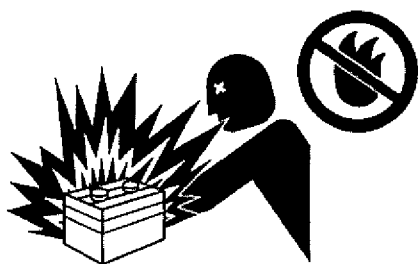
(18) 火災防止

- わらくずは燃えやすく注意が必要です。
- エンジン本体・マフラ周辺・ベルトカバー内側配線部・バッテリー周辺にわらくずがたまっていると危険です。作業前、作業後に点検しきれいに取除いてください。
- 運転後わらくずの上や枯れた雑草の上に停車すると、火災の恐れがありますので避けてください。
- 機体にカバー（おおい）をかけるときは、エンジン・マフラが冷えてからかけてください。停止直後にカバーをかけると火災の恐れがあります。
- 電気配線の被覆が破れるとショートして火災が発生する恐れがあります。点検をして破れている部分は修理が必要です。



(19) バッテリーの取扱い注意

- バッテリーのガスは爆発の恐れがあります。
- バッテリーの近くに裸火（マッチ、ライター、タバコの火など）を近づけたり、ケーブルのショートによるスパークをさせないでください。
- バッテリーはエンジン始動用ですから、他の用途には使わないでください。



- バッテリーの充電時、交換時は、バッテリーの注意ラベルをよく読んでください。
- バッテリーを取外すときは、最初にマイナス（-）側のケーブルを取外してください。バッテリーを取付けるときは、最初にプラス（+）側のケーブルをプラス（+）側の端子に取付けてください。
- 充電は、機械から取外して行なってください。
- 密閉状態で充電を行なうと破裂する恐れがあり危険です。
- 指定外のバッテリーは使わないでください。
- バッテリー液（希硫酸）に触れると危険です。
- 目、皮膚、衣服についたときは、すぐに水でよく洗ってください。
- 目に入った時は水でよく洗った後、医師の治療を受けてください。



(20) ヤケド防止

- 過熱された冷却水あるいは蒸気が皮膚に触れるとヤケドします。
- 運転後のエンジン・ラジエータ・リザーブタンク中の冷却水は、過熱、加圧され高温あるいは蒸気になっています。エンジン停止後30分以上経過してからエンジンルームを開け、ラジエータキャップを徐々にゆるめて蒸気の圧力を抜いてから作業してください。
- 高温の油が皮膚にふれると火傷をします。
- 運転中エンジンオイル・油圧オイルは高温になります。エンジン・ホース・配管及びその他の部品も高温になっています。また残圧による油のふき出しやプラグ・ネジのとび出しによるケガの恐れがあるため十分に温度が下がって、残圧がないことを確かめて整備してください。

⚠ 安全に作業するために

- エンジン本体・マフラ・排気管も高温になります。運転中及び停止直後は触れないでください。



(21) 機械の改造厳禁

純正部品や指定以外の部品を取付けないでください。

また、改造はしないでください。

(22) 機械を他人に貸すとき

取扱方法をよく説明して、使用前には『取扱説明書』を必ず読むように指導してください。

(23) 長期格納するときは

機械をきれいにし、回転部およびチェーンには十分注油して、屋内の平坦な場所に保管してください。コントロールボックスは取外して屋内の乾燥した場所に保管してください。

(24) 人や動物を近づけない

特に子供には充分注意し、近づけないようにしてください。

(25) 回転中のタイトバーには触れない

回転しているタイトバーに巻き込まれると重傷を負うことがあります。手や足で絶対に触れないようにしてください。

- (26) シェアボルトの交換や巻き付き草などを取り除くときは

クラッチを切り、エンジンを必ず止め、回転部が完全に停止してから行ってください。



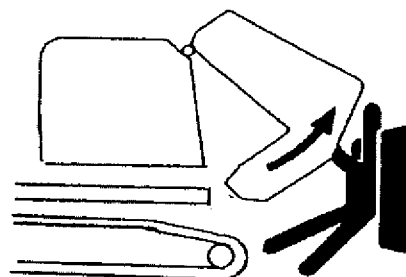
- (27) 急な発進・停止・旋回・スピードの出しすぎ禁止

スピードの出しすぎ、急な発進・停止・旋回は、事故の原因となるだけでなく、機械の寿命も縮めますので行わないでください。

また、起伏の多いほ場や傾斜地は危険です。作業スピードは、極力落として作業を行ってください。

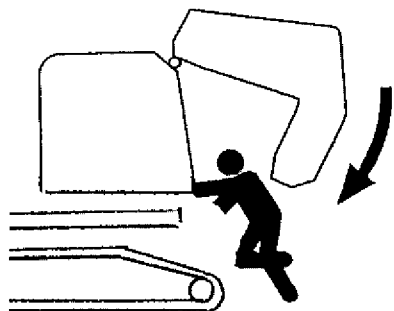
- (28) ベールを放出するときは

ベールの放出は、後方に人がいないことや、障害物のないことを十分確認し、放出距離を考慮して放出してください。



▲ 安全に作業するために

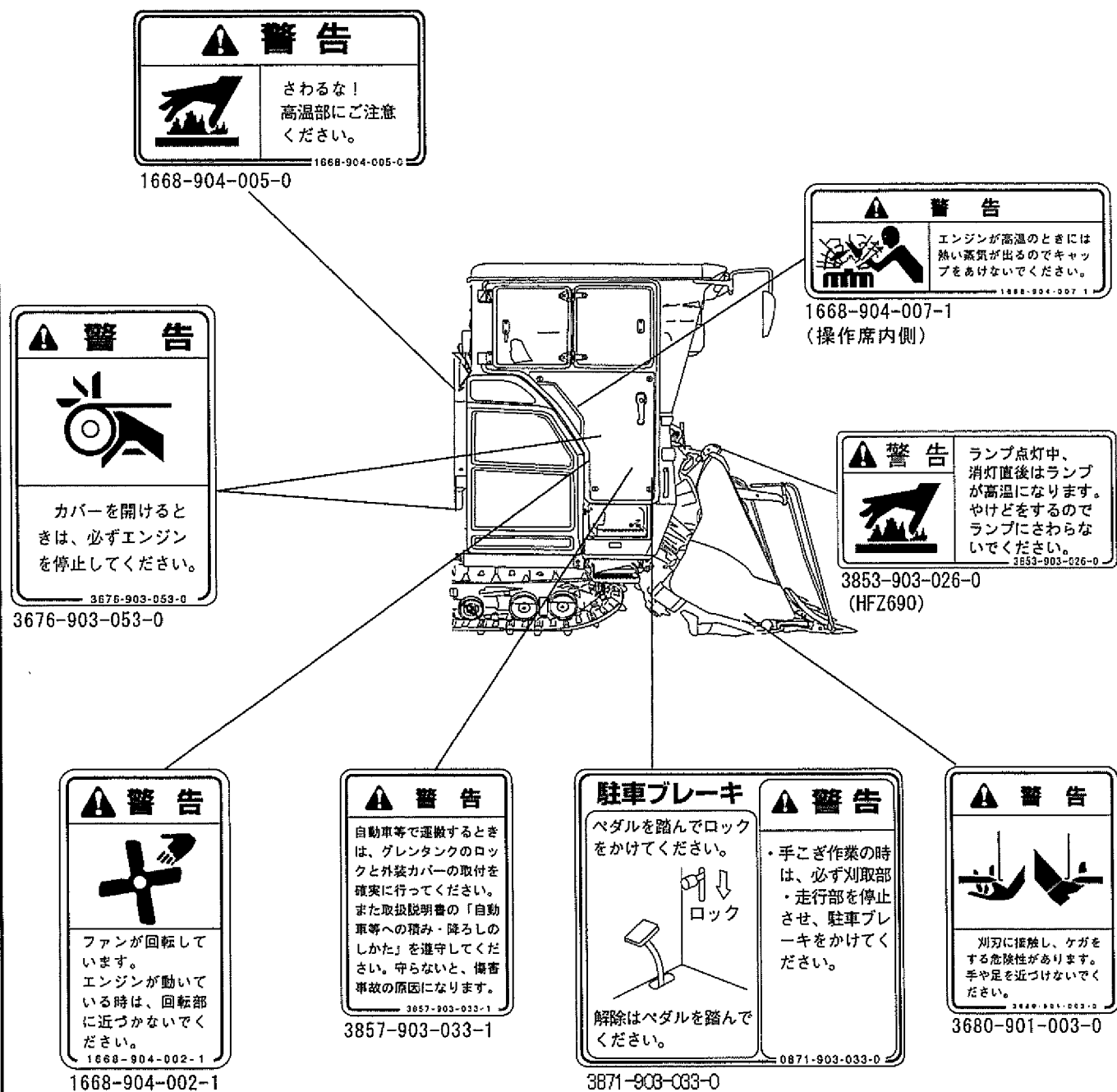
(29) チャンバーを開けて作業するときは必ずストップバルブを閉じてください。守らないと傷害事故を引き起こす恐れがあります。



以上、機械の取扱で注意していただく主だった事項を記載しましたが、これ以外にも本文の中で **▲** 印を付けて安全上の注意事項を表記しております。

安全に作業するために

警告ラベルの貼付位置



安全に作業するために

注意

1. 主変速レバーが「停止位置にない」時に、刈取かき込みペダルを踏むと、急激に回転してケガをするおそれがあるので主変速レバーを必ず「停止」にすること。
2. かき込みペダルを傾斜地やあふみの上で踏むと暴走するので踏まないこと。

刈取かき込みペダルの使用方法

1. 刈取かき込みペダルは、エンジン回転2000rpm以上で使用してください。
2. 故障で機体を停止したまま機体をかき込みで動かし、下置の手順に従って機体してください。
- ① 刈取クラッチ、前進クラッチを「入」のまま、主変速レバーを「停止」にする。
- ② 刈取かき込みペダルをいっばい踏み込み続ける。
- ③ 刈取部が機体をかき込みまで主変速レバーを前進側へゆっくり回す。
- ④ 主変速レバーを「停止」に戻す。
- ⑤ かき込み作業が終わったら刈取かき込みペダルを踏む。

3824-903-057-0

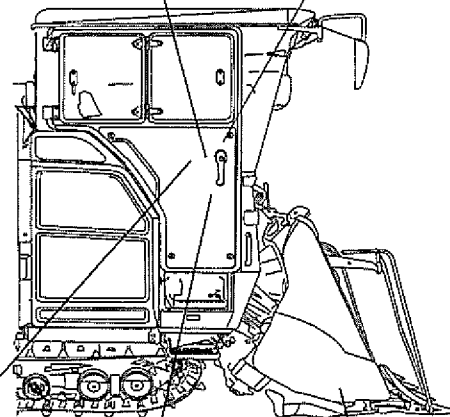
3824-903-057-0

注意

刈取部を上げて、点検調整を行う時には、必ずロックしてください。

3680-901-008-0

3680-901-008-0



注意

カバーを外したまま使用すると、ケガをする恐れがあります。必ず取付けて使用してください。

1675-905-012-0

1675-905-012-0

注意

運転しているチェンに接触しケガをするおそれがあります。エンジン運転中は、カバーを開けないでください。カバーは必ず取付けて使用ください。

3823-901-002-0

3823-901-002-0

注意

安全で正しい運転をするために取扱説明書をよく読んで下さい。

1. 保護カバー類はすべて所定の位置に取付けてください。
2. 機械から離れたり、点検調整したりする時にはエンジンを停止し、機械が動かないようにしてください。
(特に刈取上下ロックは確実にしてください。)
3. 機械の手入れは各部の動きが止ってからしてください。
4. 動力の伝達部・回転部・作動部には、手足や衣服等を近づけないでください。
5. 機械には他の人を近づけないでください。
6. エンジンの始動前・機械の運転開始前にはまわりに人がいないことを確認してください。
7. 土手の上り下り連続入等の移動は注意してください。
8. 分車行保護板・ナローガイド・サブキャリア等は所定の位置で正行してください。
9. 駐車ブレーキペダルは、走行中及び、トラクタへの積み降ろし中は踏まないでください。
10. 陸路の軟弱な道路、ガケ等は転落等の重大事故につながるため、走行しないでください。
11. 道交法の規定により、トラクタ運転時は法定最高3.8m以下(特にキャビン付)で走行してください。

3680-901-017-0

3680-901-017-0

注意 移動時は装着してください

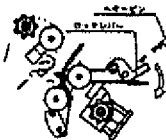
3533-901-028-0

3533-901-028-0

安全に作業するために

注意 開閉するときは、必ずエンジンを停止してください。

搬送チェーンレールオープンのしかた



1. 「ヘアーピン」を矢印の方向へ抜いてください。
2. 「ロックレバー」を矢印の方向へ回して、ロックを解除し、「ロックレバー」を閉じたままチェーンレールを開けてください。
3. 開ける時は、次の順序で行ってください。

閉じる時は、「オープンレバー」を確実にロックしてください。「ヘアーピン」は、必ず元の位置に差し込んでください。

3817-903-045-0

3817-903-045-0 (HFZ585)

注意

路上走行時は
旋回モードを
必ず「標準」
(パイロット
ランプ消灯)
にしてください

注意

バッテリーを外すときは
必ず、アース側を先に
外してください。

1668-904-003-1
3704 569 M2

1668-904-003-1

注意



駆動しているチェーンに接触し
ケガをするおそれがあります。
エンジン運転中は、カバーを開
けないでください。
カバーは必ず取付けて使用くだ
さい。

3823-901-002-0

3823-901-002-0

注意

移動時は収納
してください。

3662-901-121-0

3662-901-121-0

危険



バッテリーの取扱いに注意

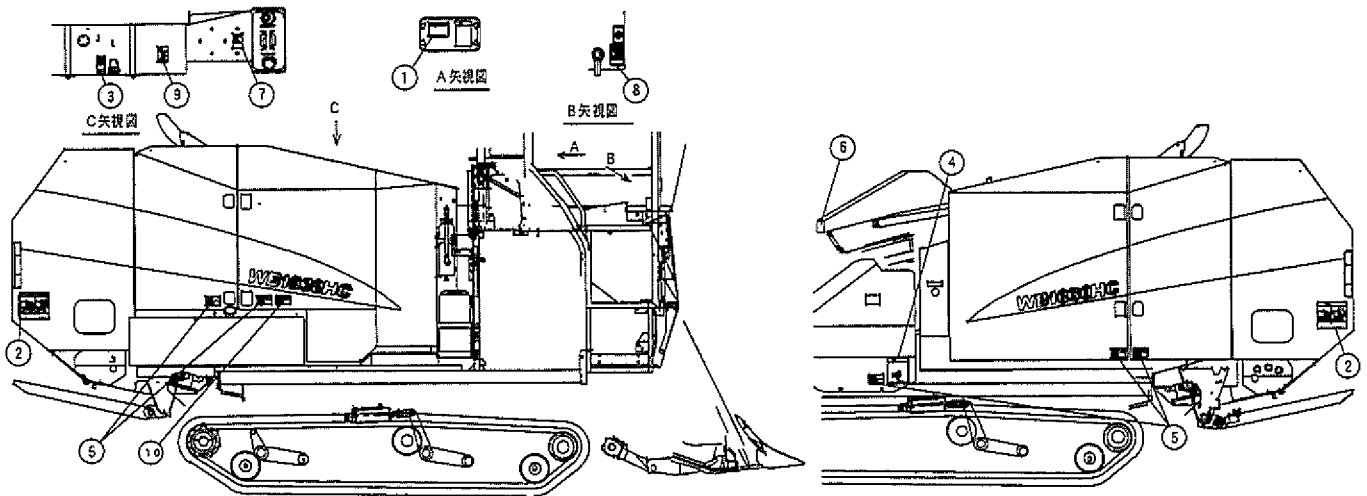
1. 取扱いを誤ると引火発火することがあります。ショートやスパークさせたり、火気は危険です。充電や使用は通風のよいところで行ってください。ブースターケーブル使用時は注意してください。
2. バッテリー液(希硫酸)で失明ややけどの危険があります。目・皮膚・衣服についたときは、直ちに多量の水で洗ってください。なお、目に入ったときは水洗い洗、医師の指導をうけてください。
3. 漏れのある場合がありますので、換気がUPPER以下で実施しないでください。
4. 漏れのある場合がありますので、UPPER以上に漏れしないでください。

1668-904-011-3

1668-904-011-3
ラベル (キケン/バッテリー)

安全に作業するために

【ロールベアラ部】



①部品コード 001204500042

注意

- 取扱いを誤ると事故や故障の原因となりますので、必ず取扱説明書を参照するまでお読みください。
- 全品のラベルが脱落しないようご注意ください。
- エンジン油漏れに接触しないようご注意ください。
- 作業中は人や物を近づけないでください。
- 運転中は絶対に、必ず
- エンジンを停止し、ブレーキをかけてください。
- 必要時のブレーキは必ず使用してください。
- 油漏れ・漏れはエンジンの上で発生してはなりません。
- 手、足、衣服等を油漏れに近づけないようご注意ください。
- 油漏れは必ず、必ず

②部品コード 001206001780

危険

・チェーンは常に回転する。
・人や物を巻き込む可能性があります。
・油漏れ・漏れはエンジンの上で発生してはなりません。
・油漏れ・漏れはエンジンの上で発生してはなりません。
・油漏れ・漏れはエンジンの上で発生してはなりません。

③部品コード 001206001050

危険

火気厳禁

○給油口に火を近づけると火災のおそれがあります。
○給油中は、エンジンを停止してください。

軽油

④部品コード 001206001530

警告

メンテナンス不良や無理な作業は火災の原因になります。始動前・作業中は下記の事を行ってください。

- マフラー・エンジン周り・ロールベアラ内部のウラ、世帯、ゴミ、ほこり等の除去を行ってください。この下側にマフラーが取り付けられている場合は必ず確認してください。
- 燃料ホースの劣化による漏れを必ず確認してください。
- エンジン回転中の燃焼音を確認してください。
- ショートによる火災防止のため配線の点検。

⑤部品コード 001206000800

注意

・カバーを取り外す時は必ずエンジンを止めてからにしてください。
・はずしたまま運転するとケガをするおそれがあります。

⑥部品コード 001306000080

警告

●ベルト・チェーンが回転中は、手や足を近づけないでください。
●接触するとケガをするおそれがあります。

⑦部品コード 001206001020

警告

運転中はステップに足らないで下さい。
乗ると落下し、怪我をすることがあります。

⑧部品コード 001206001370

危険

チェーンを開閉するときは後方に人がいないことや、障害物がないことを確認してください。

⑨部品コード 001204500910

注意

燃料タンクの上に乗りません。
燃料タンクが破裂し、燃焼が漏れて火災の原因となります。

⑩部品コード 001206000561

注意

・鋭利な刃物のため、点検・取換え時は十分注意してください。
・注意を怠ると怪我の原因となります。

警告ラベルの取扱い注意事項

- 警告ラベルはいつもきれいにしておき、傷をつけないように、また汚れている場合、中性洗剤で洗い、柔らかい布で水気を拭いてください。
- 傷ついたり、汚れたり、はがれた場合は、お買い上げの販売店または当社に注文し新しいラベルを元の位置に貼ってください。
(ラベルをご注文の際は部品コードをご連絡ください。)
- 警告ラベルが貼ってある部品を交換する場合は、新しいラベルを注文して元の位置に貼ってください。
- 新しいラベルを貼る場合は、汚れを拭き取り、乾いた面に貼ってください。
気泡は隅の方へ押しながらかきつけてください。

本製品の使用目的とサービスについて

本製品の使用目的について

本製品は、飼料イネ、飼料麦を刈取り、ロール成形する作業にご使用ください。
使用目的以外の作業や改造などは、決して行わないでください。
使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりません。

アフターサービスについて

機械の調子が悪いとき、不調診断に従って点検・処置しても、なお不具合があるときは、お買い上げいただいた販売店、農協、または、お近くの当社営業所までご連絡ください。

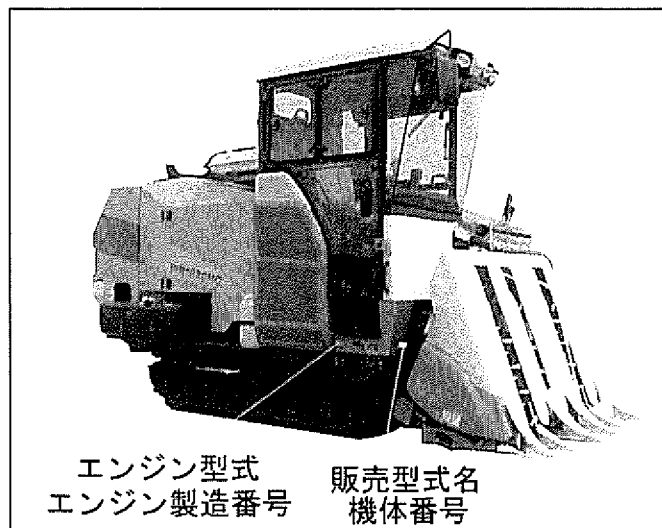
【連絡していただきたい内容】

- 品名と型式、機体番号（SER-No）
- エンジン型式、エンジン製造番号

- ご使用状況は？
（どんな条件でどんな作業をしていたときに）
- どれくらい使用されましたか？
（約〇〇アール、または約〇〇時間使用后）
- 不具合が発生したときの状況をできるだけ詳しく教えてください。

※機体No.は、上図に示す機体銘板に打刻してあります。

【今後参考のため、次の空欄に機体 No. などを記入しておいてください。】

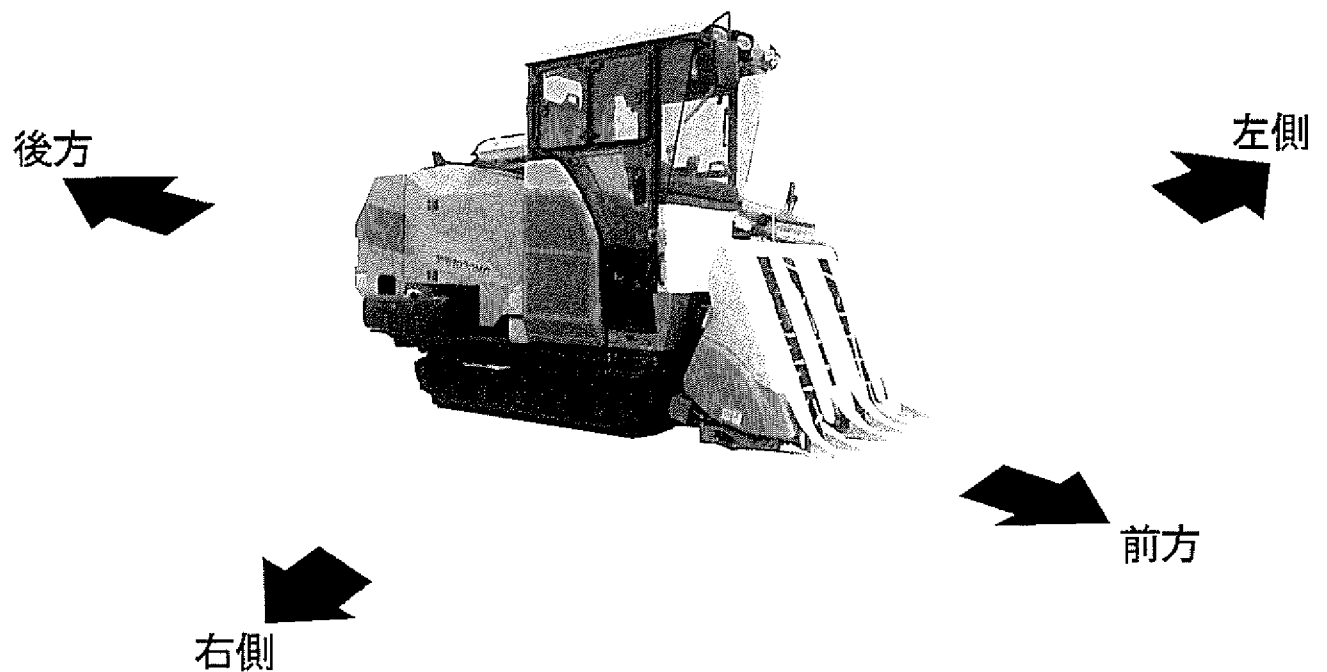


品名	細断型ホールクropp収穫機
型式	WB1030HC
機体番号 (SER-No) エンジン製造 番号	
購入年月日	年 月 日
販売店名	TEL : ()

機体方向説明

■機体方向説明

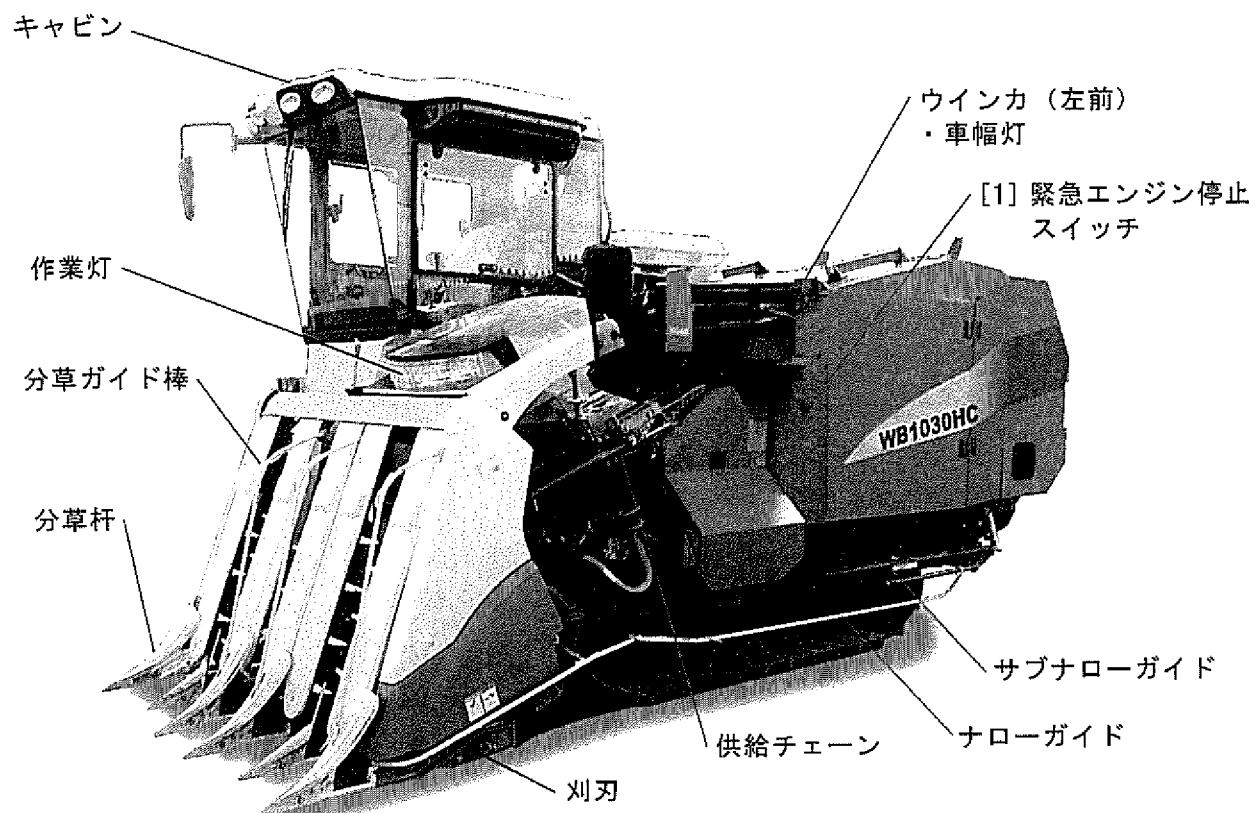
この取扱説明書で使用している“前後・左右・左回り・右回り”などの方向は、図示の通りに決めています。



3. 各部の名称とはたらき

3. 各部の名称とはたらき

3.1 全 体



番号	名 称	機 能
[1]	緊急エンジン停止スイッチ	運転時、このスイッチを押すとエンジンが止まります。

3. 各部の名称とはたらき

バックミラー

シート

ウインカ（右後）

- ・ 制動灯
- ・ 尾灯

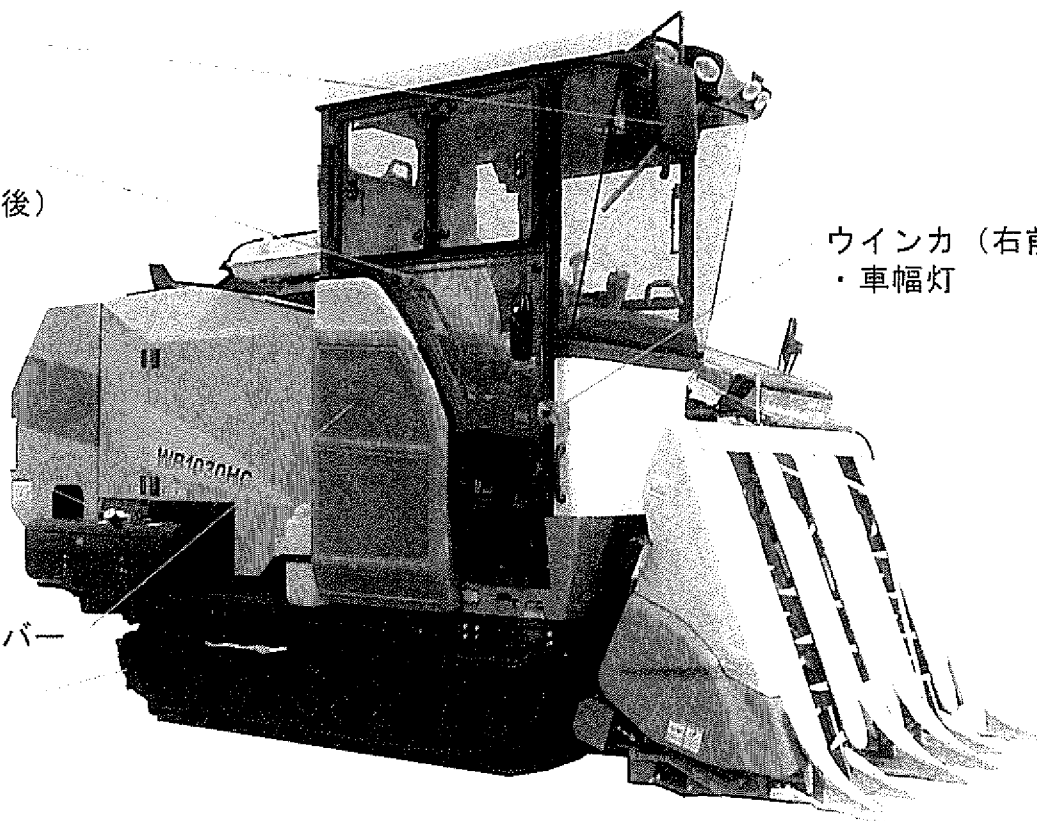
燃料給油口

ラジエターカバー

クローラ

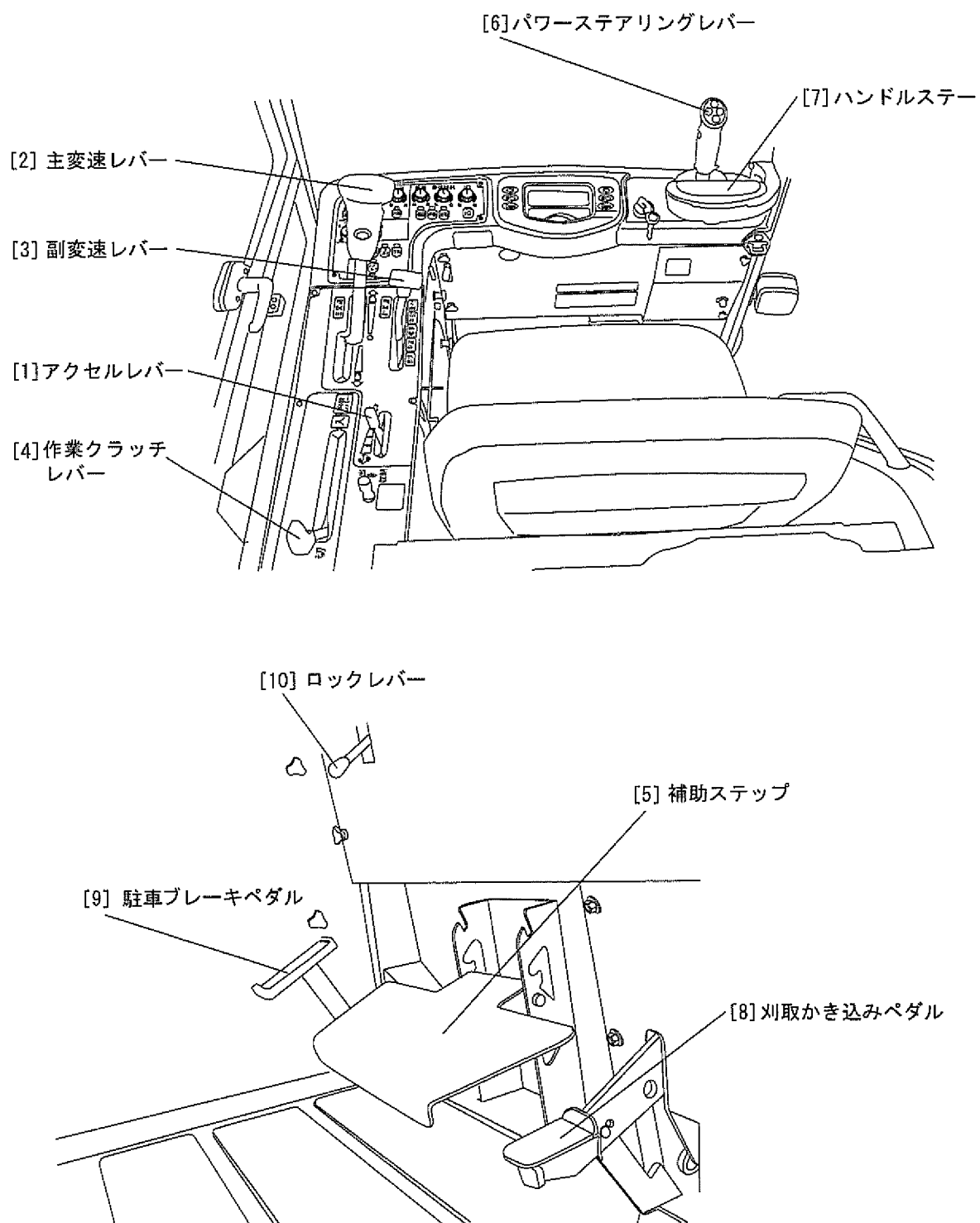
ウインカ（右前）

- ・ 車幅灯



3. 各部の名称とはたらき

3. 2 レバー・ペダル関係



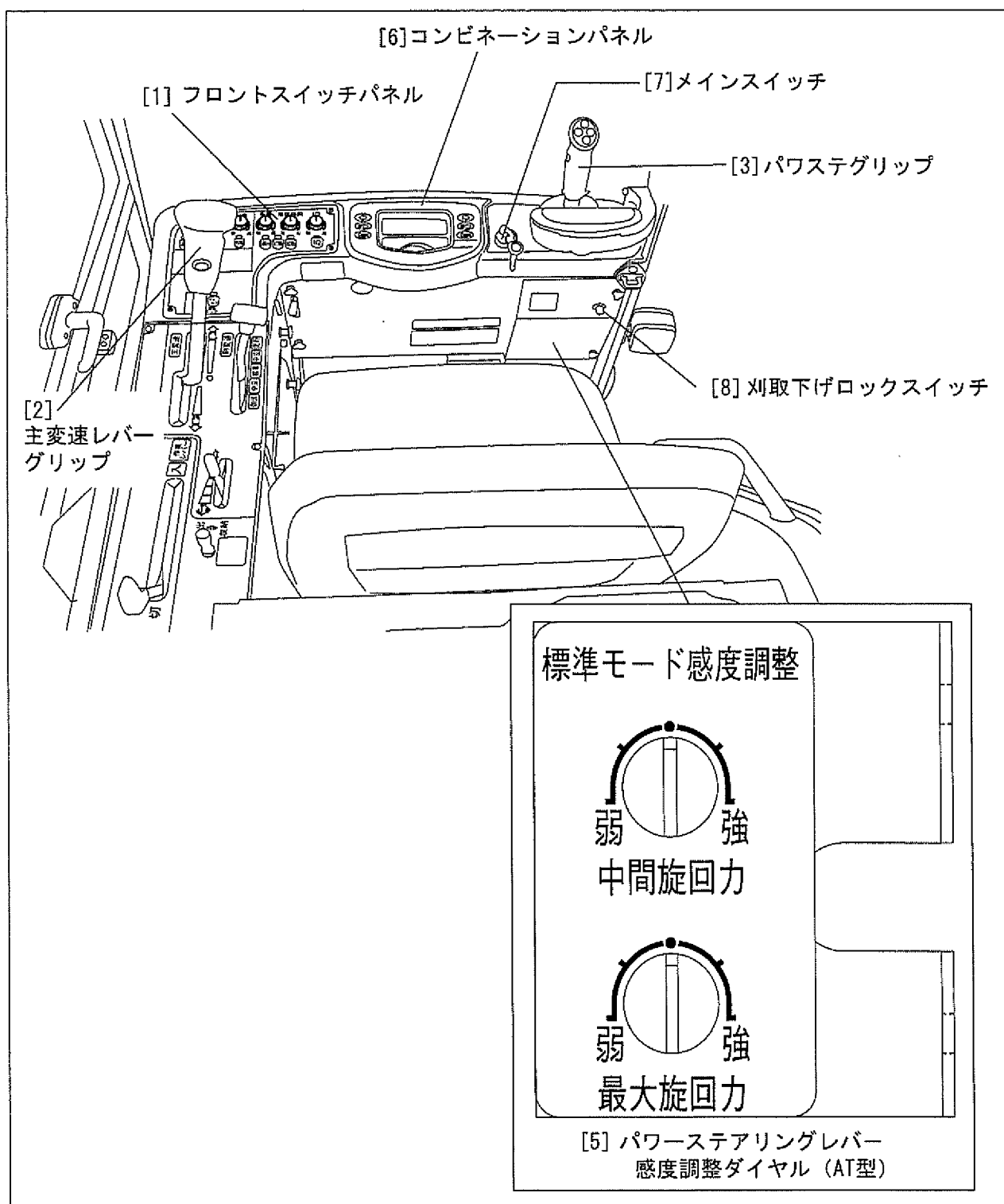
HFZ-0009

3. 各部の名称とはたらき

番号	名 称	機 能
[1]	アクセルレバー	エンジンの回転を調節します。レバーを手前に引くとエンジン回転が上がり、前方に押すとエンジン回転が下がります。
[2]	主変速レバー	前進・後進の切り換えと同時にスピードの調節をします。レバーを前方に押すと前進、手前に引くと後進し、速度が無段に変わります。
[3]	副変速レバー	走行と作業速度の切り換えをします。道路走行のときは「走行」、作業をするときは、「標準」又は「倒伏」にします。
[4]	作業クラッチレバー	レバーを「入り」にするとロールベアラ部が回り、主変速レバーを前方に倒すと刈取部が回ります。
[5]	補助ステップ	補助ステップを手前に倒すことで足もとで4段階の高さ調節ができます。
[6]	パワーステアリングレバー	機体の進行方向を変えるとき、または刈取部を上下するときに操作します。レバーを前後に操作すると、刈取部が上下し、左右に操作すると、倒し量に応じて機体の方向修正やコーナー旋回ができます。
[7]	ハンドルステー	パワーステアリングレバーを操作するときの手置き台です。操作が楽にできます。調整ネジを回すと、ハンドルステーが上下し、手置き台の高さ調整ができます。
[8]	刈取かき込みペダル	機械が停止した状態で刈取部が回り、あぜ際でのかき込み作業ができます。
[9]	駐車ブレーキペダル	駐車ブレーキをかけるとき、駐車ブレーキペダルを踏み込んでロックするとブレーキがかかります。
[10]	ロックレバー	駐車ブレーキをかけるとき、ブレーキペダルを踏み込んで、レバーを下へ押すとロックがかかります。 駐車ブレーキの解除は、ブレーキペダルを踏み込むと解除されず。

3. 各部の名称とはたらき

3. 3 スイッチ・ダイヤル関係



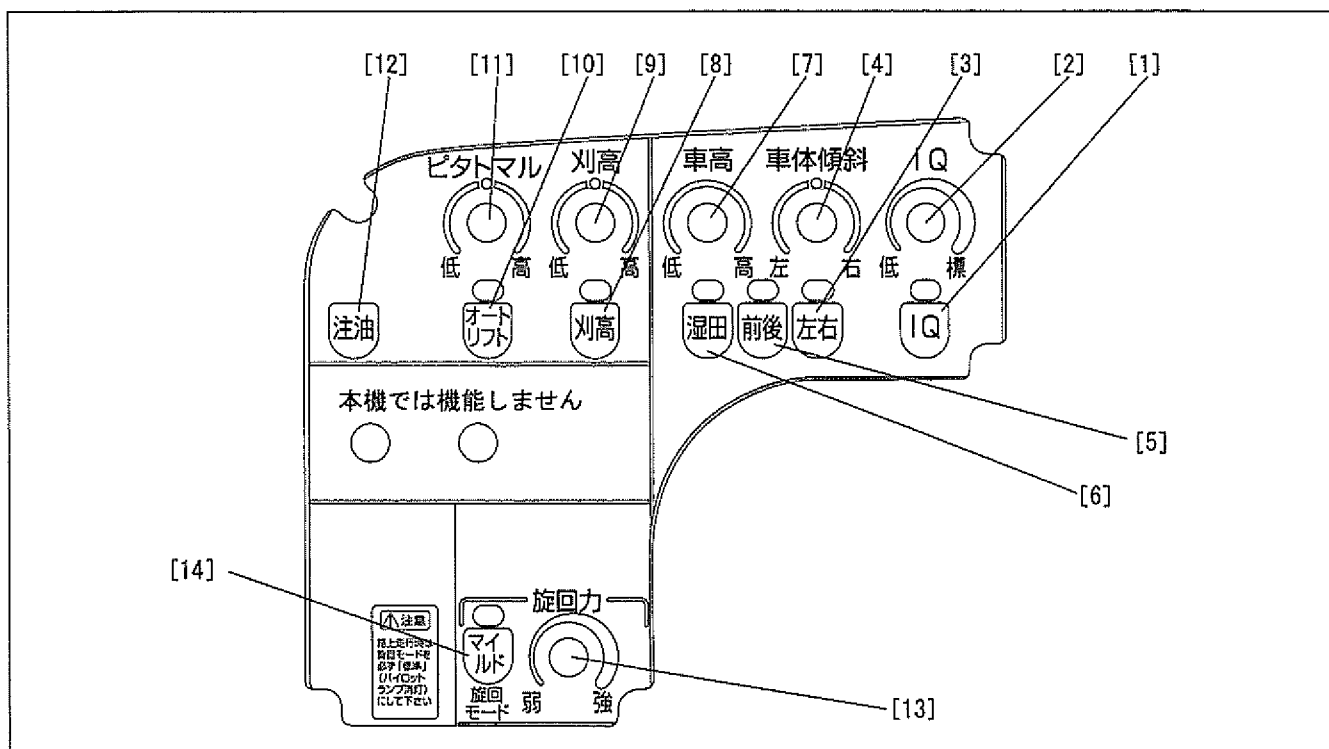
HFZ-0015

3. 各部の名称とはたらき

番号	名 称	機 能
[1]	フロントスイッチパネル	主に自動制御関係のスイッチ、ダイヤルを配置しています。(22 ページ)
[2]	主変速レバークリップ	各種スイッチを配置しています。(23 ページ)
[3]	パワステグリップ	車体傾斜、車高スイッチを配置しています。(24 ページ)
[5]	パワーステアリングレバー 感度調整ダイヤル (A T 型)	路面の状態によって旋回力を調整するためのダイヤルを配置しています。(82 ページ)
[6]	コンビネーションパネル	マルチアイ、アラーム、表示切換スイッチ、エンジン回転計等を配置しています。(25 ページ)
[7]	メインスイッチ	「切」 エンジンを停止するときに使用します。電装品は作動しません。 「入」 電装品は作動します。エンジンの予熱ができます。 「始動」 エンジンを始動するときに使用します。 セルモータが回転し、エンジンが始動します。
[8]	刈り下げロックスイッチ	ノブを「ロック」側にすると、パワーステアリングレバーを操作しても刈り部は下がりにません。
[9]	リモコンナローガイド 張出・収納スイッチ (C 型)	運転席からナローガイド (左) を張出・収納の遠隔操作ができます。

3. 各部の名称とはたらき

フロントスイッチパネル

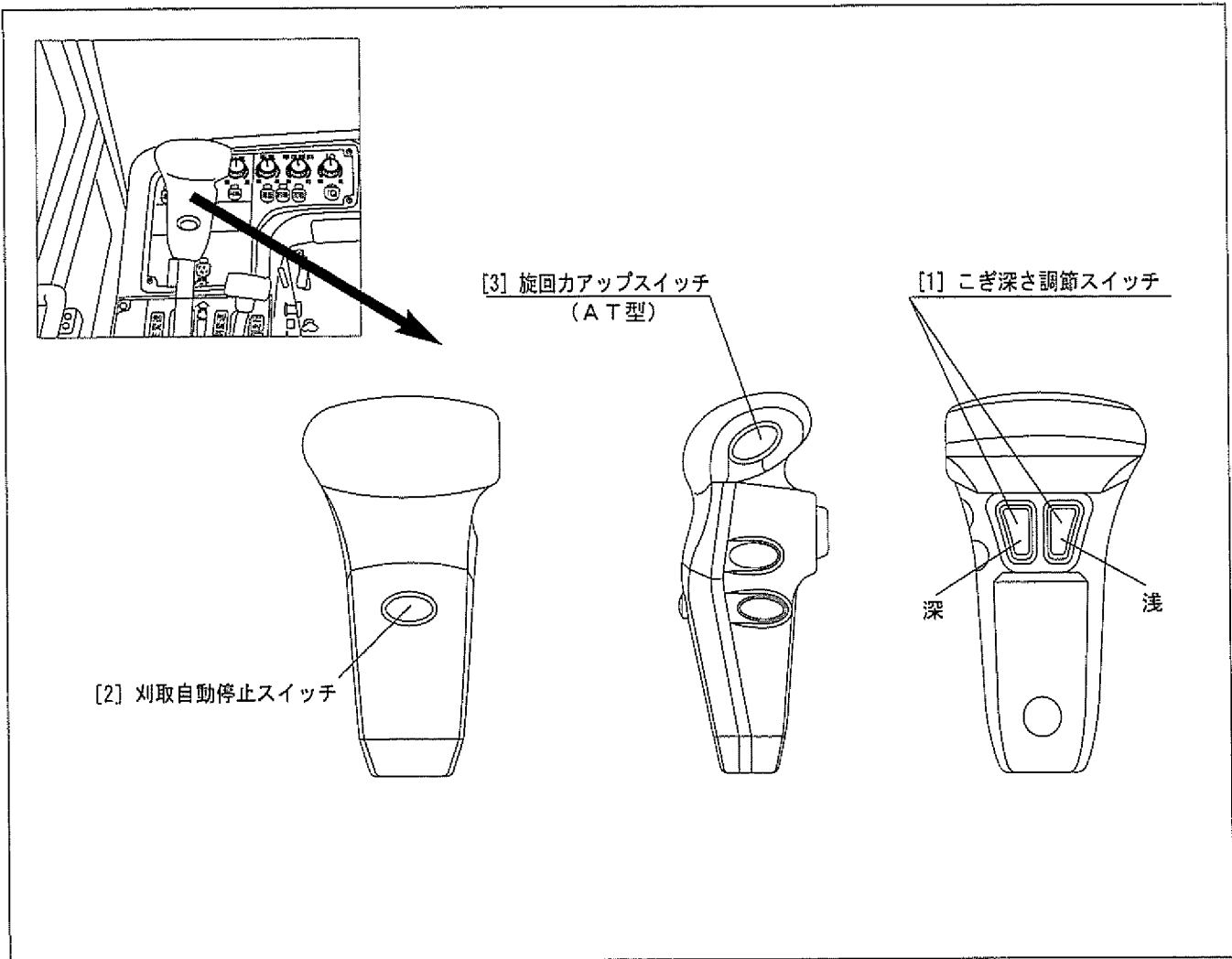


HFZ-2015

番号	名 称	機 能
[1]	I Qアクセルスイッチ	スイッチを「入」にすると、移動走行、刈取作業、糞排出作業状態に適したエンジン回転数に制御します。
[2]	I Qアクセルダイヤル	I Qアクセル制御回転数を調節することができます。
[3]	車体水平制御スイッチ（左右）	スイッチを「入」にすると、左右方向の傾斜を自動的に修正し、機体を水平に保ちます。
[4]	車体傾斜ダイヤル	車体水平制御中の車体の傾きを調整することができます。
[5]	車体水平制御スイッチ（前後）	スイッチを「入」にすると、前後方向の傾斜を自動的に修正し、機体を水平に保ちます。
[6]	湿田制御スイッチ	スイッチを「入」にすると、湿田作業での走行性能を向上させます。
[7]	車高設定ダイヤル	車体水平制御中の車高を調節することができます。
[8]	刈高さ制御スイッチ	スイッチを「入」にすると、刈取部の高さをダイヤルでセットした刈高さに自動制御します。
[9]	刈高さ設定ダイヤル	自動刈高さの高さを調節することができます。
[10]	オートリフトスイッチ	スイッチを「入」にすると、刈終わり時に刈取部を自動的に一定量上昇させます。
[11]	ピタトマル設定ダイヤル	ピタトマルが作動する刈取部の高さを調節することができます。
[12]	自動注油ボタン	スイッチを押している間、注油ポンプが作動し、刈取部、脱穀部の各部分に注油します。
[13]	マイルドモード感度調節ダイヤル	マイルドモードのブレーキ力を調整できます。
[14]	旋回モードスイッチ	スイッチを「入」にすると、マイルドモードに切り換ります。

3. 各部の名称とはたらき

3.4 主変速レバーグリップ

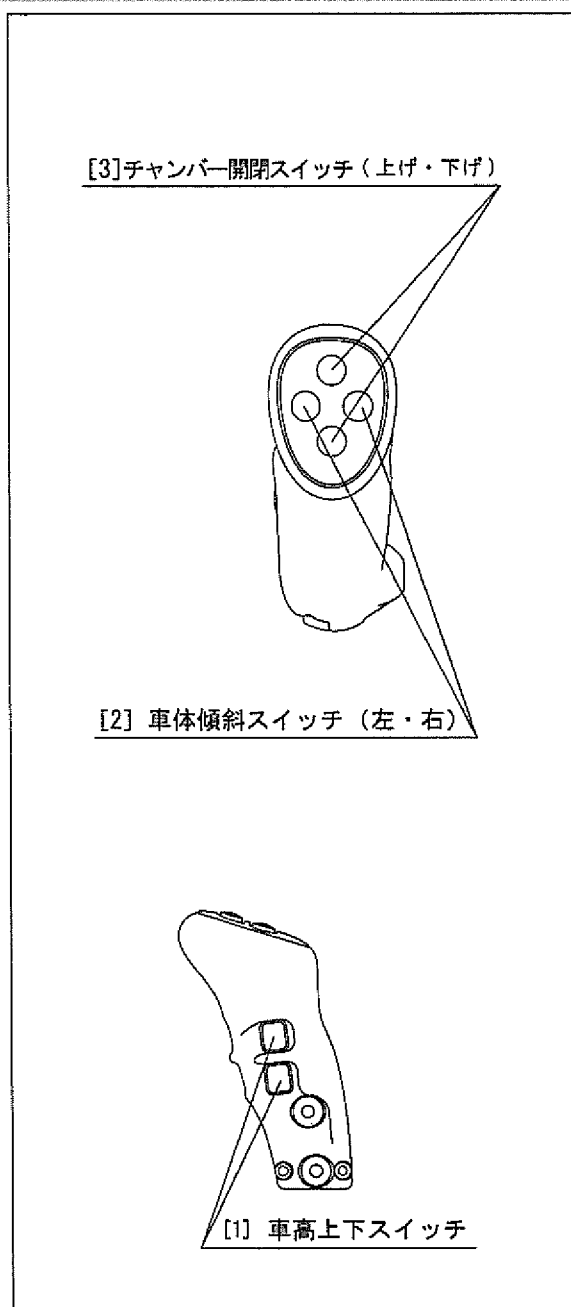


HF7-5017

番号	名 称	機 能
[1]	こぎ深さ調節スイッチ	手動でこぎ深さを調節します。 「浅」のスイッチを押すと調節チェーンが下がります。 「深」のスイッチを押すと調節チェーンが上がります。
[2]	刈取自動停止スイッチ	刈取部が一定量上昇すると自動的に刈取部とフィードチェーンの搬送が止まります。
[3]	旋回力アップスイッチ	このスイッチを押すとパワステを倒した方向に急旋回できます。

3. 各部の名称とはたらき

3.5 パワステグリップ



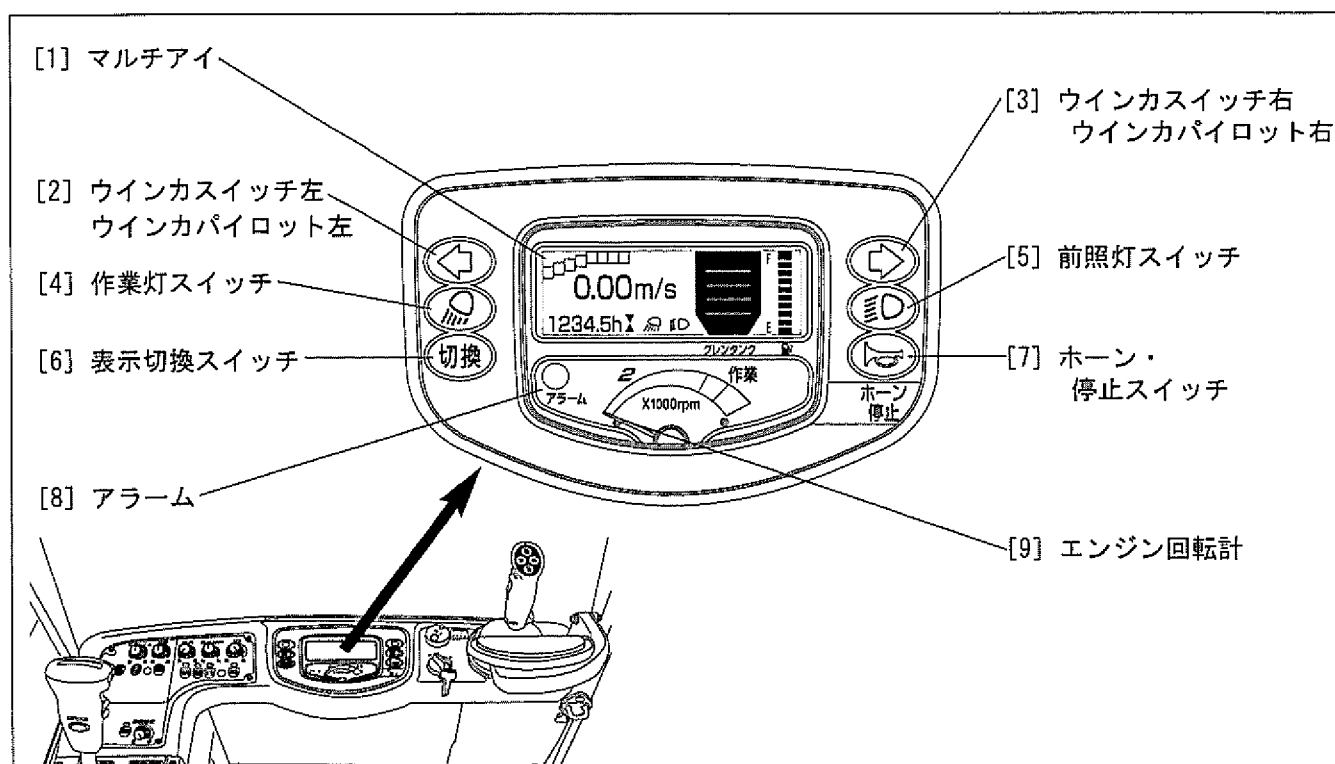
HFG-5018

番号	名 称	機 能
[1]	車高上下スイッチ	スイッチを押すと、機体を上下させることができます。
[2]	車体傾斜スイッチ (左・右)	スイッチを押すと、機体を左右に傾斜させることができます。
[3]	チャンバー開閉スイッチ (上げ・下げ)	上げを押すとチャンバーが開き、下げを押すとチャンバーを閉めることができます。

3. 各部の名称とはたらき

3.6 コンビネーションメータパネル

コンビネーションパネル



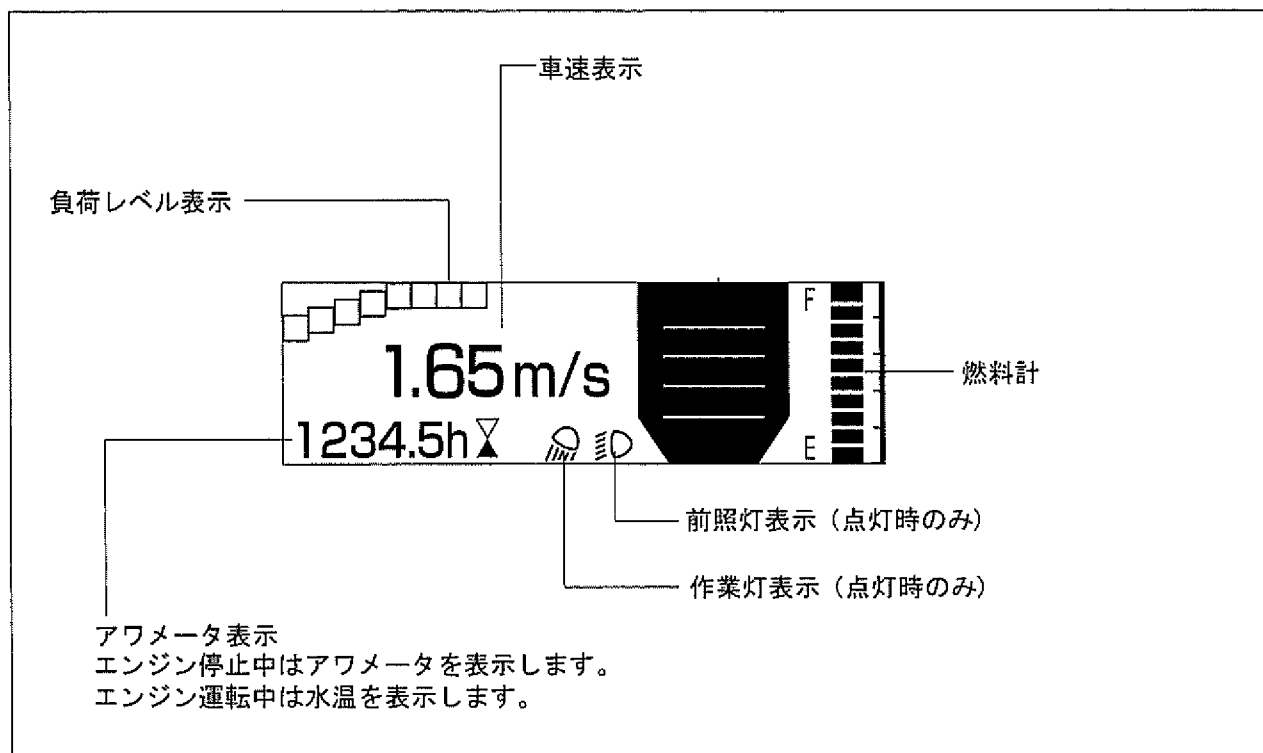
HFG-5022

番号	名 称	機 能
[1]	マルチアイ	コンバインの運転状態を表示します。 ＜表示内容＞ エンジン運転状態 車体水平運転状態表示 自動化装置異常表示 操作支援表示 操作スイッチ切換表示
[2]	ウィンカスイッチ左 ウィンカパイロット左	スイッチを押すと、左ウィンカが点滅します。左折が終わったら、もう一度スイッチを押してください。 方向指示器の点滅を表示します。
[3]	ウィンカスイッチ右 ウィンカパイロット右	スイッチを押すと、右ウィンカが点滅します。右折が終わったら、もう一度スイッチを押してください。 方向指示器の点滅を表示します。
[4]	作業灯スイッチ	スイッチを押すと作業灯と前照灯が点灯します。もう一度押すと作業灯が消灯します。(前照灯は点灯したままです。前照灯スイッチを押して消灯してください。)
[5]	前照灯スイッチ	スイッチを押すと前照灯が点灯します。 もう一度押すと前照灯が消灯します。
[6]	表示切換スイッチ	マルチアイの表示を切換えます。
[7]	ホーン・停止スイッチ	スイッチを押すとホーンが鳴ります。警報等で鳴りだしたブザーはこのスイッチを押すと止まります。
[8]	アラーム	異常を知らせます。運転中、異常が発生した場合に点灯・点滅します。
[9]	エンジン回転計	エンジンの回転数を表示します。

3. 各部の名称とはたらき

マルチアイ

「マルチアイ」は、コンバインの運転に必要な情報、各種警告、異常状態の表示をします。また、万一故障した場合の処置方法等を適切なタイミングで、わかりやすくメッセージとして表示します。



KFZ 3010

《参 考》

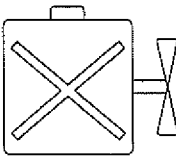
- 車速表示は、ほ場条件により実際の速度と異なる場合があります。
- 負荷レベル表示、車速表示はエンジン停止中は表示しません。

3. 各部の名称とはたらき

■はたらき

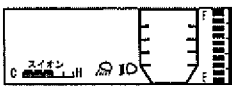
『マルチアイ』は、「アラーム」と連動して機械の作業状態や異常状態を表示します。
また、異常発生時は緊急度に応じて、エンジン停止、ホーン吹鳴、アラーム表示を行います。

記号の見かたは下記のとおりです。

表示・機能	内容	正常時	異常時
マルチアイ	運転状態を文字、または絵で表示します。異常時は画面を切り換えて表示します。		
アラーム	異常時に点灯します。		
ホーン警報	異常時にホーンを吹鳴します。 水温警報		
エンジン停止	非常時にエンジンを自動的に停止します。		

3. 各部の名称とはたらき

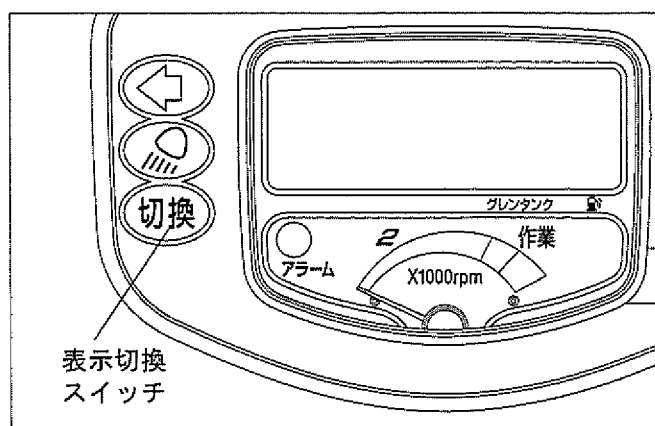
■表示内容

操 作	表示内容	マルチアイ画面	アラーム	ホーン	エンジン 停止
メインスイッチを「入」にします。 《参 考》 ●電源投入直後アラームが点灯する場合がありますが、異常発生ではありません。	初期表示モード 各センサ関係の点検確認をしています。 異常箇所があれば表示します。	点検中  ↓  ↓ オイル・冷却水は毎日点検を!! ↓ エンジン始動可能です ↓ 周囲に人がいない事を確認してください ↓ ホーンを鳴らし合図をしてください ↓	 アラーム		
駐車ブレーキペダルを踏み込み、メインスイッチを「スタート」にし、エンジンを始動します。 エンジン始動時駐車ブレーキペダルを踏んでいない場合に表示します。		 ↓ 駐車ブレーキを踏み込んでください			

3. 各部の名称とはたらき

■表示の切換

表示切換スイッチを1回押すごとにマルチアイの下記の表示内容が切り換わります。
作業の目安にしてください。



HFG-5024

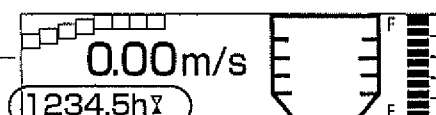
①水温

ラジエータ冷却水の温度を5段階で表示します。
(エンジン停止中は2回目に表示します。)



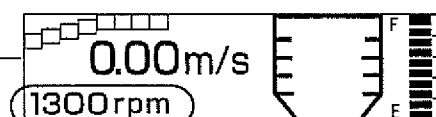
②アワメータ

エンジン運転中の積算時間を表示します。
(エンジン停止中は1回目に表示します。)



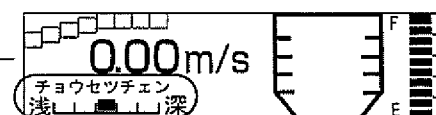
③エンジン回転数

エンジンの実回転数を表示します。



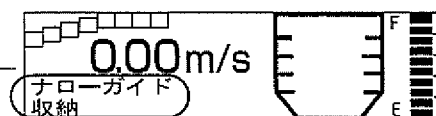
④調節チェン

こぎ深さ調節部の作動位置を表示します。
(脱穀機に供給される作物の実際のこぎ深さとは異なります。)



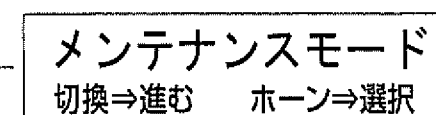
⑤ナローガイド

ナローガイドの張出、収納状態を表示します。
(C型のみ)



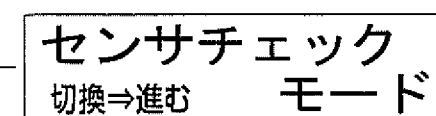
⑥メンテナンスモード (P.97ページ)

エンジン始動設定、液晶コントラスト調整、
メンテナンス情報の確認ができます。



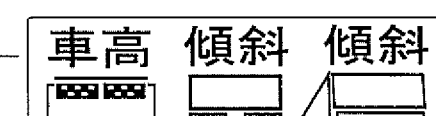
⑦センサチェックモード (P.99ページ)

各センサの入力チェックが行えます。



⑧車高、車体傾斜

車高と車体の前後左右の傾斜状態を表示します。



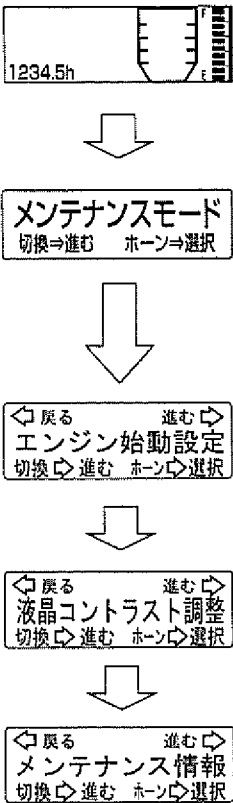
※⑥⑦はエンジン運転中は表示が出ません。

HJ-5025

3. 各部の名称とはたらき

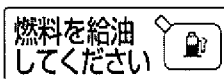
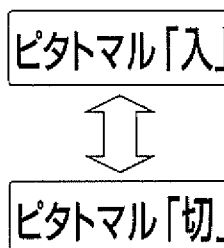
■メンテナンスモード

※メンテナンスモードの使い方は、97 ページを参照してください。

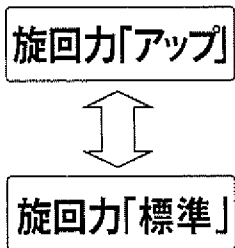
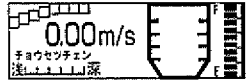
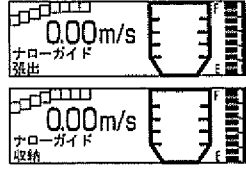
操 作	表示内容	マルチアイ画面	アラーム	ホーン	エンジン 停止
マルチアイ画面がメンテナンスモード表示になるまで表示切換スイッチを押します。 モニタ部のホーン・停止スイッチを押すとメンテナンスモードを実行します。 ウインカスイッチ・表示切換スイッチを押すと表示が変わります。 《参考》 メンテナンスモードは、メインスイッチ「入」の状態のみ表示します。エンジン運転中は表示しません。	スイッチを押す度に表示が変わり、メンテナンスモード表示になります。 エンジン始動時の、認証を設定します。 液晶のコントラストを調整します。 メンテナンス情報を表示します。				

3. 各部の名称とはたらき

■割り込み表示

操 作	表示内容	マルチアイ画面	アラーム	ホーン	エンジン 停止
作業灯スイッチを押します。	作業灯・前照灯を点灯させると表示します。 表示はスイッチ操作後5秒間表示します。				
前照灯スイッチを押します。	前照灯を点灯させると表示します。 表示はスイッチ操作後5秒間表示します。				
ウインカ左スイッチを押します。	ウインカ左スイッチを押し、ウインカ左が点滅中に補助画面として表示します。 ウインカ左スイッチを再度押すと、ウインカが消えます。				
ウインカ右スイッチを押します。	ウインカ右スイッチを押し、ウインカ右が点滅中に補助画面として表示します。 ウインカ右スイッチを再度押すと、ウインカが消えます。				
燃料残量が残りに少なくなると表示します。	表示切換スイッチを押すと消えます。				
パワステグリップの車高傾斜または車高上下スイッチを押します。	車高、左右傾斜、前後傾斜の状態を一括して表示します。 表示はスイッチ操作後5秒間表示します。				
主変速レバーグリップの刈取自動停止スイッチを押します。 (スイッチの使い方は23ページを参照ください。)	操作スイッチの切換時にセット状態を表示します。 表示はスイッチ操作後5秒間表示します。				

3. 各部の名称とはたらき

操 作	表示内容	マルチアイ画面	アラーム	ホーン	エンジン 停止
主変速レバークリップ の旋回力アップスイッ チを押します。 (AT型) (スイッチの使い方は 23 ページを参照くださ い。)	操作スイッチの切換 時にセット状態を表 示します。 表示はスイッチ操作 後 5 秒間表示します。				
主変速レバークリップ のこぎ深さ調節スイッ チを押します。 (スイッチの使い方は 23 ページを参照くださ い。)	操作スイッチの切換 時に調節チェン位置 をインジケータで表 示します。 作業クラッチレバ ーを「入」に操作した直 後も表示します。 表示はスイッチ操作 後 5 秒間表示します。				
ナローガイド「張出」 または「収納」スイッ チを押します。(C型) (スイッチの使い方は 65 ページを参照くださ い。)	操作スイッチの切換 時に「張出」または「収 納」を表示します。 ナローガイド作動中 は表示が点滅し、作動 が終了すると表示が 点灯します。 表示はスイッチ操作 後 5 秒間表示します。				

3. 各部の名称とはたらき

■操作支援表示

操 作	表示内容	マルチアイ画面	アラーム	ホーン	エンジン 停止
作業前、作業中の各部の操作状態や設定の異常を表示します。 表示内容に従って各部を操作すると表示は消えます。	エンジン始動操作をしたときに駐車ブレーキペダルが踏み込まれていない場合表示します。 駐車ブレーキペダルを踏み込むと表示は消えます。	駐車ブレーキペダルを踏み込んでください！			
	作業レバーが「入」になっています。 表示中は、エンジンが始動しません。 作業レバーを「切」にしてください。 作業レバーを「切」にすると表示が消えます。 エンジンの始動方法は、「エンジンの始動のしかた」(51 ページ)を参照してください。	脱穀クラッチが入っています			
	エンジン回転が2000回転以下で主変速レバーを操作した場合に表示します。 エンジン回転を2000回転以上にすると表示は消えます。	エンジン回転数2000rpm以上で使用してください			

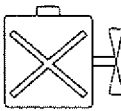
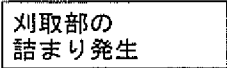
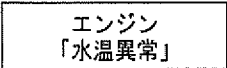
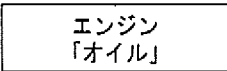
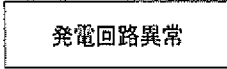
3. 各部の名称とはたらき

操 作	表示内容	マルチアイ画面	アラーム	ホーン	エンジン 停止
作業前、作業中の各部の操作状態や設定の異常を表示します。 表示内容に従って各部を操作すると表示は消えます。	作業クラッチレバー「切」、副変速「走行」位置で、ナローガイドを張り出した場合に表示します。(C型) ナローガイドを収納すると表示は消えます。	ナローガイド 張出されています！			
	副変速「走行」位置で、作業クラッチレバーを「入」にした場合に表示します。 副変速を「標準」位置にすると表示は消えます。	副変速レバー 走行位置です			
	過負荷状態でエンジン回転が低くなっている旨を表示します。 主変速レバーを戻して減速してください。	エンジンパワーMAX 減速してください！！			
	I Q アクセルスイッチ「切」時、エンジン回転が作業域より低い状態で作業をした場合表示します。 I Q アクセルスイッチを「入」にするか、アクセルレバーでエンジン回転を作業域に合わせてください。	エンジン回転を作業域に 合わせてください！！			
	車体傾斜転倒警報の表示	車体傾斜角度に 「注意」してください			

3. 各部の名称とはたらき

■異常表示

機械に異常が発生した場合の表示内容

操 作	表示内容	マルチアイ画面	アラーム	ホーン	エンジン 停止	
作業中にエンジンの異常や、刈取部等に異常が発生すると右の表示を行います。 補 足 ●異常発生時は作業を中止し、「異常発生時の処置」(38 ページ)により処置してください。	異常表示モード		 アラーム			
	刈取部の詰まり					
	エンジンのオーバーヒート					
	エンジンオイルの減少 またはエンジンオイルのセンサ異常					
	発電不良 チャージ回路の異常					

3. 各部の名称とはたらき

操 作	表示内容	マルチアイ画面	アラーム	ホーン	エンジン 停止
自動制御装置の使用中に異常が発生すると右の表示を行います。該当する装置のスイッチを「切」にすると表示は消えます。 《参 考》 ●異常発生時は、該当する自動装置の使用をやめてください。	異常表示モード				
	こぎ深さ制御装置の異常 こぎ深さ制御スイッチを切ると表示は消えます。	こぎ深さ制御			
	車体水平制御装置の異常 車体水平制御スイッチを切ると表示は消えます。	車体 水平 制御			
	刈高さ制御装置の異常 刈高さ制御スイッチを切ると表示は消えます。	刈高さ制御			
	オートリフト装置の異常 オートリフトスイッチを切ると表示は消えます。	オート リフト 制御			
	方向制御装置の異常 (オプション) 方向制御スイッチを切ると表示は消えます。	方向制御			
自動システム異常表示モードの表示時に、異常に関係のあるセンサやスイッチを表示します。	自動システム異常表示モード (センサ表示モード)	方向制御 ↓ 方向センサ 左 信号変化 無し			
	〈例〉 方向制御装置の異常 (方向センサが異常を感知した場合)	自動装置の使用をやめ 点検をしてください!			
右記の表示の後に異常に関係のあるセンサやスイッチが表示されます。 ●右記の異常発生時はただちに作業を中止し、サービスをお呼びください。	エンジンのセンサ、噴射ノズル、配線の異常 異常の種類によってはエンジンが停止したり、出力が低下する場合があります。	エンジン 異常			

3. 各部の名称とはたらき

■ブザーの止めかた

異常発生時に鳴りだしたブザーは、ホーン・停止スイッチ、作業クラッチレバー、メインスイッチの各操作で停止します。下表に対応関係を示します。

ブザー項目	ホーン・ 停止スイッチ	作業クラッチレバー 「切」	メインスイッチ 「切」
刈取部詰まり発生	○	○	○
搬送部の詰まり発生	○	○	○
エンジン「水温異常」	○		○
エンジン「オイル」	○		○
緊急停止スイッチが繰出されました			○

エンジン停止装置は作業クラッチレバー操作で解除されます。下表に対応関係を表示します。

エンジン停止項目	作業クラッチレバー「切」
刈取部詰まり発生	○
搬送部の詰まり発生	○

《参 考》

- エンジンを再始動する場合は、必ず作業クラッチレバー・停止スイッチを「切」にしてください。
- エンジン停止装置が作動しかけた直後（1秒以内）に解除すると、燃料供給量が不足して、エンジン馬力不足（回転ダウン）となる場合があります。
この時は、メインスイッチを一度「切」にしてから再始動してください。

3. 各部の名称とはたらき

■異常発生時の処置

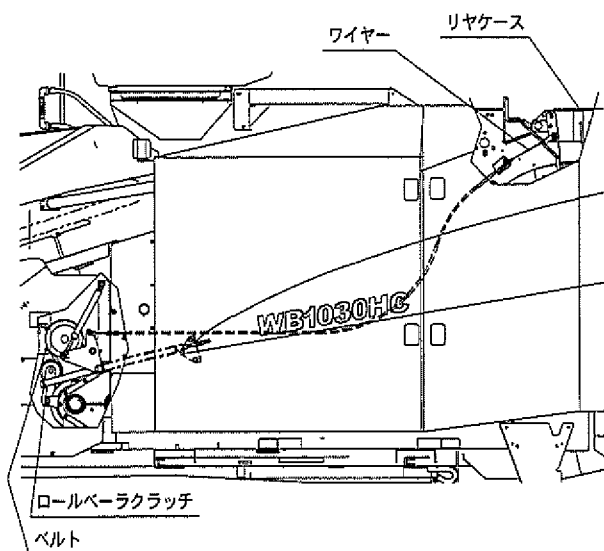
エンジンや刈取部等に異常が発生した場合は下表により処置してください。

マルチアイ画面表示	処 置
刈取部の 詰まり発生	刈取引継部周辺のワラを取り除いてください。
エンジン 「水温異常」	アイドリングで5～10分間運転後エンジンを止め、次の点検をしてください。 ●ラジエータの水量 ●ラジエータ網またはフィンの詰まり ●ファンベルトのゆるみ（145 ページ参照）
エンジン 「オイル」	エンジンを止め、オイル量を点検してください。 （137 ページ参照）
発電回路異常	エンジンを止め、バッテリーの端子とゼネレータの配線を点検してください。 （160 ページ参照）

3. 各部の名称とはたらき

3.7 リヤケース連動クラッチ

ロール放出時ロールベアラの回転を止めることでロスを少なくする構造になっています。



リヤケースが開くとワイヤーがひかれ、ロールベアラクラッチがきれ、ロールベアラの回転が止まります。

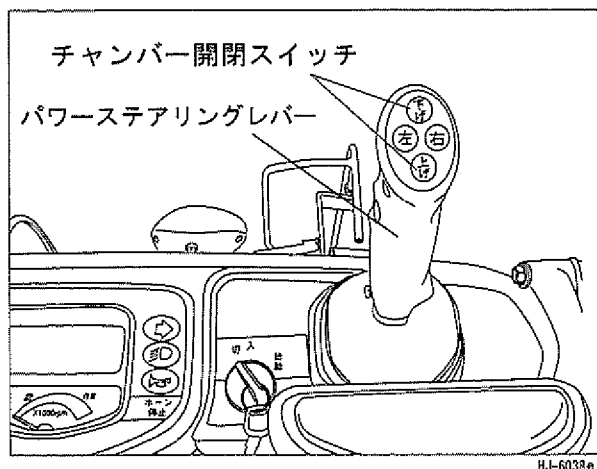
リヤケースを閉じるとロールベアラのクラッチが戻り、ロールベアラが回転します。

4. 運転に必要な装置の取扱い

4.1 チャンバー開閉装置の取扱い

◆ボタン操作

ボタン操作で開閉を行ないます。



◆チャンバーの開閉操作のしかた

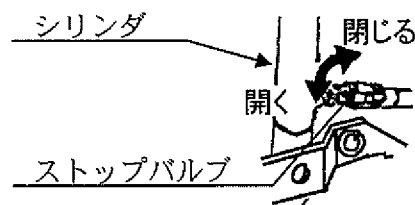
エンジンを始動させ、開閉スイッチを押すとチャンバーが開閉します。

(エンジンがかかっていないと油圧は動きません)

チャンバーを開くと連続電子ブザーが鳴ります。チャンバーを閉じロックがかかるとブザーが止まります。ブザーが止まるまでスイッチを押し続けてください。ブザーが止まりロックがかかってから作業してください。

◆チャンバーを開けたままで点検、整備するときは

点検・整備等でチャンバーを開けたままで作業するときは、シリンダ部のストップバルブを閉じてください。ロールベア右後ろカバー内にあります。



(チャンバーを開いた状態で移動しないで下さい。)

⚠ 注意

必ずストップバルブを閉じてください。
チャンバーを開けた状態での油圧装置の点検整備は、絶対に行わないでください。

※これを怠ると重大な傷害事故につながる恐れがあります。

⚠ 警告

この作業を行う場合、必ず二人で合図をしながら、慎重に行ってください。

※これを怠ると傷害を発生する恐れがあります。

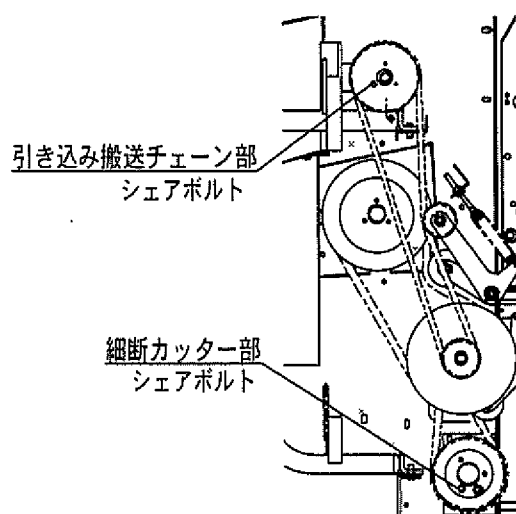
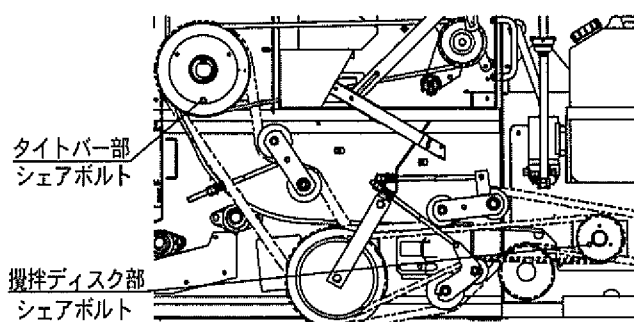
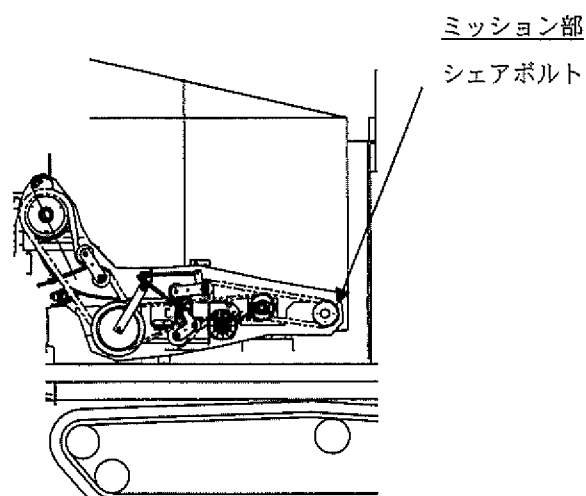
4.2 安全装置の取扱い

◆シェアボルトの交換

この機械には下表の様に5ヶ所にシェアボルトがあります切損した場合、必ずエンジンを停止し、指定のボルトを入れてください。これ以外のボルトを使用すると故障の原因となりますので絶対にやめてください。

部分名	場 所	ボルトサイズ
ミッション部	右カバー内	M10×35-8T 全ネジ
タイトバー部	右カバー内	M8×40-8T 全ネジ
細断カッター部	左前カバー内	M8×30-8T 全ネジ
引き込み搬送チェーン部	左前カバー内	M6×25-8T 全ネジ
攪拌ディスク部	右前カバー内	M6×25-8T 全ネジ

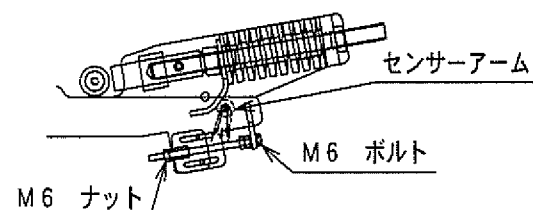
4. 運転に必要な装置の取扱い



4.3 満了感知装置の取扱い

◆満了感知装置の装備位置

下図に示すように進行方向左側のサイドカバーの内側に装備しています。



◆満了感知装置の作用

梱包圧力を感知する装置で、圧力感知と同時にブザーを鳴らし、パトランプが点灯し、ネットが自動繰り出しされます。

《重要》

感知装置は出荷時に調整済みですので調整しないでください。

調整すると機械の破損の原因となったり、十分なロール成形ができないこととなりますので、絶対に調整しないでください。

4.4 ネット繰出しスイッチの取扱い

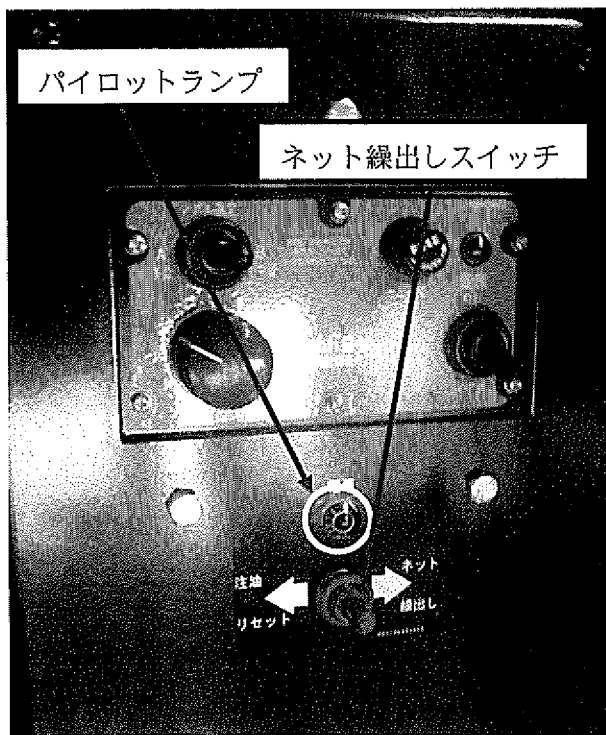
◆自動ネット繰り出しのときは操作不要です。

成形されるロールの圧力が、設定された圧力になるとブザーが鳴り(同時にパトライトも点灯)、自動的にネットを繰り出すので、ネット繰出しスイッチの操作は不要です。

◆手動でネットを繰り出すとき

成形作業の最終時、作物不足で設定圧力以下でネットを巻き放出する時は、ネット繰出しのスイッチを右へ倒すとブザーが鳴り、同時にネットが繰り出されます(同時にパトライトも点灯)。

4. 運転に必要な装置の取扱い



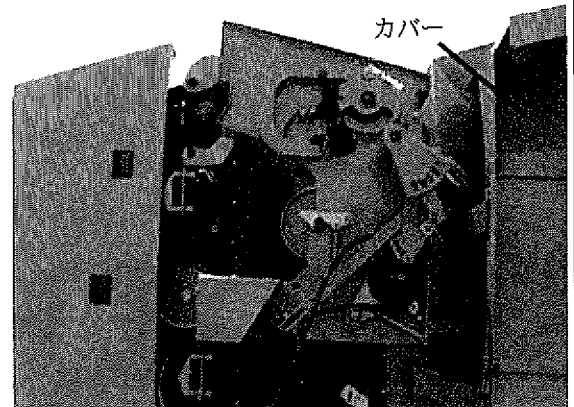
4.5 ネット装置のスライド

ネットの装着やメンテナンスの際にはネット装置をスライドすることができます。

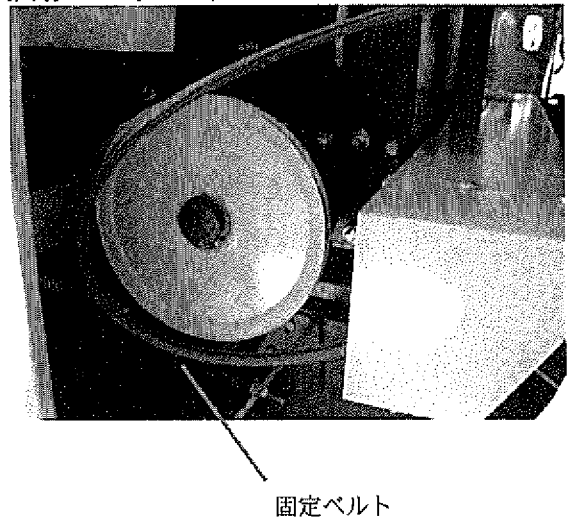
⚠ 警告

- ネット装置をスライドする場合は、スライド部分に手などははさまないように特に注意してください。
- 切断用のナイフがありますので手を切らないように特に注意してください。
- 二人以上の共同作業では、お互いに声を掛け合うなどして、安全を確かめ合いながら作業してください。

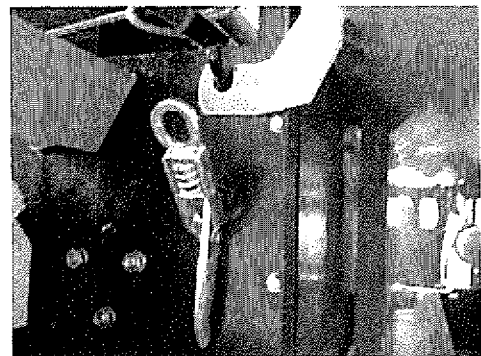
1. カバーを開いてください。



2. 駆動ベルトを外してください。

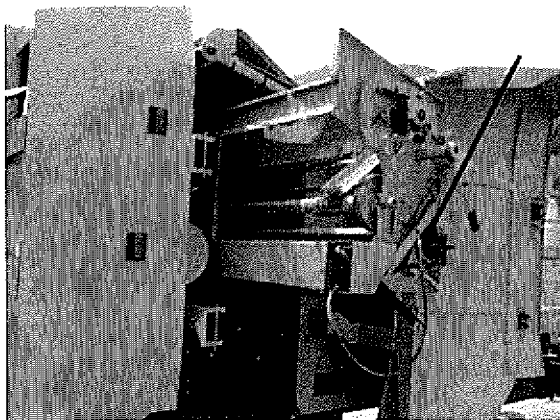


3. 固定金具を外してください。



4. 運転に必要な装置の取扱い

4. ネット装置を手前に引張り出してください。



⚠ 警告

- ネット装置をスライドするときは必ず PTO を切り、エンジンを停止させてください。
※これを怠ると重大な傷害事故を引き起こす恐れがあります。

4.6 ネットをセットする

⚠ 警告

- ネットを通す場合は、切断用のナイフがローラーの後にありますので手を切らないように特に注意してください。
- ネットの種類によりトラブルが出ることがありますので必ずタカキタ指定のネットを使用してください。

使用できるネットは1.0又は1.2m幅ネットです。

- (1) フックを①方向に持ち上げ、アームを②方向に引き出し、ドラムを③方向に抜き出してください。

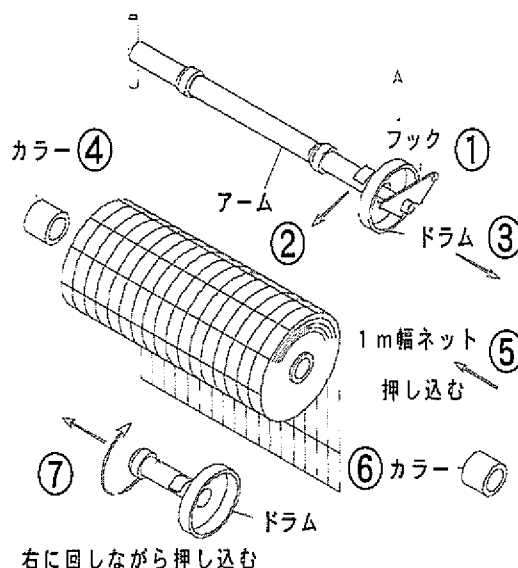


図1 (1mネットセット図)

- (2) アームにカラー④を入れてください。
(1. 2m幅ネット装着時は不要)
(3) アームにネット⑤を図1の巻き方向で差し込んでください。
(4) アームにカラー⑥を入れる。
(1. 2m幅ネット装着時は不要)
(5) アームにドラムを右に回しながら⑦押し込んでください。

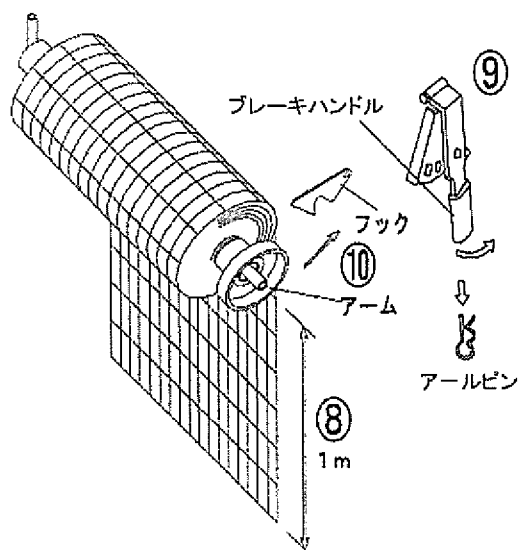


図2 (1mネットセット図)

4. 運転に必要な装置の取扱い

- (6) ブレーキハンドル⑨のRピンを抜きブレーキを解除してください。
- (7) ネットを図2のように1 m程度引き出してください。⑧
- (8) アームを戻し⑩、フックで固定してください。
- (9) ブレーキハンドルを元に戻しRピンで固定してください。
- (10) ネットを束にして図3のように通してください。
- (11) 繰出ローラーを回してネットをきっちり張ると下より20 cm程度ネットが出る状態になります。

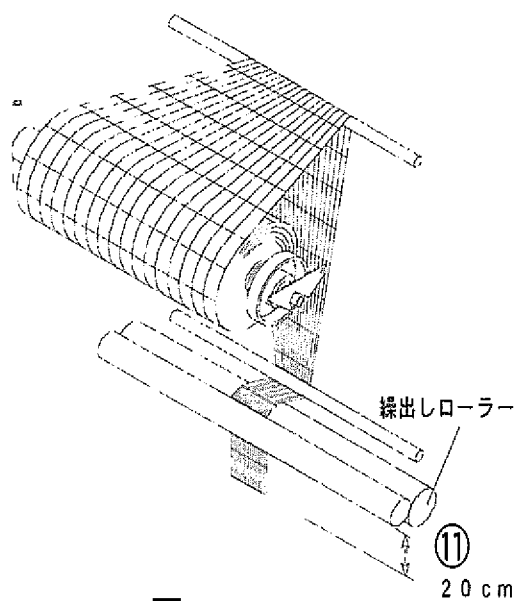


図3 (1mネットセット図)

4.7 使用時にこれだけは守りましょう

- ・ナイフの刃こぼれがある場合は、研磨するか交換してください。
- ・ネットは紙筒を使用している為、水濡れ厳禁です。
また、屋外保管の場所は、ネットを取り外し屋内で保管してください。

4.8 使用できるネット

- ・タカキタ指定のネットを使用してください。ネットの種類によりトラブルがでることがあります。

ネット（別売品）は当社で準備しております。

・ネットの幅寸法

ネットの幅寸法を確認してください。下記のネットしか使用できません。

1. 0 m幅ネット (タカキタ指定のみ)

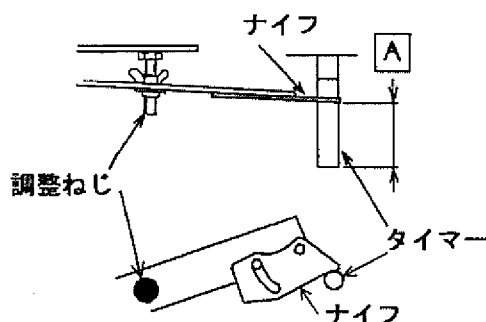
1. 2 m幅ネット (タカキタ指定のみ)

タカキタ指定ネットは、ネットの芯がネットブレーキ装置に適した硬い紙筒を使用しています。

4.9 ネット巻数の設定

◆巻き数を設定する

ネットの巻き数は無段階に調整できます。調整ねじを締めると多く、緩めると少なく巻けます。



ネット巻数	3	4	5
A寸法	50 mm	64 mm	78 mm

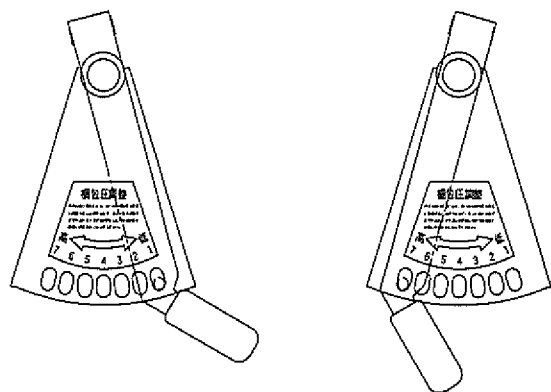
工場出荷時は4巻にセットしてあります。

4. 運転に必要な装置の取扱い

4.10 ネットブレーキの調整

ネット装置のバネ調整によりネットのブレーキ力を適正に調整することができます。

ネット張力が強すぎて破れる場合は“低”の位置に掛け替えて作業をおこなってください。



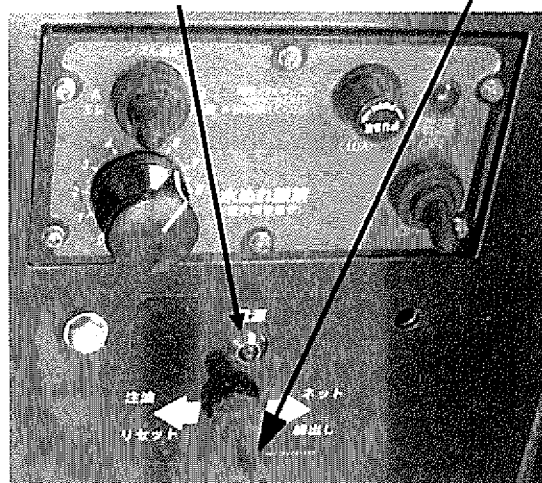
ブレーキ力小 ← → ブレーキ力大

4.11 タイトチェーン注油装置の取扱い

◆作業前に必ず注油してください。

タイトチェーンに十分注油してください。ロールベアラ部を回転させながらネット繰り出しスイッチを左に倒してください。(1回20秒程度)

パイロットランプ ネット繰出しスイッチ



◆油の残量に注意

作業中はチャンバーを閉じた後に自動的に注油されます。

注油タンク内の油残量には、特に注意して、少なくなれば補給してください。注油タンクはロールベアラ右後カバーの中にあります。

《重要》

注油タンクの油不足によりタイトチェーンに注油されない状態で作業すると、動力負荷が急増してチェーンの摩耗が多くなり寿命を低下させますので、無注油状態での使用は絶対に行わないでください。

◆定期的にノズルの清掃を行ってください

注油ノズルにはワラが付着しやすく、そのまま使用されると、チェーンへの注油がされていないことがありますので、定期的に左右のノズル先端部に付着したワラを除去してください。

！ 警告

●点検・清掃は必ずエンジンを止めてから行ってください。

※これを怠ると傷害発生の恐れがあります。

4.12 パイロットランプについて

左図の位置に取り付けられているパイロットランプはロールベアラの電源と繋がっています。エンジンがかかっている状態でこのランプが消えている場合は、ロールベアラのヒューズが切れている可能性がありますのでヒューズを交換してください。

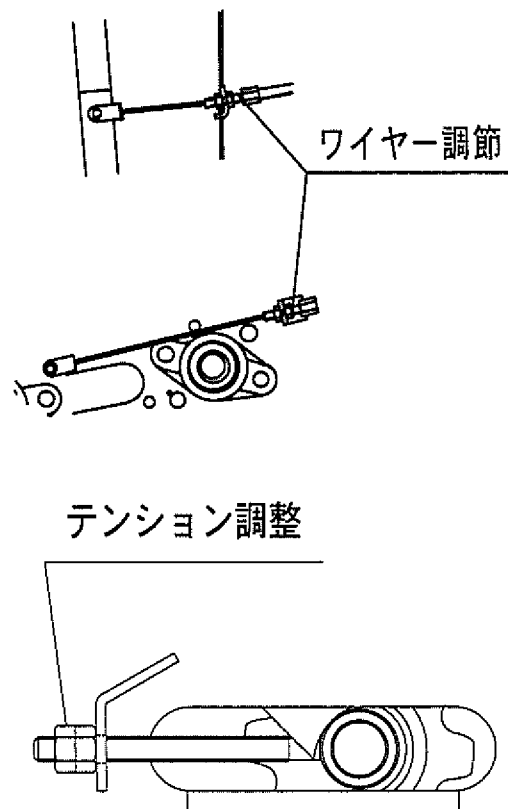
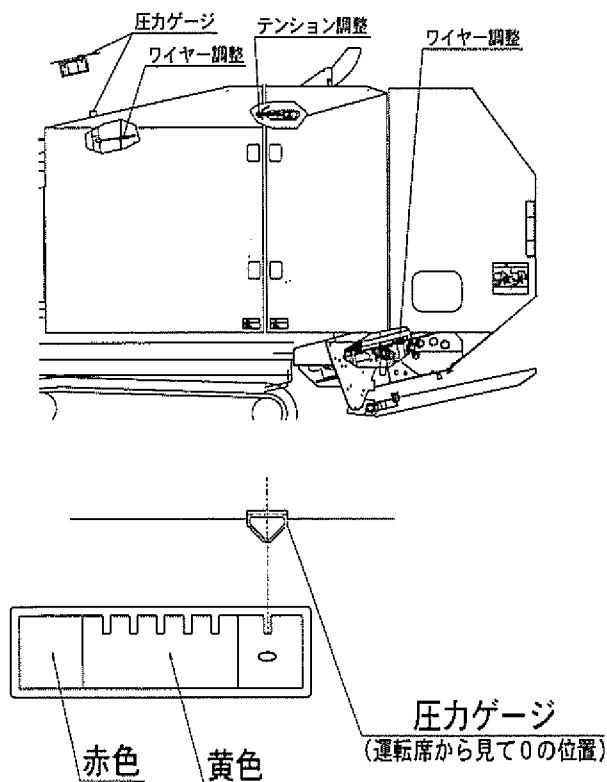
(ヒューズに関しては P161 のメンテナンスを参照してください)

4. 運転に必要な装置の取扱い

4. 13 圧力ゲージの見方・調整

◆ロールベアラに作物入り圧力がかかるとゲージが動き、運転席から分かるようになっています。作業の目安にしてください。

- [1] ゲージが黄色の範囲に入るとネットの巻付けが可能です。
- [2] ゲージが禁止の範囲に入ると入れすぎです。すぐに手動でネットを出してロールを放出してください。そのまま作業を続けると、シェアボルトが切れるおそれがあります。
- [3] タイトチェーンが伸びたり、ワイヤーが伸びると作業開始時、ゲージ位置が「0」でなくなります。そのときはテンション、ワイヤー調整を行って常に「0」からスタートするようにしてください。



5. 作業前点検

⚠ 危険

- 燃料を補給するときは火気厳禁です。くわえタバコ等をしないでください。
※守らないと、燃料に引火し、爆発や火災の原因になります。
- 燃料、オイルがこぼれたときは、きれいに拭き取ってください。
※守らないと、火災や、転倒による傷害事故の原因になります。

⚠ 警告

- 点検するときは、駐車ブレーキをかけ、平たんで水平な広く地面の硬い場所を選んでください。
※守らないと、コンバインが動き出し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 燃料、給油、注油および回転部等の点検をするときは、必ずエンジンを止め、メインスイッチキーを抜いてください。
※守らないと、手や衣服が巻き込まれたり挟まれたりして、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 点検時にカバーを開けたり、取りはずしたりした場合は、必ず元に戻してから作業してください。
※守らないと、手や衣服が巻き込まれたり挟まれたりして、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

5.1 運転席にすわる前に

点検箇所	点検項目	異常時の処置	参照ページ
前日に異常があった箇所	再度異常がないか。	お買い上げ先に相談する。	—
警告ラベル貼付箇所	はがれ、汚れ、破損等がないか。	新しいものに貼り換える。	—
反射器	汚れ、破損等がないか。	掃除、交換する。	—
各部	損傷がないか。 ワラくずが溜まっていないか。	お買い上げ先に相談する。 掃除する。	—
ボルト、ナット	ゆるみ、脱落がないか。	締め付け、補充する。	—
パイプ、ホース	オイル、水漏れがないか。	掃除、取り付け部の締め付け、交換する。	159 160
配線コード	たるみ、被覆の損傷がないか。	締め付け、交換する。	161
配線端子	はずれ、ゆるみがないか。	接続する。	161
エンジンオイル	オイルゲージの上下限の間に液面があるか。	補給する。 キセキスーパーエコディーゼルエンジンオイル (10W-30, CH-4/CF)	137
冷却水	リザーブタンクの上下刻線の間に冷却水がありますか。	冷却水を補給します。	165

5. 作業前点検

点検箇所	点検項目	異常時の処置	参照ページ
ラジエータの防塵装置	エンジンカバー網が目詰まりしていませんか。	網面についているホコリを払い落とします。	159
	ラジエータフィンが目詰まりしていませんか。	フィンについているホコリを払い落とします。	159
反射器 バックミラー	汚れはありませんか。	汚れを拭きとってください。	—
エンジン・マフラ 周辺	ワラくず・ホコリが溜まっていますか。	ラジエータカバー、グレンタンクを開き、ワラくずを払い落とします。	109
コンデンサ (C型)	ネット、コンデンサのフィンは目詰まりしていませんか。	ネット、フィンについているホコリを払い落とします。	155
エアフィルタ (C型)	内気フィルタ、外気フィルタは目詰まりしていませんか。	ホコリを取り除いてください。	154
油圧オイル	検油ホースの中央に油量がありますか。	補給します。 斗セキハイドロリックオイル (VG68)	139
自動注油オイル	オイルタンクに十分油量がありますか。	補給します。 エンジンオイル (137ページ)	130
クローラ	たるみはありませんか。	張り量を調節します。	165
ファンベルト	指で押したときのたわみ量は適正ですか。	張り量を調節します。	145
エアクリーナ	エレメントにホコリが溜まっていますか。	エレメントを清掃してください。	158

5.2 運転席にすわって

点検箇所	点検項目	異常時の処置	参照ページ
駐車ブレーキペダル	スプリング隙間は適正か。	お買い上げ先に相談する。	—
バックミラー	後方が正しく確認出来ますか。	汚れを拭きとってください。	—

5.3 運転席でメインスイッチを「入」にして

点検箇所	点検項目	異常時の処置	参照ページ
燃料計	作業に必要な量はありますか。	ディーゼル軽油を補給します。 燃料計がEを指しているときは、燃料を補給してください。	136
灯火類	各スイッチ操作で点灯、点滅しますか。	球・ヒューズ切れ、配線コードはずれを点検し、交換、接続する。	161
ホーン	ホーン・停止スイッチを押せば鳴りますか。	ヒューズ切れ、配線コードはずれを点検し、交換、接続する。	161
バックブザー	主変速レバーを「後進」位置にするとブザーが鳴りますか。	ヒューズ切れ、配線コードはずれを点検し、交換、接続する。	161
自動装置	センサチェックモードにして点検します。自動装置のセンサのアームを動かすとブザーが鳴りますか。	配線の外れを処置します。 その他の場合はお買い上げ先に相談してください。	17

5. 作業前点検

5.4 エンジンを開始して

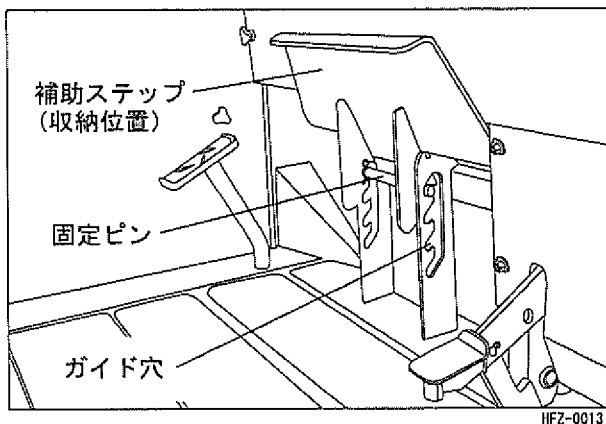
点検箇所	点検項目	異常時の処置	参照ページ
回転計	動作に異常がないか。	お買い上げ先に相談する。	—
エンジン・マフラ	異音・排気ガス色の異常がないか。	お買い上げ先に相談する。	—
緊急エンジン停止スイッチ	スイッチを押すと、ブザーが鳴り、エンジンが停止する。	ヒューズ切れ、配線コードはずれを点検し、交換、接続する。	78

6. 運転のしかた

6.1 運転席の調節のしかた

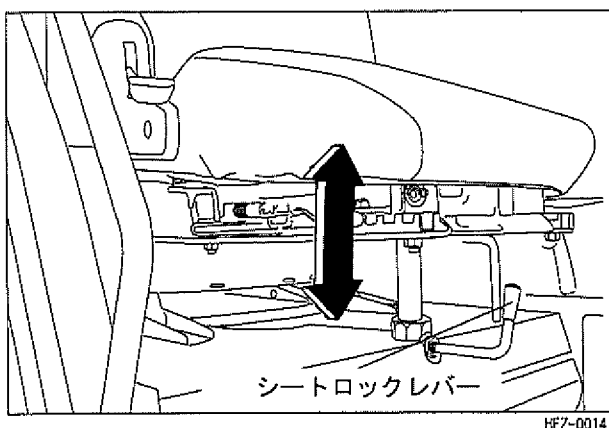
◆ステップ高さ調節のしかた

- [1] ステップの高さが低いときには補助ステップを手前に倒します。また、高いときには補助ステップを上げて収納してください。
- [2] 補助ステップは4段階の調節ができます。補助ステップの固定ピンをガイド穴の希望の高さの位置に引っ掛けてステップを手前に倒してください。



◆シート高さ調節のしかた

- [1] シートから腰を浮かせ、シート中央下部にある「シートロックレバー」を反時計回りにゆるめます。
- [2] 上方にシートを軽く引き、シートを合わせたい位置で「シートロックレバー」を時計回りにしめます。



◆シートの下げかた

- [1] 「シートロックレバー」を反時計回りにゆるめます。
- [2] シートに体重をかけると、任意の位置まで下がります。

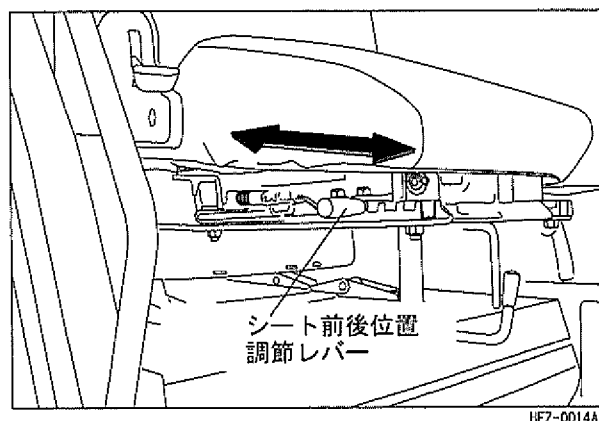
- [3] 下がったら「シートロックレバー」を時計回りにしめます。

《参考》

- シートロックレバーを操作する場合、シートを軽く押さえてください。そのままゆるめるとバネ力で急に最上位まで上がります。

◆シート前後調節のしかた

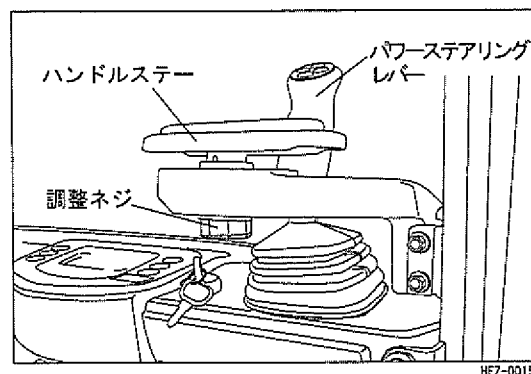
シート右下にあるシート前後位置調節レバーを上方へ軽く引き上げ、シートを合わせたい位置に合わせます。



◆ハンドルステア高さ調節のしかた

ハンドルステア部の下の調整ネジを回すと、ハンドルステアが上下し、パワーステアリングレバーの手置き台としての調整ができます。

調整ネジ	ハンドルステア
右に回す	下がる
左に回す	上がる



6. 運転のしかた

6.2 エンジン始動と停止のしかた

6.2.1 エンジン始動のしかた

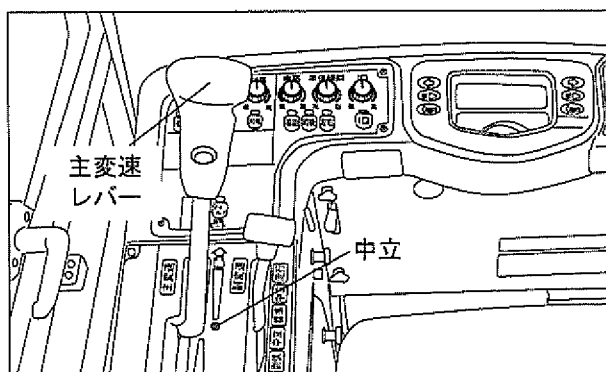
⚠ 危険

- 屋内で始動する場合は、窓や戸を開け、十分に換気をしてください。
閉め切った屋内等ではエンジンを始動しないでください。
※守らないと、排気ガスによる中毒を起こし、死亡事故にいたるおそれがあります。

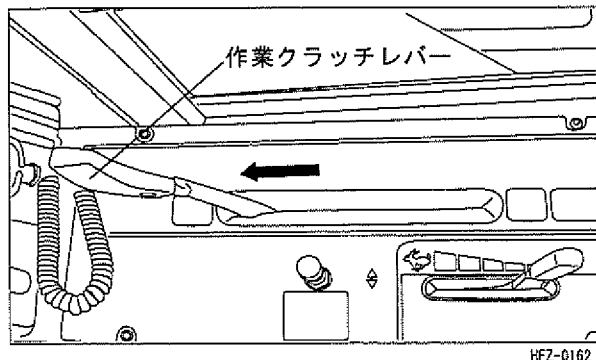
⚠ 警告

- 始動する前に、周囲の人にホーンで合図してください。
※守らないと、機械に巻き込まれる等、傷害事故を引き起こす原因になります。
- 各保護カバー類が取り付けられているか確認してください。
外れている場合は、必ず取り付けてください。
※守らないと、機械に巻き込まれる等、傷害事故を引き起こす原因になります。
- 主変速レバーを「中立」、各クラッチレバーを「切」にして始動してください。
※守らないと、機械に巻き込まれる等、傷害事故を引き起こす原因になります。

- (1) 主変速レバーを「中立」（「●」位置）にします。



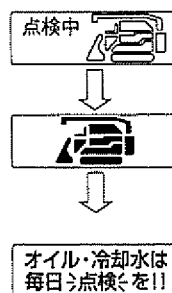
- (2) 作業クラッチレバーを「切」にします。



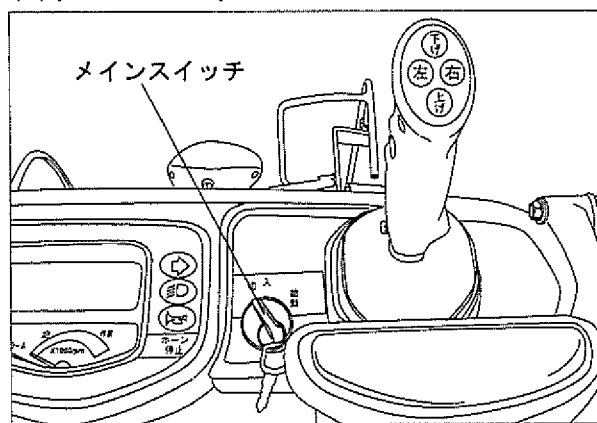
- (3) メインスイッチを「入」にします。
マルチアイには、右記の画面が順番に表示されます。

各センサー関係の点検確認をしています。

異常個所があれば表示します。

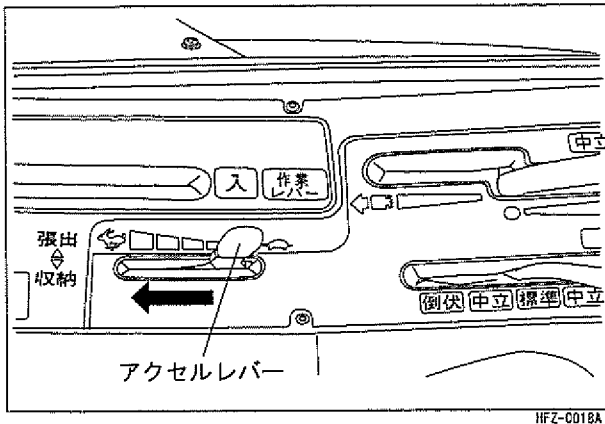


マルチアイに「エンジン始動可能です」と表示されたら予熱完了です。

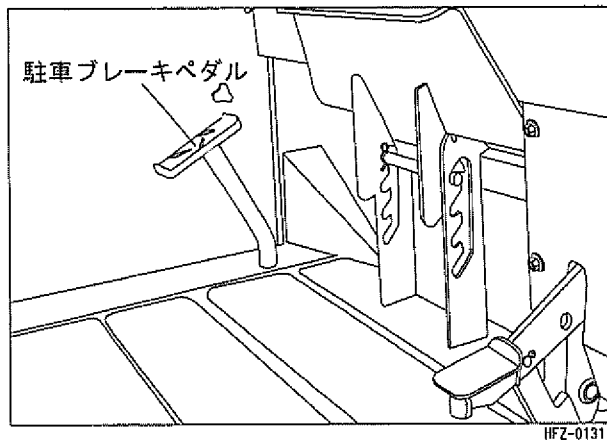


6. 運転のしかた

(4) アクセルレバーを中程まで引きます。



(5) 周囲に人がいないことを確認して、ホーンを鳴らします。駐車ブレーキペダルを踏み込んで、メインスイッチを「始動」位置にします。



(6) エンジン始動後は、アイドリングで、約5～10分間暖機運転をします。

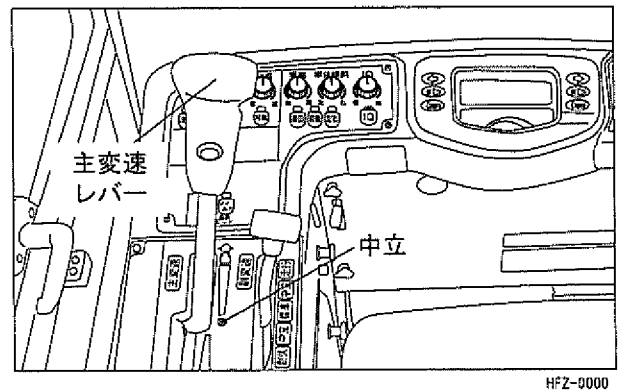
- 10秒程スタート操作をしてもエンジンが始動しない場合は、メインスイッチを「切」にし、30秒以上休止してから再び操作してください。
- 異常が発生してエンジンが停止したときは、各レバーを「切」又は「中立」にして、メインスイッチを「切」にしてから、再び操作してください。

⚠ 注意

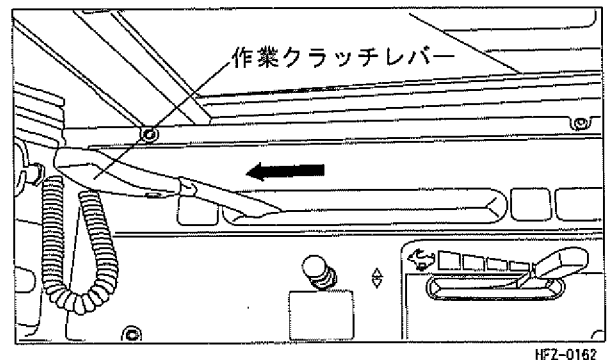
- 0℃以下の寒冷時は、10～20分間暖機運転を行ってください。
※守らないと、油圧系統の故障を起こすおそれがあります。

6.2.2 エンジン停止のしかた

(1) 主変速レバーを「中立」(「●」位置)にします。

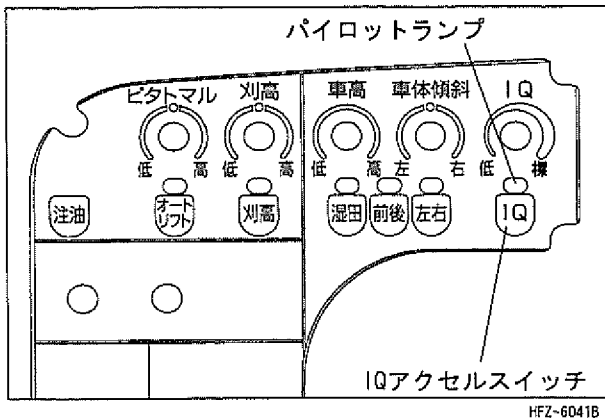


(2) 作業クラッチレバーを「切」にします。



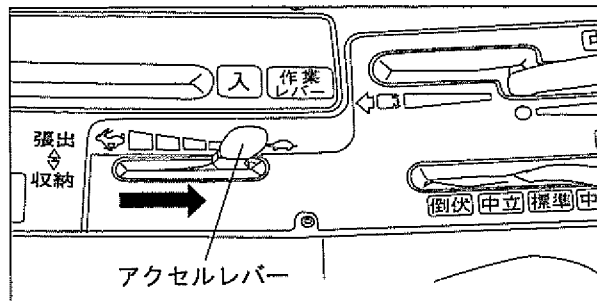
(3) I Q アクセルスイッチを「切」にします。
(パイロットランプ消灯)

6. 運転のしかた



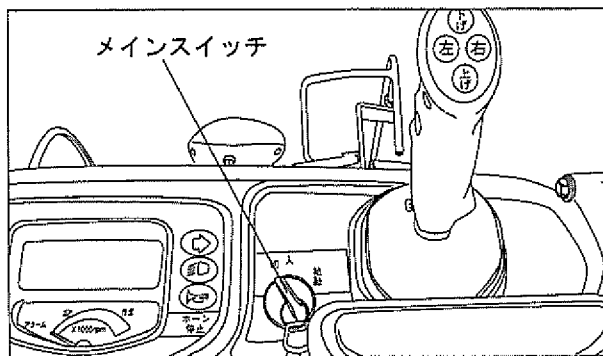
HFZ-6041B

- (4) アクセルレバーを「 側」にいっぱい戻します。



HFZ-0045D

- (5) メインスイッチを「切」位置にすると、エンジンが止まります。



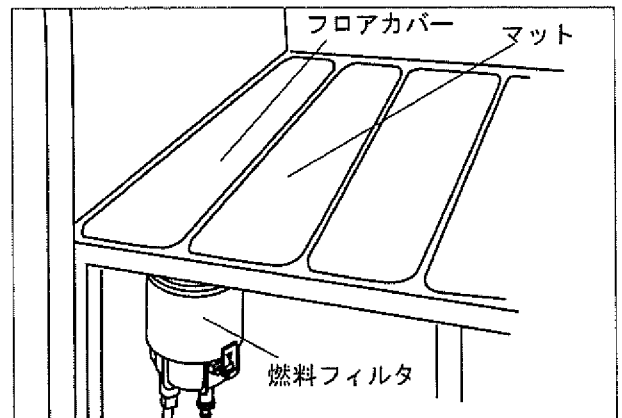
HFZ-0022

6. 2. 3 エアー抜きのしかた

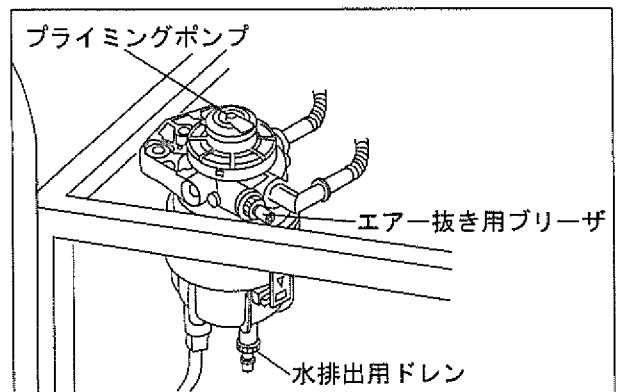
燃料系統にエアーが混入しますと、「始動困難」や「エンジン不調」の原因になります。

- (1) マットをめくり、フロアカバーをはずします。
- (2) 燃料フィルタのエアー抜き用ブリーザを緩めます。

- (3) 燃料フィルタ上部のプライミングポンプを燃料が出てくるまで (40回以上) 押します。
- (4) エアー抜き用ブリーザを締め、さらにプライミングポンプを20回以上押します。
- (5) 「エンジン始動のしかた」(51ページ)を参照し、エンジンを始動します。
エンジンが始動しない場合は、手順2から再度エアー抜きを行ってください。



HFZ-0066



HFZ-0066-1

6. 運転のしかた

6. 2. 4 水抜きのみかた

燃料フィルタには、燃料中の水分を分離する機能があります。分離した水分があるレベルに達すると、運転席に警報が表示されます。

- (1) 燃料フィルタ下部の水排出用ドレンを緩めて、水分を排出します。
- (2) 水分排出後は、ドレンを閉めます。

危険

- エアー抜きブリーザ、水排出ドレンを締付けるとき、接触面に隙間がないことを確認し、しっかり締付けてください。
また、排出した燃料は十分に拭き取り、燃料系統に燃料漏れがないか点検してください。

※燃料漏れがあると、「火災」の原因になります。

6. 運転のしかた

6.3 走行のしかた

⚠ 警告

- 急発進、急制動、急旋回はしないでください。
※守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 機体の上には、人、物等を乗せないでください。
※守らないと、転倒・転落事故を引き起こすおそれがあります。
- 副変速レバーの操作は、急な下り坂では行わないでください。
※守らないと、収穫機が急加速・急減速し、事故の原因になります。
- 機械の周囲に人がいないことを必ず確認し、「ホーン」で合図してください。
※守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 移動走行での右・左折は、ウインカで合図し、低速で行ってください。
※守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 必ず減速してからゆるやかに旋回してください。
※守らないと、高速走行時の旋回は、転倒・転落事故を引き起こすおそれがあります。
- 作業機を離れるときは、平たんな場所に駐車し、駐車ブレーキをかけ、エンジンを止めて、メインスイッチキーを抜いてください。
※守らないと、作業機が動き出し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- やむをえず坂道で駐車するときは、駐車ブレーキをかけてから木片等で車止めをしてください。
※守らないと、作業機が動き出し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 側溝のあるところや両側が傾斜しているあぜ道を走行するときは、速度を落とし、十分に注意してください。
※守らないと、衝突・転倒・転落事故を引き起こすおそれがあります。
- 機体が大きく左右に傾斜したときは、すみやかに平たんな場所へ機体を移動させてください。
転倒防止のために警報ブザーがなります。
※守らないと、転倒・転落事故の原因となります。

6. 運転のしかた

6.3.1 パワーステアリングレバーの 使いかた

パワーステアリングレバーで刈取部の上下と、機体の方向修正、旋回ができます。

- (1) レバーを前、後に操作すると、刈取部の上昇・下降ができます。
- (2) レバーを左、右に操作すると、方向修正から旋回までできます。

レバーの倒し量に応じて、ブレーキ力が変わりますので、ゆるやかな方向修正から、コーナー旋回まで、条件に合わせて操作してください。

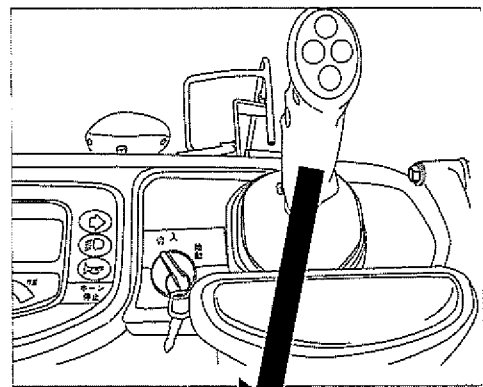
(a) ゆるやかな方向修正

左、右に軽く倒します。

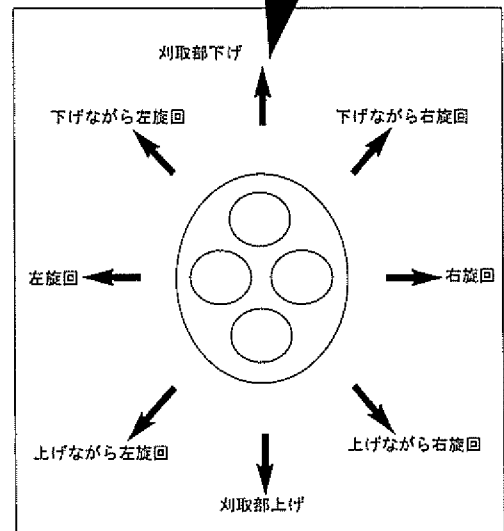
(b) コーナー旋回

左、右にいっぱい倒します。

- (3) レバーを斜めに操作すると、刈取部が上昇または下降しながら、方向修正（左または右）ができます。



HFZ-0032



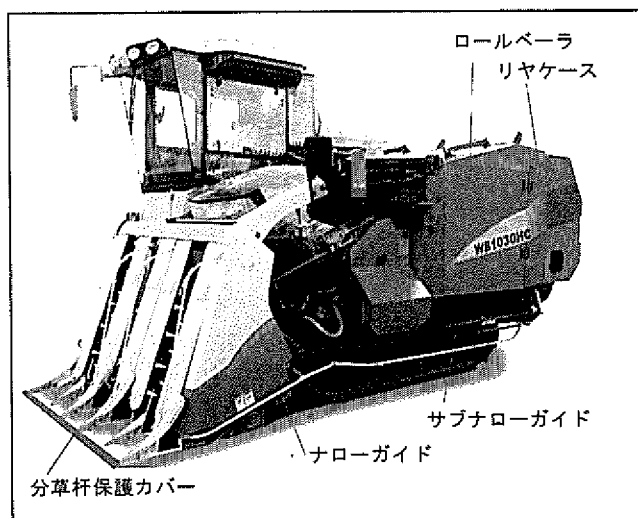
6. 運転のしかた

6.3.2 走行のしかた

⚠ 警告

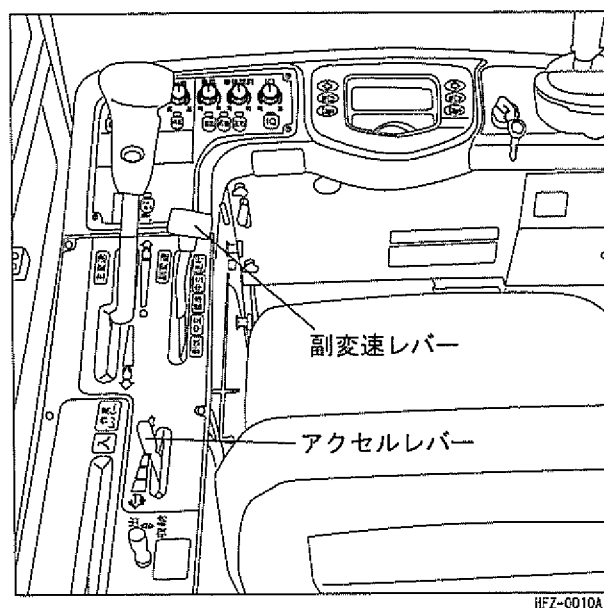
- 傾斜地では、副変速レバーを切り換えしないでください。
※守らないと、傷害事故を引き起こす原因となります。
- 道路走行するときは、車高調整スイッチを操作し、車高がもっとも下がった位置にしてください。
※守らないと、転倒のおそれがあります。
- 道路走行するときは常に分草杆保護カバーを付けてください。
※守らないと、傷害事故を引き起こす原因となります。

- (1) 分草杆保護カバーを取り付けます。
- (2) ナローガイドおよびサブナローガイドを収納します。
- (3) ロールベアラのリヤケースが完全に閉まっていることを確認します。

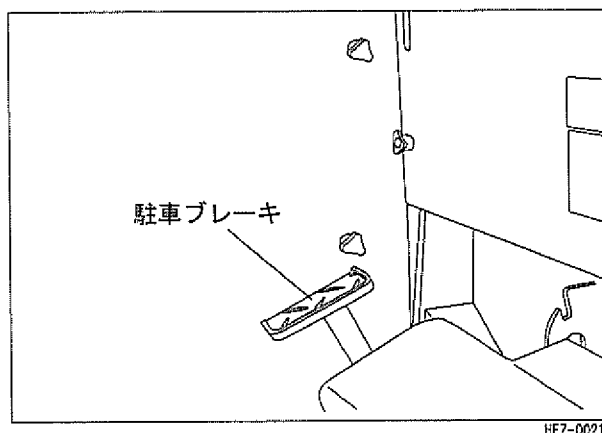


- (4) メインスイッチを操作して、エンジンを始動させます。(51ページ)
- (5) アクセルレバーを操作してエンジン回転計の針を作業ゾーンに合わせます。
または、IQアクセルスイッチを「入」にしておくとアクセルレバーを操作しなくても機体の発進・停車に応じてエンジン回転を適切に制御します。
- (6) パワーステアリングレバーを操作して、刈取部を地面から30cm程度の高さまで上げます。(56ページ)

- (7) 副変速レバーを「走行」「標準」「倒伏」のいずれかにします。



- (8) 駐車ブレーキをかけている場合はペダルを踏み込みロックを解除します。



6. 運転のしかた

▲ 注意

- パワーステアリングレバーを左右に
いっぱい倒してコーナー旋回すると、
急旋回状態になることがあります。
ゆっくり操作してください。
※守らないと、転倒・転落事故を引き
起こすおそれがあります。

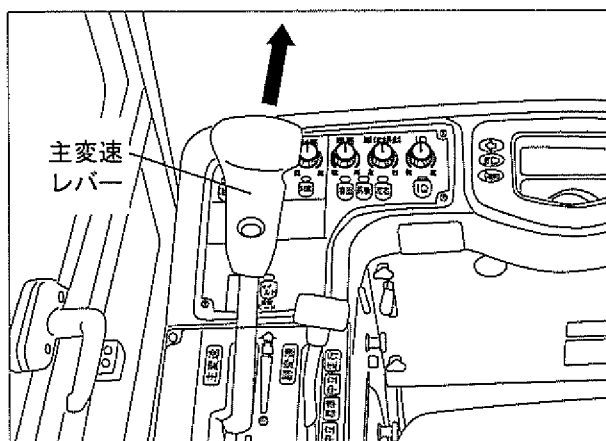
▲ 注意

- 走行する場合は、エンジンを2000
回転以上で使用してください。それ
以下で使用すると油圧無段変速
装置（HST）の寿命が低下します。

- (9) 駐車ブレーキをかけている場合はペダル
を踏み込みロックを解除します。
主変速レバーをゆっくり前方又は、後方
に押して走行します。主変速レバーの押
し量に応じて無段階に速度の調節ができ
ます。

《参考》

副変速レバーを操作する時は、主変速レ
バーを中立「●」にした後、行ってくだ
さい。

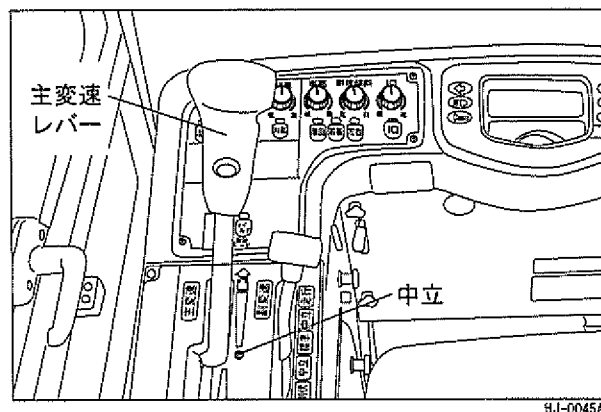


6. 3. 3 停車・駐車のしかた

▲ 警告

- 坂道では駐車しないください。
やむを得ず駐車する場合は、駐車ブ
レーキペダルを踏み込みロックしてく
ださい。
さらに木片等で車止めをしてください。
※守らないと、傷害事故を引き起こす
原因となります。
- 停車するときは必ず主変速レバーを
「中立」に戻してから、駐車ブレー
キペダルを踏んでロックしてくだ
さい。
※守らないと、傷害事故を引き起
こす原因となります。

- (1) 主変速レバーを「中立」（「●」位置）に
します。

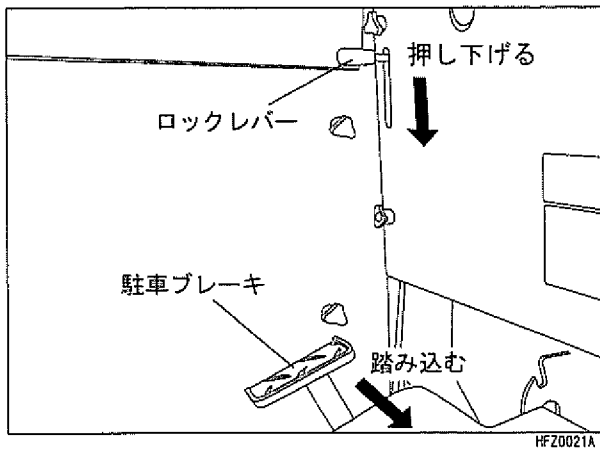


- (2) 駐車ブレーキペダルをロック位置まで踏
み込みロックレバーを下へ押し下げてく
ださい。

《参考》

駐車ブレーキをかけると、主変速レバ
ーの操作が出来なくなります。

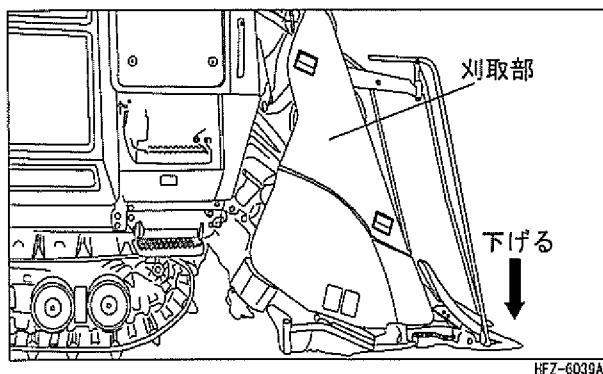
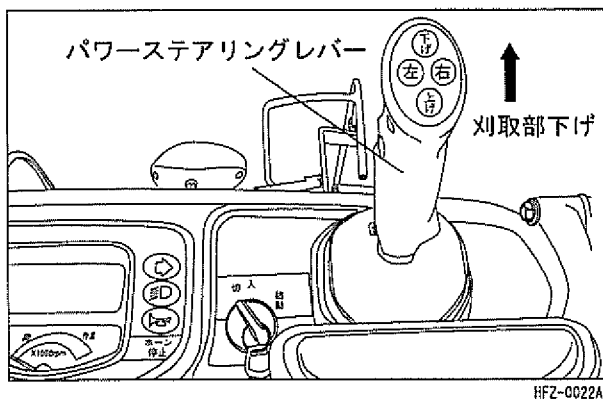
6. 運転のしかた



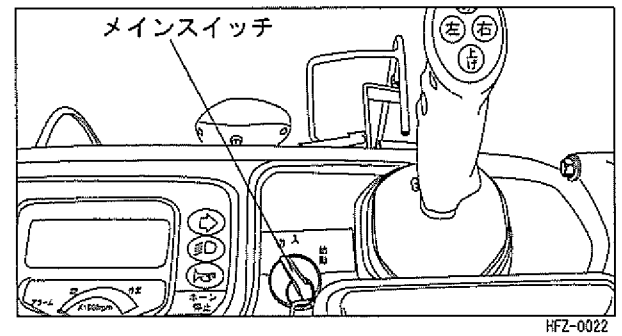
(3) パワーステアリングレバーで、刈取部を地面まで下げます。

⚠ 警告

- やむを得ず、刈取部を上げて駐車する場合は、刈取部の下にスタンド等の台を置いてください。
※守らないと、傷害事故を引き起こす原因となります。



(4) メインスイッチを「切」にして、エンジンを止め、キーを抜きます。

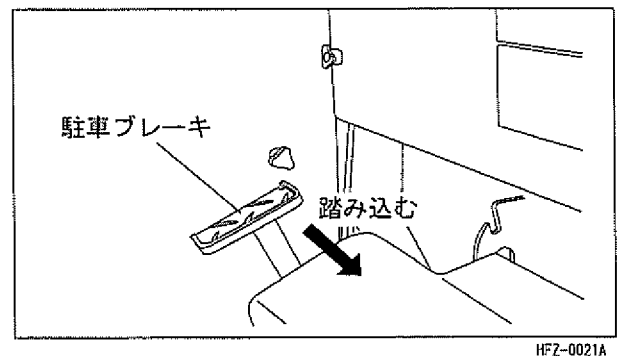


6. 3. 4 駐車ブレーキの解除のしかた

⚠ 警告

- 坂道で駐車ブレーキを解除する場合はエンジンをかけ、車止めを外してから解除してください。
※守らないと、傷害事故を引き起こす原因となります。

駐車ブレーキペダルを踏み込むとロックが外れ、解除されます。



6. 運転のしかた

6.4 自動車等への積み・降ろしのしかた

⚠ 警告

- アユミの上では、パワーステアリングレバー、副変速レバー、駐車ブレーキペダルを操作しないでください。
※守らないと、クローラがすべったり、HSTが急加速・急減速又は走行停止状態となり、傷害事故の原因になります。
- 積み・降ろしの際は、機体の周辺には立たないでください。
※守らないと、傷害事故の原因になります。
- アユミの上では、刈取部の上下操作をしないでください。
※守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 周囲に危険のない平たんで、地面の硬い場所を選んでください。
※守らないと、転倒・転落事故の原因になります。
- アユミは、すべり止めのついたものを使用し、荷台に段差のないよう確実にかけてください。
※守らないと、衝突・転倒・転落し傷害事故の原因になります。
- 積込むトラックはエンジンを止めて、変速を「1速」または「R」位置にして、駐車ブレーキをかけ、車止めをしてください。
※守らないと、傷害事故の原因になります。
- 積み込みは、ロールベアラのチャンバーを空にしてから行ってください。
※守らないと、傷害事故の原因になります。
- アユミから荷台に移るときや荷台からアユミに移るときは、急に機体の角度が変わるので十分注意してください。
※守らないと、傷害事故の原因になります。
- キャビン型式の収穫機を自動車で運搬するときは、サイドウインド（左側）、サイドウインド（ドア側）、リヤハッチは閉めドアは施錠してください。
※守らないと、コンバインの破損や落下物となり傷害事故の原因になります。

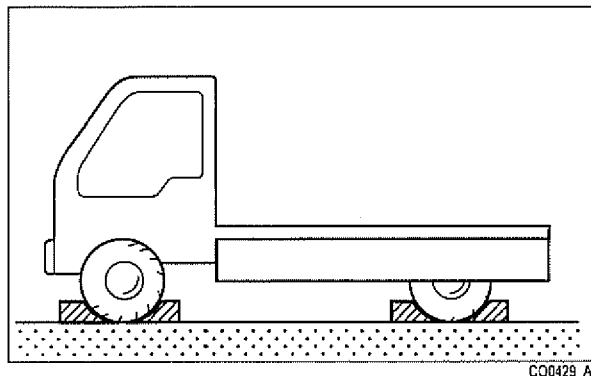
⚠ 注意

- ロープは所定のフック以外には掛けないでください。
※守らないと、コンバインの破損や故障を引き起こすおそれがあります。

6. 運転のしかた

6. 4. 1 トラックの準備

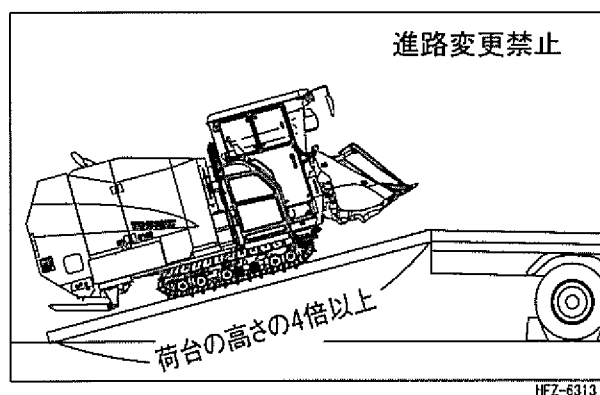
- (1) トラックを平たんで地面の硬い場所に止めた後、エンジンを停止させ、変速を「1速」または「R」位置にし、駐車ブレーキをかけ、車止めをします。



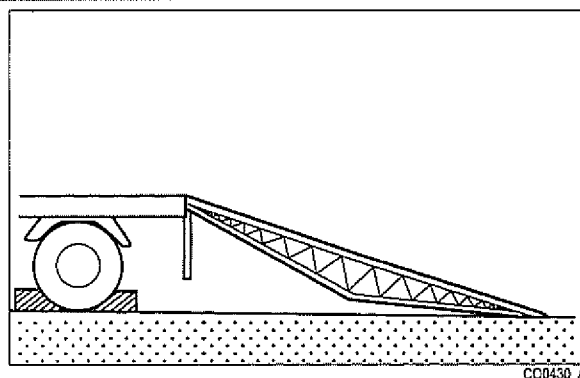
- (2) 基準に合ったアユミを用意します。

●アユミの基準

- a) 長さ…車の荷台高さの4倍以上
- b) 幅…60cm以上
- c) 強度…2800kg以上 (片側1本)
- d) 数量…2枚使用
- e) すべらないように処置してあること
- f) 一方の端にトラックの荷台に引掛けるフックがあること

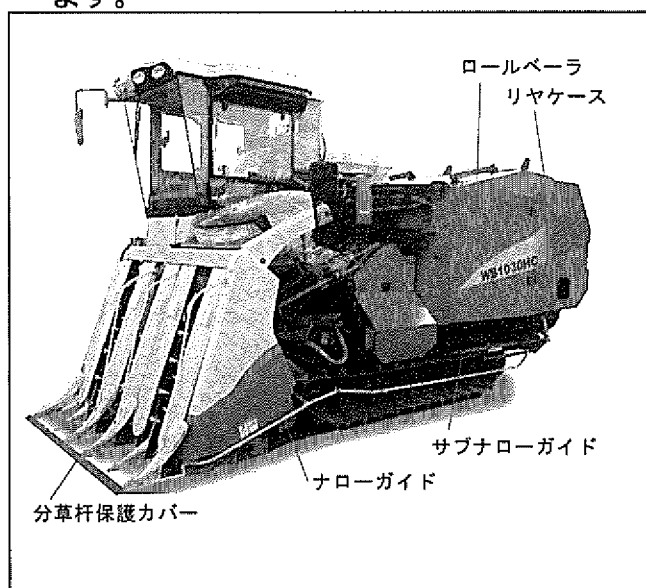


- (3) アユミのフックを荷台に段差のないように、また、ずれないように掛けます。



6. 4. 2 収穫機の準備

- (1) 分草杆保護カバーをつけます。
- (2) ナローガイド (左) を収納します。
- (3) サブナローガイドを収納します。
- (4) ロールベアラのリヤケースは確実に閉じます。

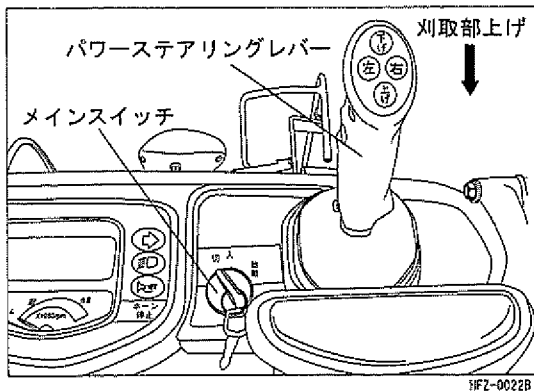


6. 4. 3 トラックへの積み込みのしかた

◆収穫機の操作のしかた

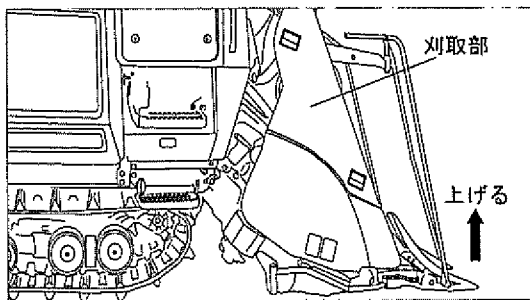
- (1) メインスイッチを操作して、エンジンを始動させます。(51ページ)
- (2) 1Qアクセルスイッチを「切」にし、アクセルレバーを操作してエンジン回転計の針を作業ゾーンに合わせます。(89ページ)

6. 運転のしかた



HFZ-0022B

- (3) パワーステアリングレバーで、刈取部をいっぱい上げます。

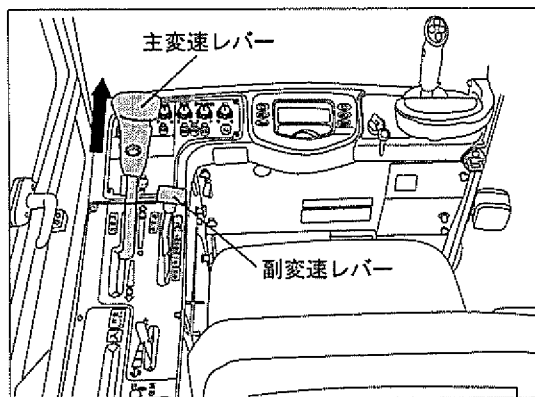


HFZ-0035A

⚠ 注意

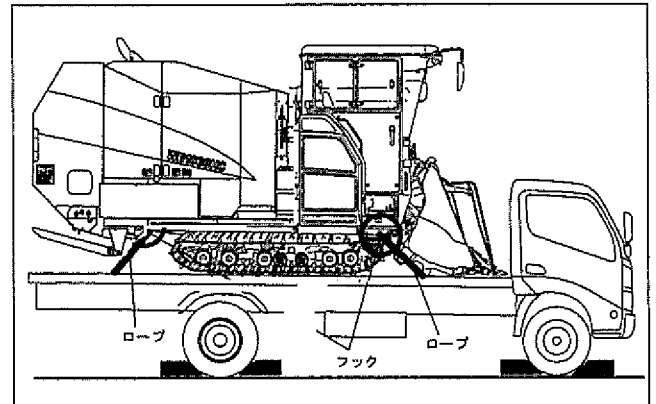
- 走行する場合は、エンジンを2000回転以上で使用してください。それ以下で使用すると油圧無段変速装置（HST）の寿命が低下します。

- (4) 副変速レバーを「倒伏」位置に入れ、主変速レバーを前進方向にゆっくり動かし微速で積み込みます。



HFZ-6202D

- (5) 駐車ブレーキをかけ、刈取部をいっぱい下げ、エンジンを停止し、4本のフックをロープで引っ張り、機体を固定します。



⚠ 注意

- ロープは、所定のフック以外には掛けないでください。
※守らないと、機械破損や故障の原因となります。

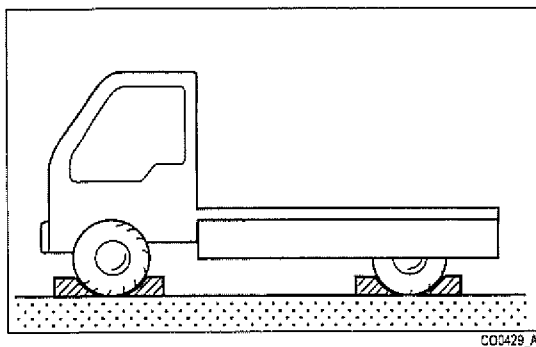
⚠ 警告

- トラックで、輸送するときは、機体の各カバーを固定してください。
※守らないと、輸送中に風圧で破損、落下物となり、傷害事故の原因になります。

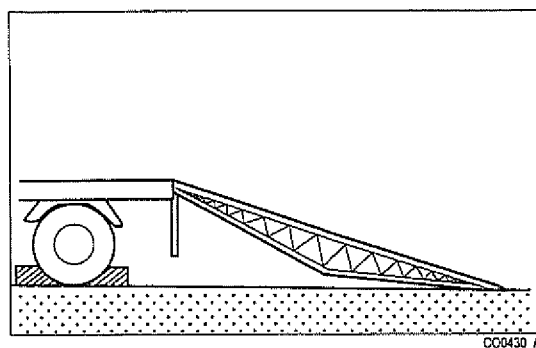
6. 4. 4 トラックからの降ろしかた

- (1) トラックを平たんで地面の硬い場所に止めた後、エンジンを停止させ、変速を「1速」または「R」位置にして、駐車ブレーキをかけ、車止めをします。また、荷台のあおりは開けておきます。

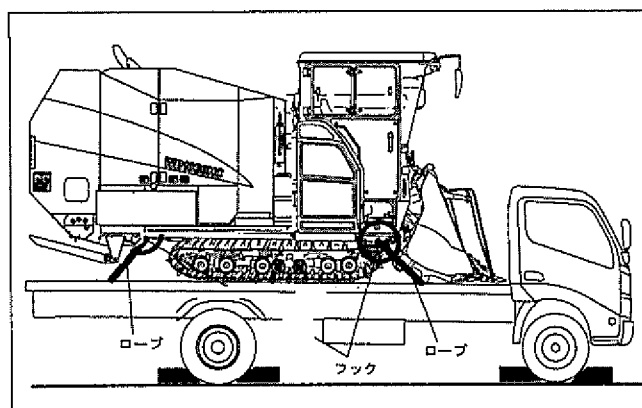
6. 運転のしかた



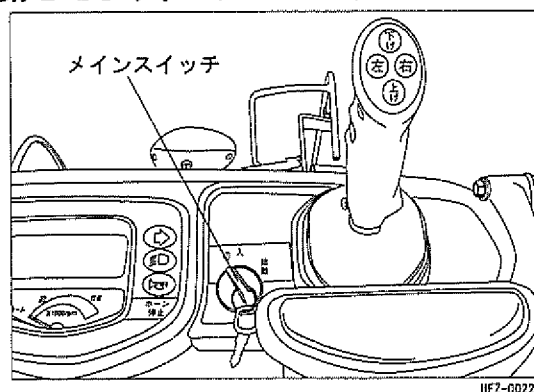
- (2) アユミのフックを荷台に段差のないように、また、ずれないように掛けます。



- (3) 4本のフックからロープを取りはずします。



- (4) メインスイッチを操作して、エンジンを始動させます。(51ページ)



- (5) I Q アクセルスイッチを「切」にし、アクセルレバーを操作してエンジン回転計の針を作業ゾーンに合わせます。(89ページ)

- (6) 副変速レバーを「倒伏」位置に入れ、主変速レバーを後進方向にゆっくり動かし、微速で降ります。

7. 圃場での準備

7.1 コンバイン作業ができる作物とほ場

作物、ほ場の状態が下記条件より悪い時は、正常なコンバイン作業はできません。

7.1.1 作物の条件

(1) 作物の長さ

60cm～150cm

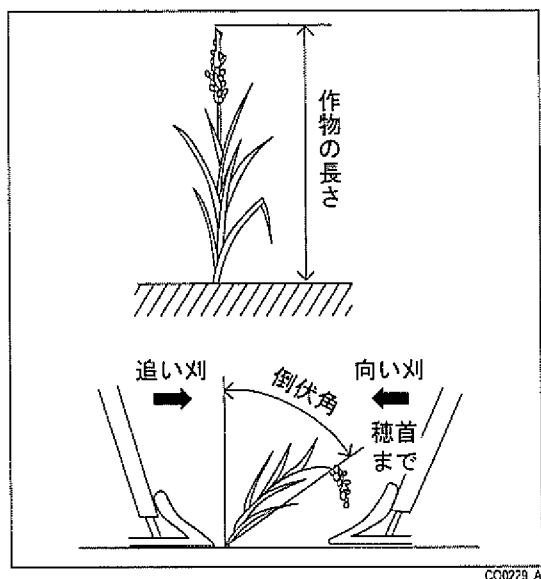
(2) 作物の倒れ（倒伏角）

追い刈……85° 以内

向い刈……70° 以内

(3) 作物のぬれ

手でにぎって手がぬれない状態まで乾燥させてください。

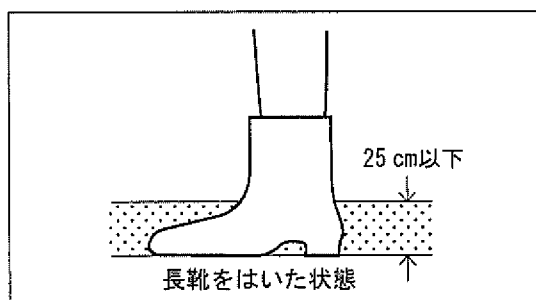


CO0229_A

7.1.2 ほ場の条件

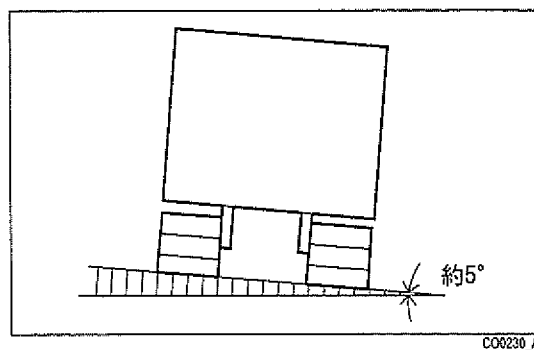
(1) ほ場のぬかるみ度合い

足の沈み（25cm）までのぬかるみであれば作業できます。



CO0225_A

(2) 機体の傾斜角度が5° 以上では作業できません。



CO0230_A

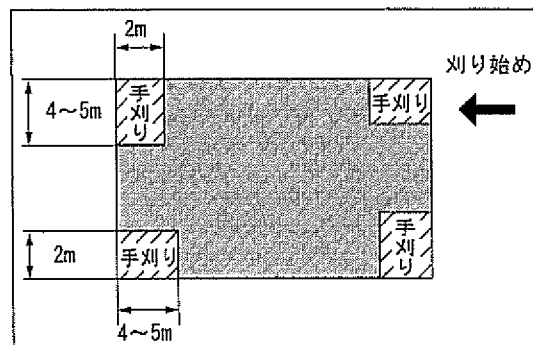
7.2 ほ場での準備

7.2.1 四すみの手刈り

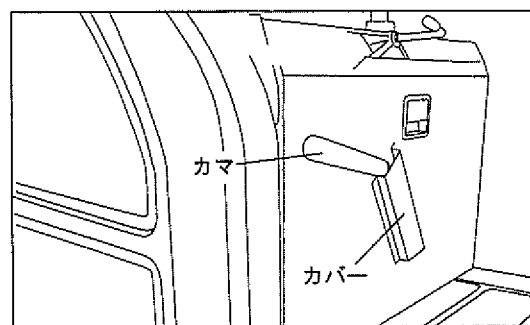
全面刈りですが、能率よく作業をするため、四すみを回行できるよう手刈りしてください。

(1) カマの収納場所

シートのカバーに差し込みます。



HJ-0045C



HJ-5001

◆一般的なほ場の刈りかた

[1] ほ場の端から左回り刈りをします。

[2] あぜと作物の条件が合えば、畦際制御による刈り取りができ、手刈りは不要となります。（75ページ）

7. 圃場での準備

7.2.2 ほ場への乗り入れ

警告

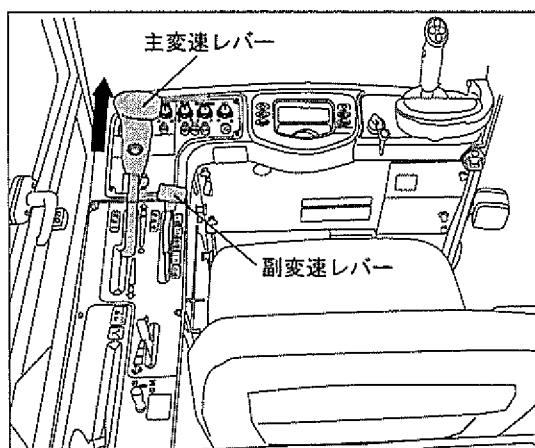
- アユミは、「6.4.1 トラックの準備」(61ページ)を満足するものを使用してください。

※守らないと、衝撃で機械を破損させたり、スリップや転倒し傷害事故を起こすおそれがあります。

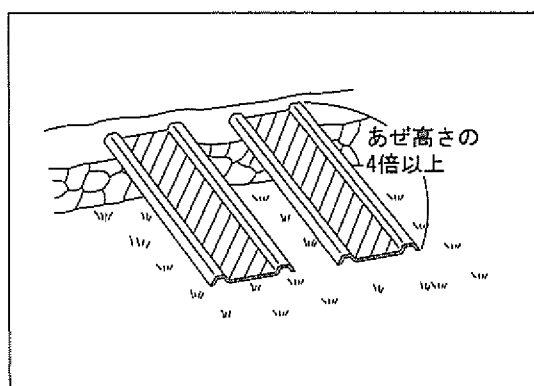
- アユミは収穫機の重量で傾かない場所を選んで使用してください。

※守らないと、衝撃で機械を破損させたり、スリップや転倒し傷害事故を起こすおそれがあります。

- (1) 副変速レバーを「倒伏」にし、主変速レバーを「前」側に押してゆっくりとした速度で、あぜに直角に前進でのり越えます。



- (2) 20 cm以上の高いあぜを越える場合は、アユミを使用します。



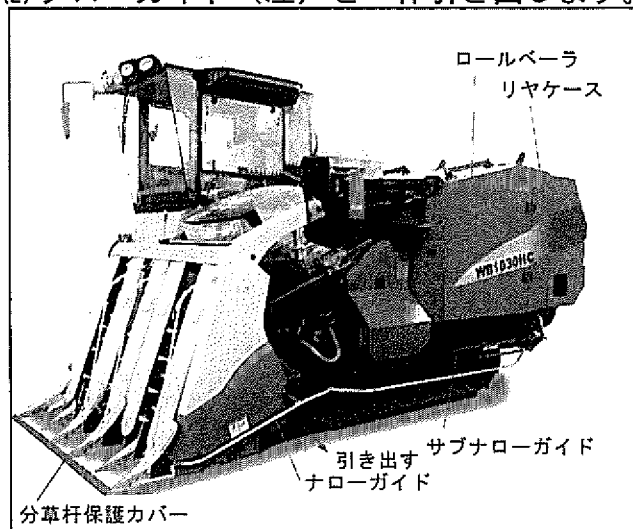
《参考》

- アユミを使用しないと刈取部が突き上げられて、キャビンのフロントガラスが割れるおそれがあります。

7.3 収穫機の準備

7.3.1 ナローガイドの準備

- (1) 分草杆保護カバーを外します。
- (2) ナローガイド (左) を一杯引き出します。



《参考》

- 雑草の多いほ場では、ナローガイド (左) を一杯引き出さないと、搬送作物の詰まりの原因となります。
- 短稈時は、途中で止めて、未刈稈がナローガイドの中に入らないようにしてください。
- 刈取作業時はサブナローガイドを収納してください。(61ページ)

7.3.2 注油

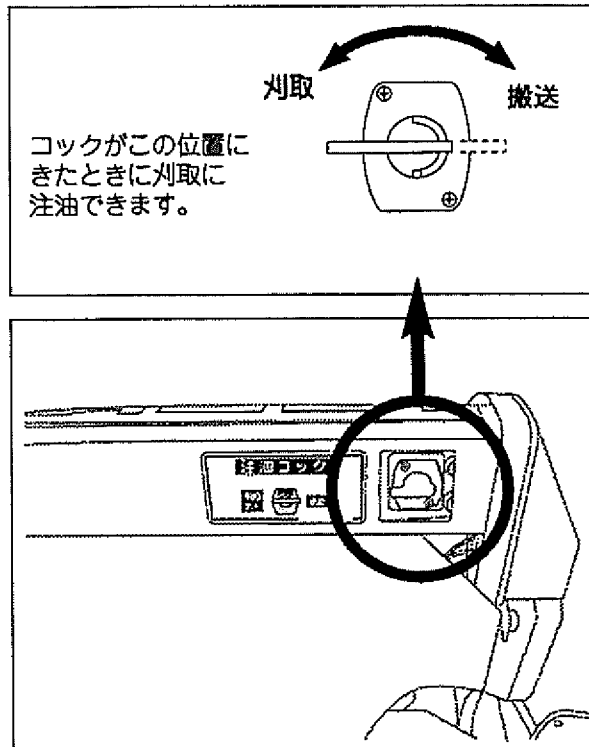
毎日作業前に注油してください。

◆刈取部の自動注油について

- [1] 副変速レバーを「中立」にし、作業クラッチレバーを「入」にした後、主変速レバーを前に倒し、刈取部を動かします。
- [2] コックを「刈取」の位置にします。

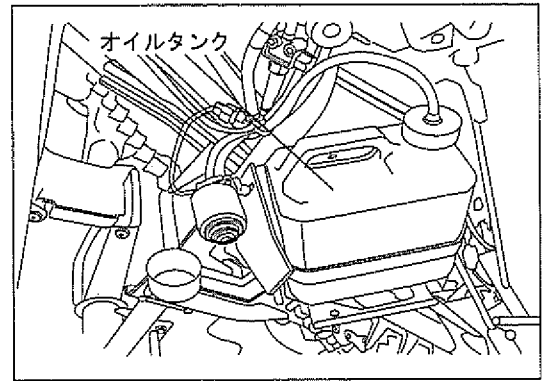
7. 圃場での準備

- [3] 自動注油ボタンを10～15秒押し続けてください。
- [4] コックを「搬送」の位置にします。
- [5] ふたたび自動注油ボタンを10～15秒押し続けてください。(ロールベアラへのフィードチェーンに注油されます)



《参考》

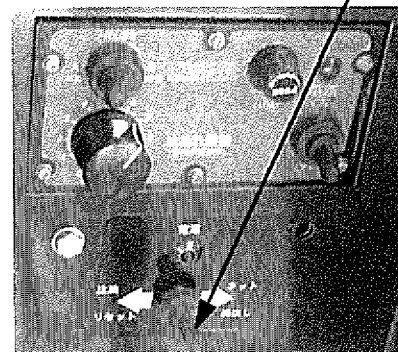
- オイルタンクのオイルの量を確認してから注油をしてください。空状態で「自動注油ボタン」を押すとポンプの故障の原因になります。
- コックは「刈取」か「搬送」のどちらかの位置で「自動注油ボタン」を押してください。それ以外の位置で「自動注油ボタン」を押すとホース破損の原因になります。



HFZ-0028

- ◆ ロールベアラ部の注油について
タイトチェーンに十分注油してください。ロールベアラ部を回転させながらネット繰出しスイッチを左に倒してください。(1回20秒程度)

ネット繰出しスイッチ



◆ 油の残量に注意

- 作業中はチャンバーを閉じる時に自動的に注油されます。
- 注油タンク内の油残量には、特に注意して、少なくなれば補給してください。
- (タンクの場所はP130 参照)

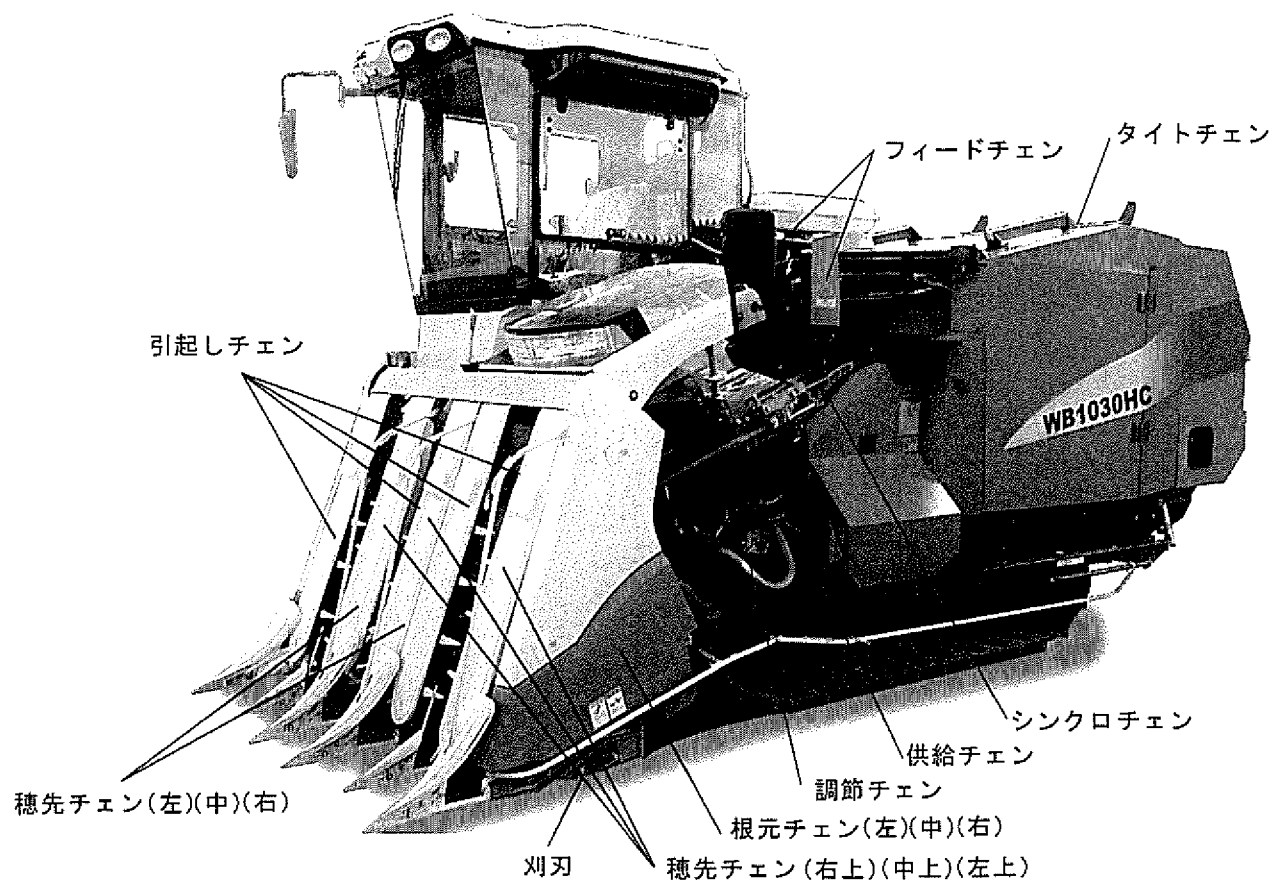
《重要》

注油タンクの油不足によりタイトチェーンに注油されない状態で作業すると、動力負荷が急増してチェーンの摩耗が多くなり寿命を低下させますので、無注油状態での使用は絶対に行わないでください。

- ◆ 定期的にノズルの清掃を行ってください
注油ノズルにはワラが付着しやすく、そのまま使用されると、チェーンへの注油がされて

7. 圃場での準備

7.3.3 自動注油箇所



8. 作業前に必要な調節

8. 1 作業前に必要な調節

8. 1. 1 刈刃高さの調節

◆概要

- [1] 「低刈り」「標準」「高刈り」の3段調節ができます。
- [2] 工場出荷時は「標準位置」にセットされています。
- [3] 低刈りするとホールクロープサイレージの品質が悪くなるおそれがあるため、[標準][高刈り]にしてください。
- [4] 雑草の多いほ場や湿田での刈り取りは、「高刈り位置」で作業してください。

《参考》

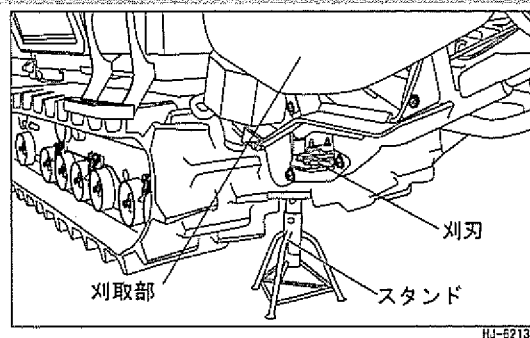
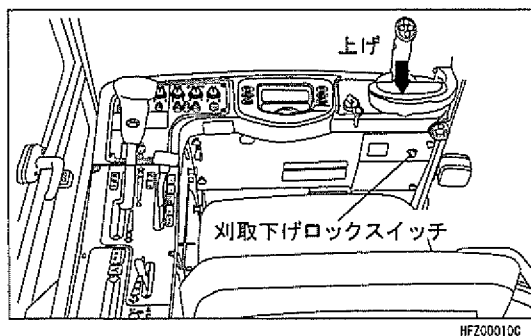
- うねのあるほ場や湿田での刈り取りは、「低刈り」「標準」位置では、搬送通路に土、泥が溜まり、搬送の乱れが発生しやすくなります。

◆高さ調節方法

⚠ 警告

- 不用意に刈刃に触れないでください。
※守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

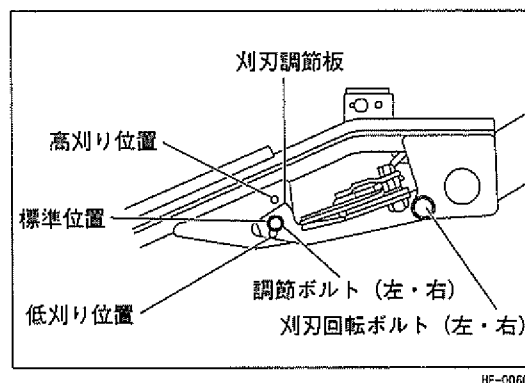
- [1] エンジンを始動します。(51ページ)
パワーステアリングレバーで刈取部を上げ、刈取下げロックスイッチを「ロック」側にします。(56ページ)



⚠ 警告

- 刈取部を上げて作業するときは、刈取下げロックスイッチを「ロック」にし、さらに刈取部の下にスタンド等の台を置き、状況を確認して行ってください。
※確認せずに点検整備すると、傷害事故を引き起こすことがあります。

- [2] エンジンを停止します。(52ページ)

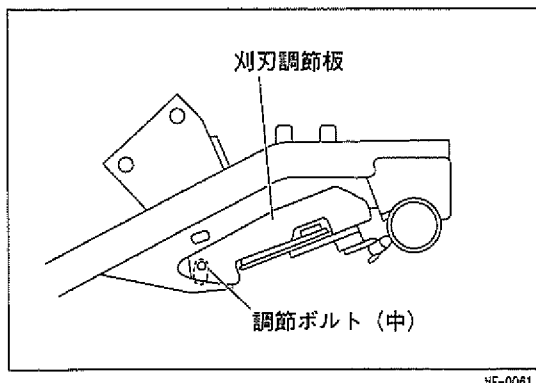


⚠ 警告

- 平たんな場所でエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけ、メインスイッチキーを抜いて、手袋をして作業してください。
※守らないと、傷害事故を引き起こす原因となります。

8. 作業前に必要な調節

[3] 刈刃回転ボルト（左・右）をゆるめます。



[4] 調節ボルト（中）および調節ボルト（左・右）を外します。

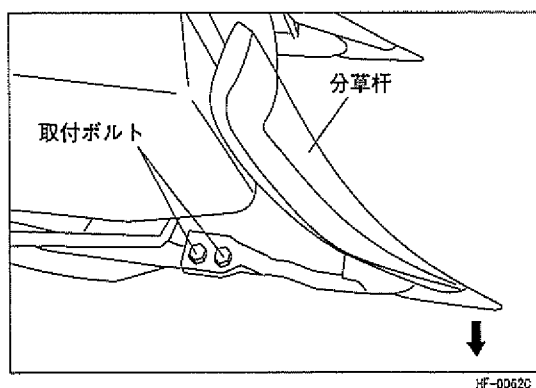
[5] 刈刃調節板を「高刈り」「低刈り」位置にセットし、各ボルトを締め付けます。

8. 1. 2 分草杆の調節

◆刈取幅の調節

植付条間の広いほ場や、中割作業で調節してください。

[1] 分草杆（右）の取付ボルト（2本）をゆるめます。矢印方向に広げて締め付けます。

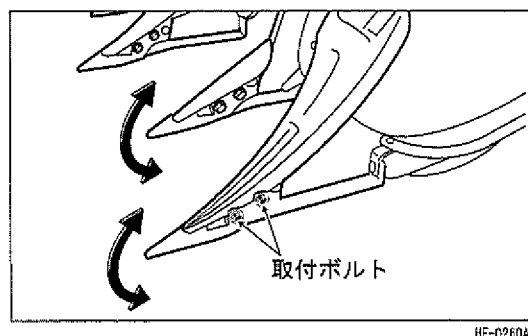


◆上下調節

倒伏、湿田、うねのあるほ場で調節してください。

[1] 各分草カバーの取付ボルト（2本）をゆるめます。

[2] うねの高さに応じて、矢印方向に適量動かし、取付ボルトを締め付けます。



《参考》

●各分草杆の地面に対する高さは、必ずそろえてください。

8. 1. 3 短稈作物作業をするときの調節

◆引起しラグガイドの調節

短稈作物の作業時、引起し部で穂の脱粒や稈の切れ等が多く発生する場合に調節してください。作物の長さ80cm以下が目安です。

[1] 引起こしケース裏側のラグガイド取付ナット（2本）をゆるめ、ラグガイドを側方（矢印方向）へずらします。

《参考》

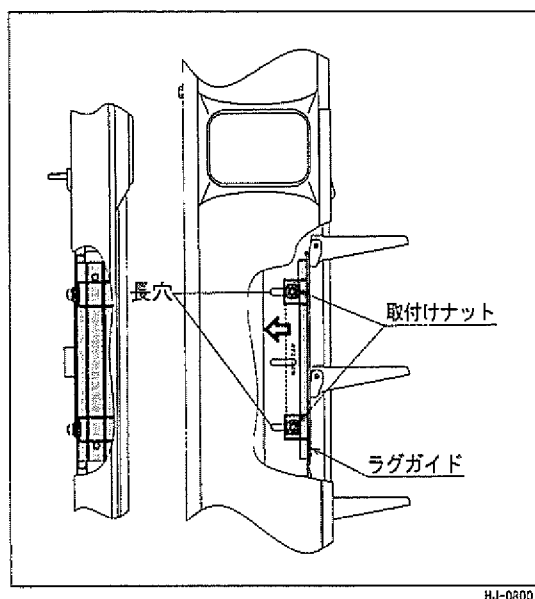
●長穴の中間位置で止めずに端まで動かしてください。

[2] ラグガイド取付ナットを締め付けます。

《参考》

●全ての引起こしラグガイドを同時に調節してください。

8. 作業前に必要な調節



◆供給チェーンの調節

[1] 作物の長さに応じてAまたはBの穴でセットします。

A：作物の長さ110cm以上

B：作物の長さ60～110cm（標準位置）

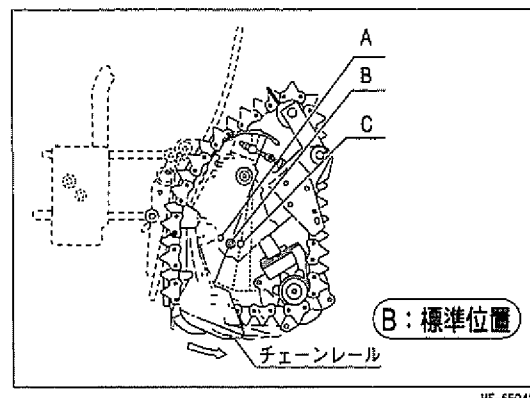
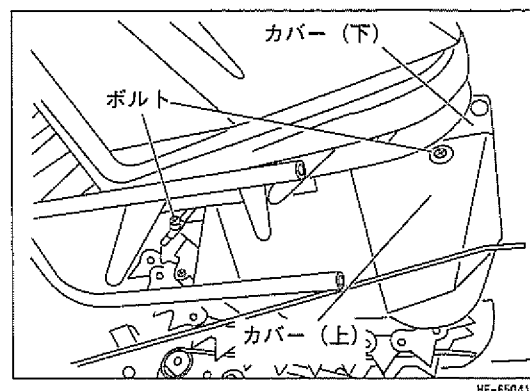
C：使用できません

[2] カバー（上）を取りはずし、再びカバー（下）のみ締め付けます。

[3] B裏側のボルトをはずし、チェーンレールを矢印方向に押し込みます。

[4] Aの穴でセットする場合、ボルトをはずします。

[5] ボルトを元どおり取り付けます。



8.1.4 麦作業時の調節

◆引きしラグガイドの調節

麦作業時の際、雑草が多い場合や稈折れが発生する場合は刈取搬送通路に雑草や稈が溜まりやすくなります。下記の調節を行ってください。

[1] 引きしケース裏側のラグガイド取付ナット（2本）をゆるめ、ラグガイドを側方（矢印方向）へずらします。

《参考》

● 長穴の中間位置で止めずに端まで動かしてください。

[2] ラグガイド取付ナットを締め付けます。

《参考》

● 全ての引きしラグガイドを同時に調節してください。

8. 作業前に必要な調節

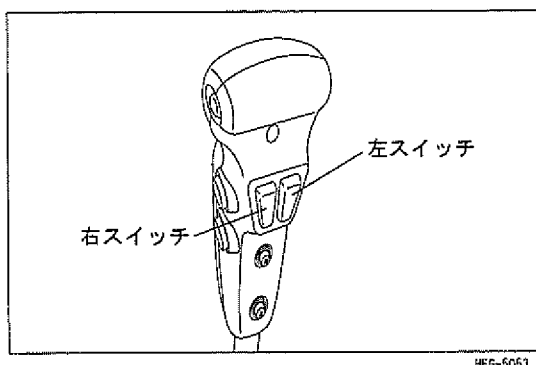
8.2 作業に必要な調節

8.2.1 こぎ深さ調節（手動）

- (1) 左右のこぎ深さ調節スイッチを操作して行います。作物の長さに合わせてこぎ深さを調節してください。

深くする→ 右スイッチを押す

浅くする→ 左スイッチを押す



- (2) 作物がカッターに均等に入るように調節してください。

8.2.2 作業速度の選びかた

！ 注意

- 副変速レバー「走行」位置での刈取作業は行わないでください。

※守らないと、故障の原因となります。

作物条件、ほ場の条件に合わせて、作業速度、引起し速度、刈取変速を下表を参考に選んでください。

(1) 主変速レバー

作物条件に合わせて、押し量で作業速度を調節してください。

(2) 副変速レバー

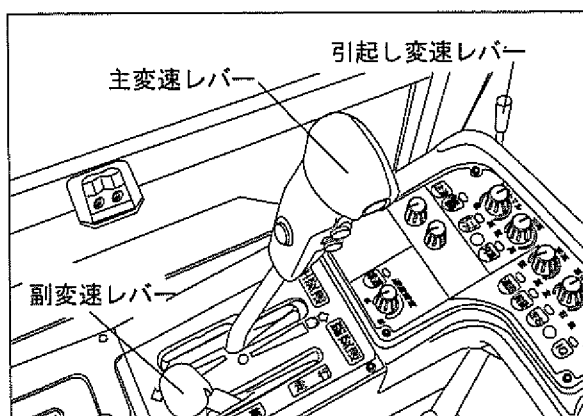
作物条件、ほ場条件に合わせて「標準」と「倒伏」を切換えます。

(3) 引起し変速レバー

作物条件に合わせて「高速」、「標準」、「低速」を切り換えてください。

《参考》

- 刈取部を停止後、変速をしてください。



8. 作業前に必要な調節

記号の見方

○：良好な作業ができます。

△：刈り残し、穀稈の詰まりに注意しながら作業してください。

作物条件		立 毛			倒 伏	
作業状態	作物条件	倒伏角60° 以下			倒伏角60° 以上	
		長稈作物 (120cm以上)	標準作物	脱粒しやすい稲 稈折れしやすい麦	標準作物	脱粒しやすい稲 稈折れしやすい麦
刈 取 方 向	追い刈り	○		○		○
	向い刈り	○		○		△
	左倒伏刈り	○		○		○
	右倒伏刈り	○		○		△
引起し変速		高 速 ※2標準	標 準	低 速 ※3標準	高 速	標 準
副 変 速		標 準	標 準	標 準	標 準 ※1低速	標 準 ※1低速
主 変 速		作物に合わせて押し量で速度調節				

※1：標準でうまく刈れないときに使用してください。

※2：脱粒が多いときに使用してください。

※3：麦作業時、カッター入口部で作物の詰まりが発生するときに使用してください。

《参 考》

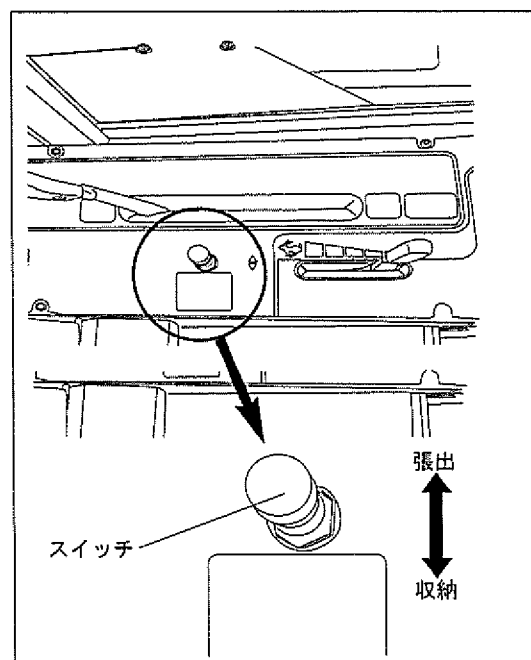
- 倒伏して、刈刃に土が詰まる場合は、刈刃を「高刈り」位置にセットしてください。（68ページ）
- 完全倒伏での向い刈りまたは右倒伏刈りは作業できません。刈取方向を変えて作業してください。

8. 2. 4 リモコンナローガイドの使いかた

運転席内のスイッチでナローガイド（左）を張出・収納の遠隔操作ができます。

条件に合わせて手動で上下調節も可能です。

- (1) 運転席内のスイッチを張り出し側に操作し、ナローガイド（左）を張り出します。



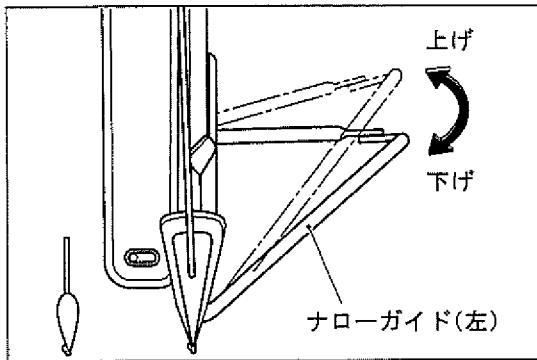
HJ-6245

《参 考》

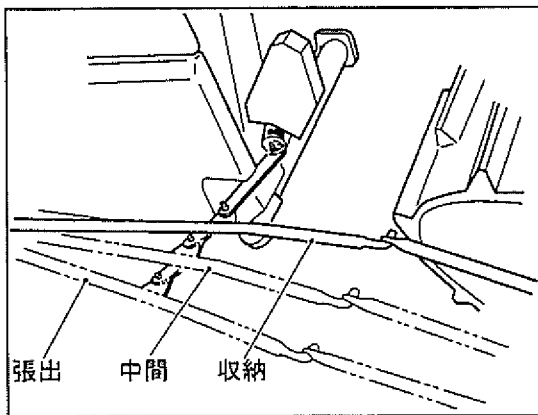
- スイッチを1回操作すると、手を離してもナローガイドが収納位置⇄張出位置まで自動で作動します。
- ナローガイドを途中で止める時は、作動中にスイッチを「収納」「張出」のどちらかに操作してください。任意の位置で停止できます。
- スイッチを操作するとナローガイドの「張出」、「収納」状態を表示します。（29ページ）

8. 作業前に必要な調節

- (2) 倒伏時や長稈作物等の条件では、ナローガイド（左）の高さを手動で調節します。

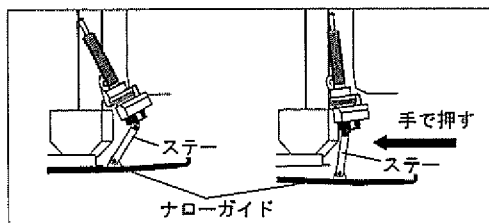


CO0275_A



《参考》

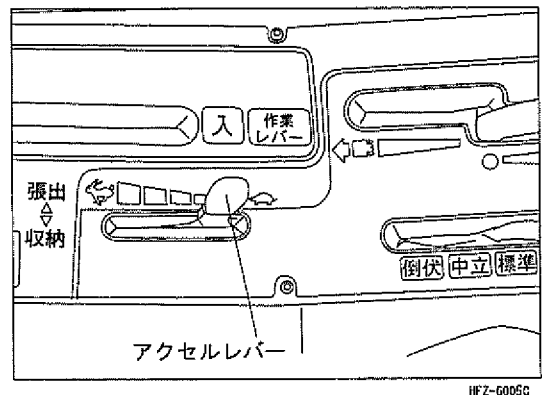
- 雑草の多いほ場では、ナローガイド（左）をいっぱい張り出してください。不足すると、搬送作物の詰まりの原因になります。
- 短稈時は、途中で止めて未刈程がナローガイド（左）の中に入らないようにしてください。
- ナローガイドのステーが「く」の字に屈曲した時は、手で屈曲部を機体前方に押し伸ばしてください。ステーが衝突時の安全装置になっています。



8.2.5 エンジン回転の合わせかた

Ⅰ Qアクセルスイッチ「切」の場合
アクセルレバーでエンジン回転計の針が作業ゾーンにくるように調節します。

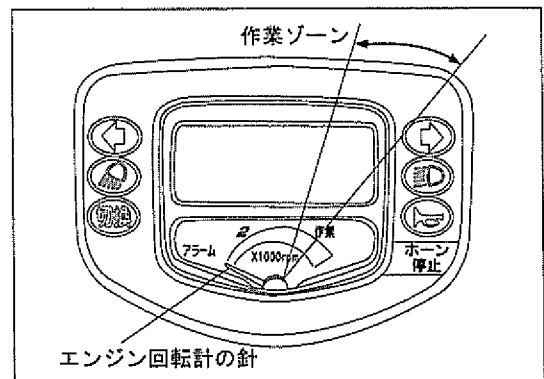
Ⅰ Qアクセルスイッチ「入」の場合
路上走行、停車、刈取作業、糞排出の状況に応じて適切なエンジン回転数に自動制御します。Ⅰ Qアクセルダイヤルで刈取作業時の制御回転数を作業ゾーンの範囲内で調節できます。



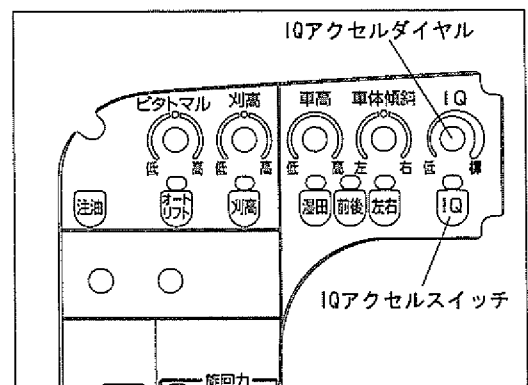
HFZ-6005C

《参考》

- 回転が高すぎるとロスが多くなります。
- 回転が低すぎると、カッター内部への詰まりの原因となったり能率が低下します。



HFZ-6004A



HFZ-6041N

9. 刈取作業のしかた

9.1 刈取作業に関する注意

危険

- 停止するときは、堆積したワラくずの上に止めないでください。
※守らないと、火災の原因となります。

警告

- 刈取作業するときは、周囲の状況に十分注意をはらい、特に子供は近づけないでください。
※守らないと、機械に巻き込まれ、傷害事故の原因となります。
- エンジン回転中は、回転部に手や身体を絶対に近づけないでください。
※守らないと、巻き込まれ、挟まれ等傷害事故を引き起こす原因となります。
- 後進するときは、後方の状況を確認し、低速で行ってください。
※守らないと、傷害事故の原因となります。
- 異常が発生したときは、直ちにエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけ、メインスイッチキーを抜き、点検してください。
※守らないと、傷害事故を引き起こす原因となります。
- ワラくずを取り除くときは、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけ、メインスイッチキーを抜いてください。
※守らないと、傷害事故を引き起こす原因となります。
- 2人以上の共同作業では、補助者の状況を確認しながら、運転してください。
※守らないと、傷害事故を引き起こす原因となります。
- 作業に適した服を着用し、作業してください。(2ページ)
※守らないと、巻き込まれ、挟まれ等傷害事故を引き起こす原因となります。

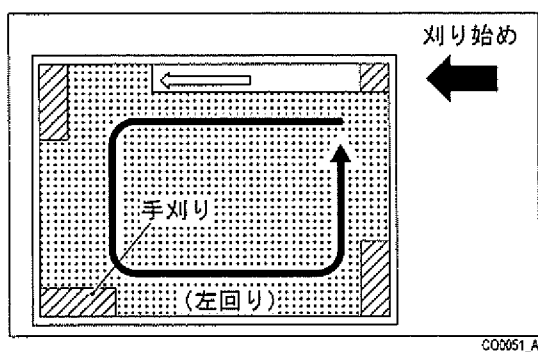
9. 刈取作業のしかた

9.2 ほ場の刈りかた

左回りが基本です。

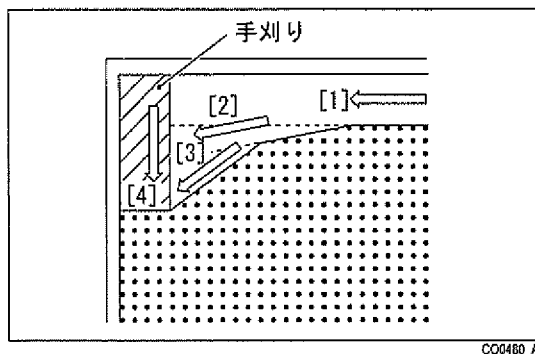
◆一般的なほ場の刈りかた

- [1] ほ場の端から左回り刈りをします。
- [2] 全面刈りですが、能率よく作業するため四すみを回行できるように手刈りしてください。
- [3] あぜと作物の条件が合えば、畦際制御による刈り取りができるので、手刈りは不要となります。



◆回り刈り時コーナー部の刈りかた

2～3回直進・バック [2]、[3]を繰り返し、コーナー部を大きく刈り取った後、[4]に回行します。



《参考》

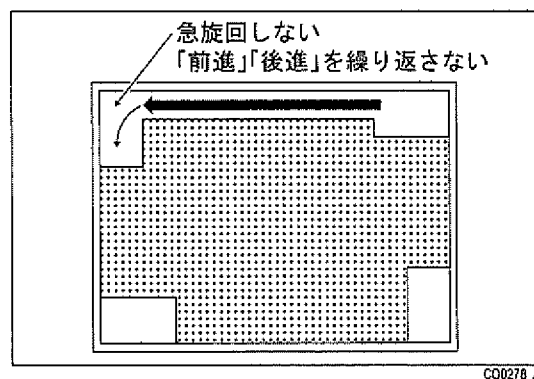
- コーナー刈り取り時は刈りながらの方向修正はしないでください。必ず直進してください。刈跡が不ぞろいになったり、刈り残しが発生する場合があります。

◆広いほ場の刈りかた

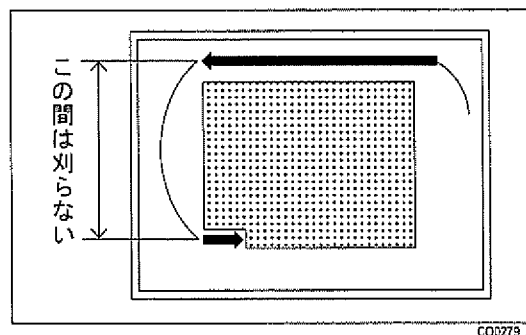
ほ場の端から左回りで5～6周刈り取った後、中割り作業をし、長手方向のみ刈ると、能率的な作業ができます。

9.3 湿田ほ場の刈りかた

- (1) 四すみは、通常より広く手刈りしてください。急旋回や、同じ場所で何回も回行することのないようにして、機体の沈下をさけてください。



- (2) 左回り刈りで5～6周して、ほ場の両端で旋回できるようになったら、後は、長手方向のみ刈ってください。



《参考》

- 旋回方向に合わせて、パワーステアリングレバーの倒し量で調整してください。

9. 刈取作業のしかた

9.4 刈取かき込みペダルの使いかた

⚠ 警告

- かき込みペダルをはなす時は、必ず主変速レバーを「中立」に戻してください。

※守らないと、コンバインが急発進して、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

- かき込みペダルを傾斜地やアユミの上で踏まないでください。

※守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 注意

- 機械を停止させる時はかき込みペダルを使用せず、必ず主変速レバーで行ってください。

※守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

- 機体が動いている時はかき込みペダルを踏んでも機体が止まらない場合があるので、主変速レバーが「中立」以外にある時はかき込みペダルを踏まないでください。

※守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

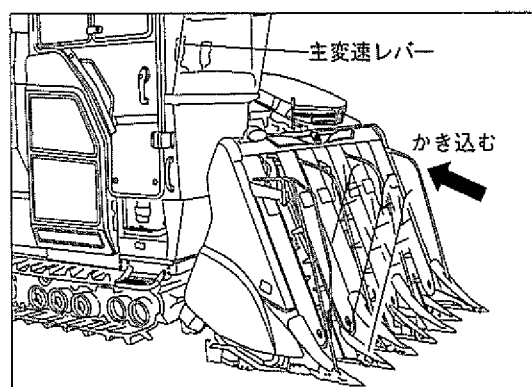
あぜ際で刈取部に残っている穀稈をかき込みたいとき、かき込みペダルを使用します。

◆ 操作のしかた

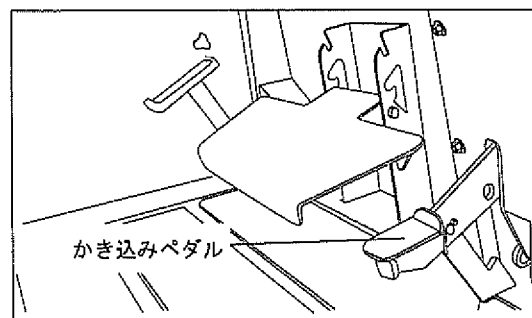
- [1] 収穫機が刈り進み、分草杆先端があぜ際に接近したら、刈脱レバーを「入」のまま主変速レバーを「中立」に戻して機体を停止させます。

- [2] かき込みペダルをいっぱい踏み込み、主変速レバーを前進側へゆっくり倒し、刈取部の穀稈をかき込みます。

- [3] 刈取部の穀稈が脱穀機にすべて搬送されたら、再び主変速レバーを「中立」に戻して、かき込みペダルを放します。



HFZ-6037A



HFZ-6039A

《 参 考 》

- かき込みペダルは、エンジン回転を2000rpm以上にして、使用してください。
- かき込みペダルは、刈脱レバーが「切」では踏み込めません。
- かき込みペダルは、主変速レバーが「中立」でないと踏み込めません。

9. 刈取作業のしかた

9.5 条合わせのしかた

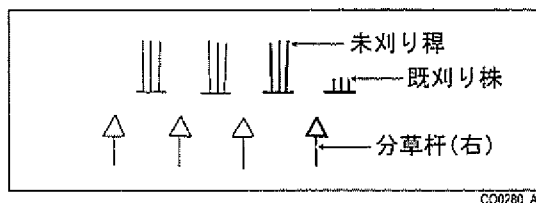
◆条間 330 mm のほ場の場合

[1] 回り刈りのとき

分草杆（右）を既刈り株と未刈り株の中央に合わせます。（分草杆（右）を開側へ調節した場合は既刈り株の10 cm左に合わせます。）

[2] あぜ際、中割りのとき

回り刈りと同じです。

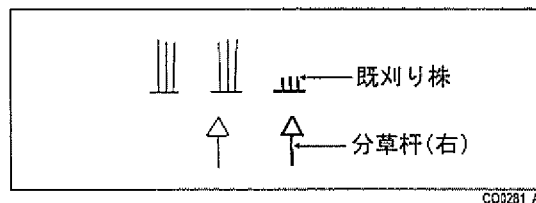


CO0280_A

◆条間 300 mm のほ場の場合

[1] 回り刈りのとき

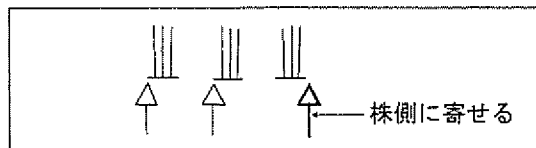
分草杆（右）を既刈り株上に合わせます。（分草杆（右）を開側へ調節した場合は、既刈り株より5 cm程度右に合わせます。）



CO0281_A

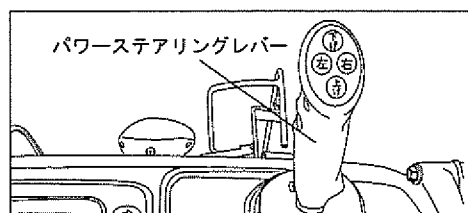
[2] あぜ際、中割りのとき

分草杆（右）をできるだけ株側に寄せ、低速で刈ります。



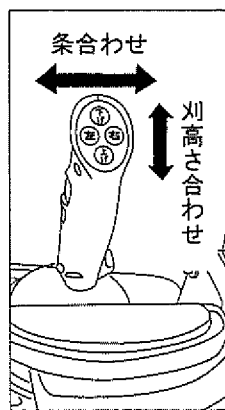
《参考》

- 条合わせをするときは、パワーステアリングレバーを少しずつ操作してください。
- あぜ際は、分草杆が突っ込まないように低速で刈ってください。

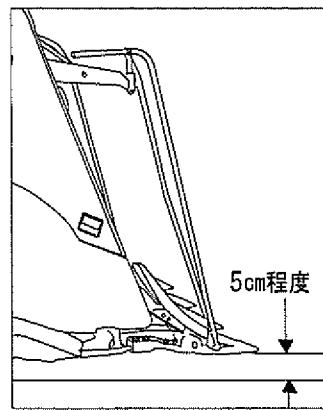


9.6 刈高さの合わせかた

パワーステアリングレバーで条合わせをし、刈取部の分草杆を地面から5 cm程度の高さまで下げます。



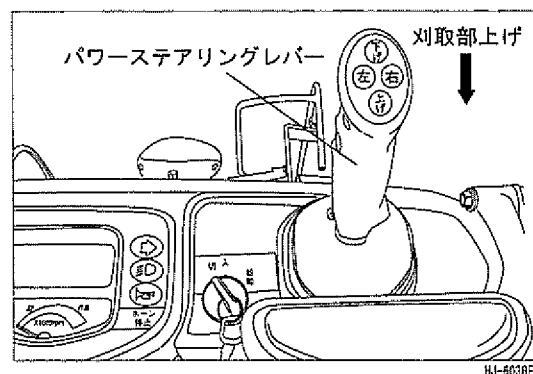
HFZ-6042C



HFZ-0092

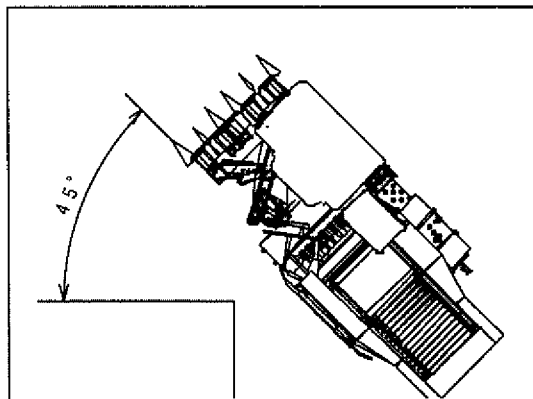
9.7 回行のしかた

(1) 刈り終わると、パワーステアリングレバーで刈取部を上げます。



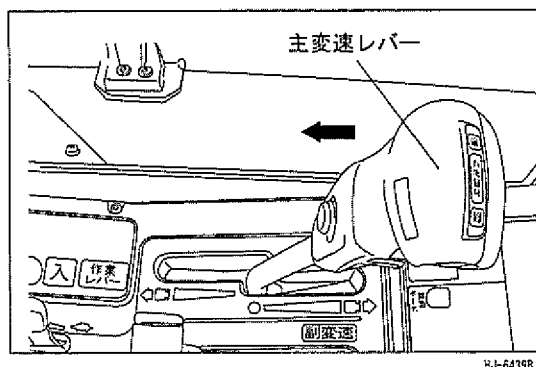
HJ-6038E

(2) パワーステアリングレバーを操作し、45°程度回行した位置で停止します。

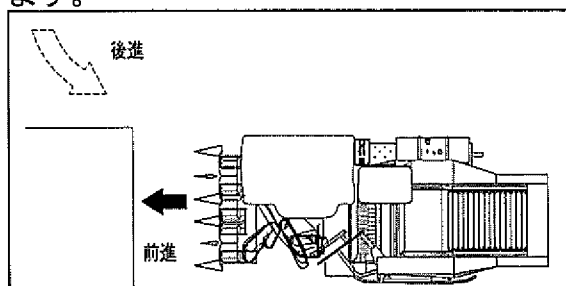


9. 刈取作業のしかた

- (3) 主変速レバーを後進側に引き、パワーステアリングを操作して条合わせをします。

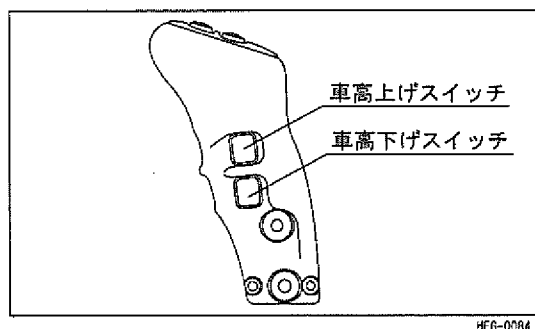


- (4) パワーステアリングレバーで刈取部を下げ、主変速レバーを前進側にし、前進させます。



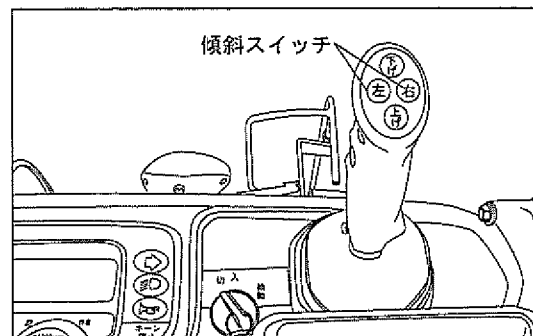
9.8 車高スイッチの使いかた

- (1) 手動で車高の上・下調節ができます。
- (2) 車高スイッチの操作でセットされた車高が、水平制御に保持される車高となります。
「上げ」を押すと、機体の車高が上がります。
「下げ」を押すと、機体の車高が下がります。
- (3) 湿田作業時に車高を高くします。
- (4) 足まわりの泥を落す時、車高を高くすると作業がし易くなります。

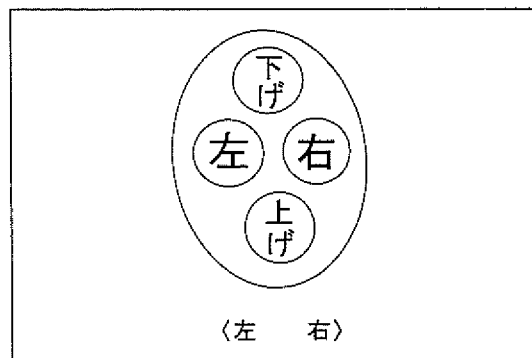


9.9 傾斜スイッチの使いかた

- (1) 機体の左・右の傾き調節ができます。
「左」傾スイッチを押したときは、左側が下がります。
「右」傾スイッチを押したときは、右側が下がります。



- (2) 自動が使えない「刈り始め」や「あぜぎわ刈り」時などで、車体が傾いたとき、操作して機体を水平に調節します。



9.10 緊急エンジン停止スイッチの使いかた

作業中に(作業クラッチレバー「入」のとき)、緊急エンジン停止スイッチを押すとブザーが鳴ると同時にエンジンが停止します。

■緊急停止スイッチ

手刈投入時万一異物などのかみ込みが発生したときは、緊急停止スイッチを押してください。

9. 刈取作業のしかた

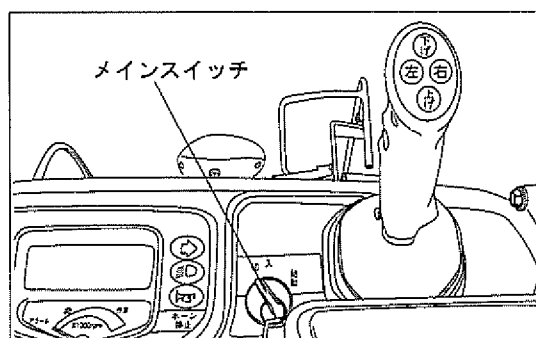


《参考》

- 物を取り除いた後でスイッチを押し戻しもとの位置に戻してください。
- そのまま作業を再開し、エンジンを回しロールベアラを回転させると、エンジンが停止します。

◆解除方法

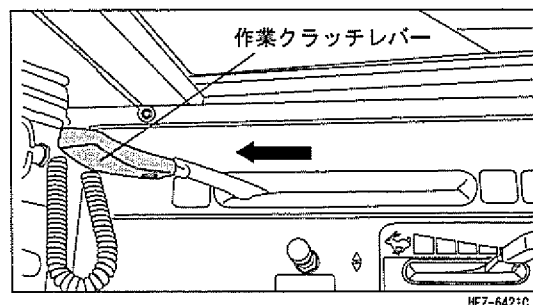
- [1] メインスイッチを「切」にします。
- [2] 作業クラッチレバーを「切」にしてから、エンジンを始動します。



《参考》

- 作業クラッチレバーが「入」の状態では、エンジンは始動しません。

緊急エンジン停止スイッチの故障および、コネクター抜け等の場合でも、エンジン始動はできます。作業クラッチレバーを「入」にすると、エンジンが停止します。



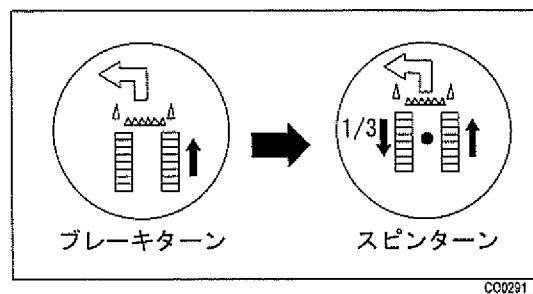
《参考》

- 作業クラッチレバーが「切」の状態では、緊急エンジン停止スイッチを押してもエンジンは停止しません。

9.11 旋回力アップスイッチの使いかた

旋回力アップすると、左右のクローラが、それぞれ正逆転し、機体を小回りさせることができます。

(パワーステアリング最大操作位置)



◆ほ場の適正 (目安)

	条 件	スピントーン	記号 ○：良い △：まあまあ ×：悪い
田	乾 田	○	
	半湿田	△	
	超湿田	×	
畑	うねなし	○	
	うねあり	△	

- [1] 副変速レバーを「標準」または、「倒伏」にします。

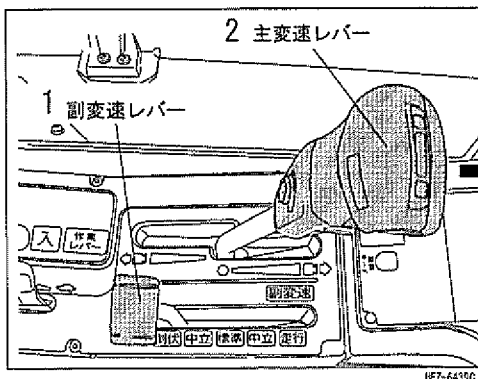
9. 刈取作業のしかた

⚠ 注意

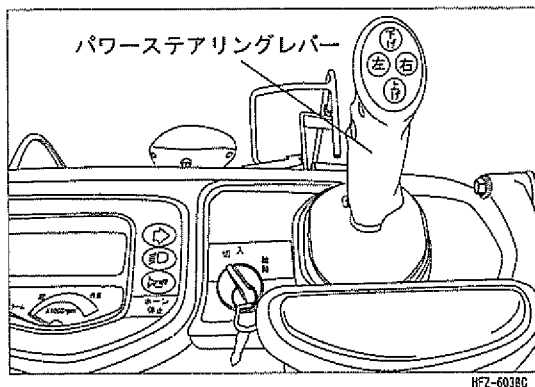
- 副変速レバーを「標準」または、「倒伏」位置で周囲の状況を十分確認し、行ってください。

※守らないと、傷害事故を引き起すおそれがあります。

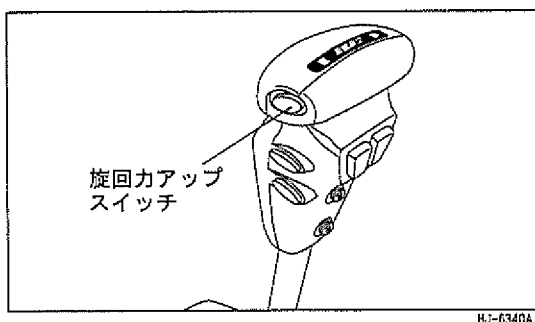
- [2] 主変速レバーを前方に押しします。



- [3] パワーステアリングレバーを回りたい方向に倒します。



- [4] 主変速レバーの旋回力アップスイッチを押します。

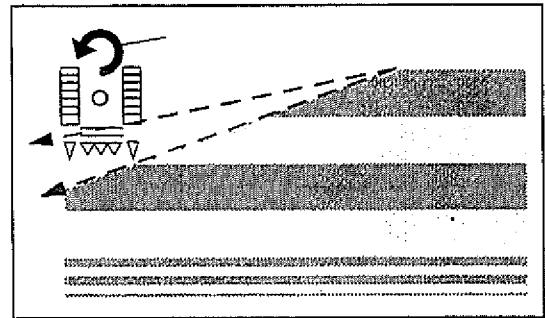


- [5] スwitchを押している間、小回りができます。

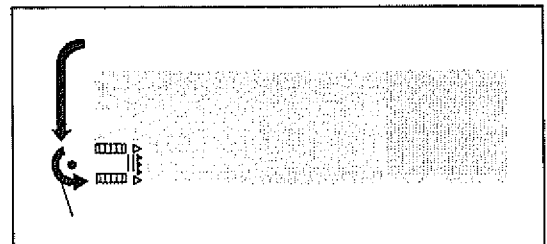
◆ほ場での使いかた

- [1] 四すみで斜め刈りのとき

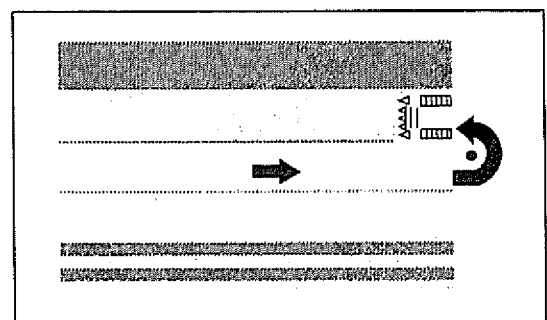
2 回程度斜め刈りし、小回りで条合わせをします。



- [2] 細長いほ場や、ほ場の長手方向のみ刈り取るときほ場の両端での回行は、条の直前で小回りさせて条合わせをします。



- [3] 中割り作業で往復刈りをするときほ場の両端で小回りさせて条合わせをします。



9. 刈取作業のしかた

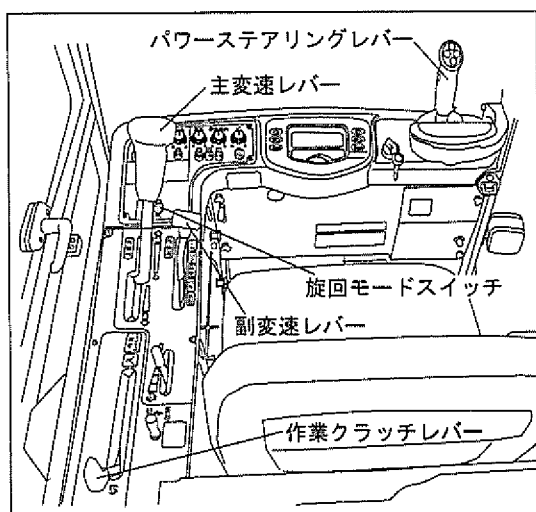
9.12 旋回モードスイッチ

⚠ 注意

- マイルドモードは、走行抵抗の大きな湿田を対象に設定されており、走行抵抗が比較的小さい路上や乾田では、旋回半径が大きくなります。路上走行時や乾田では、「標準」モードで使用してください。

※守らないと、傷害事故を引き起すおそれがあります。

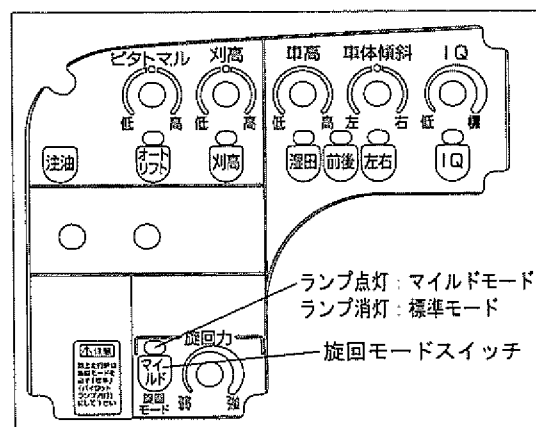
- (1) 旋回モードスイッチでパワーステアリングレバーを操作したときのブレーキ力を選択することができます。
- (2) 出荷時、マイルドモードは標準モードに比べブレーキ力を弱く設定しています。
- (3) パワーステアリングレバーの感度は、走行路面の状態（乾田、湿田等）によって、変わる場合があります。その場合は、ほ場条件や作業内容に適した旋回モードを選択することにより、快適なパワーステアリング操作が可能となります。



◆標準モードの使いかた

路上走行や乾田、及び麦作業では旋回モードスイッチを「切」（パイロットランプ消灯）にします。

- [1] 旋回モードスイッチを「切」（パイロットランプ消灯）にします。
- [2] 主変速レバーを操作します。
- [3] パワーステアリングレバーを曲がりたい方向に倒します。
- [4] 標準モードによる旋回ができます。



HFZ-C0501

◆マイルドモードの使いかた

湿田作業では旋回モードスイッチを「入」（パイロットランプ点灯）にします。

- [1] 旋回モードスイッチを「入」（パイロットランプ点灯）にします。
- [2] 副変速レバーを「標準」または「倒伏」にします。
- [3] 作業レバーを「入」にします。
- [4] 主変速レバーを操作します。

9. 刈取作業のしかた

[5] パワーステアリングレバーを曲がりたい方向に倒します。

[6] マイルドモードによる旋回ができます。

《参考》

- 副変速レバーが「走行」の場合、または刈脱レバーが「切」の場合は旋回モードスイッチを「入」にしても、「標準モード」となります。

9.13 パワーステアリングレバー

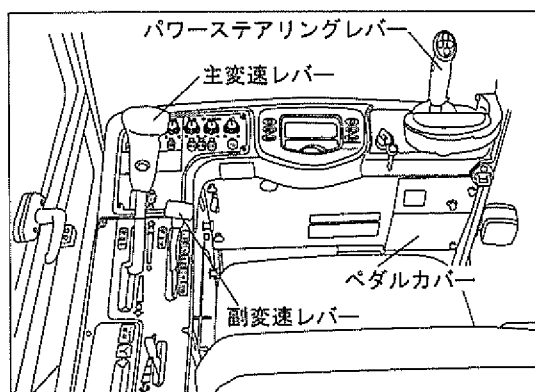
感度調整ダイヤル

！ 警告

- 路上走行時は標準モードのダイヤルを、パワーステアリングレバー最大操作位置付近でブレーキターンが可能な状態に調整してください。

※守らないと旋回不能または急旋回により、傷害事故を引き起こす原因となります。

パワーステアリングレバーの感度は、路面状態（乾田、湿田等）によって変わる場合があります。その場合は、次のような調整を行うと、より快適なパワーステアリングレバー操作が可能となります。

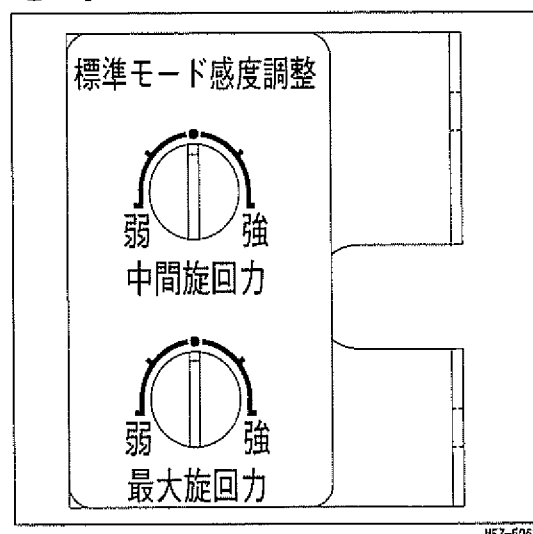


◆「標準モード最大旋回力」ダイヤルの調整のしかた

- [1] ペダルカバーをはずします。
- [2] 標準モードにおけるパワーステアリングレバー操作範囲の後半部のブレーキ力を調整します。
- [3] パワーステアリングレバー操作範囲の後半部のブレーキ力が強い場合は、このダイヤルを弱い側に回します。
- [4] ブレーキ力が弱く、クローラがロックしない場合は、このダイヤルを強い側に回します。
- [5] ペダルカバーを元に戻します。

《参考》

- 出荷時、ダイヤルはほぼ中央にセットしてあります。
- ダイヤルを弱い側に調整するとブレーキ力が弱くなり、ブレーキターンができなくなる場合があります。
- ダイヤルを強い側に調整するとスピントーンとなり、急旋回する場合があります。
- 路面状態や、長時間使用していくうちにブレーキ力が低下し、ブレーキターンができなくなる場合があります。そのときは、このダイヤルを強い側に回してください。



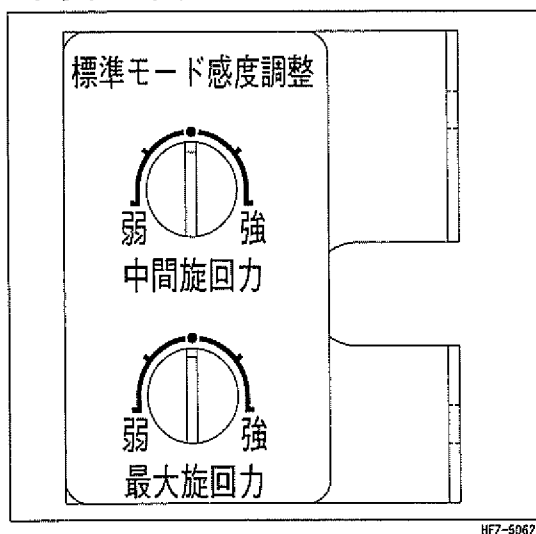
9. 刈取作業のしかた

◆「標準モード中間旋回力」ダイヤルの調整のしかた

- [1] 標準モードにおけるパワーステアリングレバー操作範囲の前半部のブレーキ力を調整します。
- [2] パワーステアリングレバー操作範囲の前半部のブレーキ力が強い場合は、このダイヤルを弱い側に回します。
- [3] パワーステアリングレバー操作範囲の前半部のブレーキ力が弱い場合は、このダイヤルを強い側に回します。

《参考》

- 出荷時、ダイヤルはほぼ中央にセットしてあります。

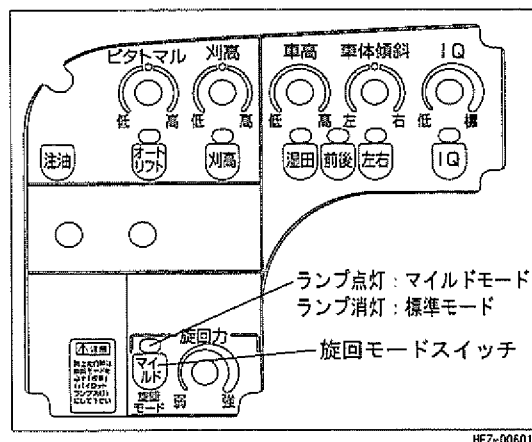


◆「マイルドモード感度調整」ダイヤルの調整のしかた

- [1] マイルドモードにおけるブレーキ力を調整します。
- [2] 走行抵抗の大きい湿田等、ブレーキが効きやすい場合は、このダイヤルを弱い側に回します。
- [3] 走行抵抗の小さい湿田等、ブレーキが効きにくい場合は、このダイヤルを強い側に回します。

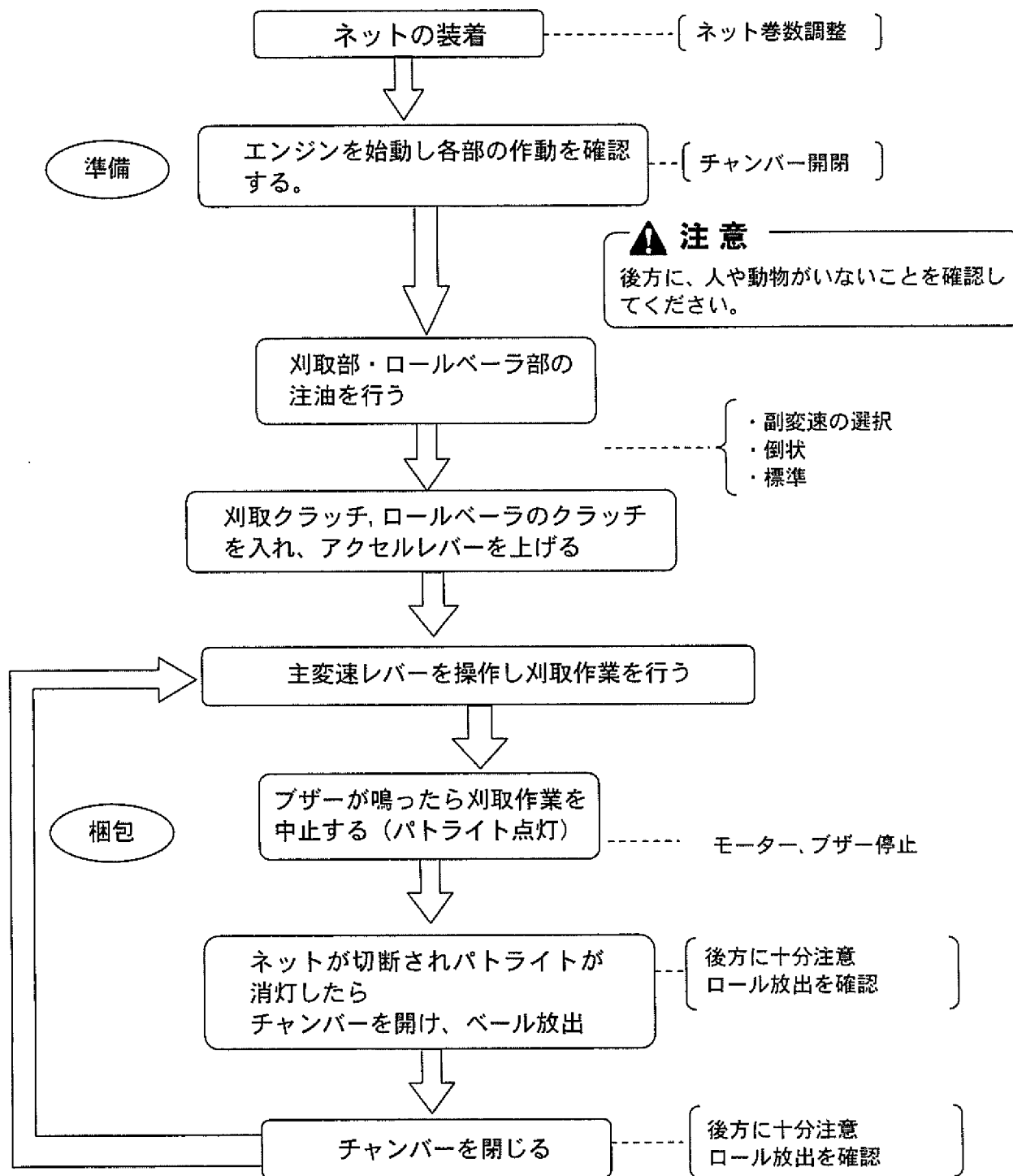
《参考》

- 出荷時、ダイヤルはほぼ中央にセットしてあります。



10. ロールベアラの作業方法

10.1 作業手順と要点



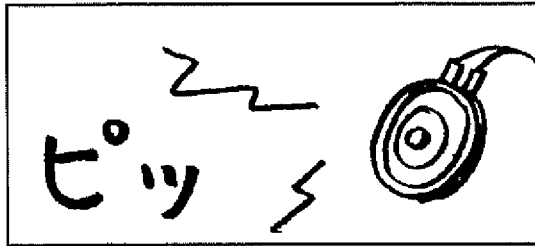
⚠ 注意

後方に人や動物がいないことを確認してください。また、傾斜地では放出したロールが転がらないよう、平坦な場所に放出してください。

10. ロールペーラの作業方法

10.2 ブザーが鳴りパトライトが点灯します

設定圧になると、ブザーが鳴り、同時にパトライトも点灯し、ネットが自動的に繰り出されます。ゆっくり走行を停止してください。



◆結束完了を「パトライト消灯」で知らせます

設定巻き数のネット結束が終ると、ネットが自動切断されてパトライトが消灯し、結束完了を知らせます。

⚠ 注意

後方に人や動物がいないことを確認してください。

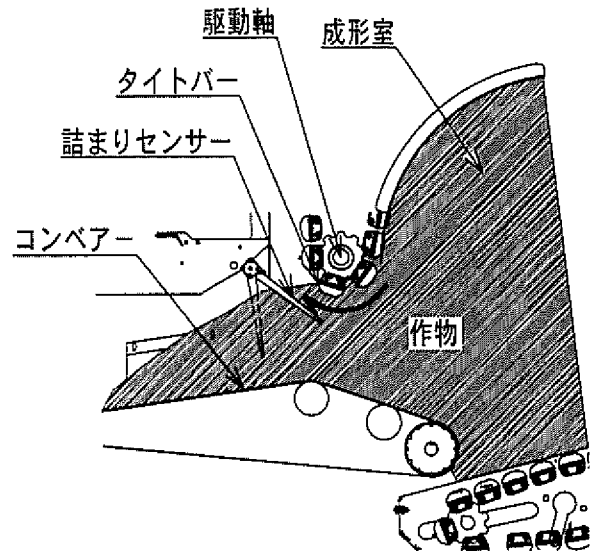
また、傾斜地では放出した梱包ロールが転げ落ちないよう、平坦な場所に放出してください。

◆放出確認をしてチャンバーを閉じる
チャンバーから放出できたことを確認してから、チャンバー開閉スイッチを操作してチャンバーを閉じ、再び作業をスタートしてください。

10.3 連続電子ブザーが鳴り詰りを知らせたら

成形室の前に詰まりセンサーがあり、詰まると連続ブザーで知らせます。頻繁に鳴るときは走行速度をおとしてください。

連続で鳴る時は刈り取り作業を停止してロールペーラの左側のカバーを開き、コンベアーの状態を確認してください。そのまま作業すると、詰りシェアボルト切断の原因になります。

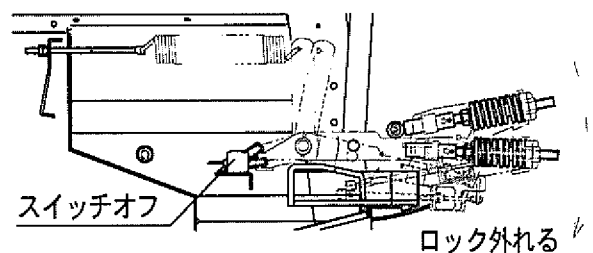


作物が詰まると、成形室に入らなくなります。このような時は、ネット装置を引き出し右カバーを開き、長い棒などで作物を押し込んでください。

コンベアーが見えるようになればネットを繰り出しロールに成形できます。

10.4 連続電子ブザーが鳴り

ロック外れを知らせたら



●チャンバーロックが外れたらロック金具のスイッチがオフになり連続電子ブザーがなります。

10. ロールペーラの作業方法

- 作業中に連続電子ブザーが鳴った時は、刈り取り作業をすぐに停止してください。そのまま作業すると両側のロックが外れネットが巻けなくなります。(刈取作業を中止しネットを巻きつけてください。)
- 片方のロックが外れた状態で、ネットを巻くときは、手動でネットを繰り出してください。

10.5 誤ってネット繰出しスイッチを押した時は

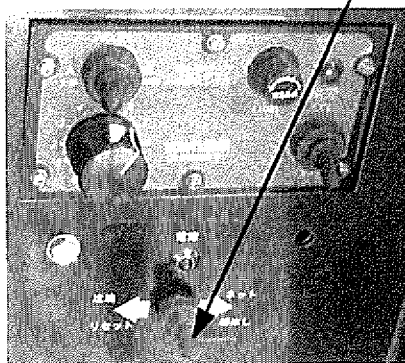
ネットを巻く時以外に誤ってネット繰出しスイッチを押した時は必ずリセットしてください。

そのまま作業すると自動感知が効かずロック金具が外れたり、タイトバー部のシェアボルトが切れます。

リセットする方法は下記の3方法があります。

- ①左記のロック金具のスイッチをオフにする。(チャンバーを開くと自動的にリセットします)
- ②ネット繰出しスイッチを左に倒しリセットする。

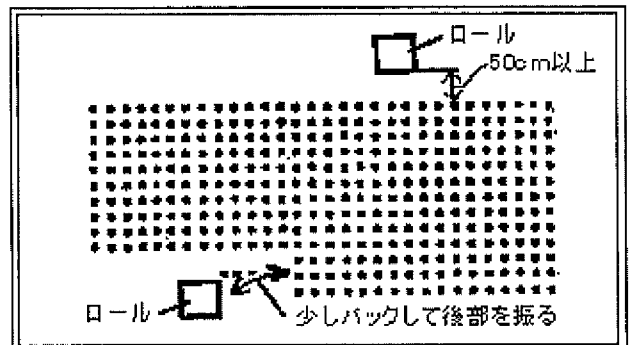
ネット繰出しスイッチ



- ③メインスイッチを「切」にする。

10.6 ロール放出のしかた

ネットを巻き付けしている間に少しバックして収穫機の後部側を右側に振り、次行程の刈取のじゃまにならない位置にロールを放出してください。



圃場に水が溜まっているところがある場合は、さけて乾いたところに放出するようにしてください。(ロールに泥や水が付くと雑菌が入りサイレージの品質が悪くなる原因になります。)

少し離れた位置に放出する為ネットが巻き終わってからも移動する時は、ロールペーラの回転を止めてください。

ロールを余分に回転させると、ネットが緩んだり、ロスの原因になります。

1日の最後で1ロールにならない場合

- 8割ぐらいまでのロールの場合は手動でネットを繰り出せばネットは巻き付けできます。(作物を一晩そのまま機械の中に入れたままにしないでください。腐敗します。)
- 1～2割程度刈り残しが出来そうな場合は作業速度を落として作業してください、通常より密度の高いロールが出来、全部刈り取りできることがあります。
- 最後の3～4ロールで調整してください。

11. 自動装置について

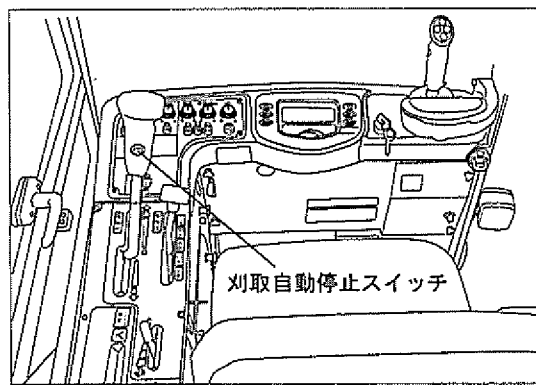
11.1 刈取・フィードチェーン自動停止装置

11.1.1 機能について

- (1) 刈取部が一定量上昇すると自動的に刈取部とフィードチェーンのクラッチが切れます。
- (2) あぜ際での小回り時に、その都度刈取クラッチを切る必要がありません。
- (3) コーナー回行時に静かに作業できます。
- (4) ピタトマル設定ダイヤルにより、刈取自動停止位置を自由に設定できます。

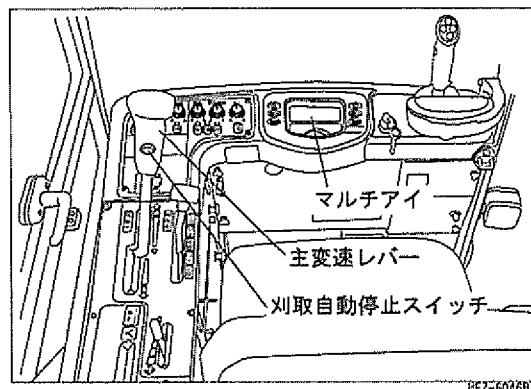
11.1.2 取り扱い時の注意事項

- (1) 湿田や道路面と段差のあるほ場への進入時等、刈取部が機体に対して相対的に高い位置になる場合は、停止動作により刈取部とフィードチェーンが回らない場合があります。刈取自動停止スイッチを「切」にしてください。
- (2) 「刈取自動停止」を使用すると、コーナーや往復刈りの刈り始めにカッタの切ワラやドロップの集束ワラが隣のほ場やほ場の側溝に落下する場合があります。作業のしかたを注意してください。



11.1.3 操作のしかた

主変速レバーの刈取自動停止スイッチを「入」にしてください。



《参考》

- スイッチの切換状態はコンビネーションメータのマルチアイに表示されます。確認してください。（操作後5秒間）

刈取自動停止スイッチ	マルチアイ表示
押して 入れます ⇒	ピタトマル「入」
押して 出します ⇒	ピタトマル「切」

11.1.4 ピタトマル高さ調整ダイヤルの調節のしかた

刈取停止高さを自由に設定できます。

- (1) 左に回す……低くなる
- (2) 右に回す……高くなる



11. 自動装置について

11.2 刈高さ制御装置

11.2.1 機能について

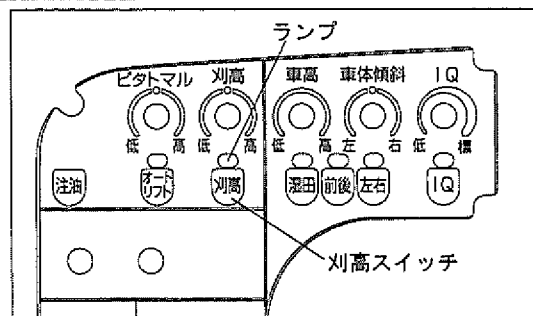
刈取部の高さをダイヤルで設定した刈高さで制御します。

11.2.2 取り扱い時の注意事項

- (1) 畦際刈りをするときは、刈高さ制御を使わないでください。(刈高さ制御スイッチを「切」にしてください。) 刈取部が自動下降して分草杆があぜに突っ込む場合があります。
- (2) 麦うね作業や、コンバインの前傾・後傾の動きが激しい湿田作業では使用できません。
- (3) 刈取部が下がり始めたら、すぐにパワーステアリングレバーを「中立」位置に戻してください。そのまま「下げ」方向に操作し続けると、手動優先のため刈取部が下がりすぎて、分草杆が地面に突っ込む場合があります。
- (4) 刈り始める前に、パワーステアリングレバーで刈高さを調整すると、一時的にその位置で停止しますが、刈取作業開始に伴いダイヤル調整位置まで刈高さを自動調整します。
- (5) 刈り始める前に、パワーステアリングレバーで刈高さを合わせた後にダイヤル操作した場合、一時的に刈高さが変わらない場合があります。このときは、一度ダイヤルを大きく回す等して、ダイヤル位置と刈取部の高さを一致させてから、所定の刈高さになるようダイヤルを操作してください。

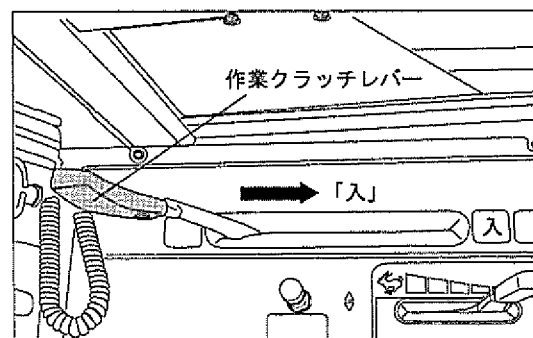
11.2.3 操作のしかた

- (1) 刈高スイッチを押して「入」(ランプ点灯)にします。



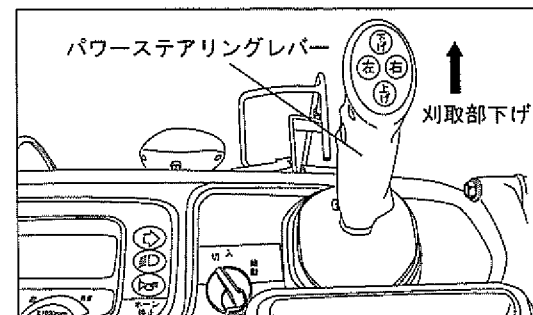
HFZ-6041G

- (2) 作業クラッチレバーを「入」にします。



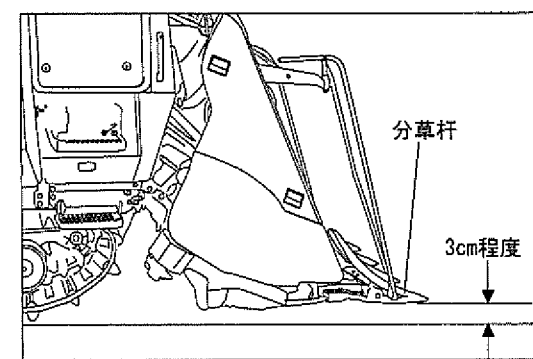
HFZ-G044

- (3) パワーステアリングレバーで、刈取部を下げます。刈取部は刈高さ制御装置が作動して、一定の高さで止まります。



HFZ-60380

- (4) 刈高さ設定ダイヤルで分草杆を地面から3 cm程度の高さに、仮に設定します。
[1] 左に回す…低くなる
[2] 右に回す…高くなる



HFZ-0044B

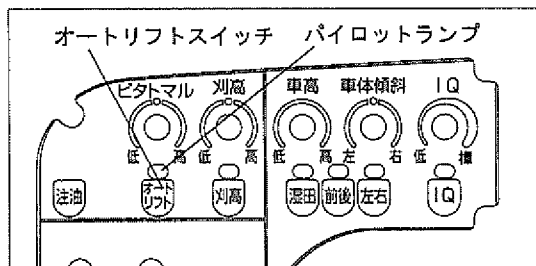
- (5) 刈り始めたら、再度、刈高さ設定ダイヤルを調整して、適正な刈高さで作業します。

11. 自動装置について

11.3 オートリフト装置

11.3.1 機能について

- (1) 刈取部（刈刃部）に作物がなくなると、刈取部を自動的に一定量上昇させます。
- (2) 刈取部が下がったままで、後進すると、刈取部を自動的に一定量上昇させます。
- (3) ピタトマル高さ調整ダイヤルに連動して、上昇高さが可変します。



11.3.2 取り扱い時の注意事項

- (1) 畦際刈りをするときは、オートリフトを使わないでください。（オートリフトスイッチを「切」にしてください。）作物が断続的に入ってきたり、後進しようとしたときに刈取部が自動上昇して分草杆があぜに突っ込む場合があります。
- (2) 欠株が多いほ場および、刈り終わり時の最後の行程は、オートリフトを使わないでください。刈取部が自動上昇してしまう場合があります。

11.3.3 操作のしかた

⚠ 注意

- 作業時以外はオートリフトスイッチを「切」にしてください。
※路上や納屋の中での点検・整備中に刈取部が自動上昇すると傷害事故を引き起こすおそれがあります。

オートリフトスイッチを「入」（パイロットランプ点灯）にしてください。

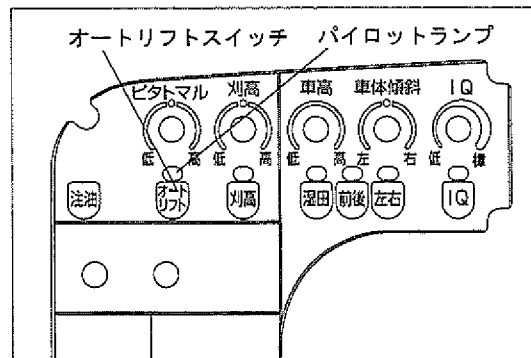


図2-604H

11.4 IQアクセル装置

11.4.1 機能について

- (1) 道路走行、刈取作業、排出作業の各作業状態に応じて、エンジン出力を効率よく使用できるように、エンジン回転を制御します。
- (2) 刈取作業時や排出作業時は、エンジン回転を所定の回転数に保ちます。
- (3) 停止時（非作業時）は、エンジン回転がアクセルレバーで調節された回転数になります。
- (4) 移動走行をするときは、主変速レバーの増減速操作に応じて、エンジン回転数を自動的に調節します。
- (5) 非作業時、走行を停止してから約3秒経つか、またはIQアクセルスイッチを「切」にするとエンジン回転をアクセルレバーで調節された回転数になります。

11.4.2 機能について

⚠ 注意

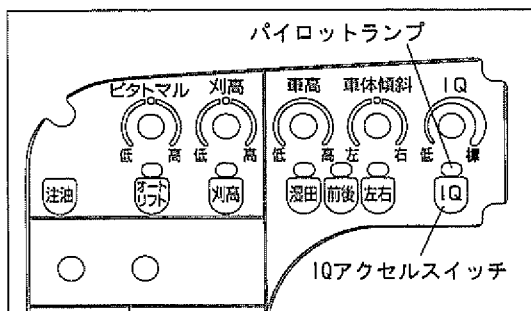
- 点検・整備等で、刈取部やロールベアラ部を低い回転で運転する場合や、トラックへの積み込み時はIQアクセルスイッチを「切」にしてアクセルレバーで回転調整してください。
※「切」にしないと、アクセルの制御が効いてエンジン回転が上がり、傷害事故を引き起こす原因となります。

11. 自動装置について

- (1) 刈取作業中に、エンジン回転が作業回転域を下回る場合は、エンジンが過負荷となっています。エンジン回転が作業回転域を保つように主変速レバーを操作して使用してください。

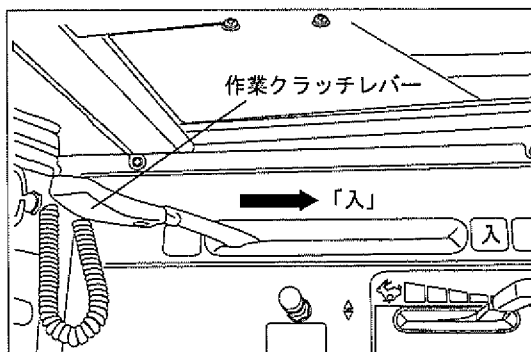
11.4.3 操作のしかた

- (1) I Qアクセルスイッチを押して「入」(ランプ点灯) にします。



HFZ-6041J

- (2) 刈取作業時は、作業クラッチレバーを「入」にし、刈取作業を始めます。エンジン回転は自動的に I Q アクセルダイヤルで設定された回転数を保ちます。



HFZ-0141

《参考》

- I Q アクセルダイヤルは、通常「標」位置で使用してください。

11.5 車体水平制御装置

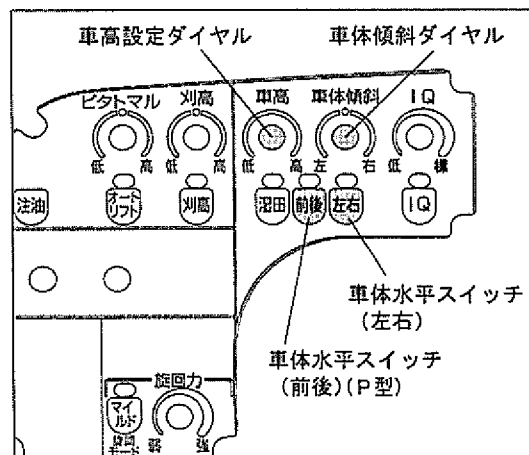
11.5.1 機能について

- (1) 湿田などで機体が傾斜した場合に、左右と方向の傾斜を自動的に修正し、機体を水平に保ちます。
- (2) 車高設定ダイヤルでセットした車高を保って水平に制御します。
- (3) 機体が水平に保たれるので、湿田での運転が容易になるとともに、ロールベアラ部の性能が安定します。

11.5.2 操作のしかた

- (1) 作業クラッチレバーを「入」位置にします。
- (2) 車体水平スイッチをほ場条件に合わせて「入」(ランプ点灯) にします。
セットは、下表を参考にしてください。

車体水平スイッチ (左右)	ほ場条件
○	湿田
○	麦うね
△	乾田

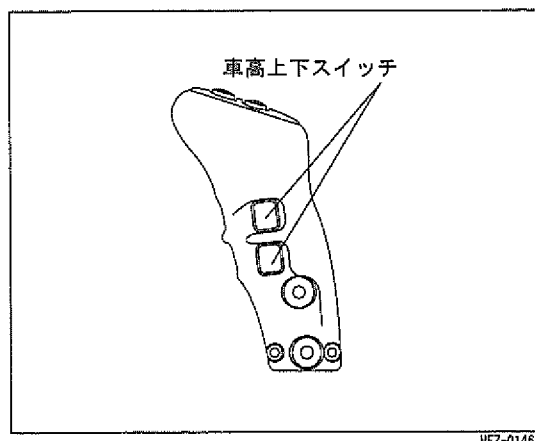


HFZ-6041D

- (3) 車高設定ダイヤルでほ場条件に合わせて車高を調節します。車高は下表を参考にしてください。

11. 自動装置について

車高	ほ場条件
高 ↑ ↓ 低	湿田 ↑ ↓ 乾田



《参考》

- 乾田、機体（クローラ）の沈下が4 cm 以下の場合、車高「高」で作業すると高刈りになったり倒伏稈の刈り残しが発生します。
- 車高上下スイッチでも車高の調節はできますが、スイッチから手を放すとダイヤルの設定位置に車高が復帰します。
- 車高設定ダイヤル、または車高上下
- スイッチを操作すると、マルチアイに車高の状態が表示されます。

- (4) 車体傾斜スイッチ（パワーステアリングレバー上面）を操作すると、車体水平制御スイッチの「入」「切」に関わらず、任意の方向に機体を傾けることができます。車体水平制御スイッチが「入」の場合は車体傾斜スイッチを放すと水平に戻ります。

- (5) 車体水平制御中に、車体傾斜調整ダイヤルを「左」傾・「右」傾方向に回すと、収穫機の傾きを微調整でき、この姿勢を保った状態で、水平制御します。

《参考》

- 傾斜スイッチを操作するとコンビネーションメータ内のマルチアイ画面に機体の傾きが表示されます。水平にする場合等にご利用ください。



11.5.3 取り扱い時の注意事項

⚠ 警告

- 道路走行時、傾斜地走行時、車両等による運搬および積み込み時は、車高スイッチを「下げ」操作し、必ず車高を最も下がった位置にしてください。

※守らないと、収穫機が転倒するおそれがあります。

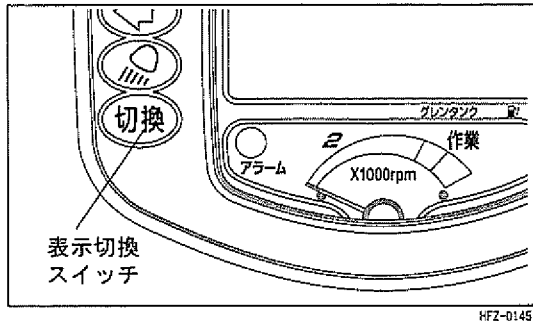
- (1) 作業クラッチレバーを「切」、または車体水平制御スイッチ（左右）・車体水平制御スイッチ（前後）を各々「切」にしたとき、自動的に機体を地面と平行にします。

作業クラッチレバー「切」	0.2m/s程度で2秒以上動くと左右、前後を地面と平行にします。
車体水平制御スイッチ（左右）「切」	左右を地面と平行にします。

- (2) 道路走行時等で副変速が「走行」の位置で走行速度が速くなると、自動的に車高が最も下がった位置になります。

11. 自動装置について

- (3) 機体が左右に大きく傾くと、ブザーが断続的になります。
- (4) 車高スイッチ、傾斜スイッチ操作時にマルチアイ画面に表示される車体の状態はスイッチ操作後5秒間で元の表示に戻りますが表示切換スイッチを押すことにより所定の画面に固定することができます。

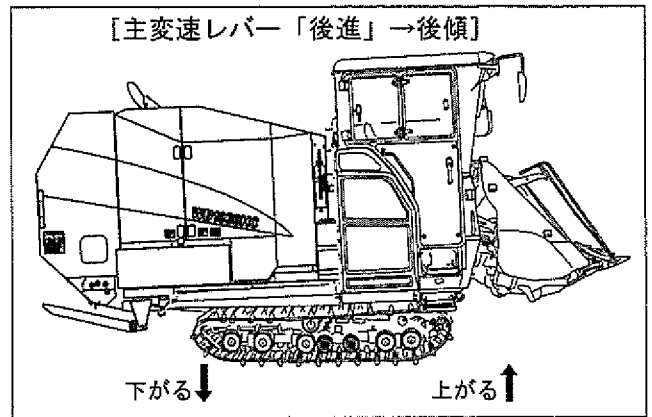
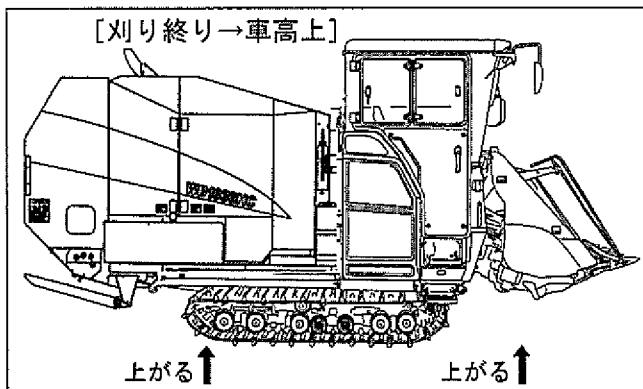


HFZ-0145

11.6 湿田制御装置

11.6.1 機能について

- (1) 刈り終り後の回行開始時に車高を上昇します。その後、主変速レバーの後進操作により、後傾姿勢にします。刈り始め時の刈取り下げ操作に伴い、車高をもとの位置まで下降します。
- (2) 湿田作業での走行性能を向上させます。

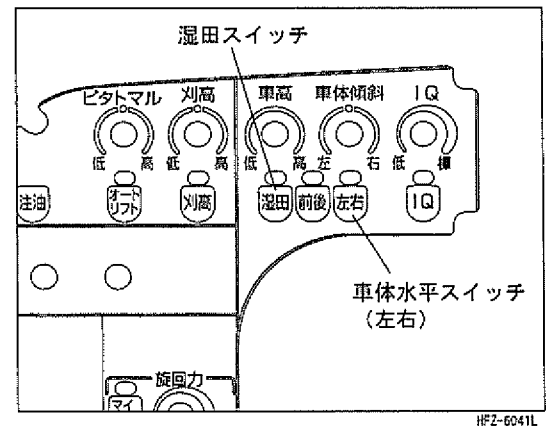


11.6.2 操作のしかた

- (1) 作業レバーを「入」にしてください。
- (2) 車体水平スイッチ（左右）、車体水平スイッチ（前後）を「入」（ランプ点灯）にします。

《参考》

- 車体水平制御スイッチが「入」になっていないと、湿田制御は働きません。



HFZ-6041L

- (3) 湿田スイッチを「入」（パイロットランプ点灯）にします。

《参考》

- 乾田ほ場で湿田制御を使用すると刈取り始めに刈高が安定しない場合があります。
- 乾田、ほ場は車高「高」で作業すると、高刈りになり倒状稈の刈り残しが発生します。

11. 自動装置について

	ほ場条件	湿田制御
田	乾 田	—
	湿 田	◎
	超 湿 田	◎
畑	うねあり	—
	うねなし	—

〔—：使用しない、◎：使用する〕

11.7 センサチェックモード

11.7.1 機能について

自動制御装置に関するセンサやスイッチの作動をブザーの音で容易にチェックすることができます。

エンジンの運転中はセンサチェックモード画面の表示は出ません。

11.7.2 センサチェックのしかた

メインスイッチを「入」にします。

- (1) マルチアイが通常画面状態で、表示切換スイッチを押します。表示が順次切り換わり

チェックモード
切換⇒進む

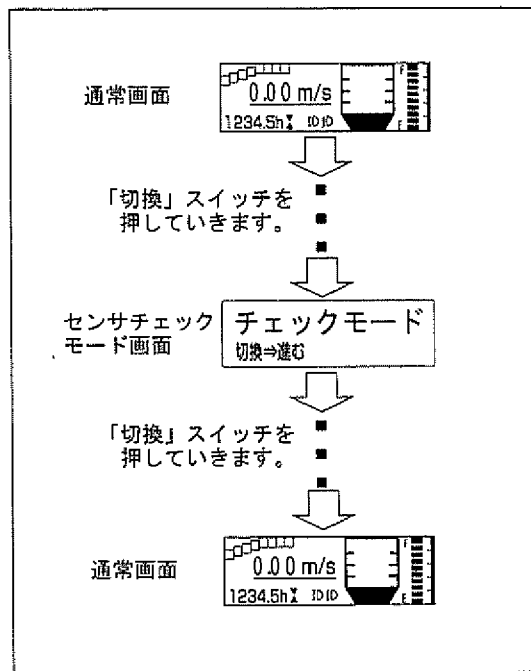
の画面が表示されます。

- (2) 画面が チェックモード
切換⇒進む の状態で
センサ・スイッチ・レバーをチェックすることができます。

各センサやスイッチ・レバーを、次項のチェック方法に従ってチェックします。
正常な場合は、センサを作動させた時やスイッチ・レバーを切り換えた時にブザーが鳴ります。
センサチェック終了後は、メインスイッチを「切」にしてください。

《参 考》

- ブザーが鳴らない場合は、該当する部品の配線のはずれ、関係するヒューズ切れをご確認の上、お買い上げ先にご相談ください。



IFG-5090

11. 自動装置について

11.7.3 センサチェック項目

■こぎ深さ制御装置・畦際制御装置

部 品	こうすればブザーが鳴ります
こぎ深さ制御スイッチ	スイッチを「入」・「切」します。
作業クラッチレバー	レバーを「入」・「切」に操作します。
穀稈センサ「前左」・「前右」・「後」	センサを作物の搬送方向に動かします。
稈長センサ	センサを作物の搬送方向に動かします。
HSTポジションセンサ	主変速レバーを「前進」⇔「後進」します。
こぎ深さ調節スイッチ「深」「浅」	スイッチを「入」・「切」します。
調節チェンポジションセンサ	こぎ深さ制御スイッチで、調節チェンを最深から最浅まで動かします。
畦際制御スイッチ	スイッチを「入」・「切」します。

■刈取フィードチェン自動停止装置(ピタマル)

部 品	こうすればブザーが鳴ります
刈取自動停止スイッチ	スイッチを「入」・「切」します。
穀稈センサ「前左」・「前右」・「後」	センサを作物の搬送方向に動かします。
作業クラッチレバー	レバーを「入」・「切」に操作します。
ピタマル設定ダイヤル	ダイヤルを「低」・「高」の方向に回します。

■刈高さ制御装置・オートリフト装置

部 品	こうすればブザーが鳴ります
刈高さ制御スイッチ	スイッチを「入」・「切」します。
オートリフトスイッチ	スイッチを「入」・「切」します。
刈高さ設定ダイヤル	ダイヤルを「低」・「高」の各方向に回します。
パワーステアリングレバー	レバーを前後に操作します。
作業クラッチレバー	レバーを「入」・「切」に操作します。
穀稈センサ「前左」・「前右」・「後」	センサを作物の搬送方向に動かします。
HSTポジションセンサ	主変速レバーを「前進」⇔「後進」します。

■アクセル制御装置(IQアクセル)

部 品	こうすればブザーが鳴ります
IQアクセルスイッチ	スイッチを「入」・「切」します。
IQ調整ダイヤル	ダイヤルを「低」・「標」の各方向に回します。
HSTポジションセンサ	主変速レバーを「前進」⇔「後進」します。
作業クラッチレバー	レバーを「入」・「切」に操作します。

■車体水平制御装置

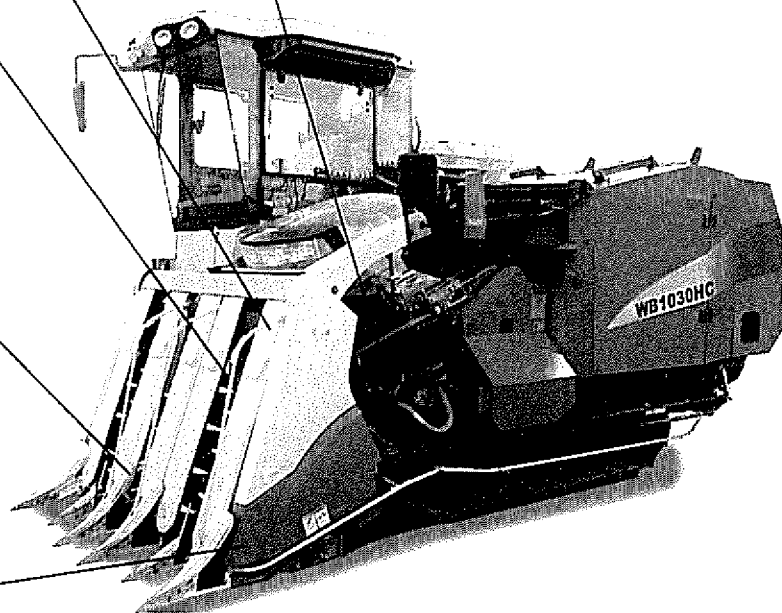
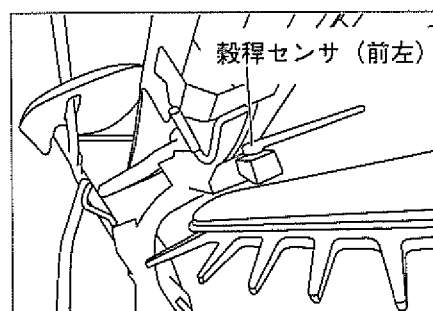
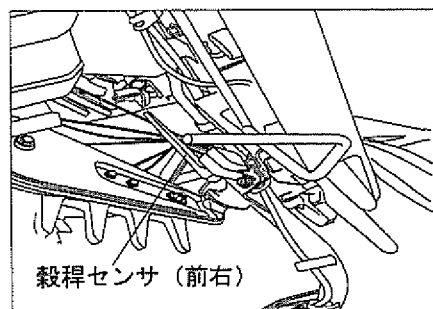
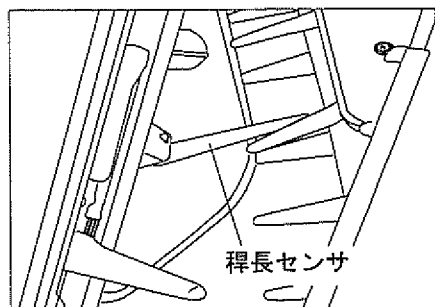
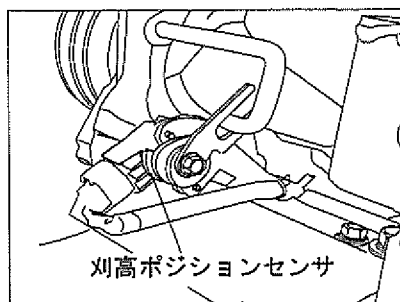
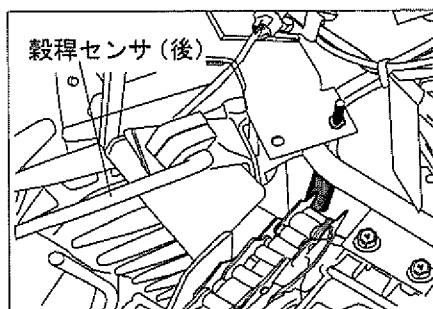
部 品	こうすればブザーが鳴ります
車体水平スイッチ(左右)	スイッチを「入」・「切」します。
湿田スイッチ	スイッチを「入」・「切」します。
車体傾斜スイッチ「左」・「右」 (パワステグリップ)	スイッチを「入」・「切」します。
車高上下スイッチ(パワステグリップ)	スイッチを「入」・「切」します。
車体傾斜調整ダイヤル	ダイヤルを「左」・「右」の各方向に回します。
車高設定ダイヤル	ダイヤルを「高」・「低」に操作します。
作業クラッチレバー	レバーを「入」・「切」に操作します。

11. 自動装置について

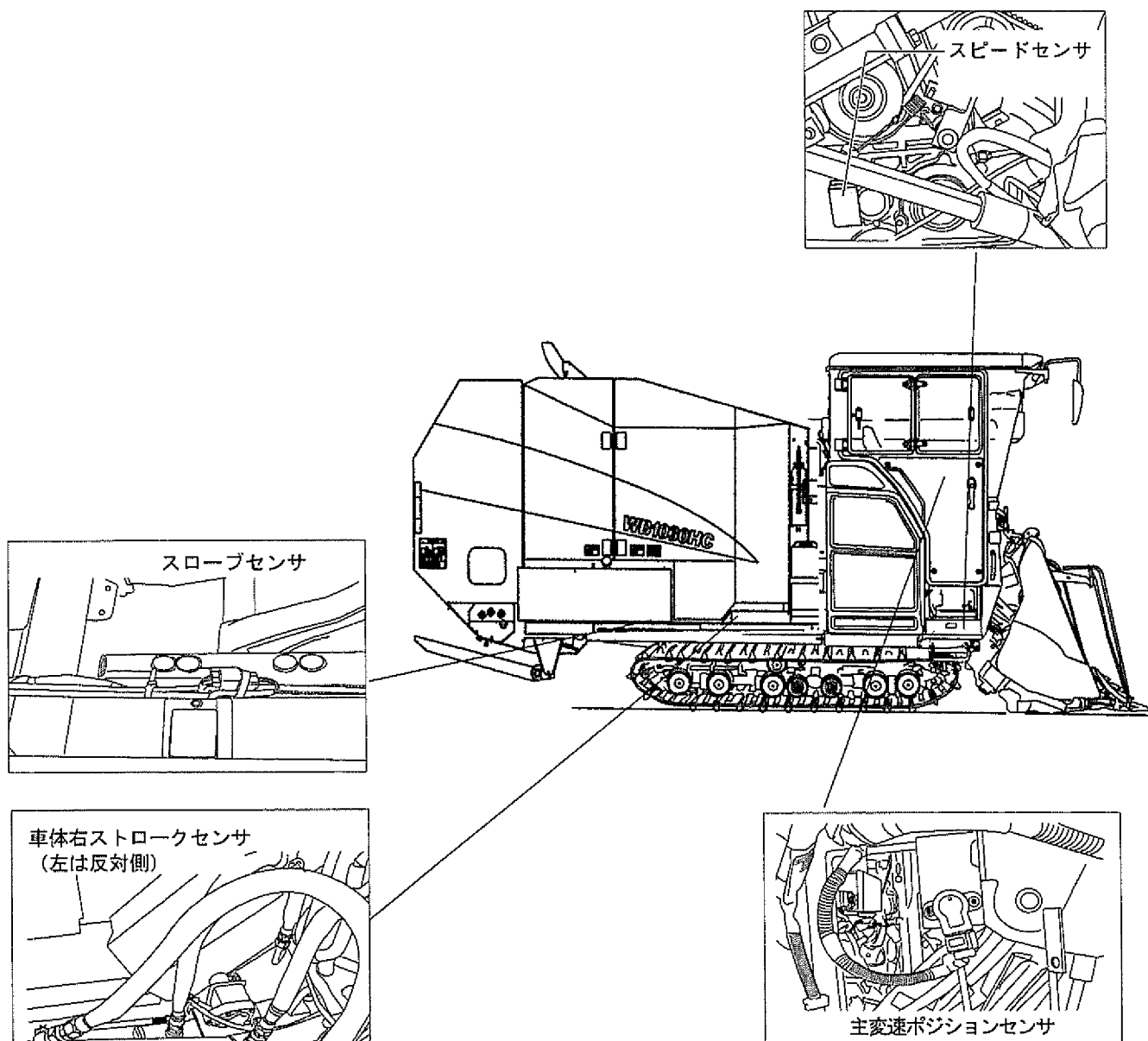
■その他のスイッチ、ダイヤル

部 品	こうすればブザーが鳴ります
旋回力設定ダイヤル	ダイヤルを「強」・「弱」の各方向に回します。

11.7.4 関係するセンサの位置



11. 自動装置について



12. メンテナンスモード

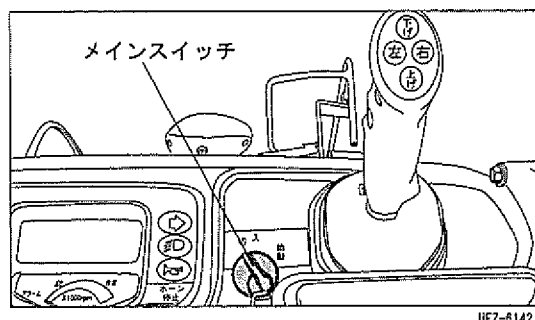
12.1 メンテナンスモードについて

12.1.1 メンテナンスモードの内容

- (1) メインスイッチが「入」の状態メンテナンスモードの確認・調整ができます。

エンジン運転中にはメンテナンスモード画面の表示は出ません。

エンジン停止のしかた (52ページ)



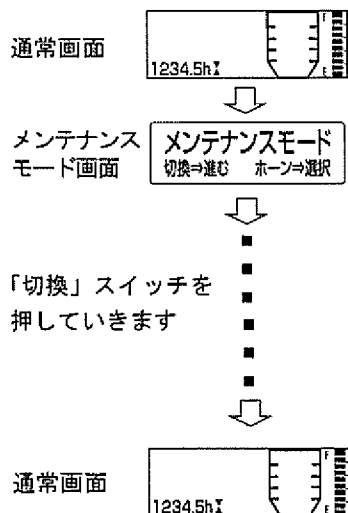
HFZ-6142

- (2) マルチアイが通常画面状態で、表示切換スイッチを押します。

メンテナンスモード
切換⇒進む ホーン⇒選択

の画面が表示されます。

メンテナンスモード画面にて表示切換スイッチを押していくと通常画面に変わります。



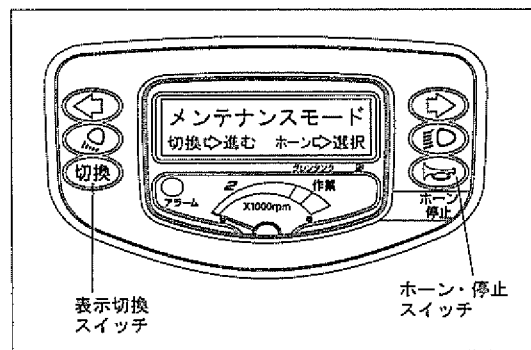
HF6-5093

- (3) **メンテナンスモード**
切換⇒進む ホーン⇒選択 の画面で
ホーン・停止スイッチを押します。

メンテナンスモード画面にてホーン・停止スイッチを押すとメンテナンスモード内の調整・設定内容の表示に切り替わり

戻る
エンジン始動設定
切換⇒進む ホーン⇒選択

の画面が表示されます。



HFZ-5034

メンテナンスモード
切換⇒進む ホーン⇒選択



戻る
エンジン始動設定
切換⇒進む ホーン⇒選択

- (4) 表示切換スイッチを押す毎に、メンテナンスモード内の画面表示が切り替わります。

メンテナンスモードの終了は

モードを終了しますか?
はい⇒ホーンスイッチ
いいえ⇒切換スイッチ

の画面で

ホーン・停止スイッチを押すと通常画面に戻ります。

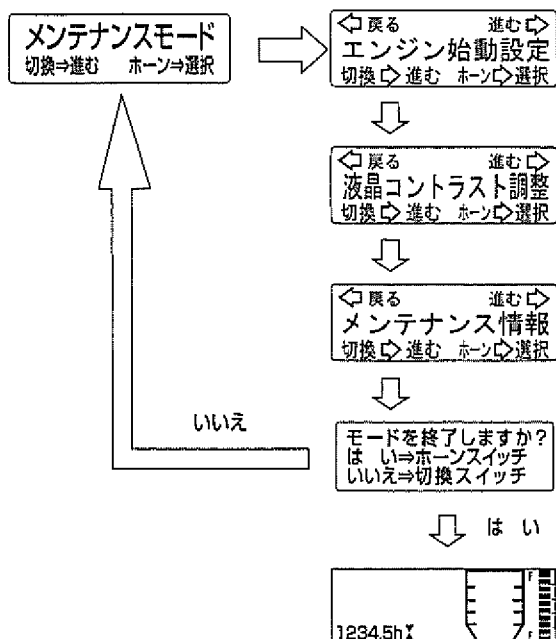
表示切換スイッチを押すと

メンテナンスモード
切換⇒進む ホーン⇒選択

の画面に戻ります。

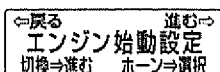
または、メインスイッチを「切」にする事によりメンテナンスモードを終了します。

12. メンテナンスモード



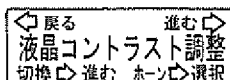
(5) エンジン始動設定

エンジン始動時の設定キー入力
メインスイッチ操作だけでは、エンジンの
始動が出来ない様に設定できます。



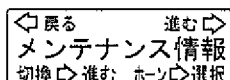
(6) 液晶コントラスト調整 (103ページ)

真夏・真冬時にて、画面表示が見づらい場
合にコントラストの調整が出来ます。



(7) メンテナンス情報 (104ページ)

日常点検・格納点検・メンテナンス情報を
確認する事が出来ます



12.2 エンジン始動設定と始動のしかた

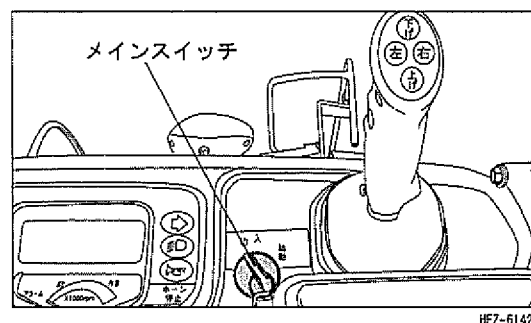
危険

- エンジン始動設定をした場合でも、
コンバインから離れるときは、メイン
スイッチキーを抜いて保管してくださ
い。
※守らないと、簡易的なエンジン始動
牽制機能のため、盗難等の原因にな
ります。

機能：メインスイッチ操作だけでは、
エンジンの始動ができない様に設定
できます。

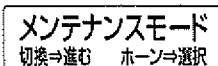
12.2.1 エンジン始動設定のしかた

- (1) メインスイッチを「入」にします。
エンジン運転中にはメンテナンスモード
画面の表示は出ません。
エンジン停止のしかた (52ページ)



- (2) マルチアイが通常画面状態で、表示切換ス
イッチを押します。

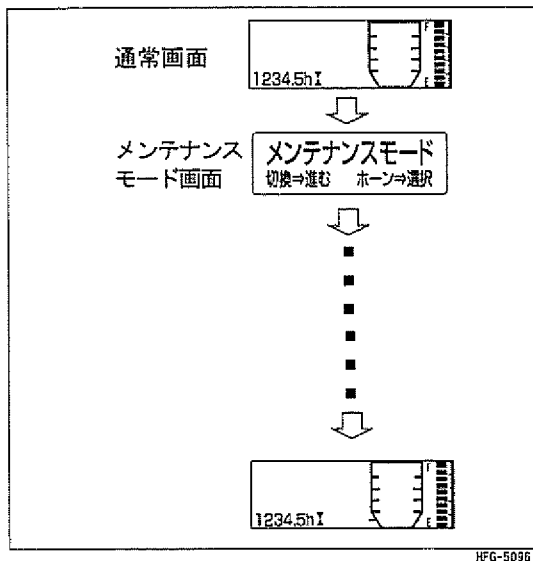
画面が切換わり、



の画面が表示されます。

メンテナンスモード画面にて
表示切換スイッチを押すと順次表示が
切り換わり通常画面に戻ります。

12. メンテナンスモード



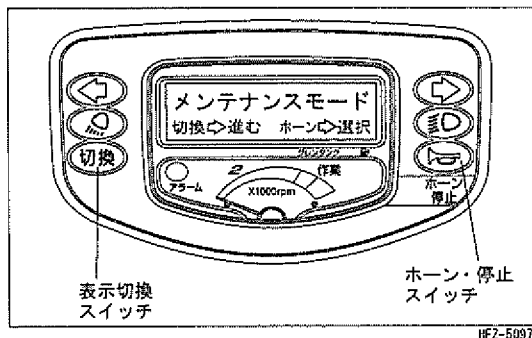
- (3) **メンテナンスモード**
切換⇒進む ホーン⇒選択 の画面で

ホーン・停止スイッチを押します。

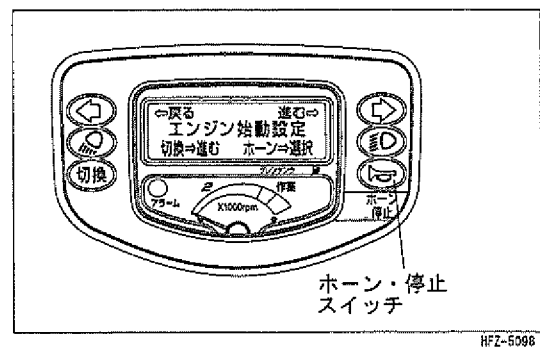
メンテナンスモード画面にて
ホーン・停止スイッチを押すと
メンテナンスモード内の調整・
設定内容の表示に切りかわり

←戻る 進む→
エンジン始動設定
切換⇒進む ホーン⇒選択

の画面が表示されます。



- (4) **エンジン始動設定**
切換⇒進む ホーン⇒選択 の画面で、ホーン・停止スイッチを押します。



- (5) モニタ部の←→IDIOを操作しエンジン始動設定を入力してください。

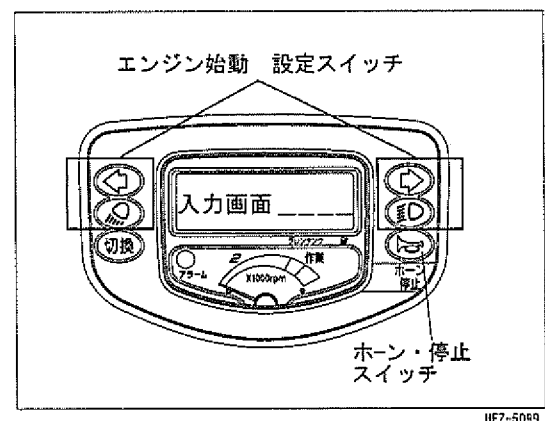
の案内画面が表示されます。
案内画面にてホーン・停止スイッチを押すと、

エンジン始動設定の 入力画面———
画面が表示されます。

エンジン始動設定の入力方法は、

ウインカスイッチ左…… ←
ウインカスイッチ右…… →
作業灯スイッチ…… ☹
前照灯スイッチ…… ☹

より任意の4つのスイッチを選択して行います。
(同じスイッチを2度以上使用可)
4つのスイッチ操作により、入力画面へ押したスイッチ画像が表示されます。



設定例

入力画面 ←IDIO
ホーン⇒実行

12. メンテナンスモード

《参考》

- 設定したスイッチの順番を忘れると次回からエンジンの始動が出来なくなります。忘れた場合はお買い上げ先に御相談ください。

- (6) 入力画面でホーン・停止スイッチを押すと、確認画面が表示されます。

設定を実行しますか？
は い⇒ホーンスイッチ
いいえ⇒切 換 スイッチ

ホーン・停止スイッチ
を押すと設定が記憶され

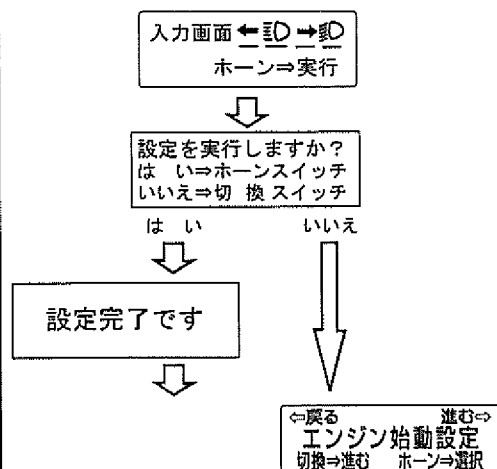
設定完了です

の画面が表示され、通常画面へ戻ります。

表示切換スイッチを押すと設定は中止
され

←戻る 進む→
エンジン始動設定
切換⇒進む ホーン⇒選択

の画面へ戻ります。



- (7) メインスイッチを「切」にします。

エンジン始動設定時の
エンジン始動のしかた (51ページ)

12.2.2 エンジン始動設定時の エンジン始動のしかた

⚠ 危険

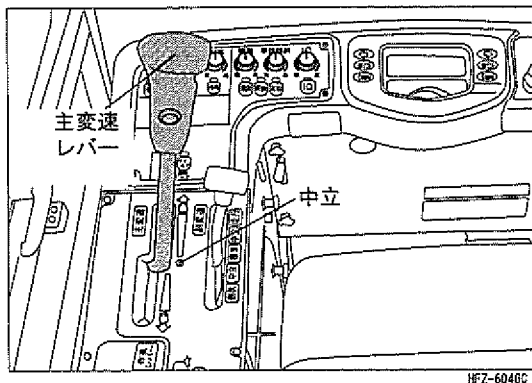
- 屋内で始動する場合は、窓や戸を開け、十分に換気をしてください。
閉め切った屋内等ではエンジンを始動しないでください。
※守らないと、排気ガスによる中毒を
起こし、死亡事故にいたるおそれがあります。

⚠ 警告

- 始動する前に、周囲の人にホーンで合図してください。
※守らないと、機械に巻き込まれる
等、傷害事故を引き起こす原因になります。
- 保護カバー類が取り付けられているか確認してください。
外れている場合は、必ず取り付けてください。
※守らないと、機械に巻き込まれる
等、傷害事故を引き起こす原因になります。
- 主変速レバーを「中立」、各クラッチレバーを「切」にして始動してください。
※守らないと、機械に巻き込まれる
等、傷害事故を引き起こす原因になります。

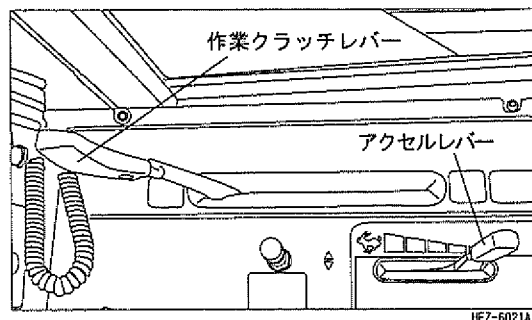
- (1) 主変速レバーを「中立」(「●」位置)に
します。

12. メンテナンスモード



(2) 作業クラッチレバーを「切」にします。

(3) アクセルレバーを中程度まで引きます。



(4) メインスイッチを「入」にします。

マルチアイには、右記の画像が順番に表示されます。

ISEKI

エンジン始動設定キー
を入力してください！

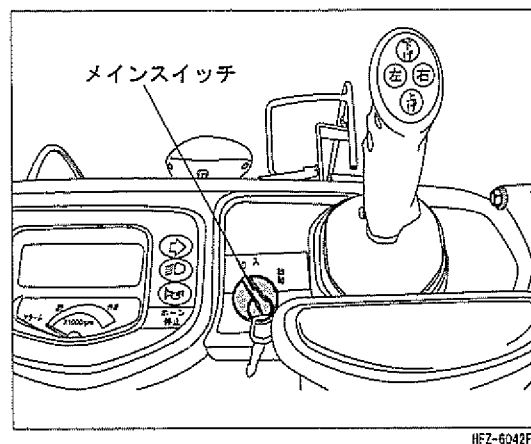


エンジン始動設定キー
を入力してください！

にてホーン・停止ス
イッチを押すと、エンジン
始動設定の

入力画面 _ _ _ _

が表示されます。



エンジン始動設定時に入力した順番
通りに

ウインカスイッチ左.....

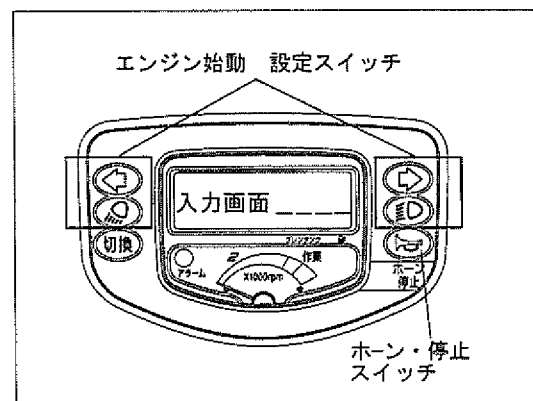
ウインカスイッチ右.....

作業灯スイッチ.....

前照灯スイッチ.....

を操作し、

ホーン・停止スイッチを押すと、エンジン
始動牽制が解除されてエンジン始動が可
能になります。



入力例

入力画面 ◀ID▶ID
ホーン⇒実行

12. メンテナンスモード

《参考》

- エンジン始動設定の入力を間違えると、

設定キーが違います

が表示され、メインスイッチを「切」にするまでブザーが鳴ります。

- エンジン始動設定時に登録した順番にスイッチ操作をしないとエンジンの始動はできません。
- エンジン始動設定時は牽制を解除すると、その都度リセットされます。次回設定する場合は設定操作を再度行ってください。設定しない場合は通常のエンジン始動のしかたになります。

- (5) 画面が順番に表示されます。



各センサー関係の点検確認をしています。



異常個所があれば表示します。

オイル・冷却水は毎日点検を!!

- (6) マルチアイに表示されたら予熱完了です。
周囲に人がいないことを確認して、ホーンを鳴らしてください。

エンジン始動可能です

周囲に人がいないことを確認してください

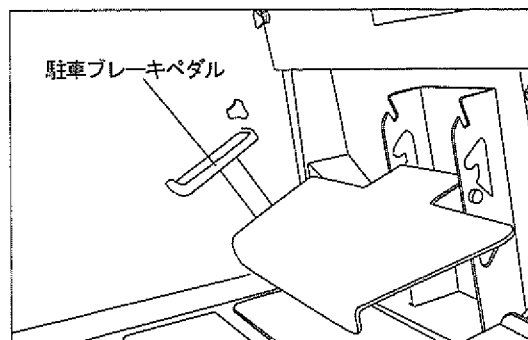
駐車ブレーキを踏込んで、メインスイッチを「始動」位置にします。

ホーンを鳴らし合図をしてください

メインスイッチを「始動」位置にした場合、駐車ブレーキペダルが踏込まれていないときは、

駐車ブレーキを踏み込んでください

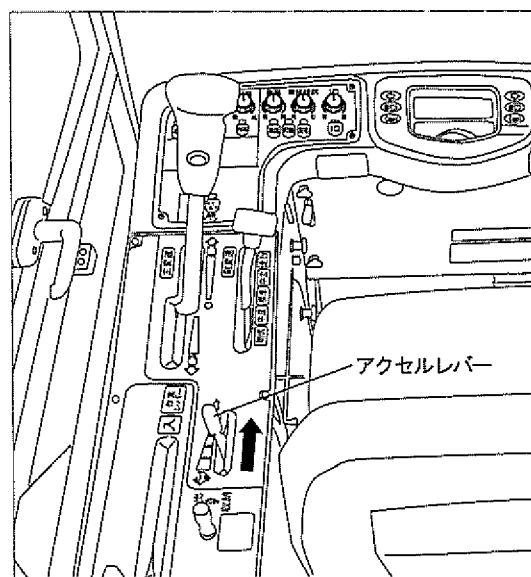
が表示します。



HFZ-6037

- (7) エンジン始動後は、アイドリングで、約5～10分間暖機運転をします。

- 10秒程スタート操作をしてもエンジンが始動しない場合は、メインスイッチを「切」にし、30秒以上休止してから再び操作してください。
- 異常が発生してエンジンが停止したときは、各レバーを「切」又は「中立」にして、メインスイッチを「切」にしてから、再び操作してください。



HFZ-00450

⚠ 注意

- 0℃以下の寒冷時は、10～20分間暖機運転を行ってください。
※守らないと、油圧系統の故障を起こすおそれがあります。

12. メンテナンスモード

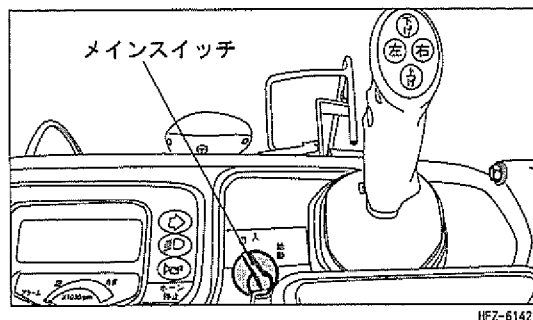
12.3 液晶コントラスト調整のしかた

機能：真夏・真冬時にて、画面表示が見づらい場合にコントラストの調整ができます。

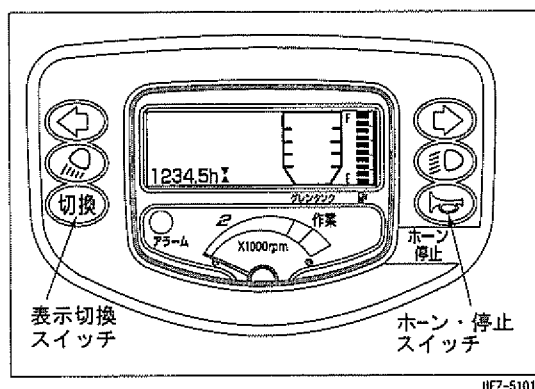
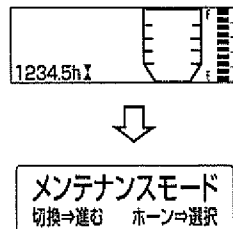
(1) メインスイッチを「入」にします。

エンジン運転中にはメンテナンスモード画面の表示は出ません。

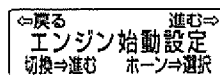
エンジン停止のしかた (52ページ)



(2) 表示切換スイッチを押して、画面をメンテナンスモード画面にします。



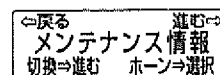
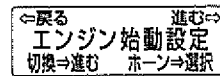
(3) **メンテナンスモード** 画面でホーン・停止スイッチを押すと、



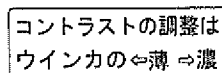
の表示に切換わり
表示切換スイッチを押すと



の画面になります。



(4) 液晶コントラスト調整で、ホーン・停止スイッチを押すと



の案内画面が表示されます。

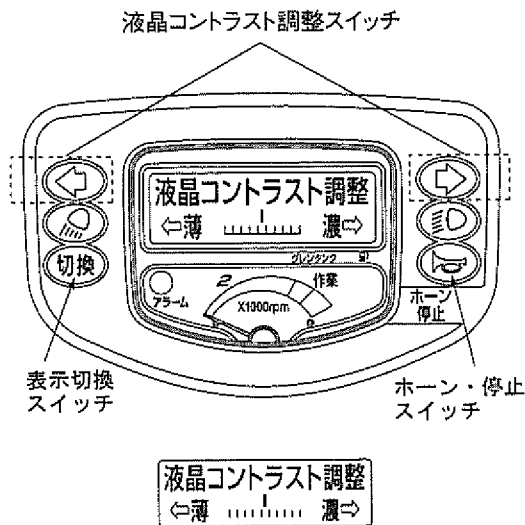
(5) 案内画面でホーン・停止スイッチを押すと、
液晶コントラスト調整画面



が表示されます。

12. メンテナンスモード

ウインカスイッチ左を押すと、コントラストが薄く、
ウインカスイッチ右を押すと、コントラストが濃くなります。
一度押すたびに、調整画面のレベルが移動しコントラストが変化していきます。
コントラストの調整に時間が掛かる場合がありますので、画面の状態を確認しながらレベルの調整を行ってください。



HFZ-5102

- (6) 画面のコントラスト調整画面にて表示切換スイッチを押すと、

モードを終了しますか？
はい⇒ホーンスイッチ
いいえ⇒切換スイッチ

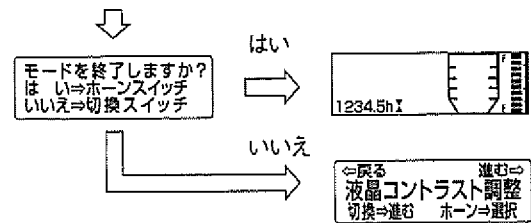
の画面が表示されます。

ホーン・停止スイッチを押すと
通常画面へ戻ります。

表示切換スイッチを押すと
液晶コントラスト調整画面へ変わります。

または、メインスイッチを「切」にする事
によりメンテナンスモードを終了します。

液晶コントラスト調整
薄 濃



HFQ-0171

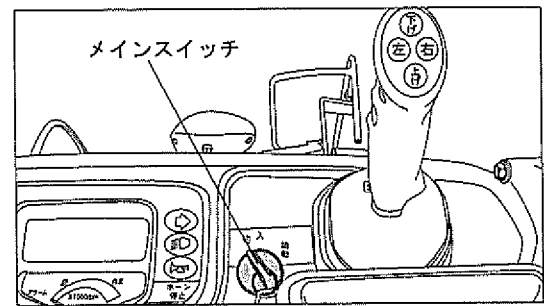
12.4 メンテナンス情報表示のしかた

機能：日常点検・格納点検・メンテナンス時間の確認が出来ます。

- (1) メインスイッチを「入」にします。

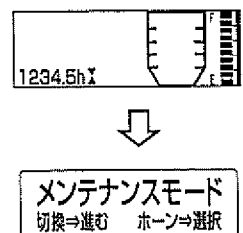
エンジン運転中にはメンテナンスモード
画面の表示は出ません。

エンジン停止のしかた (52ページ)

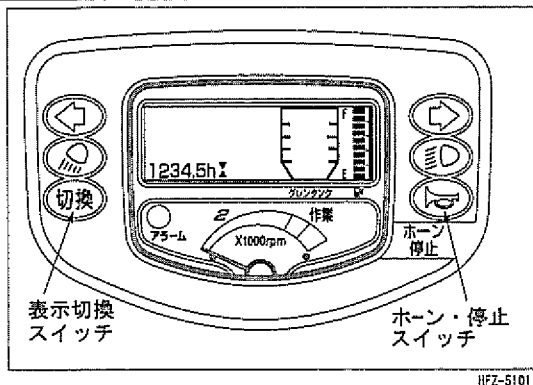


HFZ-0142

- (2) 表示切換スイッチを押して、画面をメンテナンスモード画面にします。



12. メンテナンスモード



HFZ-5101

- (3) **メンテナンスモード** 画面でホーン・停止スイッチを押すと、

←戻る 進む→
エンジン始動設定
切換⇒進む ホーン⇒選択

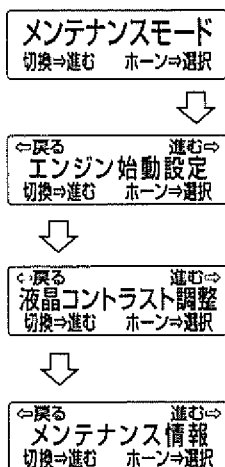
の表示に切りかわり
表示切換スイッチを押すと

←戻る 進む→
液晶コントラスト調整
切換⇒進む ホーン⇒選択

もう一度、表示切換スイッチを押すと

←戻る 進む→
メンテナンス情報
切換⇒進む ホーン⇒選択

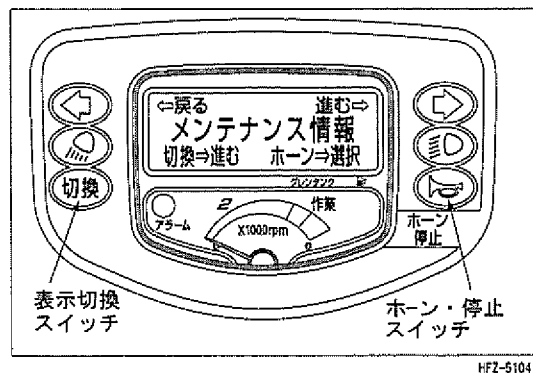
の画面になります。



HFG-0174

- (4) **メンテナンス情報** の画面で

ホーン・停止スイッチを押します。



HFZ-5104

- (5) 画面表示が切りかわり、表示切換スイッチを押す毎に、各案内画面へ切りかわります。

←戻る 進む→
日常点検
切換⇒進む ホーン⇒選択

←戻る 進む→
格納点検
切換⇒進む ホーン⇒選択

←戻る 進む→
メンテナンス案内
切換⇒進む ホーン⇒選択

- (6) **メンテナンスモード** の画面にて

表示切換スイッチを押すと、

モードを終了しますか？
はい⇒ホーンスイッチ
いいえ⇒切換スイッチ

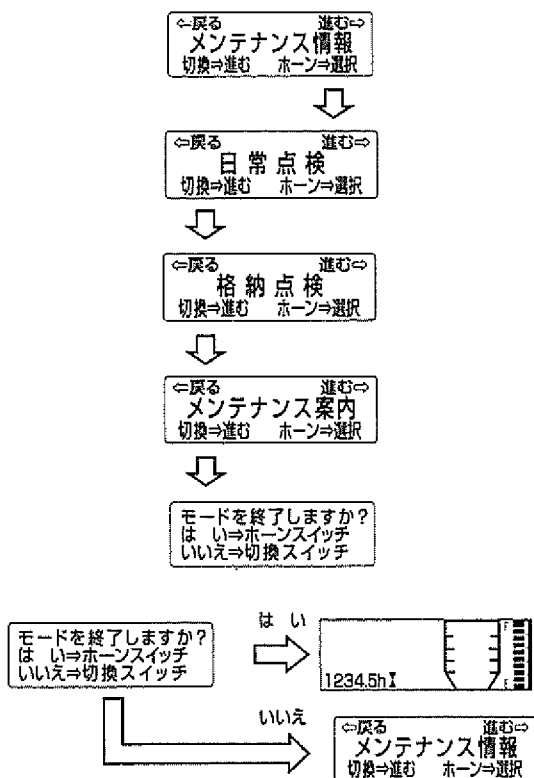
の画面が表示されます。

ホーン・停止スイッチを押すと
通常画面へ戻ります。

表示切換スイッチを押すと
メンテナンス情報画面へ変わります。

または、メインスイッチを「切」にする事
によりメンテナンスモードを終了します。

12. メンテナンスモード



(7) 各案内画面にてホーン・停止スイッチを押すと、各メンテナンスの案内画面が表示されます。

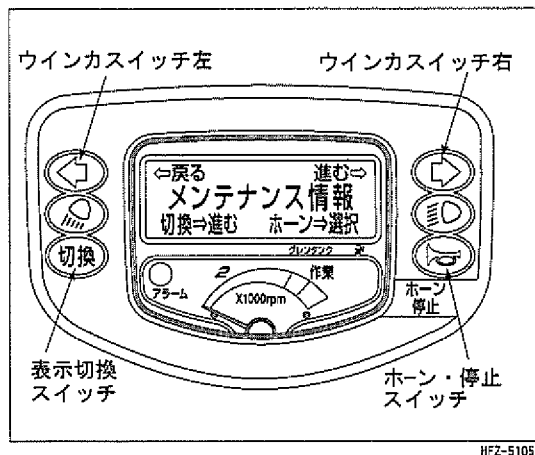
画面表示の切換は

ウインカスイッチ左…… ← 戻る

ウインカスイッチ右…… → 進む

表示切換スイッチ…………… 進む

押すことにより表示変更が出来ます。



HFZ-5105

格納点検の簡易案内を確認することが出来ます。

日常の格納点検 (178ページ)

長期の格納点検 (179ページ)

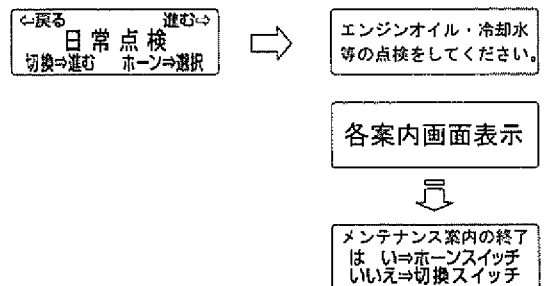
マルチアイでの案内は簡易的な物です。

各メンテナンスの詳細については

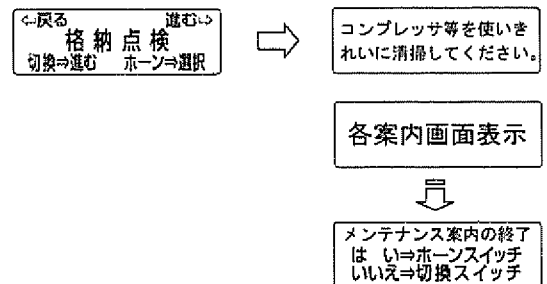
13. 点検整備 (133ページ)

14. 格納時の手入れ (178ページ)

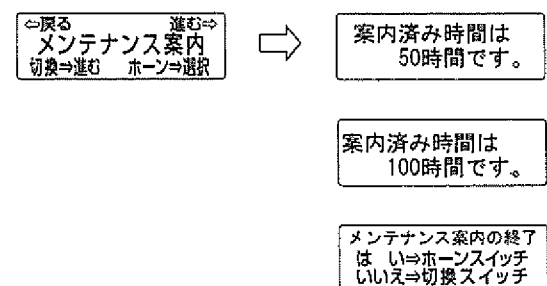
を参照してください。



HFZ-0178



メンテナンス案内では、案内済み時間の確認と次回の定期点検時間の確認が出来ます。



HFZ-0179

12. メンテナンスモード

(8) 各案内画面の最後に、

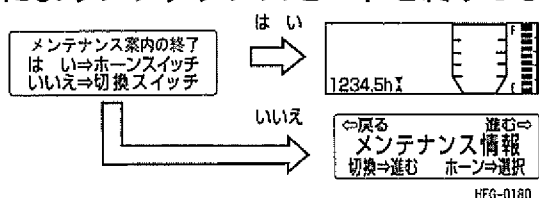
メンテナンス案内の終了
は い⇒ホーンスイッチ
いいえ⇒切換スイッチ

の画面が表示されます。

ホーン・停止スイッチを押すと
通常画面へ戻ります。

表示切換スイッチを押すと
メンテナンス情報画面へ変わります。

または、メインスイッチを「切」にする事
によりメンテナンスモードを終了します。

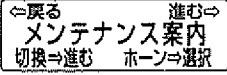


12. メンテナンスモード

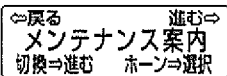
12.5 メンテナンス案内について

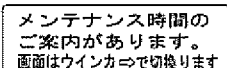
(1) 機能

一般的な各部の定期点検の時間が近くなると、メインスイッチ「入」時に、マルチアイにメンテナンス案内が表示されます。

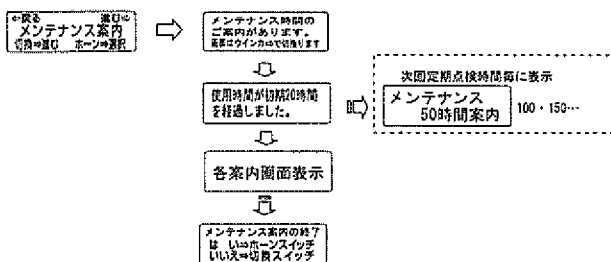
- (2)  の表示は、定期点検時間の5時間前にメインスイッチを「入」にした時に、マルチアイに表示されます。

作業中に、アワメータが点検時間の5時間前に達した場合には、エンジン停止後の次回メインスイッチ「入」時に、マルチアイにメンテナンス案内が表示されます。

- (3)  の画面で、ホーン・停止スイッチを押すと

 の画面に切り替わります。

以降の画面切換は、ウインカスイッチ右を押す毎に画面が切り替わります。



- (4) メンテナンス案内の確認を終了するには、ホーン・停止スイッチを押すと次回点検時間まで表示が出なくなります。
- 表示切換スイッチを押すと次回メインスイッチ「入」時に、再度表示内容の確認が出来ます。
- 定期点検の詳細については
15-2. 点検整備 P133～

13. 各部の開閉について

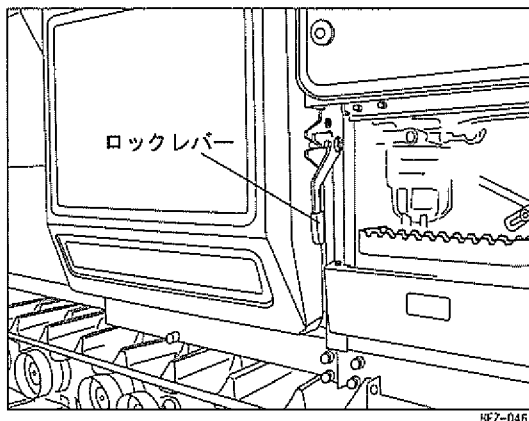
⚠ 警告

- 各部の開閉作業時は、収穫機を平たんな場所に置き、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけ、メインスイッチキーを抜いて、周囲の安全を確認してから行ってください。
※守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 開けたカバーは必ず閉めてください。
※守らないと、巻きこまれ、挟まれ等、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

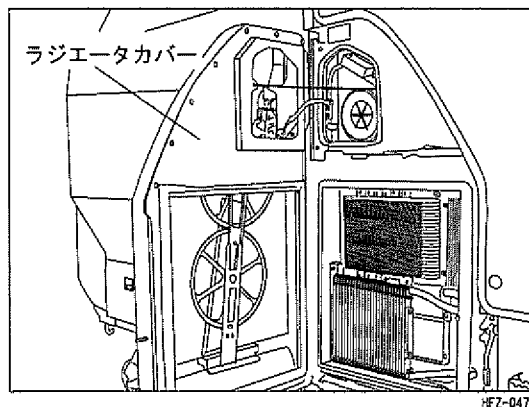
13-1.1 ラジエータカバー

◆開けかた

- [1] ロックレバーを手前に引きます。



- [2] ゆっくりラジエータカバーを開きます。



◆閉じかた

- [1] ゆっくりラジエータカバーを閉めます。

⚠ 警告

- ロックが確実にかけたことを確認してください。
※守らないと、走行中にカバーが開いて、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

13-1.2 オイルクーラ

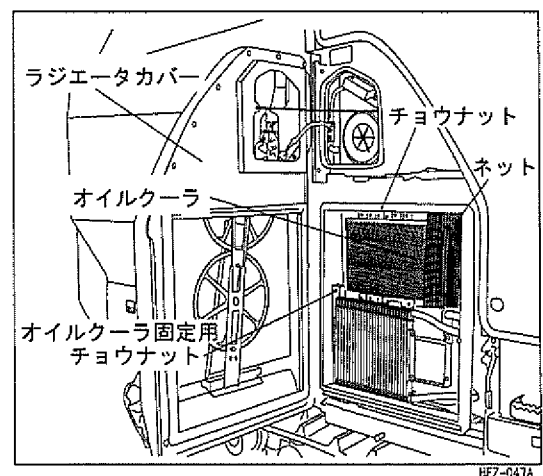
◆開けかた

- [1] ラジエータカバーを開けます。

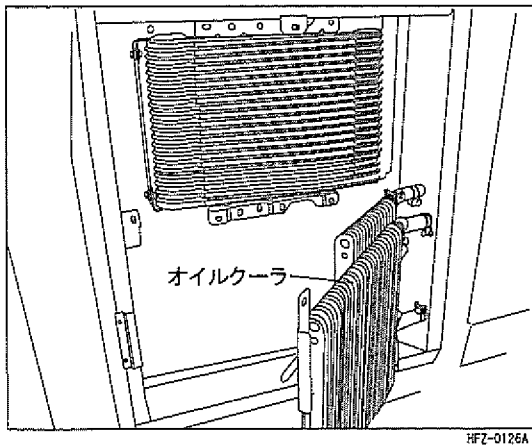
- [2] チョウナット（1ケ）をはずし、ネットをはずします。

- [3] オイルクーラ固定用チョウナット（1ケ）をはずします。

- [4] オイルクーラを開けます。



13. 各部の開閉について

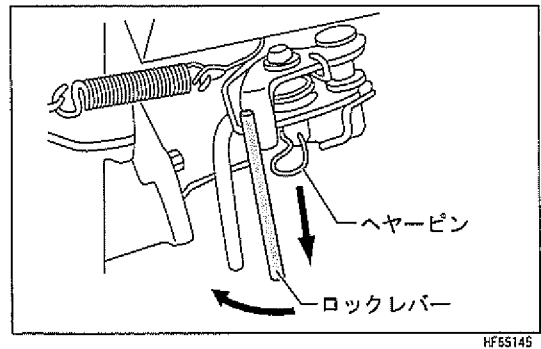
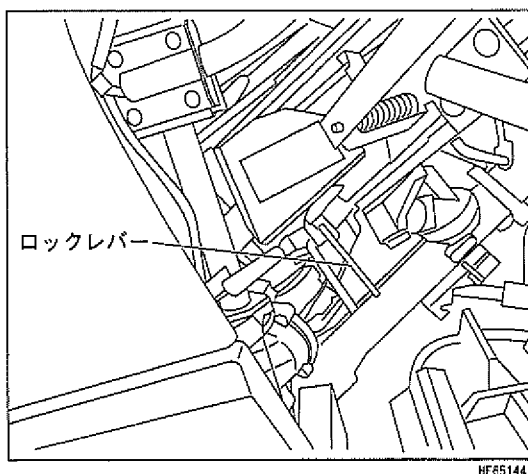


◆閉じかた

- [1] オイルクーラを閉じます。
- [2] オイルクーラ固定用チョウナット（1ケ）を締め付けます。
- [3] ネットを取り付けます。チョウナット（1ケ）にて固定します。
- [4] ラジエータカバーを閉じます。

13-1.3 搬送チェンレール

- (1) 「ヘヤーピン」を矢印の方向に抜きます。
- (2) 「ロックレバー」を矢印の方向に引いて、ロックを解除し、「ロックレバー」を持ったままチェンレールを開けます。
- (3) 閉じる時は、逆の手順で行います。



《参考》

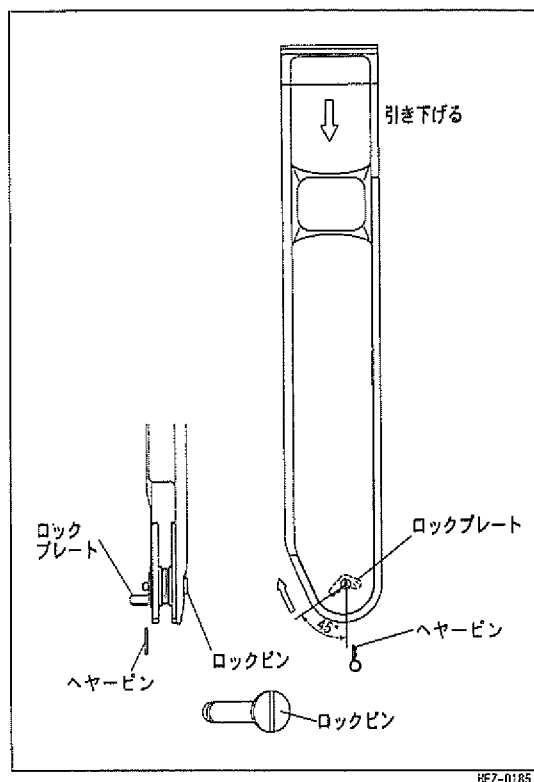
- 閉じる時は、「ロックレバー」を確実にロックしてください。
- 「ヘヤーピン」は必ずもとの位置に差し込んでください。

13-1.4 引起しカバー

◆開けかた

- [1] ロックピンの溝を上下方向にして、引起しケース裏側のヘヤーピンを抜きます。
- [2] 引起しケース裏側のロックプレートを矢印方向に回します。
 - 次図は引起しケース（R）側を示しています。引起しケース（L）側は図が反対になります。
- [3] ロックピンを抜きます。
- [4] 引起しカバーを矢印方向に引き下げて取り外します。

13. 各部の開閉について



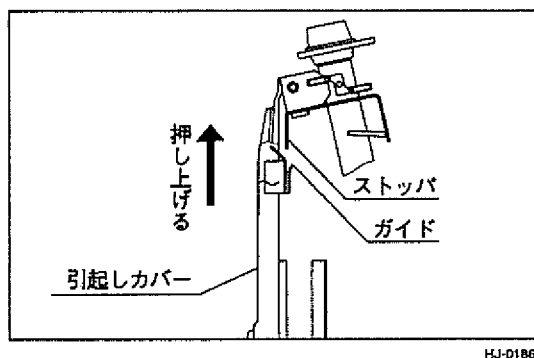
HFZ-0185

◆閉じかた

- [1] カバー裏面のガイドをストッパに差し込み、カバーを押し上げます。

《参考》

- カバーを手前や左右に引いて、ガタがないことを確認してください。



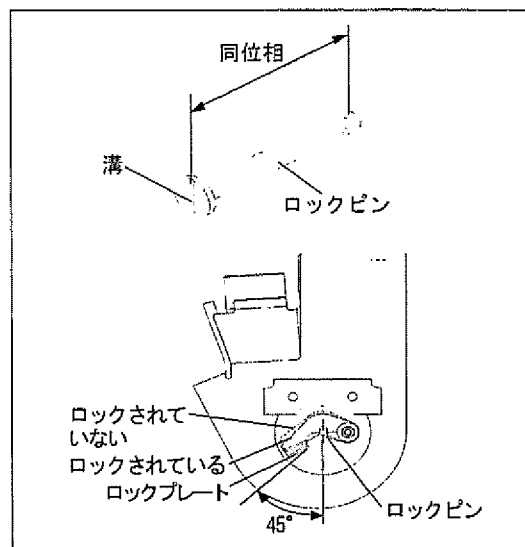
HJ-0186

- [2] ロックピンの溝を、上下方向にしてロックピンを差し込み、ロックプレートを約45°回して確実にロックします。

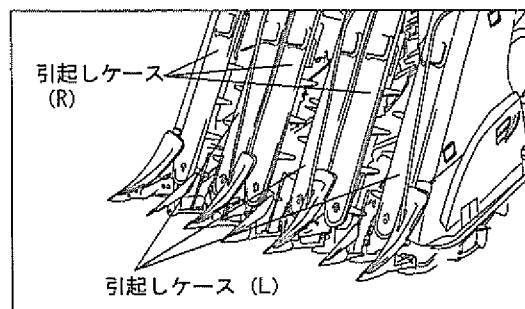
《参考》

- ロックピンが確実にロックされていることを確認してください。

- 次図は引きしケース (L) 側の裏面を示しています。引きしケース (R) 側は図が反対になります



HFZ-0187

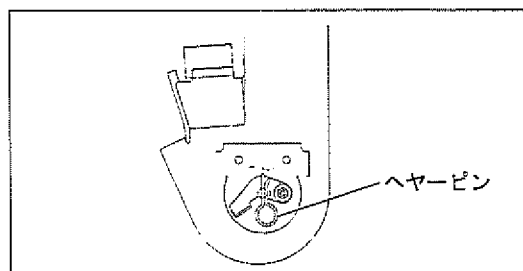


HFZ-0188

- [3] ヘヤーピンを差し込みます。

《参考》

- ヘヤーピンは確実に差し込んでいるか確認してください。
- ヘヤーピンの向きに注意してください。



HFZ-0189

13. 各部の開閉について

13-1.5 刈取部

▲ 警告

- 傾斜地では開閉操作をしないでください。
※守らないと、傷害事故を引き起こす原因となります。
- 刈取部をオープンしたまま、走行しないでください。
※守らないと、傷害事故を引き起こす原因となります。
- 刈取部を上げたまま作業するときはジャッキなどで支え、刈取部が落下しないようにしてください。
※守らないと、傷害事故を引き起こす原因となります。

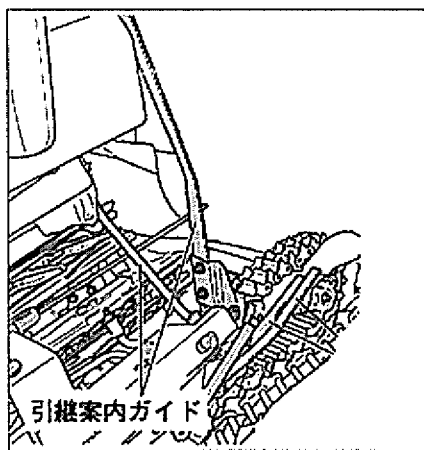
◆開けた

《参考》

- 地面が硬く水平で、凸凹の少ない場所で開けてください。
- はずすすべてのボルトに赤色でマーキングしてあります。
- 車高を最下げにして開閉操作をしてください。

(1) 引継案内ガイドを、次の手順で起こします。

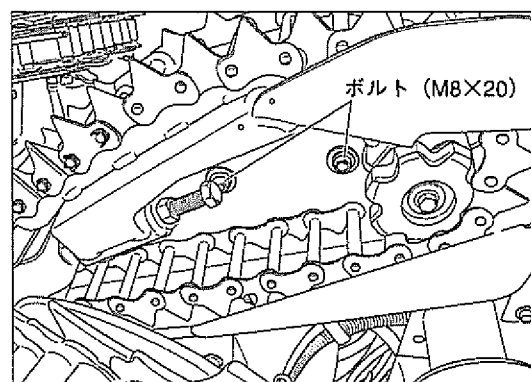
[1] 引継案内ガイドを前方に起こします。



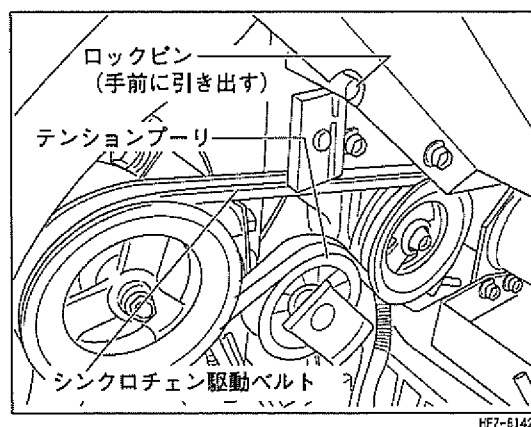
(2) シンクロチェンを、次の手順で上に起こします。

[1] フィードチェンをオープンします。

[2] シンクロチェン固定ボルト (M8×20、2本) をはずし、シンクロチェン前方を上を持ち上げ、ロックピンで固定します。



(3) シンクロチェン駆動ベルトを、テンションプーリーを下に押し下げながらはずします。フィードチェンを閉じます。

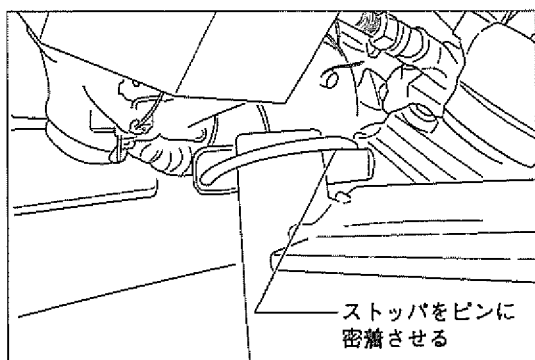


13. 各部の開閉について

- (4) [1] 同梱品のキャストとピンを準備します。
 [2] エンジンを始動して刈取部を上げ、キャストを刈取部の下、左右2カ所にピンで固定します。

《参考》

- ストッパをピンに密着する方向に倒してください。

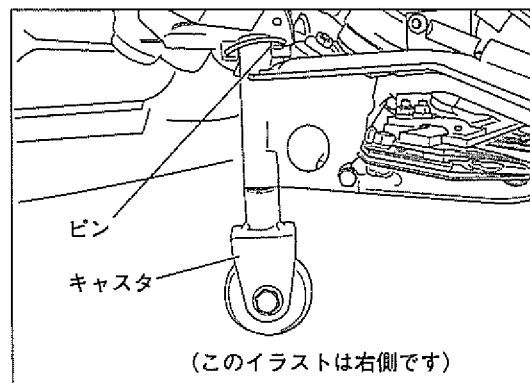


HJ-0087

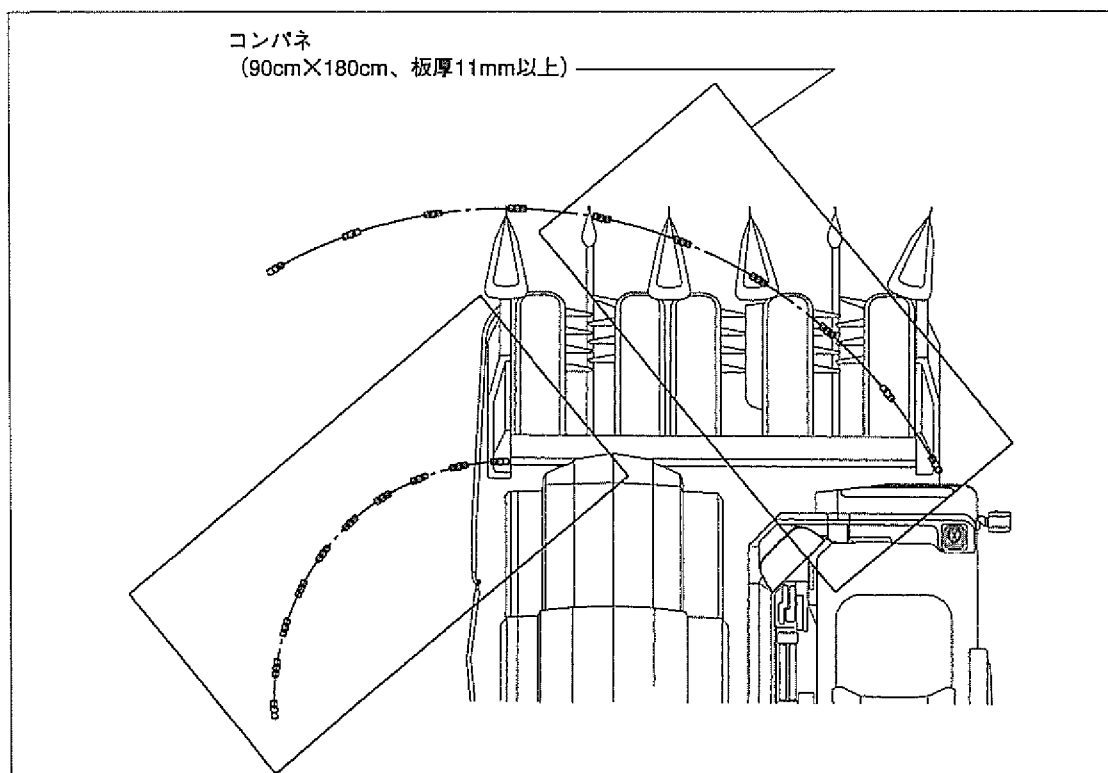
- [3] 刈取部を下げ、地面に完全に接地させ、エンジンを停止します。

《参考》

- 地面が軟弱な場所や凸凹のある場所で開ける場合は、刈取部の下にキャストの軌跡に合わせてコンパネを敷いてください。



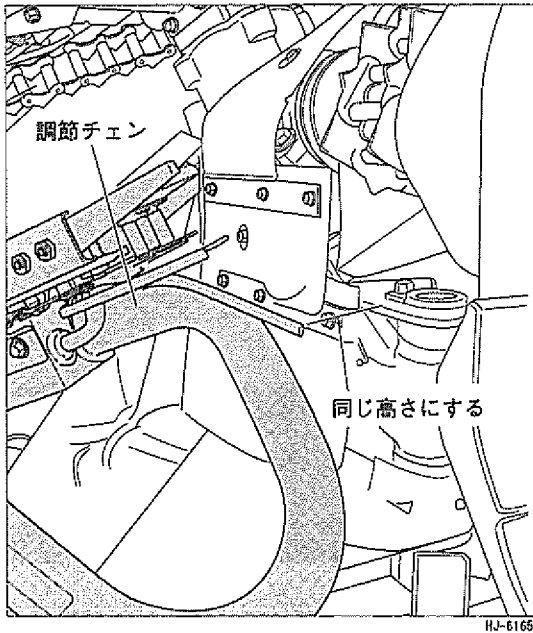
HJ-6165



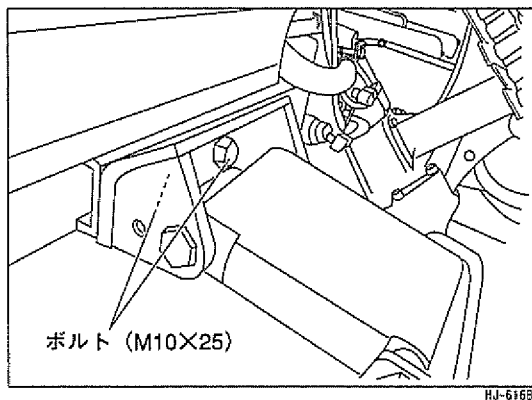
HJ-6162

13. 各部の開閉について

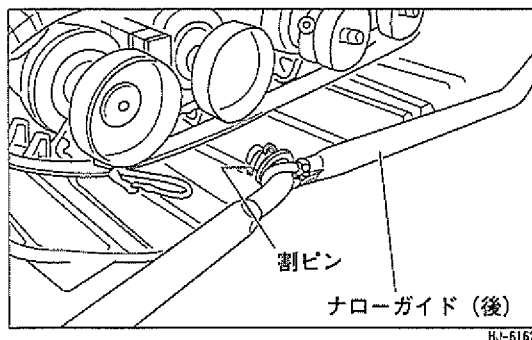
- (5) メインスイッチを「入」にして、こぎ深さ調節スイッチ (71ページ) を押して、調節チェンを中間位置にした後、メインスイッチを切ります。



- (6) 操作席前下の振れ止めリンクを走行フレームより切り離します。(M10、2本)



- (7) ナローガイド (後) を切り離します。
(割ピン: 1本)

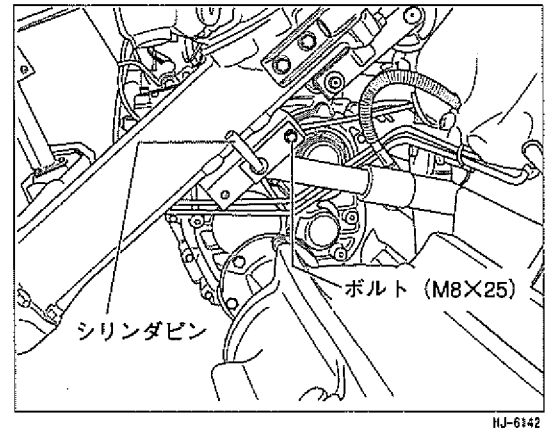


- (8) 刈取上下シリンダピン固定ボルト (M8×

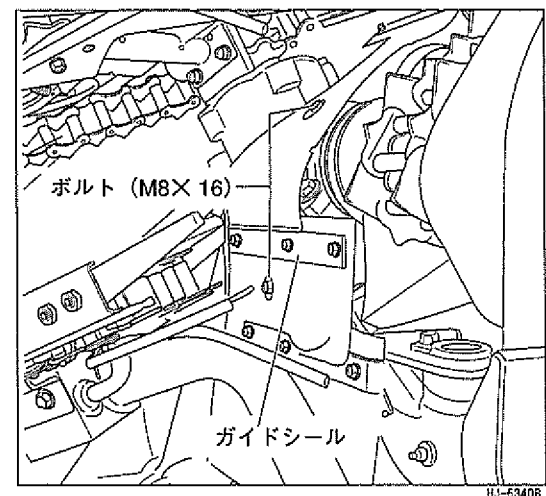
25、1本) をはずし、シリンダピンを抜きます。

《参考》

- 刈取部が完全に地面に接地していないと、シリンダピンが抜けにくくなります。

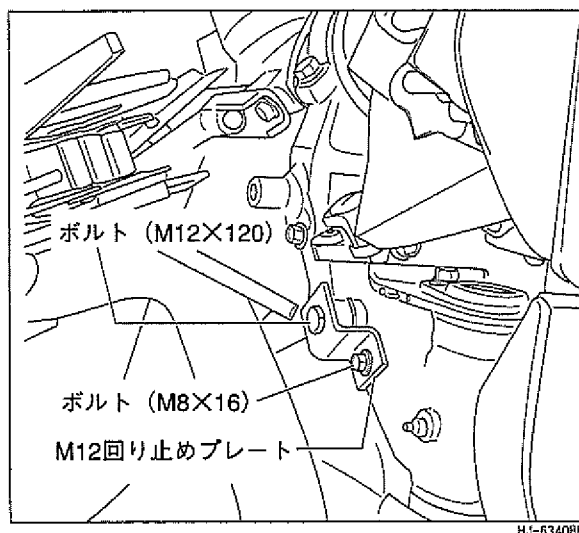


- (9) オープン支点前のガイドシールをはずします。(M8×16: 2本)



13. 各部の開閉について

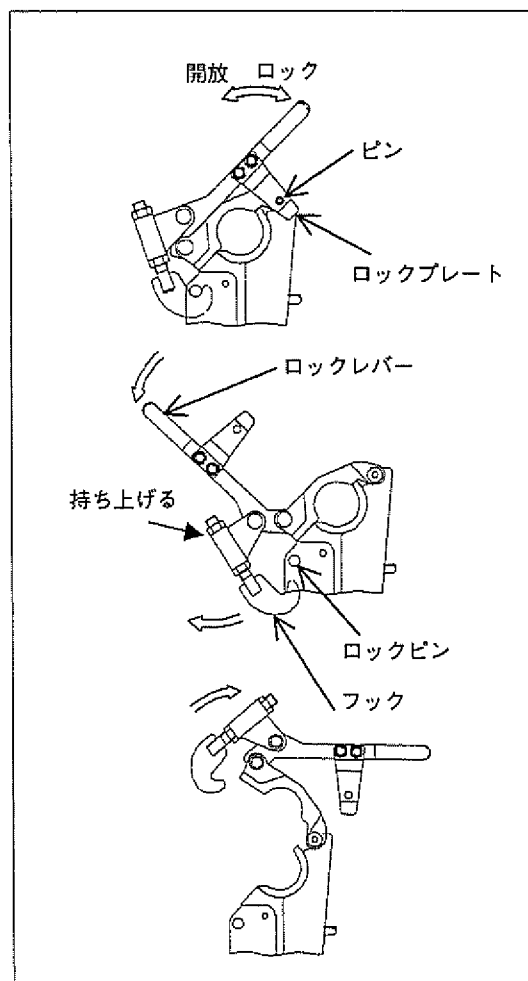
- (10) [1] オープン支点横のM12 2 回り止めプレートをはずします。(M8×16、1 本)
 [2] オープンロックボルトをはずします。(M12×120: 1 本)



HJ-634088

- (11) 操作席より、刈取上下支点のワンタッチロック装置を解除します。

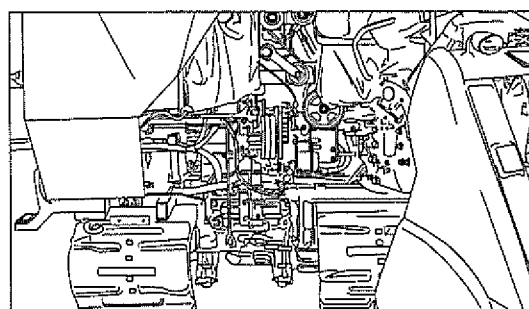
- [1] ロックプレートを持ち上げ、ピンとの係合をはずしながら、ロックレバーを機体前方に起こします。
 [2] フックがロックピンより自然にはずれます。
 [3] フックの根元をロックピンにかからないように持ち上げながら後方へ倒します。



HJ-0188A

- (12) [1] 刈取部右側の分草杆を持ち、ゆっくりとオープンします。地面次第で約 90° 開きます。

- [2] 刈取入力ベルトが自然にはずれます。

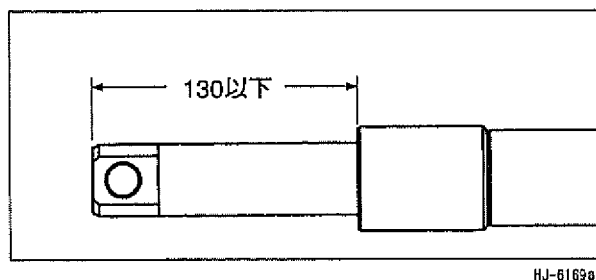


HJ-0171

13. 各部の開閉について

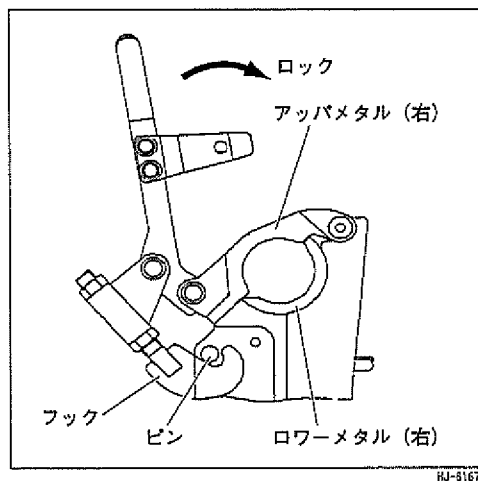
◆閉じかた

- (1) 刈取上下シリンダのピストンの出代が下図の寸法になっているか、確認します。ピストンが伸びている場合は、エンジンを始動し、駐車ブレーキをかけ、パワーステアリングレバーを機体前方（刈取部下げ側）に倒しながら、ピストンの先を手で押し込みます。

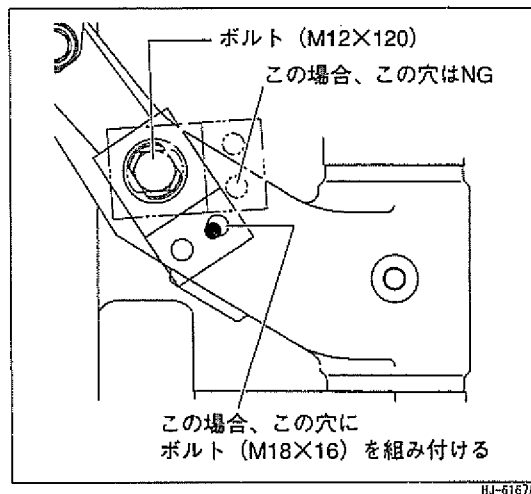


- (2) 刈取部を閉めます。

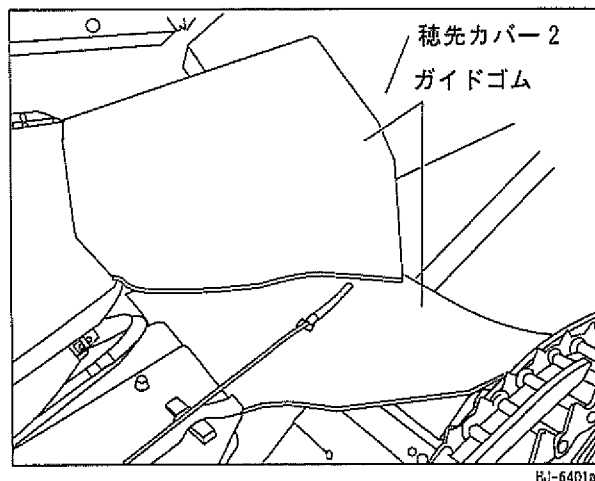
- [1] アップメタル（右）が開いている事を確認します。
- [2] 刈取部右側の分草杆を持ち、ゆっくりと閉め、ローメタル（下図）に刈取上下支点軸を乗せます。この時、刈取部を閉めきる前に、刈取入力ベルトを刈取入力プーリに巻きかけます。
- [3] 操作席より刈取上下支点軸のワンタッチロック装置のフックがロックピンにかかるまでロックレバーを前方へ倒し、ロックレバーをロック位置に戻します。フックがロックピンにかかっている事を確認してください。



- (3) [1] オープンロックボルト（M12×120）を約79.4N・m（810kgf・cm）で締め付けます。
- [2] M12回り止めプレート（取付穴をM12ボルトを増し締めしながら合わせます。（プレートの小判穴の組み付けの位相を変えることで、増し締め量が少なくなるように2つの穴のいずれかを選びます。）
- [3] ボルト（M8×16）を締め付けます。



- (4) [1] 開けかたの手順1～9と逆の手順で各部品を組み戻します。
- [2] 最後に刈取引継ぎ部のガイドゴムを穂先カバー2の上に引き出してください。



20-2 添加器の作業方法

このホールクロップ用添加器は、乳酸菌や酵素をロールに添加するためのものです、ほかの目的で使用しないでください。

13-2.1 仕様

[1] モーター

電圧 DC 12 V

電流 5 A

[2] ポンプ

型式 ダイアフラムポンプ

[3] タンク容量

20 L

[4] コントローラ

ダイヤル式

[5] 散布量

大量ノズル 1.0 ~ 3.1 ㍓/分

中量ノズル 0.5 ~ 1.1 ㍓/分

小量ノズル 0.2 ~ 0.4 ㍓/分

[6] ノズルボデー

液ダレ防止弁付き

[7] ヒューズ

10 A 管ヒューズ

13-2.2 作業方法

[1] 添加量の目安 (P. 118) を参考にして、実際の添加量に合わせてノズルチップ及びキャップを選択してください。

[2] コントローラのノズル選定スイッチを選択したノズルチップに合わせてA、Bいずれかにセットしてください。

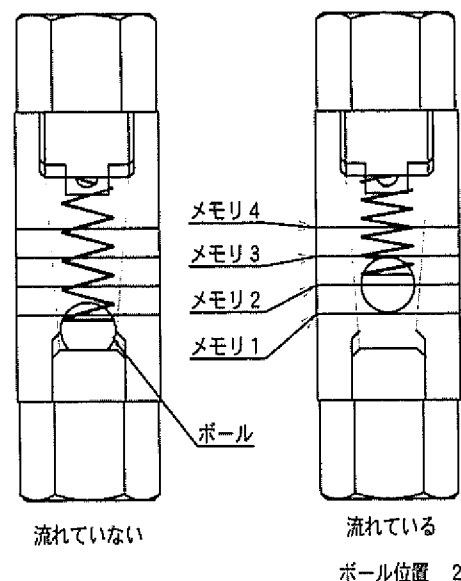
[3] コントローラの電源をONにしてください。

[4] 目安表を参考にしてダイヤルを合わせてください。

[5] 刈り取りをはじめ作物がフィードチェーンの後方におくられると穂先センサーのスイッチが入り添加されます。作物がなくなればスイッチが切れ、自動的に添加がストップします。

《重要》

- スイッチが切れてもすぐにストップしません。
- 本機にはウォーターシグナルが付いており添加剤が流れているか、ボールの位置で流量がわかる様になっています。
(目安としてください。)



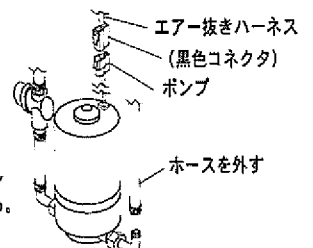
ボールの位置 (メモリ)	2	3	4
散布量(リットル/分)	0.4	0.7	1.0

- タンクの残量が少なくなるとシグナルに泡が流れます、その時はすぐに添加剤を補給するか、添加器の電源を切ってください。(無水で運転するとポンプ、モーターの故障の原因になります)
- ホース内にエアが入ると水が出ない事があります。図のようにエア抜きを行ってください。

● エア抜きの手順

タンクが空になりホースにエアが入った場合、下記の手順にしたがい、エア抜きをしてください。

- ① エンジン停止
- ② ホースを外す。
- ③ キースイッチを入れ、ポンプのハーネスをエア抜きハーネス (黒色コネクタ) に接続する。
- ④ エアが抜けたらホースを元に戻しノズルから水が出ることを確認する。
- ⑤ ハーネスを元に戻す。



追加器の作業方法

13-2.3 添加量の目安

ノズル 選定	ノズルチップ No.	ノズルキャップ No.	添加量範囲 (%分)	添加量調節目盛									
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
A	T11010	T25610	1.0～3.1			1.0			2.0				3.1
B	T11003	T25612	0.5～1.1		0.5			1.0			1.1		
B	T11001	T25612	0.2～0.4	0.2		0.3		0.4					

《重要》

1. 清水での添加量の目安です。添加剤の種類により添加量が変わることがあります。確認してから作業してください。
2. コントローラの日盛は表の設定を超えても流量は増えず、ポンプに過負荷となります。
3. 目盛が小さいとポンプが動かない場合があります。散布量の多いノズルを使用するか散布する液の濃度を薄くして散布量を多くしてください。

13-2.4 不調診断

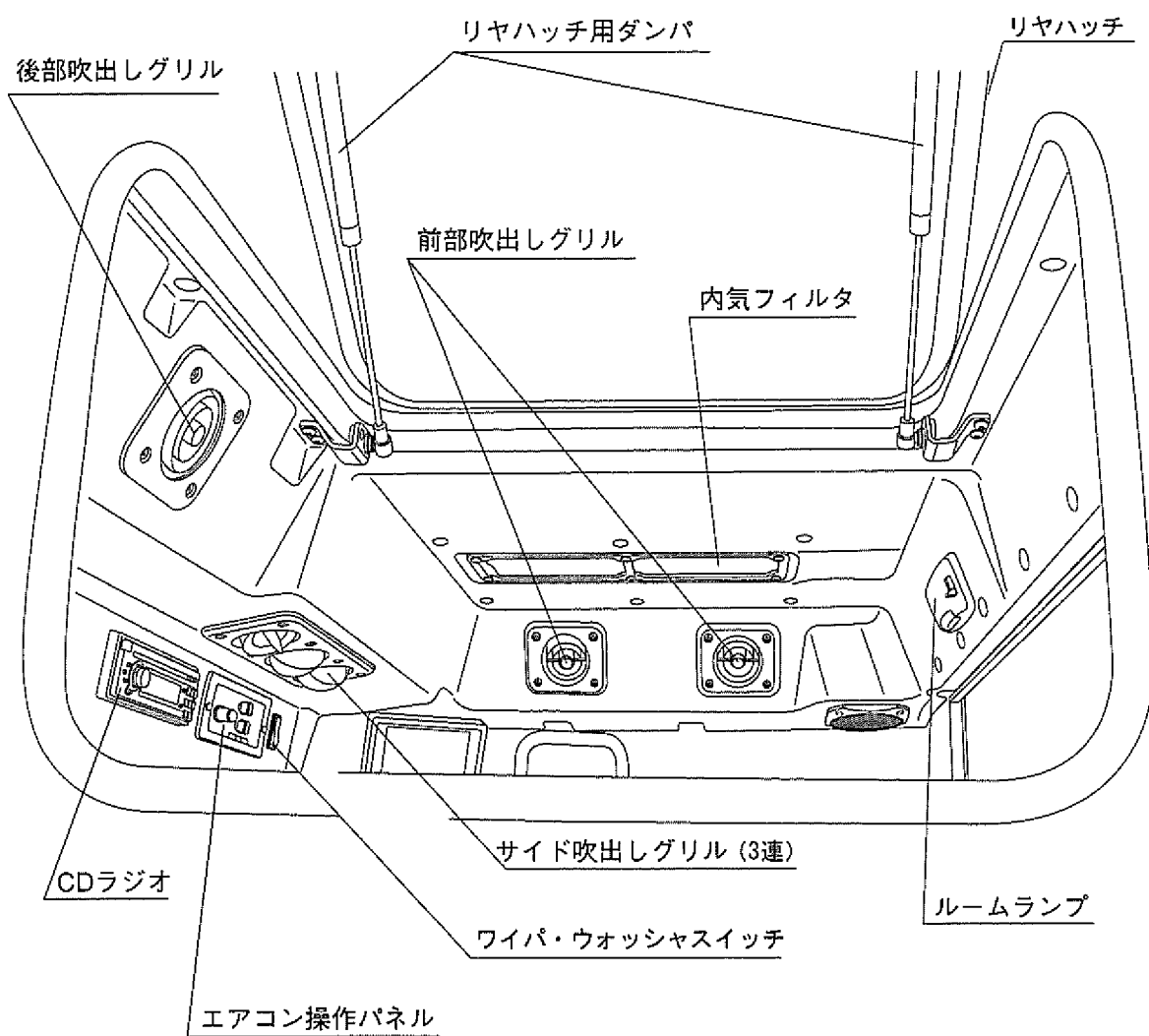
不 調 内 容	診 断	処 置
●水が出ない モーターが回る。	●ノズルのつまり。 ●ホース内にゼリー状物質が詰まっている。 ●サクシヨンフィルターの詰り ●ホース内にエアが入った	●ノズルを分解洗浄する。 ●ノズルのチップをはずして流し出す。 ●分解して洗浄する。 ●ノズル横のキャップを緩めエア抜きをする。
●水がでない モーターが回らない。	●ダイヤルの目盛が小さい ●配線が抜けている。 ●ヒューズが切れている。 ●モーター故障	●ノズルを変更する。 ●散布液の濃度を薄くする。 ●配線をチェック修正する。 ●ヒューズを交換する。 ●モーター交換
●水は出るが、噴霧状態が正常でない。	●サクシヨンフィルター、ノズルチップの部分的な詰まり ●溶液中に不純物が混ざっている。 ●ポンプ、調圧弁、循環ホース内にゼリー状物質が詰まっている。 ●ポンプの故障 ●ホース内にエアが入った	●分解して洗浄する。 ●不純物を取り除く。 ●分解洗浄する。 ●ポンプ交換 ●ノズル横のキャップを緩めエア抜きをする。

13-2. 5 メンテナンス

- 長期間使用しないときは、タンク、ポンプ、ストレーナー、ウォーターシグナル、内を清水で掃除をし、寒冷地では必ず水抜きをしてください。しないと故障、破損の原因になります。

14. キャビンについて

14.1 各部の名称



HC-0065

14. キャビンについて

14.2 各部の使い方

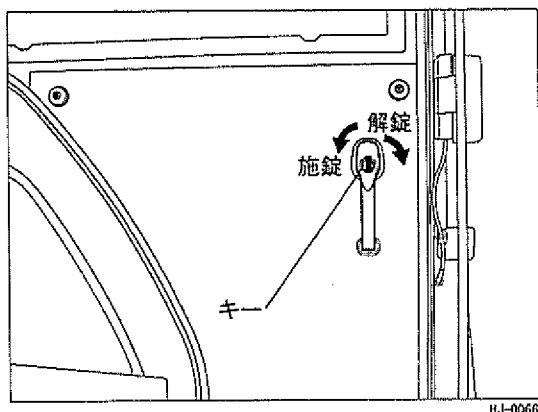
14.2.1 ドアの施錠・開錠

◆施錠

キーを差し込み、左方向に90°回すと施錠します。キーは水平位置のままで抜きます。

◆解錠

キーを差し込み、右方向に90°回すと解錠します。キーは垂直位置のままで抜きます。



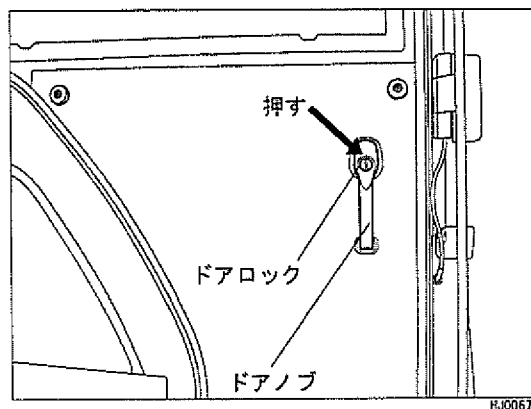
14.2.2 ドアの開けかた

▲ 注意

- ドアを開けたままで走行や作業をしないでください。
※守らないと、傷害事故やドア破損などを引き起こすおそれがあります。
- ドアを閉めるときは、手などを挟まないよう注意してください。
※守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 乗降時にドア開閉用ダンパに荷重をかけないでください。
※守らないと、ダンパが変形しドア破損などを引き起こすおそれがあります。

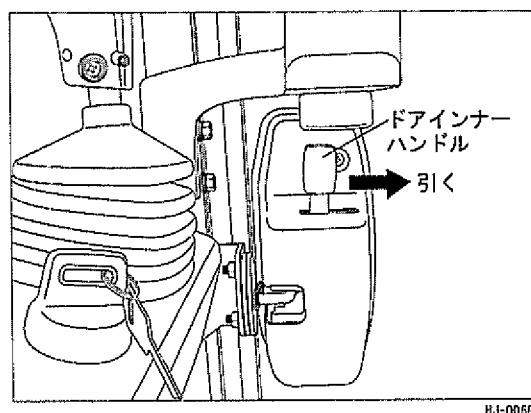
◆車外からの開けかた

ドアロックを解錠して押し込み、ドアノブを引いて開けます。



◆車内からの開けかた

ドアインナーハンドルを手前に引いて開けます。



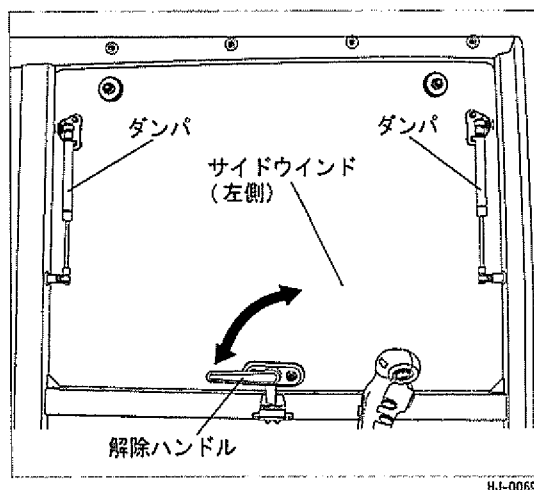
14. キャビンについて

14.2.3 サイドウインド（左側）

！ 注意

- サイドウインドを開いたままで走行や作業をしないでください。
※守らないと、傷害事故やサイドウインド破損などを引き起こすおそれがあります。
- サイドウインドを閉めるときは、手などを挟まないよう注意してください。
※守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 解除ハンドルをロック位置のままサイドウインドを閉めないでください。
※守らないと、解除ハンドル破損やサイドウインド破損などを引き起こすおそれがあります。

- (1) 解除ハンドル部を持ち90° 回転してロックを解除します。
- (2) サイドウインドを少し押し出すとダンパの作用によって自動的に開きます。
- (3) 閉めるときはハンドルを解除した状態でロックが確実にできる所まで手前に引き90° 回転してロックしてください。



HJ-0069

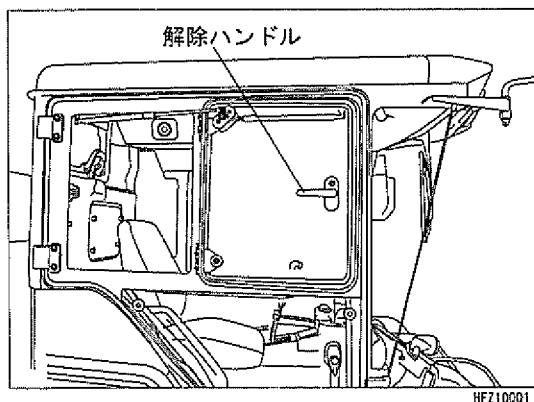
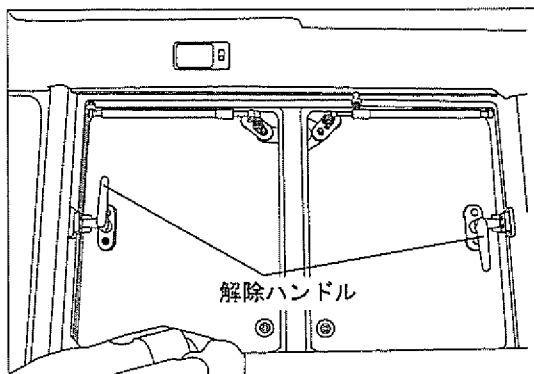
14.2.4 サイドウインド（ドア側）

！ 注意

- サイドウインドを開けるときは、周囲の状況を確認してください。
※守らないと、ウインドの破損・傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- サイドウインドを開いたままで走行や作業をしないでください。
※守らないと、思わぬ事故やサイドウインド破損などを引き起こすおそれがあります。
- サイドウインドを閉めるときは、手などを挟まないよう注意してください。
※守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 解除ハンドルをロック位置のままサイドウインドを閉めないでください。
※守らないと、解除ハンドル破損などを引き起こすおそれがあります。
- ドアを開閉するときは、サイドウインドを閉じた状態で操作してください。
※守らないと、サイドウインド破損などを引き起こすおそれがあります。

- (1) 解除ハンドル部を持ち90° 回転してロックを解除します。
- (2) サイドウインドを少し押し出すとダンパの作用によって自動的に開きます。
- (3) 閉めるときは、ハンドルを解除した状態でロックが確実にできる所まで、手前に引き90° 回転してロックしてください

14. キャビンについて

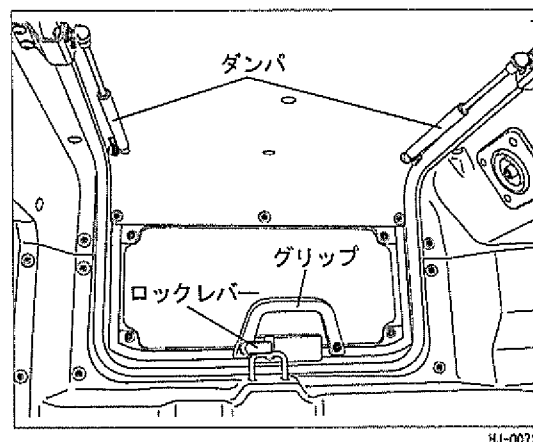


14.2.5 リヤハッチ

⚠ 注意

- リヤハッチを閉めるときは、手などを挟まないよう注意してください。
※守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- リヤハッチを開いたままで走行や作業をしないでください。
※守らないと、リヤハッチ破損などを引き起こすおそれがあります。

- (1) ロックレバーを持ち上げロックを解除します。
リヤハッチを少し押し出すとダンパの作用によって自動的に開きます。



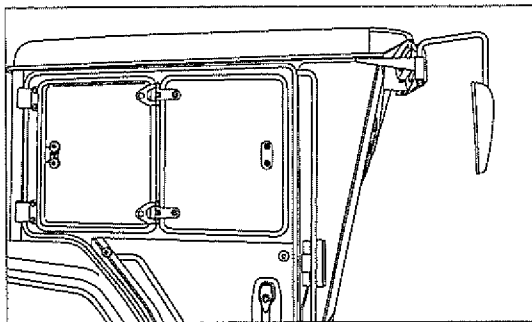
- (2) 閉めるときはグリップを持ちリヤハッチを静かに引き下げ確実にロックしてください

14. キャビンについて

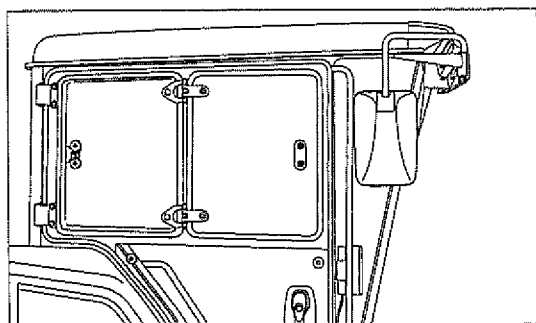
14.2.6 バックミラー

バックミラーは上下、左右に角度調整できますので運転席に座って見やすい位置に調節してください。

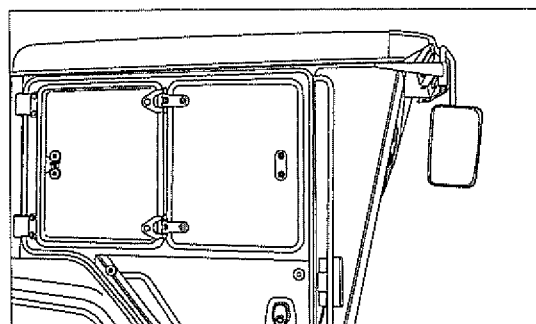
狭い所へコンバインを格納する場合には、バックミラーが接触しないように前方または後方へ倒すことができます。



HFZ-0074



HFZ-0075



HFZ-0076

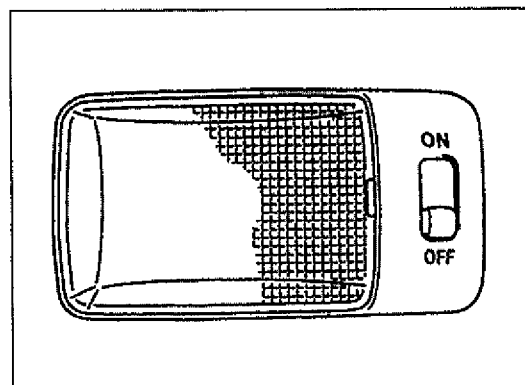
14.2.7 ルームランプ

スイッチの位置により点灯状態が次のようになります。

「OFF」位置：常時消灯

「中立」位置：ドアを開けたとき、点灯
ドアを閉めると、消灯

「ON」位置：常時点灯



HJ-0076

《参考》

- 作業終了後、バッテリー上がり防止のためルームランプの消灯を確認してください。

14.2.8 作業灯

◆作業灯スイッチ

メインスイッチ「入」の位置でコンビネーションメータを操作すると下表の示すように点灯、消灯します。

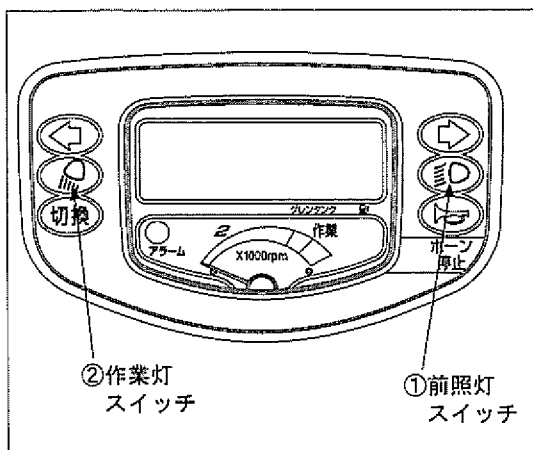
	コンビネーションメータ	前照灯	刈取作業灯	キャビン上部作業灯
操作無し	○	—	—	—
①	○	○	—	—
②	○	○	○	○

○：点灯 —：消灯

《参考》

- 作業終了後、バッテリー上がり防止のため前照灯及び作業灯の消灯を確認してください。

14. キャビンについて



HFZ-0077

14.2.9 ワイパ・ウォッシャ

⚠ 注意

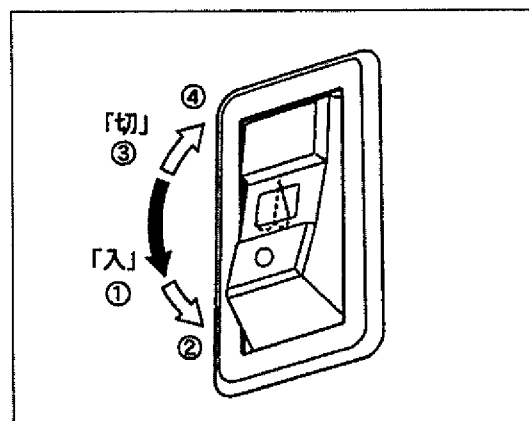
- エンジンを停止したまま、ワイパを長時間使用しないでください。
※守らないと、バッテリー容量が低下し、エンジンの始動ができなくなります。
- ウォッシャタンクにウォッシャ液が入っていない状態で使用しないでください。
※守らないと、ウォッシャモータの故障の原因になります。
- ワイパはウォッシャ液を噴出させてから使用してください。
※守らないと、カラふきとなりガラスに傷をつけます。
- 寒冷時、ワイパブレードが凍結した場合、そのままワイパを作業させないでください。
※守らないと、故障の原因になります。

使用するときはメインスイッチキーを「ON」にしてください。

- ①「入」……スイッチを下側に押すとワイパが作動します。
- ②……「入」の位置からさらにスイッチを下方に押し込むと、ワイパが作動しながらウォッシャ液が噴出します。

③「切」……作動で停止します。

④……「切」の位置からさらにスイッチを上方に押し込むと、ウォッシャ液が噴出します。



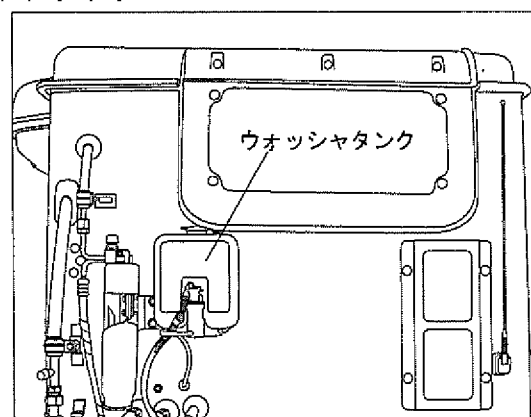
HJ-0078

14.2.10 ウォッシャタンク

⚠ 注意

- ウォッシャ液の点検・補充をするときは、必ずエンジンを停止し、メインスイッチキーを抜いて行ってください。
※守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

ウォッシャタンクは、キャビンフレーム後面にあります。



HFZ-0079

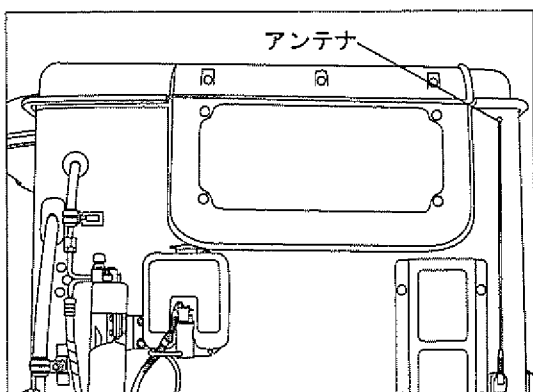
14. キャビンについて

14.2.1.1 CDラジオ

⚠ 注意

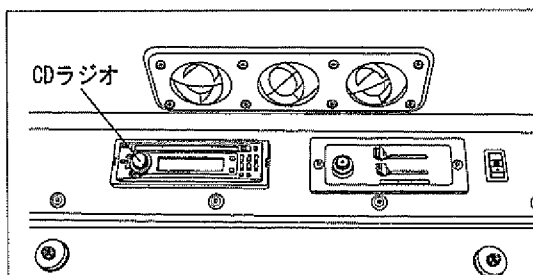
- 本機に機体カバーなどをかけるときは、アンテナを縮めキャビン側に倒してください。

※守らないと、アンテナの破損につながります。

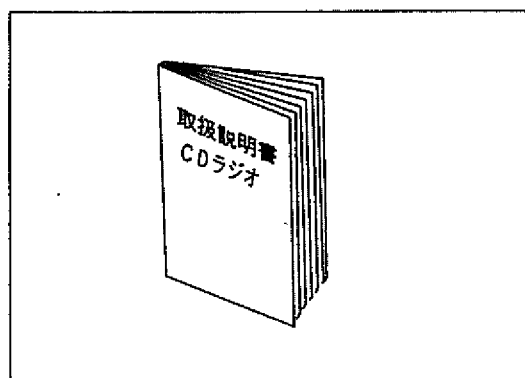


- CDを使用しないときは、CDを抜き取ってください。

※そのまま放置すると、野外に日中放置しているときなどキャビン内が高温になりCDが変形するなどし、故障の原因になります。



- (1) 詳細は添付の取扱説明書を参照してください。



HJ-0080

◆故障・修理の問い合わせ

このCDラジオが故障した場合、下記メーカーにもご相談いただけます。

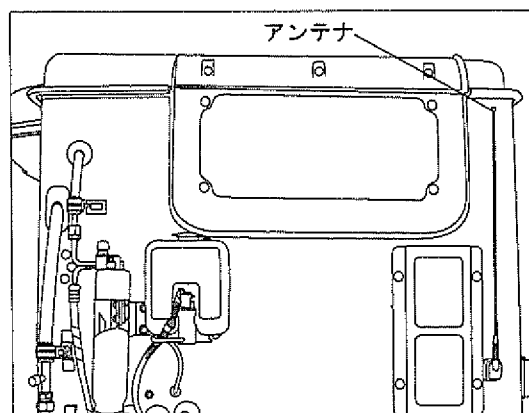
(株)日立オートパーツ&サービス
総合サービスセンター

〒963-0725

福島県郡山市田村町金屋字下夕川原50

TEL. 024-944-1305 FAX. 024-944-1202

- (2) ラジオの受信感度が悪い場合は、アンテナを伸ばして使用してください。



HFZ-0079

14. キャビンについて

14.3 エアコン

⚠ 警告

- 万一、エアコンが故障した場合は、エアコンスイッチを「OFF」にして「お買い上げ先」で点検整備を受けてください。

エアコンの回路内には高圧のガスが充填されていますので、配管部分やコンプレッサ部分をゆるめると、ガスが噴出して危険です。冷媒（ガス）の補充、その他の作業には特殊な工具と計器類が必要です。

※守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 注意

- ヒーターホースに異常を認めたときは速やかに「お買い上げ先」で点検整備を受けてください。

ヒーターホースの異常とは、

- ・ ヒーターホースの傷付き、ひび、ふくらみ
- ・ ヒーターホース接続部からの水漏れ

※守らないと、傷害事故や故障の原因となります。

- ヒーターホースには直接ふれないでください。

※守らないと、傷害事故の原因となります。

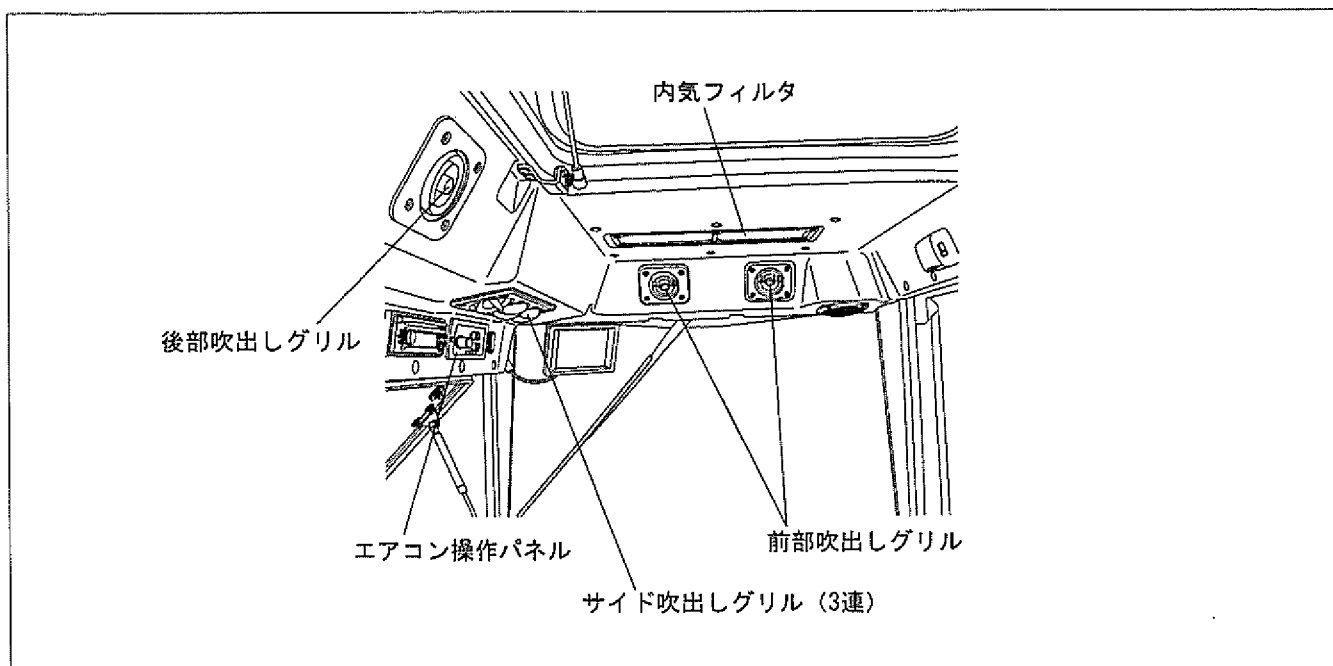
- 機械を長期間使用せず保管される場合は、エアコンのコンプレッサのオイル切れを防ぐため1ヵ月に1度、エンジン回転をアイドリングにてエアコンスイッチを入れて5分以上運転させてください。

※守らないと、エアコン部品が損傷するおそれがあります。

14. キャビンについて

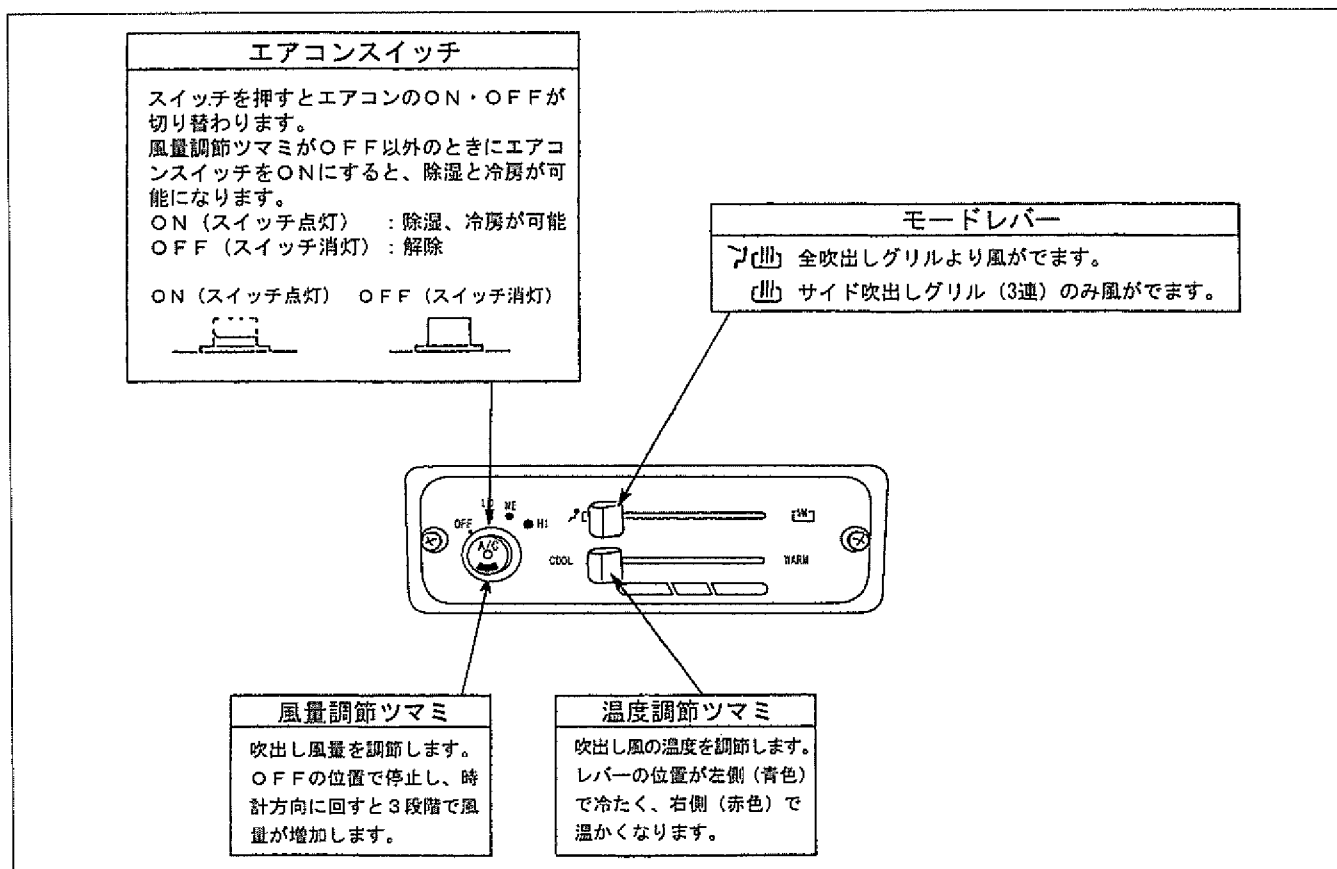
14.3.1 各部の名称

■各操作部の説明



HJ-0082

14.3.2 エアコンの操作パネル



HJ-0083

14. キャビンについて

14.3.3 内外気切換レバー

内外気切換レバーは、キャビン室内後部右側にあります。

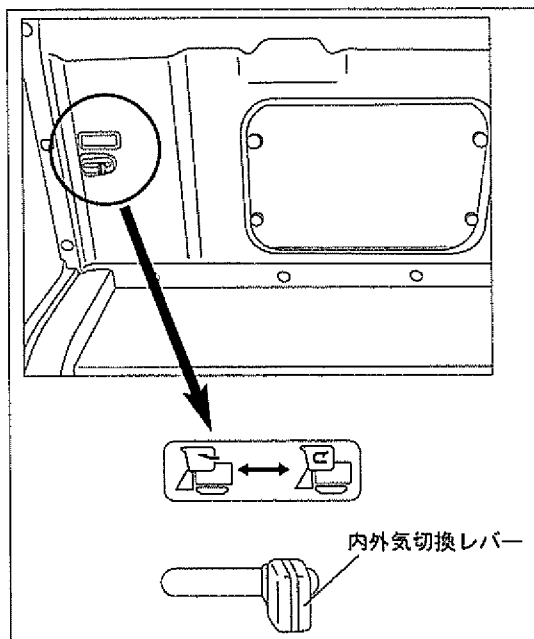
外気導入と内気循環に切り換えることができます。

- (1) 「外気導入」……外気を取り込みながら、冷風・温風を吹き出します。



通常作業時や、ガラスが曇った場合に使用します。

- (2) 「内気循環」……外気を取り入れず、室内の空気を循環させ、冷風・温風を吹き出します。はやく、冷暖房を効かせたいときに使用します。工場出荷時はこの位置になっています。

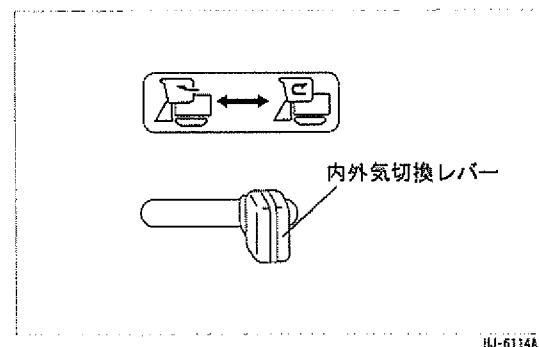


HF2-G114A

14.3.4 エアコンの使いかた

◆冷房および除湿

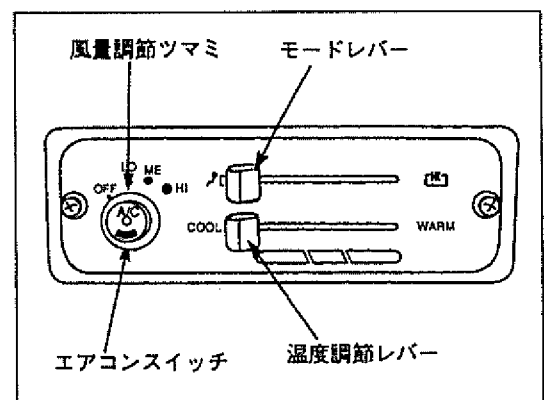
- [1] 内外気切換レバーを「内気循環」にします。
- [2] エアコンスイッチを押し「ON」にします。
- [3] 風量調節ツマミを回し、ファンを作動させます。
- [4] 温度調節レバーを「COOL」側で調節します。
- [5] モードレバーを「」位置にします。
- [6] 適温になったら「外気導入」に切り換えてください。



HJ-G114A

◆暖房

- [1] 内外気切換レバーを「内気循環」にします。
- [2] エアコンスイッチを押し「OFF」にします。
- [3] 風量調節ツマミを回し、ファンを作動させます。
- [4] 温度調節レバーを「WARM」側で調節します。
- [5] モードレバーを「」または「」位置にします。
- [6] 適温になったら「外気導入」に切り換えてください。



HJ-0084

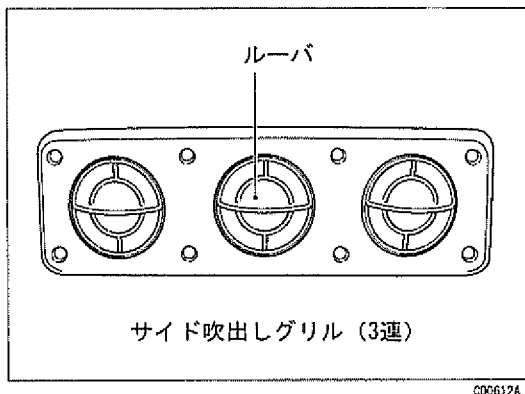
14. キャビンについて

◆除湿暖房

- [1] エアコンスイッチを押し「ON」にします。
- [2] 風量調節ツマミを回し、ファンを作動させます。
- [3] 温度調節レバーを「WARM」側で調節します。
- [4] モードレバーを「」または「」位置にします。

◆デフロスト（曇り除去）

- [1] フロントガラスの曇りを除去するときは内外気切換レバーを「外気導入」にします。
- [2] サイド吹出しグリル（3連）をフロントガラスの方向に向けます。



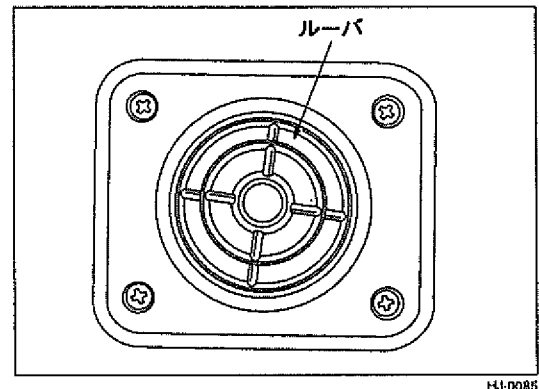
- [3] モードレバーを「」位置にします。
- [4] 風量調節ツマミを回し、「HI」にします。
- [5] 温度調節レバーを「WARM」にします。

《参考》

- 外気温が極端に低いとき、エアコンが作動しない場合がありますが故障ではありません。

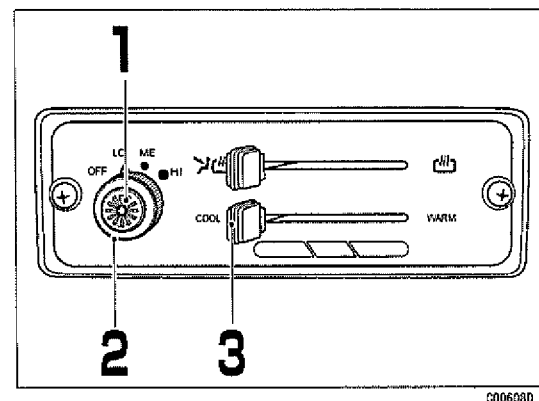
◆風向調節

- [1] 風の向きは、吹出しグリルのルーバの向きにより自由に調節できます。
また、他の吹出しグリルの風量を増したいときにはグリルを閉じることもできます。
- [2] サイド吹出しグリルは、ルーバを横向き、他の吹出しグリルは、中央のツマミを回すことで「閉」に出来ます。



◆エアコンを使用しないとき

- [1] エアコンスイッチ「OFF」にします。
- [2] 風量調節ツマミを「OFF」にします。
- [3] 温度調節レバーを「COOL」にします。

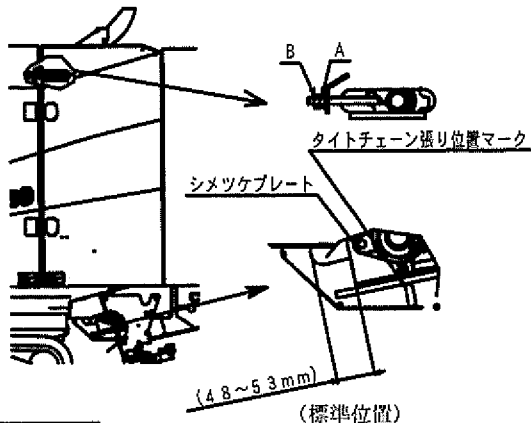


15-1 ロールベアラ部の簡単な手入れと処置

15-1.1 タイチェーンの張り調整

タイチェーンが伸び、シメツケプレートが標準位置より前へ出てきたら、次の要領で調整してください。

- (1) Bのナットをゆるめる
- (2) Aのナットを締め込みシメツケプレートが下図の位置になるように調整



《重要》

チェーン張り調整は、チャンバーを閉じた状態で行ってください。調整後は空回しして、上図のようになっているかを確認してください。

15-1.2 シェアボルトの交換

各部に過負荷がかかったときボルトがせん断され、本機の損傷を防止します。

◆シェアボルトのサイズ及場所
P 43 を参照してください。

◆シェアボルトの交換

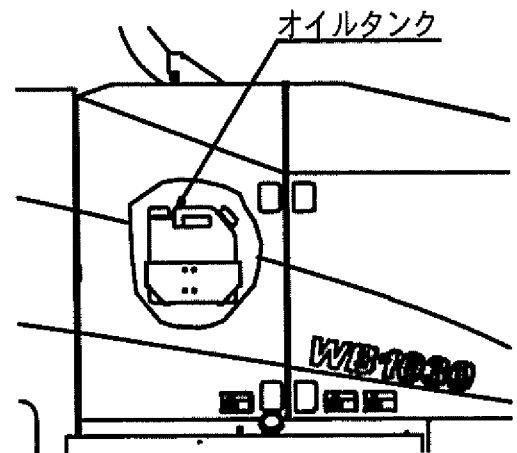
- [1] カバーを外します。
- [2] せん断されたボルトを除去します。
- [3] スプロケットを回し、ボルト穴が通る位置にします。
- [4] ボルトを入れ、ナイロンナットで締付けます。
- [5] カバーを取付けます。

15-1.3 自動注油

タイチェーンには、ロールの放出後チャンバーを閉めると、6 秒間自動注油されます。作業前にベアラを回転させながら注油してください。(注油方法は P 65 参照)

- (1) オイルタンクに約 4 l オイルを入れてください。

オイルはエンジンオイル SAE 5W-30 又は 10W-30 を使用ください。



《重要》

- 無注油で運転するとオイルポンプ及びモータの故障になるので絶対に行わないでください。
- 粘度の高いオイルはモータの故障の原因になるので使用しないでください。
- 注油前に注油ノズル先端のゴミを取除いてください。

- (2) エンジンを低速で回転させてください。そのまま 20 秒程度注油を続け、注油ボタンを OFF にします。

15-1 ロールベアラ部の簡単な手入れと処置

15-1.4 ミッション給油

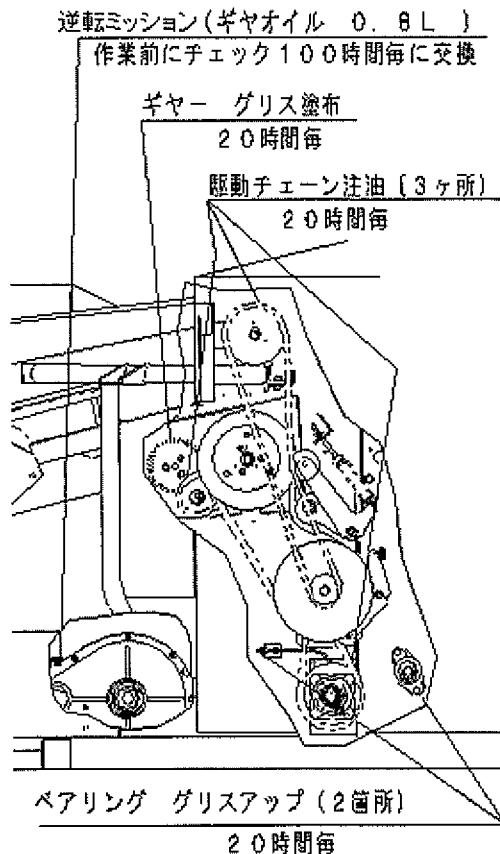
使用100時間ごとに全量を交換してください。

使用するオイルはギヤオイル#90を0.8ℓです。(次項参照)

15-1.5 各部の注油・グリスアップ

下図に従って各部に注油・グリスアップを行ってください。

〔ロールベアラ左前部〕

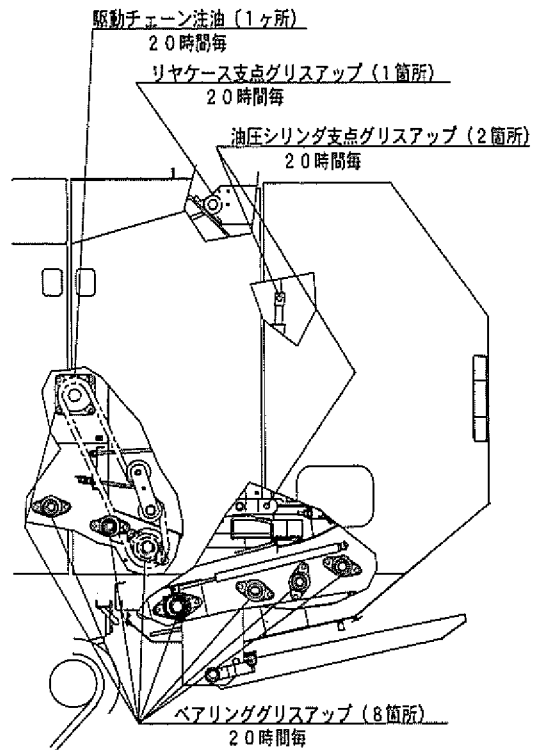


⚠ 警告

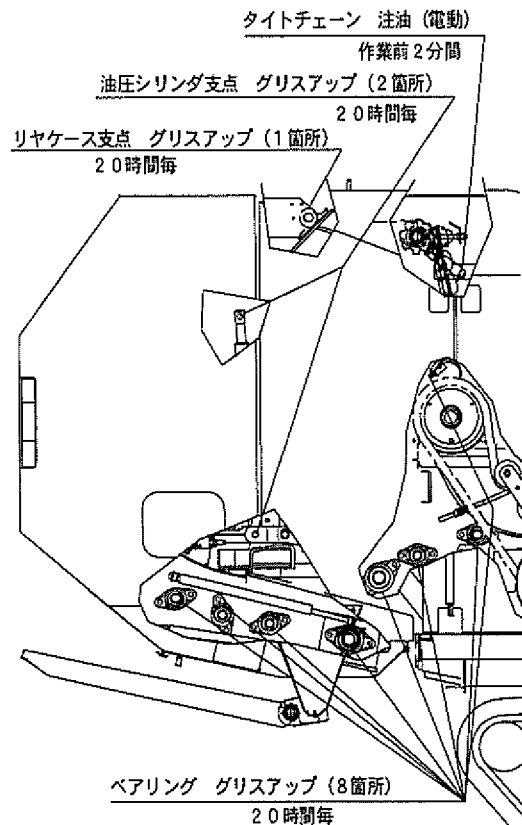
●点検・調整をするときは必ずベアラクラッチを切り、エンジンを停止させてください。

※これを怠ると重大な傷害事故を引き起こす恐れがあります。

〔ロールベアラ左後部〕

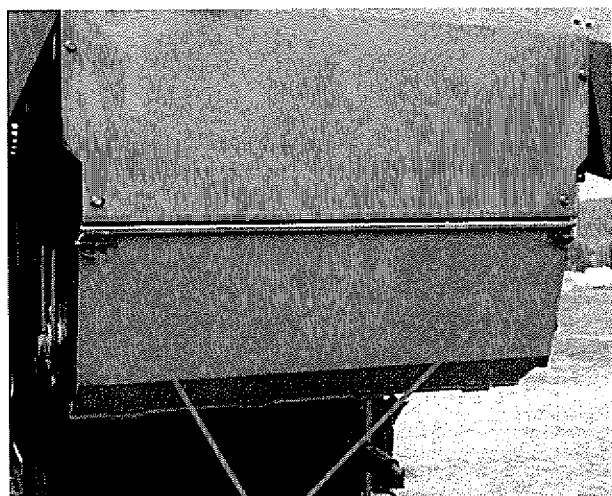


〔ロールベアラ右前部〕

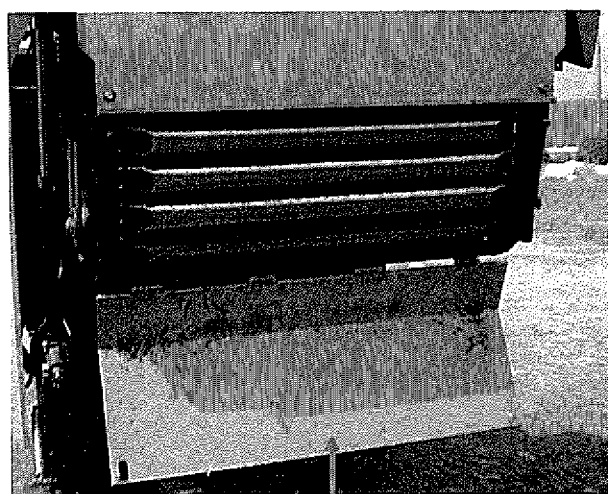


15-1 ロールベアラ部の簡単な手入れと処置

15-1.6 リヤチャンバーの清掃



リンチピンを外す



カバーを開く

- 作業終了後、上図のリンチピンをとりカバー中の堆積物を取り出し、掃除をしてください。

《重要》

- 掃除をしないままにしておきますと堆積した収穫物が腐敗し雑菌がロールに混入、サイレージ品質を劣化させる恐れがあります。
- またタイトチェーンの油をふき取り耐久性を損なうおそれがありますので掃除を必ず実施してください。

- リヤケースを開いたまま点検する時は必ず油圧レバーをロックしてください。(P 40 参照)

15-2. 点検整備

15-2.1 点検整備に関する注意

⚠ 危険

- 屋内で始動する場合は、窓や戸を開け、十分に換気をしてください。
閉め切った屋内等ではエンジンを始動しないでください。
※守らないと、排気ガスによる中毒を起こし、死亡事故にいたるおそれがあります。

⚠ 警告

- エンジンが冷えてから作業してください。
※守らないと、やけどの原因となります。
- 点検・整備・掃除するときは平たんな硬い場所に機械を置いて、エンジンを停止し、駐車ブレーキをかけ、メインスイッチキーを抜いて各部の回転が止まってから行ってください。
※守らないと、巻き込まれ、挟まれ等傷害事故を引き起こす原因となります。
- 取り外したカバー類はすべて取り付けてからエンジンを始動してください。
※守らないと、巻き込まれ、挟まれ等傷害事故を引き起こす原因となります。

⚠ 注意

- エンジンオイル量は、作業前に毎日点検してください。
- 機械から廃液を抜く場合は、容器に受けてください。
- 地面へのたれ流しや河川、湖沼、海洋への投棄はしないでください。
- 廃液、燃料、冷却水（不凍液）、冷媒、溶剤フィルタ、バッテリー、ゴム類その他の有害物を廃棄、又は焼却するときは、購入先、又は産業廃棄物処理業者等に相談して、所定の規則に従って処理してください。
※廃棄物をみだりに、廃却、焼却すると環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。

15-2. 点検整備

15-2.2 定期点検一覧表

○：点検・補給・調整・清掃 ●：交換

下記の表は、一般的な目安です。異常と思われるときは、点検してください。

点検項目			点検時間	アワーメータ表示時間 (h)					それ以降 (h)		参照 ページ
				シーズン 前	50	100	200	300	400	点 検	
オイル	エンジンオイル	点検・交換	○	●	○	●	○	●	作業前	200 時 間ごと	137
	走行メインギヤケースオイル	点検・交換	○	●	○	●	○	●	138		
	走行カウンタギヤケース オイル※	点検・交換	○	●	○	●	○	●	140		
	油圧オイル	点検・交換	○	●	○	○	●	○	300 時 間ごと		139
	逆転ミッションオイル (ロールベアラ部)	点検・交換	○		●	●	●	●		100 時 間ごと	131
グ リ ー ス	車体水平制御装置軸受部	グリースアップ	○	○	○	○	○	○	100 時 間ごと		141
	転輪関係	グリースアップ	○	○	○	○	○	○			142
	刈取部オープン支点	グリースアップ	格納時グリースアップ					格納時			142
	刈取部	グリースアップ	○	○	○	○	○	○	100 時 間ごと		143
	ロールベアラ部	グリースアップ	20 時間ごと								
ベ ル ト	ファンベルト	点検・交換	○		○	○	●	○	100 時 間ごと	300 時 間ごと	145
	HSTベルト	点検・交換	○		○	○	○	○		500 時 間ごと	145
	刈取ベルト	点検・交換	○		○	○	○	○		300 時 間ごと	146
	かき込みベルト	点検・交換	○		○	○	●	○		500 時 間ごと	146
	シンクロベルト	点検・交換	○		○	○	○	○			146
	クーラベルト・駆動ベルト	点検・交換	○		○	○	○	○			147
	カットベルト (ロールベアラ部)	点検・交換	○		○	○	○	○			175
	ネット駆動ベルト (ロールベアラ部)	点検・交換	○		○	○	○	○			175
	コンベアベルト (ロールベアラ部)	点検・交換	○		○	○	○	○			175

※走行カウンタギヤケースオイルの種類と量

《参 考》

●ベルトは、初期20時間程度作業したら調整してください。

点検項目			点検時間	アワーメータ表示時間 (h)						それ以降 (h)		参照 ペー ジ
				シーズン 前	50	100	200	300	400	点 検	交 換	
チェ ン	引起しチェン	点検・交換	○	○	○	○	○	●	100 時 間ごと	400 時 間ごと	150	
	根元チェン (左) (中) (右)	点検・交換	○	○	○	○	○	●			151	
	穂先チェン (左) (中) (右)	点検・交換	○	○	○	○	○	●			152	
	供給チェン	点検・交換	○	○	○	○	○	●			152	
	調節チェン	点検・交換	○	○	○	○	○	●			152	
	シンクロチェン	点検・交換	○	○	○	○	○	●			152	
	ギャザリングチェン (ロールベアラ)	点検・交換	○	○	○	○	○	●			171	
	タイトチェン (ロールベアラ)	点検・交換	○	○	○	○	○	●			130	
	穂先チェン (ロールベアラ)	点検・交換	○	○	○	○	○	●			172	
	駆動チェン (ロールベアラ)	点検・交換	○	○	○	○	○	●			171	

《参 考》

●チェンは、初期20時間程度作業したら調整してください。

15-2. 点検整備

点検項目		点検時間	アワーメータ表示時間 (h)						それ以降 (h)		参照 ページ
			シーズン 前	50	100	200	300	400	点検	交換	
エアコン	コンプレッサ (マグネットクラッチ)	点 検	○	○		○		○	200 時 間ごと		-
	冷媒配管 (高低圧ホース)	点 検	○								-
	ブロアモータ	点 検	○								-
	エアフィルタ	清 掃	作 業 前								154
	コンデンサ	清 掃	作 業 前								155
	レシーパドライヤ	交 換								8 年ごと	-
	サイドガラス	点 検	○								155
	ヒータホース	交 換								8 年ごと	-

点検項目		点検時間	アワーメータ表示時間 (h)						それ以降 (h)		参照 ページ
			シーズン 前	50	100	200	300	400	点検	交換	
ワイヤ	刈取クラッチワイヤ	点検・交換	○	○	○	○	○	○	100 時 間ごと	500 時 間ごと	153
	オートクラッチワイヤ (ロールベアラ)	点検・交換	○	○	○	○	○	○		500 時 間ごと	177
	圧力ゲージワイヤ (ロールベアラ)	点検・交換	○	○	○	○	○	○	200 時 間ごと		46
その他の	燃料フィルタ	清掃・交換	○		○	○	○	●	100 時 間ごと	400 時 間ごと	157
	燃料プレフィルタ	点検・交換	○		○	○	○	●	100 時 間ごと		-
	エンジンオイルフィルタ	交 換		●				●			156
	走行メインギヤケースオイルフィル タ	交 換		●		●		●		200 時 間ごと	157
	HSTオイルフィルタ	交 換		●			●			300 時 間ごと	158
	エアクリーナ (エレメント)	清掃・交換	○	○	○	○	○	○	50 時 間ごと	600 時 間ごと	158
	燃料ホース	点検・交換	○	以降 2 年ごと交換					100 時 間ごと	2 年ご と	159
	ラジエータホース	点検・交換	○						100 時 間ごと		160
	ラジエータ	清 掃	○	作業前清掃					作業前		159
	バッテリー	点 検	○	セルモータが回りにくいとき充電						破損時	160
	電気配線・ヒューズ関係	点 検	○	○		○	○	○	100 時 間ごと		161
	クローラ	点検・調整	○	○	○	○	○	○		600 時 間ごと	165
	冷却水	点検・交換	○	作業前点検					作業前	格納時	165
	刈刃	点検・調整	○		○	○	●	○	100 時 間ごと	300 時 間ごと	167
	刈刃ローラ	交 換	○		○	○	●	○			-
	タイマーナイフ (ロールベアラ)	点検・交換							100 時 間ごと	500 時 間ごと	-
	カッタ刃 (ロールベアラ)	点検・交換	○		○	●	○	●			172
	ネット切断刃 (ロールベアラ)	点検・交換									-
	ホイルスプロケット	点検・交換	○		○	○	○	●	100 時 間ごと	400 時 間ごと	-
	クローラガイド	点検・交換	○		○	○	○	○		600 時 間ごと	-
	アイドルローラ	点検・交換	○		○	○	○	○			-
	ラジエータキャップ	点 検	○	○	○	○	○	○		破損時	-

《参 考》

- ワイヤは、初期 20 時間程度作業したら調整してください。
- エアクリーナは、50 時間毎に清掃してください。
- 冷却水の量は、作業前に毎日点検してください。

15-2. 点検整備

15-2.3 燃料給油のしかた

⚠ 危険

●燃料を補給するときは火気厳禁です。

エンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。

また、くわえタバコや裸火照明は絶対にしないでください。

※守らないと、燃料に引火し、やけどや火災の原因になることがあります。

- (1) J I S 2～3号軽油を使用してください。
- (2) 水抜剤の使用は止めてください。
- (3) 未使用の菜種油や、使用済みの調理油等を原料としたバイオディーゼル燃料（BDF）、およびその混合油の使用は止めてください。
- (4) 長期格納のとき、燃料タンクは、燃料を満タンにしてください。水の発生を防ぐことができます。

《参考》

- 燃料タンク内に、水・ゴミ等が入らないよう給油時は注意してください。
- 給油後は、燃料キャップが確実に閉まっていることを確認してください。
- コモンレール仕様エンジンの燃料噴射部品は、超精密仕上がりになっています。これらの部品の作動不良を防ぐためドラム缶やホームタンク等から燃料を給油される場合は水や砂などの異物が混入しないよう注意してください。

15-2.4 オイル交換のしかた

《参考》

- オイル交換による廃油を下水や土壤に捨てたり、焼却しないでください。環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。お買いあげ先または産業廃棄物処理業者等に相談して、所定の規則に従って処理してください。

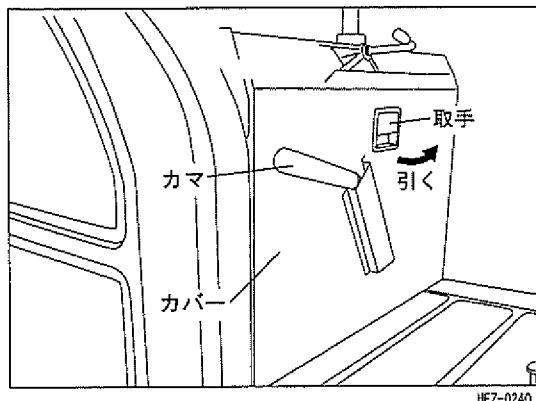
15-2.4.1 給油一覧表

給油箇所	容量 (L)	使用オイル	参照ページ
エンジンオイル	8.0	Ⓕセキスーパーエコディーゼルエンジンオイル (10W-30・CH4/CF)	137
走行メインギヤケースオイル	15.0	Ⓕセキ U. T. H. オイル	138
油圧オイル	15.0	Ⓕセキハイドロリックオイル (VG46) モービル DTE25 (VG46)	139
刈取入力ギヤケースオイル	0.85	Ⓕセキ・ハイポイド・ギヤ・オイル (90#)	140
逆転ミッションオイル (ロールベアラ部)	0.9	ギヤ・オイル (90#)	131

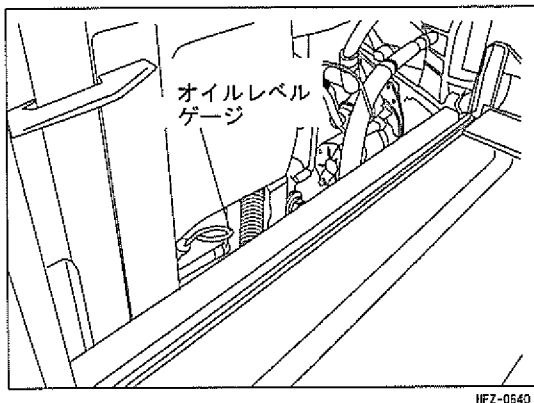
15-2. 点検整備

15-2.4.2 エンジンオイル

- (1) 座席下のカバーの取手を引き取りはずします。



- (2) オイルレベルゲージを抜いて先端をきれいに拭きます。
(3) オイルレベルゲージを差し込み、再び抜き「上限」と「下限」の間にオイルがあるか調べます。



《参考》

- オイルレベルゲージはゴムの部分まで完全に差し込んで検油してください。
- オイルレベルの点検は、エンジンを停止して「10～20分後」に行ってください。この際に「オイルの汚れや粘りの程度」も点検します。

- (4) 「下限」以下の場合は、給油口より「上限」まで補給します。

《参考》

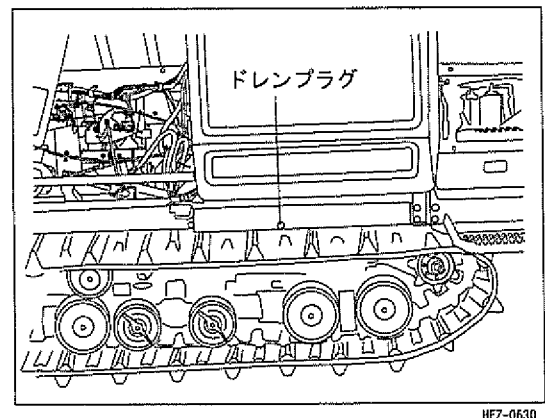
- エンジンオイルは「上限」以上に入れないでください。
- エンジンオイルは、必ず「スーパーエコディーゼルエンジンオイル (10W-30・CH-4/CF)」を使用してください。

- (5) 座席下のカバーを取り付けます。

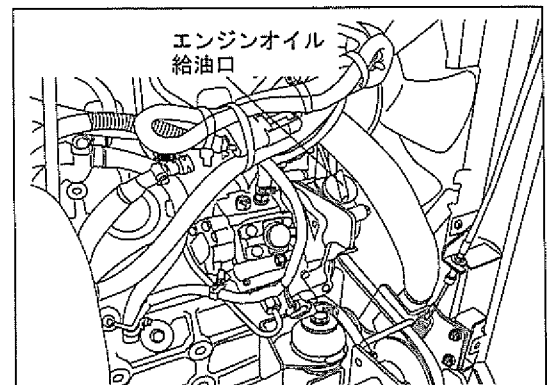
◆ エンジンオイルは1回目は50時間、2回目からは200時間ごとに交換してください。

- [1] ドレンプラグを外し、容器にオイルを排出します。

- [2] 排出が終わったら、ドレンプラグを締め付けます。



- [3] グレンタンクを開けて、エンジンリヤカバーを取りはずして、給油口よりオイルを入れます。



15-2. 点検整備

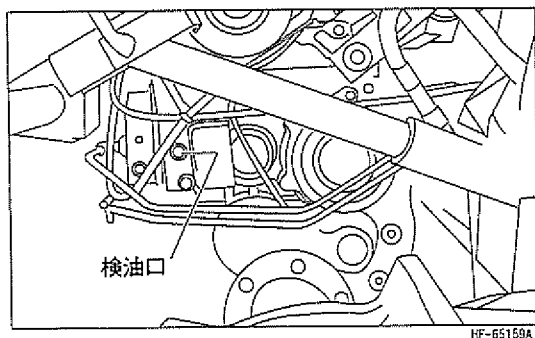
《参考》

- エンジンオイルは、必ず「スーパーエコディーゼルエンジンオイル(10W-30・CH-4 /CF)」を使用してください。
 - 新しいエンジンオイルを給油口から注入し、オイルがオイルパンに完全に下がるのを待ってから(約15分)、オイルレベルゲージの先端を布で拭いて、オイルレベルゲージをいっぱいに差し込みます。
 - オイルレベルゲージを静かに引き抜き「上限」「下限」の範囲にオイルが付着すれば適量です。
- [4] エンジンリヤカバーを取り付けて、グレンタンクを閉じます。
- [5] 交換終了後、いったんエンジンを始動して停止し、約3分間後、オイルゲージでオイルのレベルを点検します。

15-2.4.3 走行メインギヤケースオイル

◆点検

- [1] 検油口のボルトを外し、油面が検油口に達しているか調べます。(検油口からオイルが出てくるか確認します)
- [2] 検油口以下の場合は、補給をします。検油口以上に入れないでください。



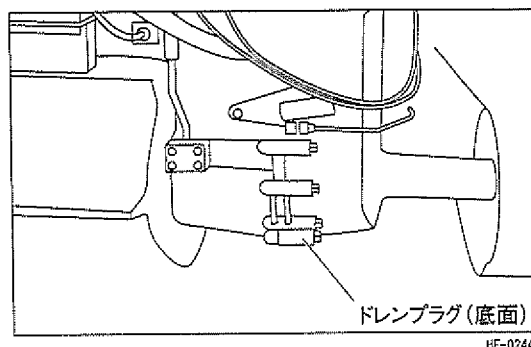
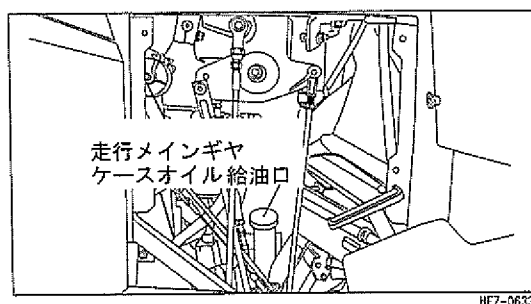
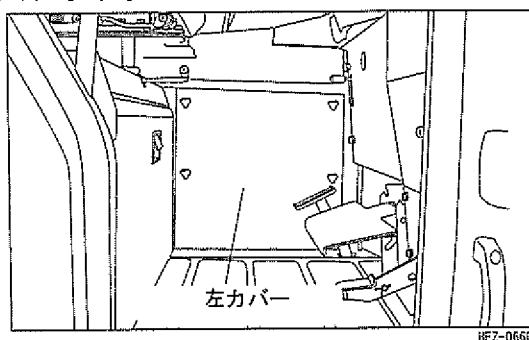
《参考》

- 油量は、検油口よりオイルが流れ始めれば適量です。
 - オイルは、「ㄆセキUTHオイル」を使用してください。
- [3] ボルトを元どおりに取り付けます。

◆交換

走行メインギヤケースオイルは1回目は50時間、2回目からは200時間ごとに交換してください。

- [1] パワーステアリングレバーで刈取部を上げ、刈取ロックスイッチで「ロック」側にします。
- [2] 刈取部の下にスタンド等の台を置きます。
- [3] 検油口のボルトとドレンプラグを外し、容器にオイルを排出します。
- [4] 排出が終わったら、ドレンプラグを締め付けます。
- [5] 運転席の左カバーをはずし、検油口からオイルが出てくるまで、給油口よりオイルを入れます。



15-2. 点検整備

《参考》

- オイルは、「キセキUTHオイル」を使用してください。

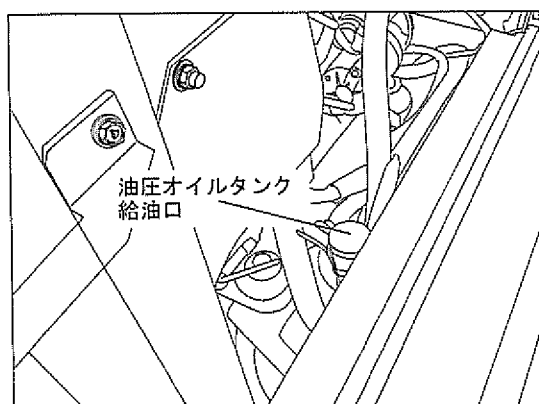
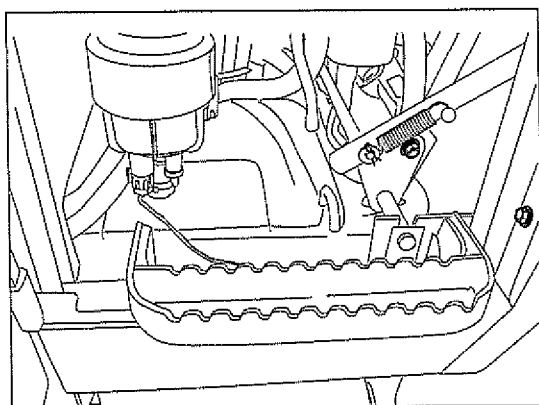
[6] 検油口のボルトを取り付け、左カバーを元どおりにします。

[7] 給油した後、約3分間エンジンを運転し、エンジンを停止した後、再度点検を行います。検油口からオイルが出ないときは、オイルを追加補給してください。

15-2.4.4 油圧オイル

◆点検

- [1] 車高最下げ、刈取最下げで、機体水平状態にします。
- [2] 油圧オイルタンク横の油圧オイル検油ホースで、中央までオイルがあるか調べます。
- [3] 中央以下の場合は、座席の下のカバーをはずして、給油口より補給します。



《参考》

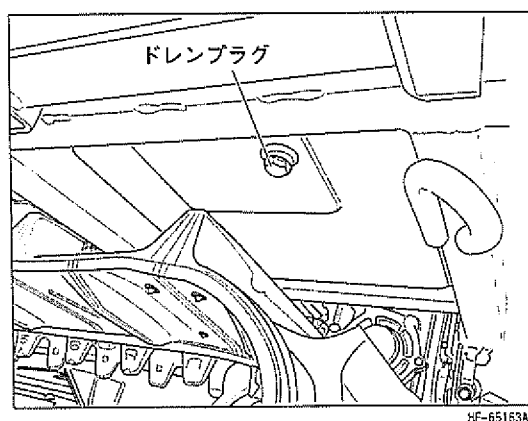
- 補給するときは、検油口の周辺のコリを完全に取り除いてください。

[4] 座席下のカバーを取り付けます。

◆交換

油圧オイルは1回目は50時間、2回目からは300時間ごとに交換してください。

- [1] オイルタンク底面のドレンプラグを外し、容器にオイルを排出します。
- [2] 排出が終わったら、ドレンプラグを締め付け、給油口よりオイルを規定量入れます。



《参考》

- 給油口の周辺のコリを完全に取り除いてください。
- オイルは、「キセキハイドロリックオイル (VG46)」を使用してください。

15-2. 点検整備

15-2.5 グリース注入のしかた

⚠ 注意

- 必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけ、メインスイッチキーを抜いてください。

※守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

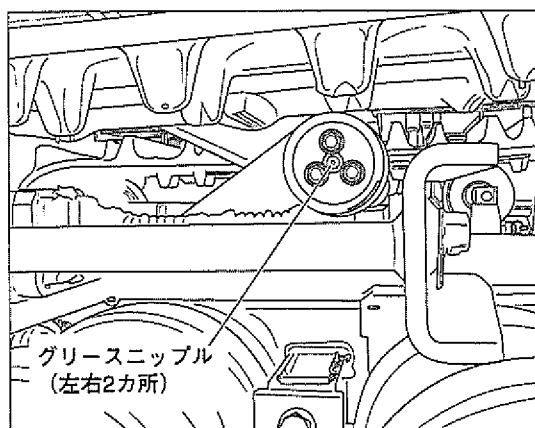
15-2.5.1 使用グリース一覧表

給油箇所	容量 (L)	出荷時のグリースの種類	参照ページ
車体水平制御装置軸受部	適量	デュプレックス No. 2	141
転輪	適量	デュプレックス No. 2	142
刈取部オープン支点	適量	デュプレックス No. 2	142
刈刃駆動ロッド	適量	デュプレックス No. 2	143
刈取ケース	適量	デュプレックス No. 0	143

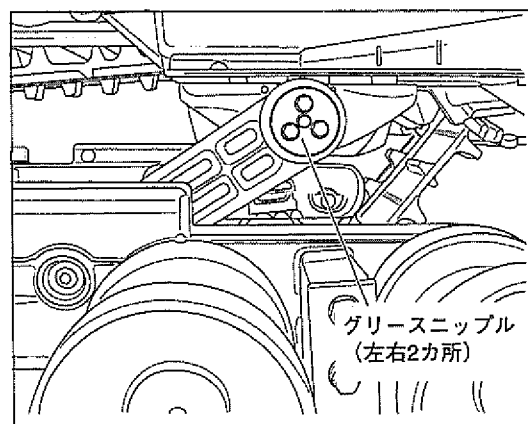
15-2.5.2 車体水平制御装置軸受部

- (1) 長期格納前、または、50時間ごとにグリースアップしてください。
- (2) グリースアップ箇所は、グリースニップルのキャップに黄色で表示しています。
- (3) グリースアップを効率的に行うために、車高スイッチを操作して車高を上げてください。

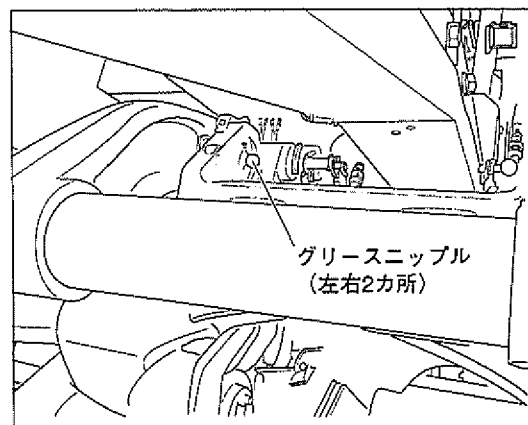
(使用グリース：デュプレックスNo. 2)



HF-65172A

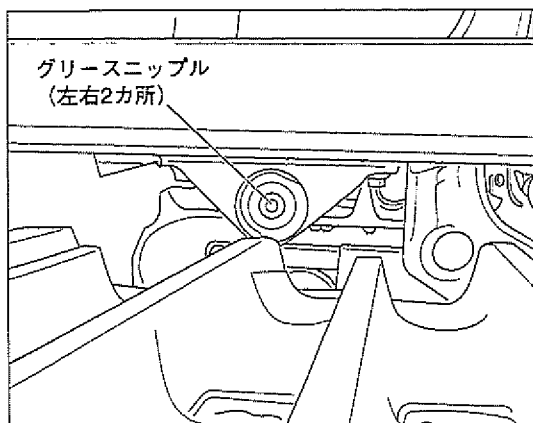


HF-65173A



HF-65174A

15-2. 点検整備



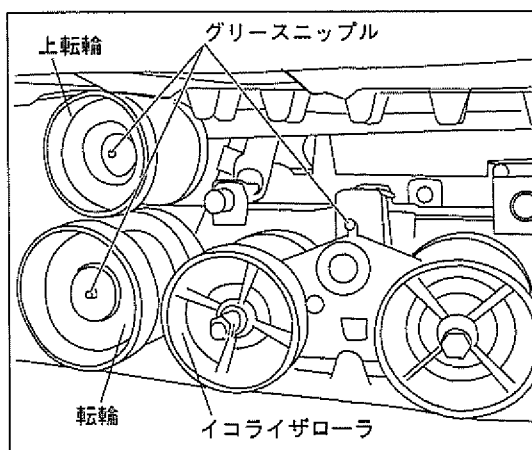
HF-65175A

15-2.5.3 転輪関係

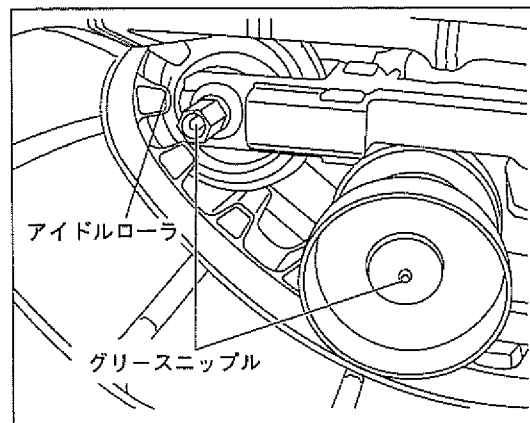
- (1) グリースニップルのキャップを外して、転輪の裏側のオイルシールからグリースがわき出るまで封入します。
- (2) イコライザの場合は六角袋ナット内側のグリースニップルより、ローラ裏側のオイルシールからグリースがわき出るまで封入します。

(使用グリース：デュプレックスNo. 2)

	油量 (cc)
転 輪	50
上 転 輪	35
イコライザ支点部	適量
イコライザローラ	35
アイドルローラ	35



HF-65176A



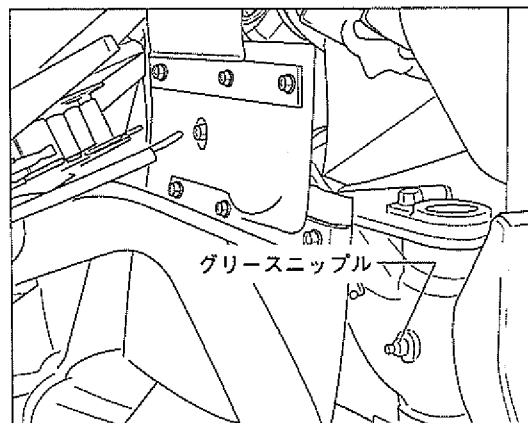
HF-65177A

《参 考》

- 転輪が泥につかる湿田作業をした場合もグリースアップをしてください。

15-2.5.4 刈取部オープン支点

キャップをはずして、グリースを注入します。
(使用グリース：デュプレックスNo. 2)



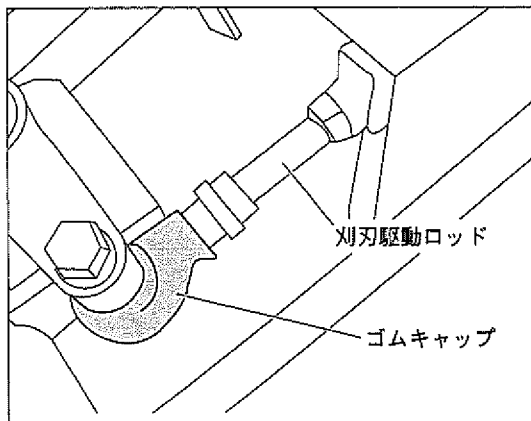
HF-65178A

15-2. 点検整備

15-2.5.5 刈取駆動ロッド

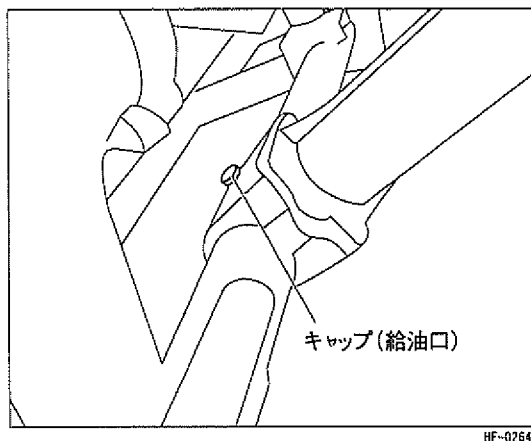
- (1) 刈刃駆動ロッドのゴムキャップ内に、グリースを注入します。

(使用グリース：デュプレックスNo. 2)



- (2) キャップを外して刈刃駆動ギヤケース内にグリースを注入します。

(使用グリース：デュプレックスNo. 0)



15-2. 点検整備

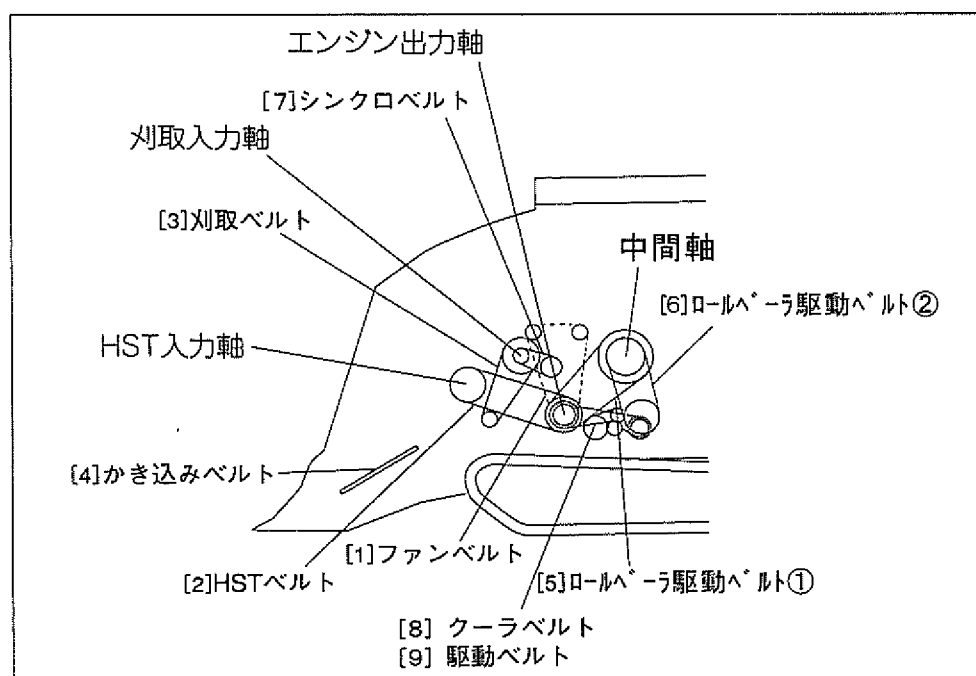
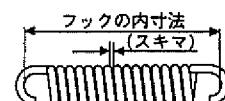
15-2.6 ベルトの点検と調整のしかた

⚠ 警告

- 必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけ、メインスイッチキーを抜いてください。
※守らないと、衣服等が巻き込まれ、挟まれ等傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 点検・整備のため、取り外したカバーは、必ず元の位置に組み付けてください。
※守らないと、衣服等が巻き込まれ、挟まれ等傷害事故を引き起こすおそれがあります。

15-2.6.1 ベルトの点検と調整一覧表

- ベルトに亀裂やはがれがないか点検し、破損があれば新品と交換してください。
- テンションスプリングの取付け長さはフックの内寸法を測定してください。
参考にテンションスプリングのスキマを（ ）内に示します。



No.	ベルト名	点検・調整		参 照 ページ
		点検のしかた	規定量 (mm)	
[1]	ファンベルト	指で押した時のたわみ量	5.0	145
[2]	HSTベルト	テンションスプリングの長さ (スキマ)	126~130 (1.0~1.2)	145
[3]	刈取ベルト	テンションスプリングの長さ (スキマ) (クラッチ入の状態)	62~64 (0.4~0.6)	146
[4]	かき込みベルト	指で押した時のたわみ量	10~15	146
[5]	ロールベアラ駆動ベルト①	テンションスプリングの長さ (スキマ)	126~128 (1.0~1.2)	146
[6]	ロールベアラ駆動ベルト②	バネの長さ	360	176
[7]	シンクロベルト	テンションスプリングの長さ (スキマ)	90~93 (0.6~0.8)	147
[8]	クーラベルト	指で押した時のたわみ量	5.0	147
[9]	駆動ベルト	テンションスプリングの長さ (スキマ)	97~100 (0.7~0.9)	148

15-2. 点検整備

15-2.6.2 ファンベルト

⚠ 警告

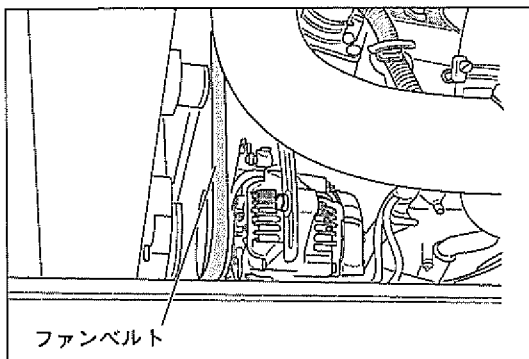
●マフラーにはエンジン停止直後にふれないでください。

十分に冷えてから点検を行ってください。

※守らないと、やけど等傷害事故を引き起すおそれがあります。

◆点検のしかた

- [1] 座席下のカバーを取りはずします。
- [2] エンジンの前のタレゴムをめくります。
- [3] ベルトの中央部を指先で押えて5mm程度たわむか確認します。
- [4] 座席下のカバーを取り付けます。

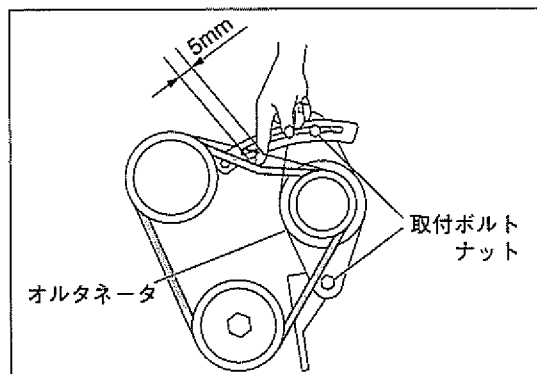


《参考》

●ベルトの張りがゆるいと、オーバーヒートや充電不足の原因となります。

◆調整のしかた

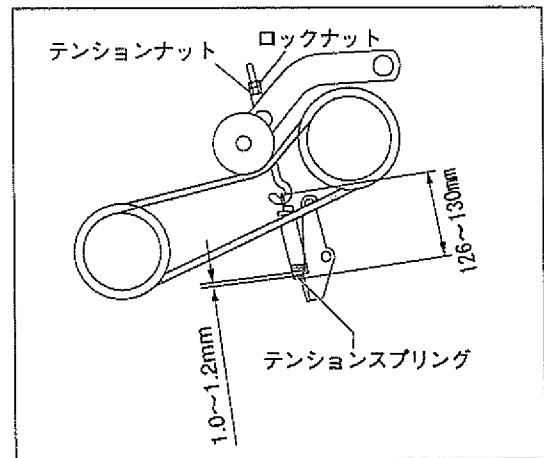
- [1] オルタネータ取付ボルトとナットをゆるめます。
- [2] オルタネータを動かし、ベルトの張りが5mm程度たわむように調整します。
- [3] 調整後は、ボルトとナットを確実に締め付けます。



15-2.6.3 HSTベルト

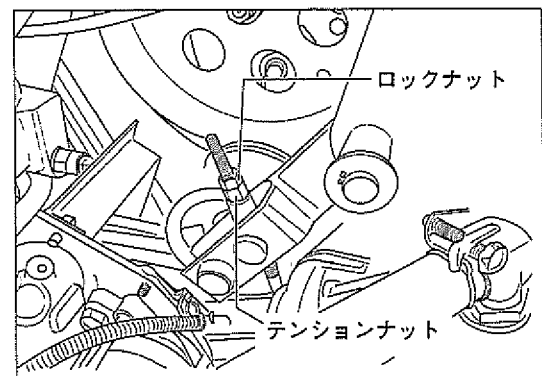
◆点検のしかた

- [1] 刈取部を開きます。
- [2] テンションスプリングの長さが126～130mm（スキマ1.0～1.2mm）あるか確認します。
- [3] 刈取部を閉じます。



◆調整のしかた

- [1] ロックナットをゆるめます。
- [2] テンションナットを回し、テンションスプリングの長さを126～130mm（スキマ1.0～1.2mm）に調整します。
- [3] ロックナットを確実に締め付けます。

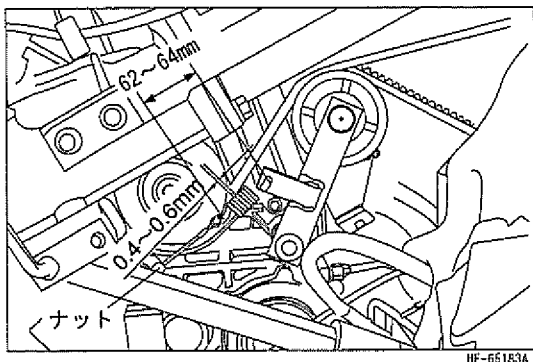


15-2. 点検整備

15-2.6.4 刈取ベルト

◆点検のしかた

- [1] 刈取部を上げ、刈取下げロックスイッチを「ロック」側にし、さらに刈取部の下にスタンド等の台を置きます。
- [2] メインスイッチを「入」にして刈脱レバーを「入」にします。
- [3] テンションスプリングの長さが62～64mm（スキマ0.4～0.6mm）あるか確認します。



HF-65183A

◆調整のしかた

- [1] 刈取クラッチワイヤのロックナットをゆるめます。
- [2] ナットを回し、テンションスプリングの長さを62～64mm（スキマ0.4～0.6mm）に調整します。
- [3] ロックナットを確実に締め付けます。

《参考》

- 張り過ぎにより、ベルトがつき回りしないように注意してください。

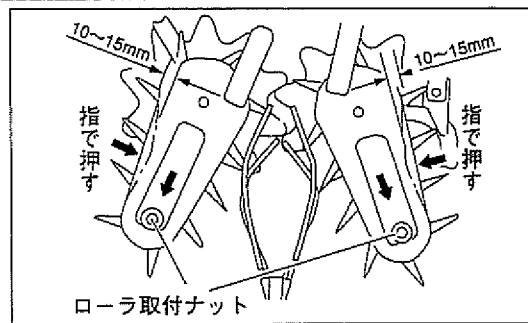
15-2.6.5 かき込みベルト

◆点検のしかた

ベルトの中央部を指で押し、たわみ量が10～15mmあるか確認してください。

◆調整のしかた

- [1] 先端のローラ取付ナットをゆるめます。
- [2] ローラを矢印方向にずらしてベルトの中央部を指で押し、たわみ量が10～15mmになるようにナットを締めます。



HF-0274

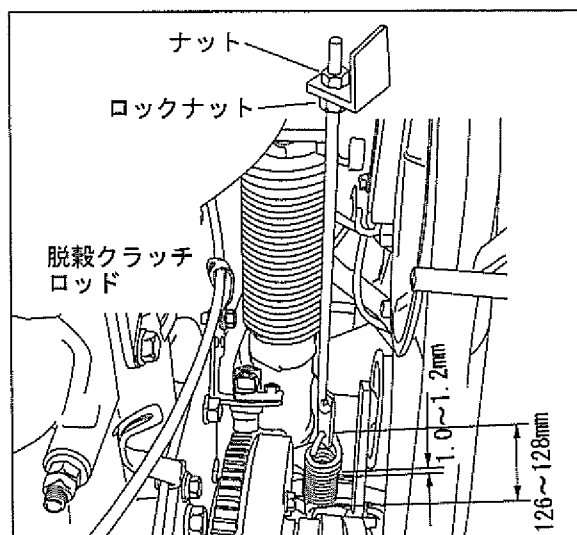
15-2.6.6 ロールベアラ駆動ベルト

◆点検のしかた

- [1] 作業クラッチレバーを「入」位置にします。
- [2] 刈取部を開きます。
- [3] テンションスプリングの長さが126～128mm（スキマ1.0～1.2mm）あるか確認します。
- [4] 刈取部を閉じます。

◆調整のしかた

- [1] 脱穀クラッチロッドのロックナットをゆるめます。
- [2] ナットを回して、テンションスプリングの長さを126～128mm（スキマ1.0～1.2mm）に調節します。
- [3] ロックナットを確実に締め付けます。



HZF-0209

15-2. 点検整備

15-2.6.7 その他のベルト

◆点検のしかた

[1] テンションプリングの長さがそれぞれの規定長さであるか確認します。

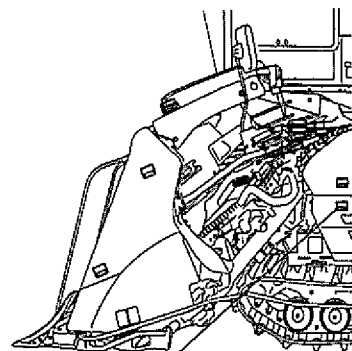
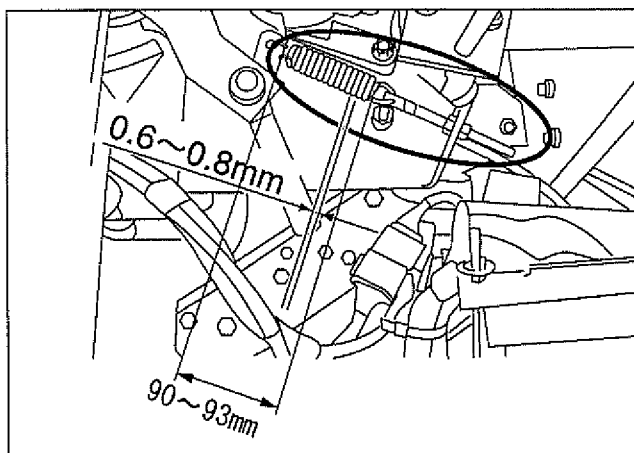
◆調整のしかた

[1] ロックナットをゆるめます。

[2] テンションナットを回して、テンションプリングの長さを規定長さに調節します。

[3] ロックナットを確実に締め付けます

〈シンクロベルト〉



15-2.6.8 エアコン用ベルト (C型)

◆点検のしかた

ベルトカバー (前) を開きます。

〈クーラベルト〉

次図円A内でクーラベルトを矢印の方向に5mmたわませるときの力が58.8~68.6N (6~7kgf) であることを確認してください。

〈駆動ベルト〉

スプリングの長さが97~100mm (スキマ0.7~0.9mm) あるか確認します。ベルトカバーを取り付けます。

◆調整のしかた

〈クーラベルト〉

[1] M10ナット、ナットBをゆるめます。

[2] ボルトを回してテンションプーリをスライドさせ、クーラベルトの張りを調整します。

[3] ナットBの上側の方を先に締めてから、上側を回らないように工具で固定して下側を締めます。

[4] M10ナットを締めます。

[5] クーラベルトの張りが適正であるか、上記の点検をしてください。

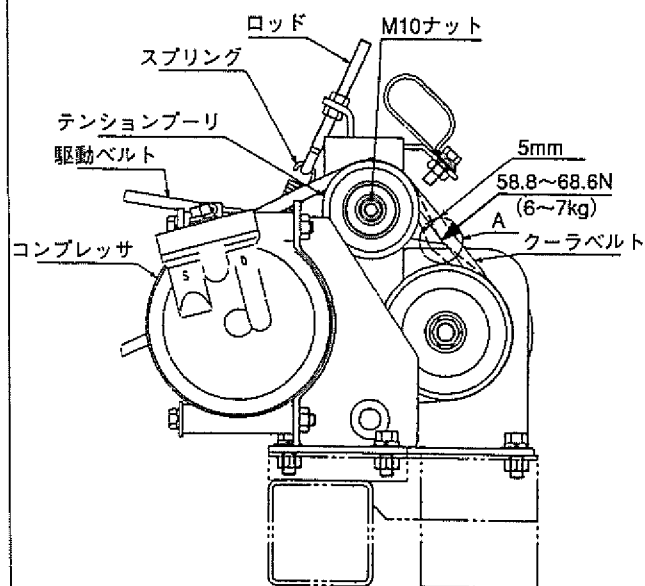
15-2. 点検整備

〈駆動ベルト〉

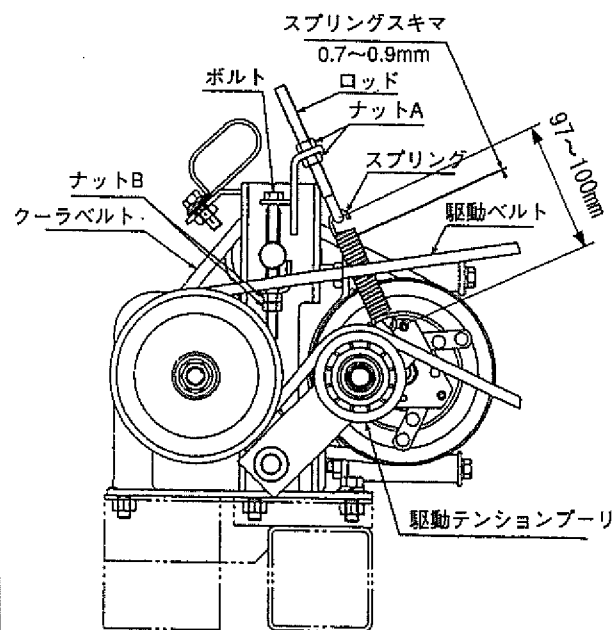
- [1] ナットAの下側をゆるめ、上側を回して駆動ベルトの張りを調整します。
- [2] ナットAの上側を工具で固定して、下側を締めて固定します。
- [3] 駆動ベルトのスプリングの長さが97～100mm(スキマ0.7～0.9mm)に調整します。

《参考》

- シーズンオフ中に冷媒が漏れた状態で長い間放置すると、内部にサビが発生する原因となりますので、冷媒が漏れていないか点検してください。



機体左側からみたとき(カバー側)



機体右側からみたとき

HF-65193A

15-2. 点検整備

15-2.7 チェンの点検と調整のしかた

⚠ 警告

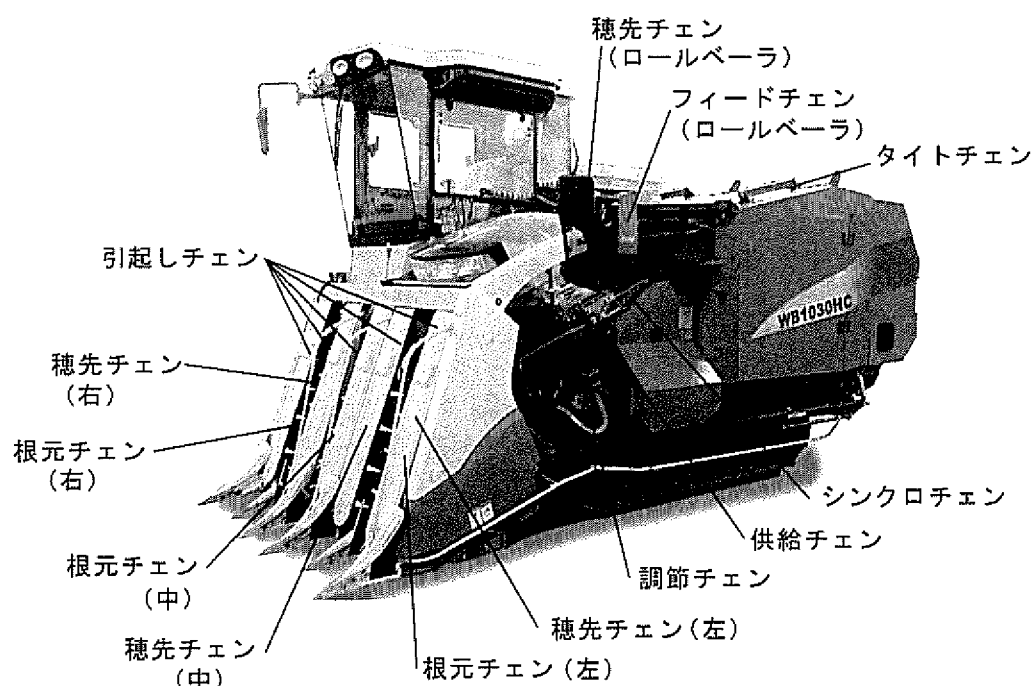
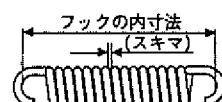
- 必ずエンジンを停止し、メインスイッチキーを抜いてください。
※守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 取り外したカバー類は、必ずすべて取り付けてください。
※守らないと、衣服等が巻き込まれ、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

15-2.7.1 チェンの点検と調整一覧表

《参考》

- 各チェンは、シーズン前および200時間ごとに点検してください。
- テンションスプリングの調整は、スプリングの取り付け長さ（フックの内寸法）で測定します。

参考にテンションスプリングのスキマを（ ）内に示します。



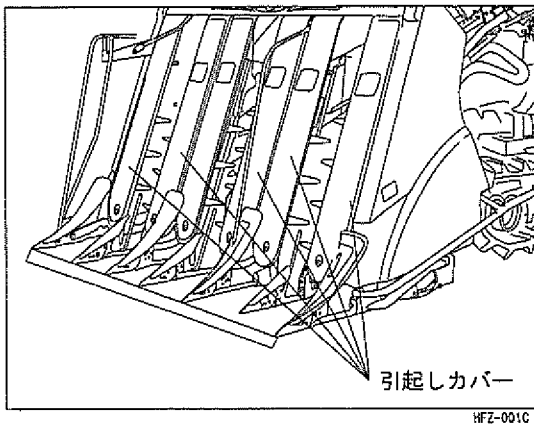
		点 検 調 整		参 照 ページ
		点検のしかた	規定量 (mm)	
刈 取 部	引起しチェン	テンションアームとストッパのスキマ	0～5	150
	根元チェン（左）（右）	テンションスプリングの長さ（スキマ）	135～138（1.6～1.8）	150
	根元チェン（中）	テンションスプリングの長さ（スキマ）	122～126（1.0～1.2）	150
	穂先チェン（左）（中）（右）	チェンを指で軽く押す	元にもどること	151
	供給チェン	テンションスプリングの長さ（スキマ）	101～104（1.3～1.5）	152
	調節チェン	チェンを手で横に引いた時のテンションアームの動き	3～5	152
	シンクロチェン	チェンを手で上に引き上げた時のチェンローラ中心とチェンレール上面の距離	36～40	152
	穂先チェン（ロールペーラ）	チェンを指で軽く押す	80	172
	フィードチェン （ロールペーラ）	テンションスプリングの長さ	150	171
	タイトチェン	バネの長さ	50	171

15-2. 点検整備

15-2.7.2 引起しチェーン

テンションアームとストッパのスキマは、0～5mmに調整してください。

(1) 引起しカバーを開けます。(110ページ)

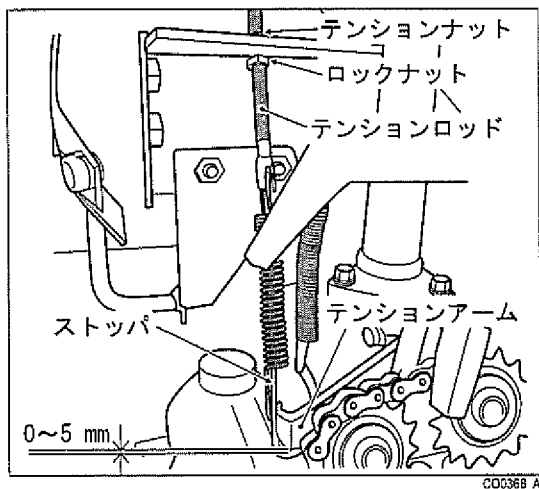


(2) テンションロッドのロックナットをゆるめます。

(3) テンションナットを回して、テンションアームとストッパのスキマを0～5 mmにします。

(4) ロックナットを締め付けます。

(5) 引起しカバーを閉じます。



15-2.7.3 根元チェーン(左)、(中)、(右)

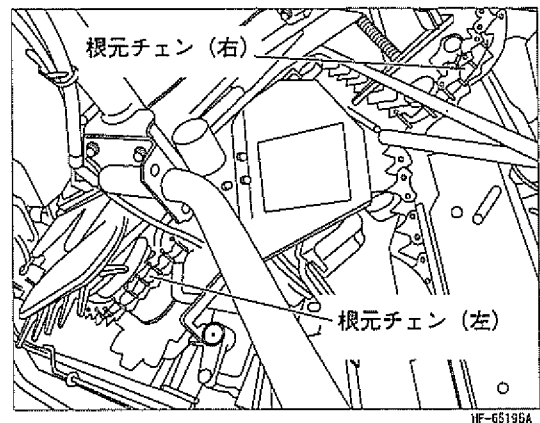
テンションスプリングの長さ(スキマ)を、
根元チェーン(左)、(右) : 135～138mm

(スキマ1.6～1.8mm)

根元チェーン(中) : 122～126mm

(スキマ1.0～1.2mm)

になるように調整してください。



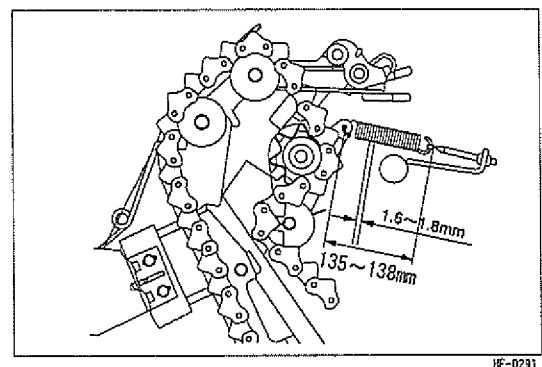
◆調整のしかた

[1] テンションロッドのロックナットをゆるめます。

[2] テンションナットを回して、スプリングの長さを規定量に調整します。

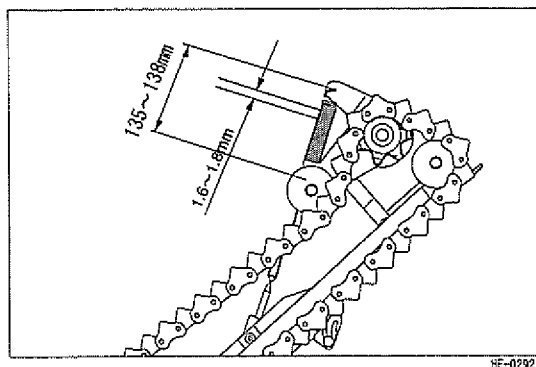
[3] ロックナットを締め付けます

根元チェーン(左)

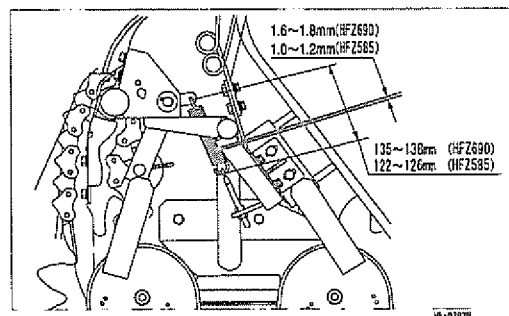


15-2. 点検整備

根元チェン（右）



根元チェン（中）



15-2. 7.4 穂先チェン（左）、（中）、（右）

ラグの出口部からチェンを指で軽く押し、チェンがゆるんで元にもどらない場合に、調整してください。

◆調整のしかた

穂先チェン（左）、（中）

[1] 先端ローラ部の締付ナット（表・裏2個）をゆるめます。

[2] チェンは自動的に張れます。

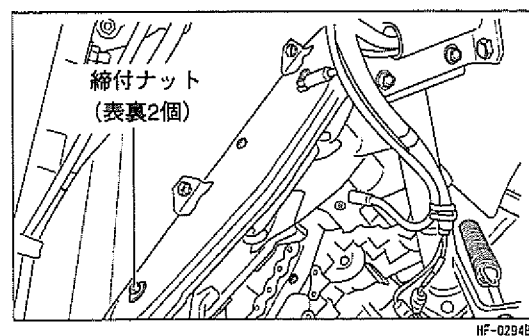
ラグ出口部からチェンを指で軽く押し、チェンが張れていることを確認してください。

[3] 締付ナットを締め付けます。

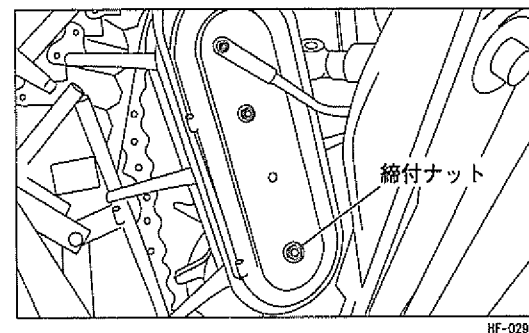
《参考》

●穂先チェン（右）は自動テンションなので、ローラ部の締付ナットをゆるめる必要はありません。

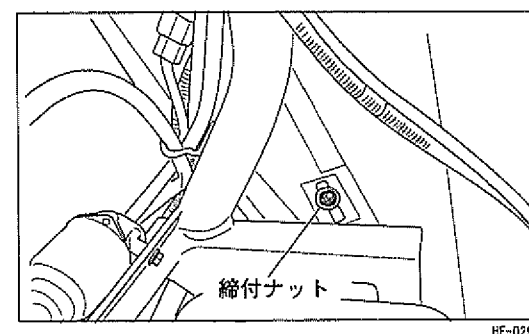
穂先チェン（左）



穂先チェン（中）

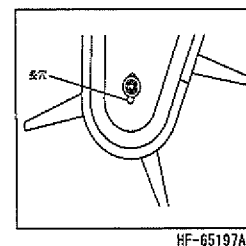
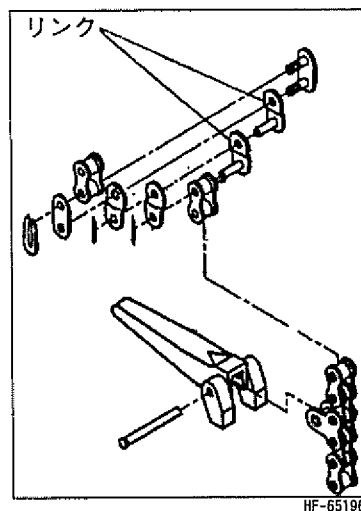


穂先チェン（右）



《参考》

●（左）、（中）、（右）のチェーンが伸びて締付ナットが長穴の端まできたら、チェーンのリンクを1~2個はずしてください。



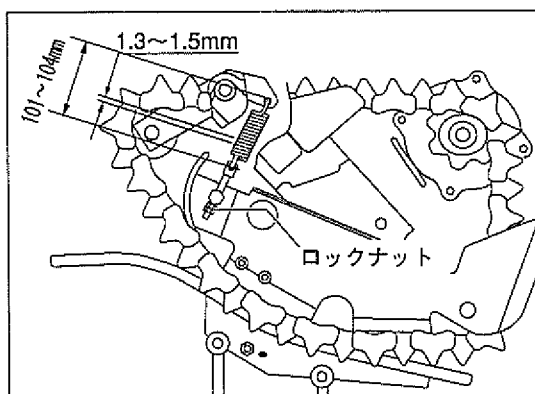
15-2. 点検整備

15-2.7.5 供給チェーン

テンションスプリングの長さが101~104mm
(スキマ1.3~1.5mm) になるように調整します。

◆調整のしかた

- [1] テンションロッドのロックナットをゆるめます。
- [2] テンションナットを回して、スプリングのスキマを規定量にします。
- [3] ロックナットを締め付けます。

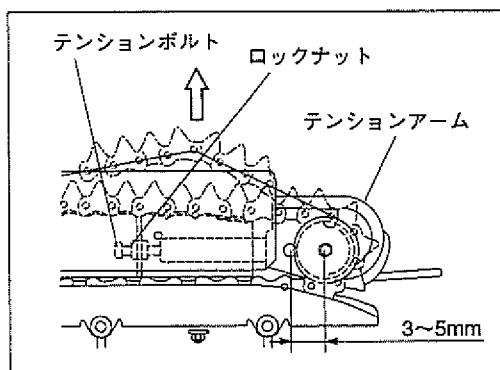


15-2.7.6 調節チェーン

チェーンを手で横に引いてストッパに当たるまでの、テンションアームの動きが3~5mmになるように調整します。

◆調整のしかた

- [1] テンションのロックナットをゆるめます。
- [2] チェーンを手で横に引いたとき、テンションアームが前へ規定量動くように、テンションボルトを回して調整します。
- [3] ロックナットを締め付けます。

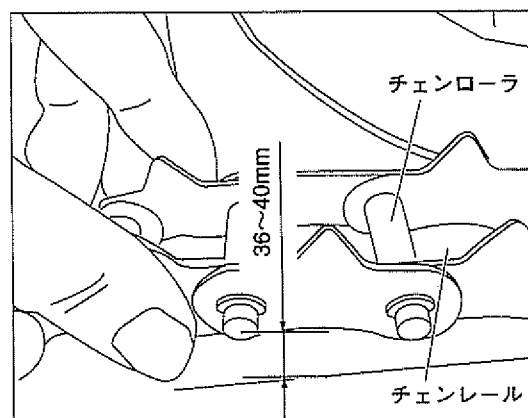
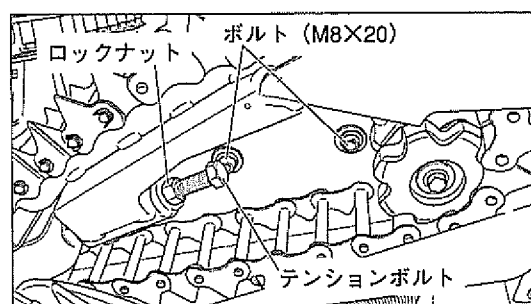


15-2.7.7 シンクロチェーン

チェーンを手で上に引き上げて、チェーンローラ中心とチェーンレール上面の距離が36~40mmになるよう調整します。

◆調整のしかた

- [1] フィードチェーンをオープンします。
- [2] テンションアームのロックナットをゆるめます。
- [3] テンションボルトを回して調整します。
- [4] ロックナットを確実に締め付けます。
- [5] フィードチェーンを閉じます。



15-2. 点検整備

15-2.8 ワイヤの点検と調整のしかた

⚠ 警告

- 刈取部を上げて作業するときは、①刈取ロックノブを「ロック」位置にし、②さらに刈刃の下に木片、ブロック等のしっかりした台を置いて固定してください。
※守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

15-2.8.1 刈取クラッチワイヤ

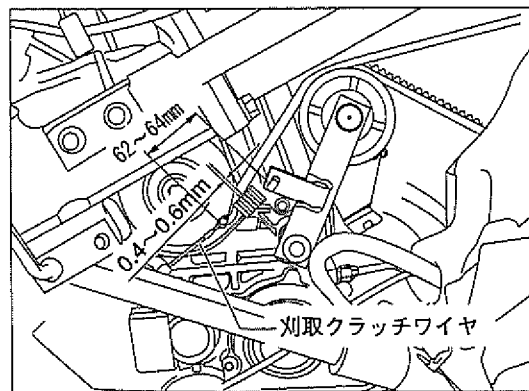
刈取ベルトのテンションスプリングの長さを62～64mm（スキマ0.4～0.6mm）にします。

◆調整のしかた

刈取ベルトの調整のしかたを参照してください。（146ページ）

《参考》

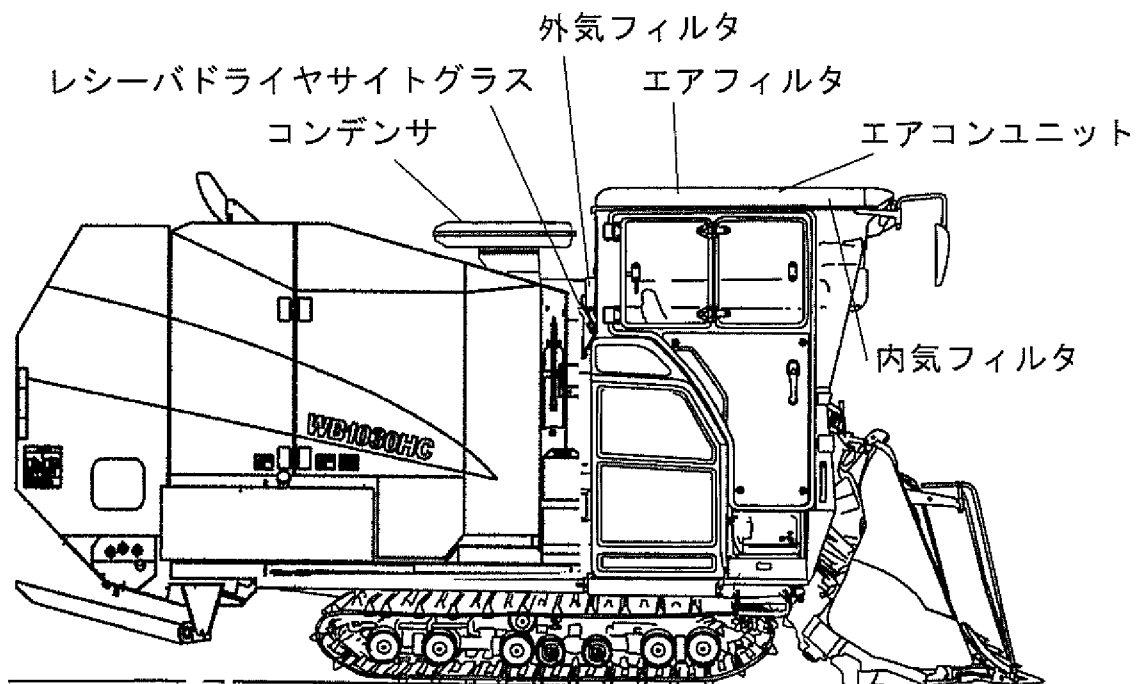
- 張りすぎてベルトがつき回りしないよう注意してください。



HF-65105C

15-2.9 エアコンの点検

15-2.9.1 エアコン部品の配置

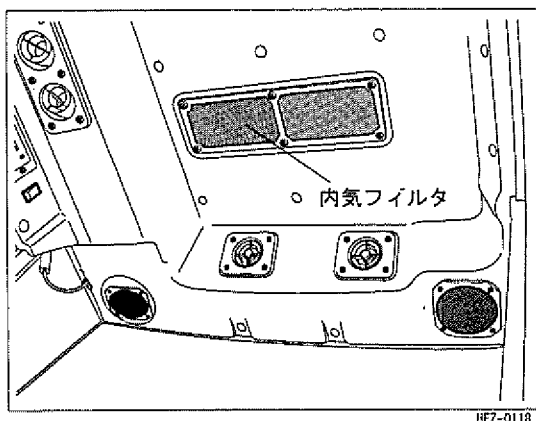


15-2. 点検整備

15-2.9.2 エアフィルタの点検

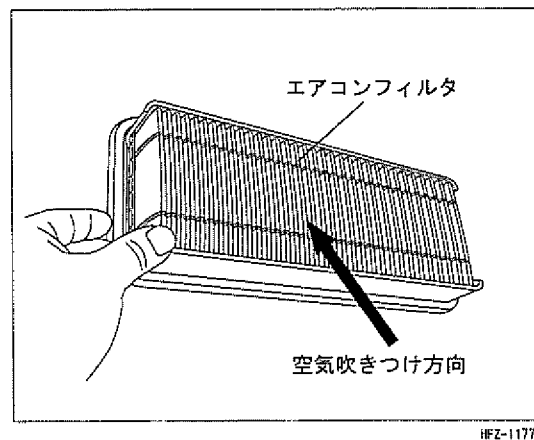
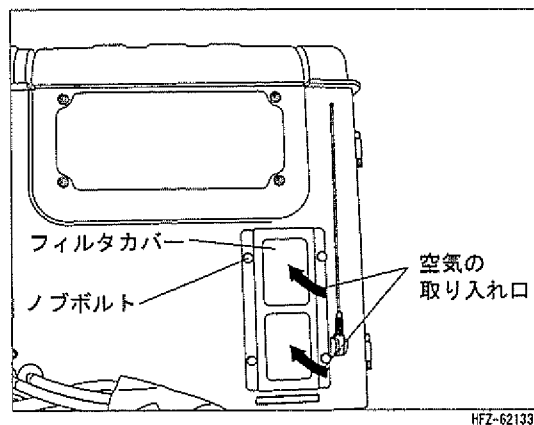
◆内気フィルタ

- [1] 取付けネジをゆるめてフィルタを取り外し、圧縮空気で洗浄してください。
- [2] 汚れや詰まりが著しい場合は、家庭用中性洗剤を溶かしたぬるま湯につけて、上下、左右動かしながら洗浄し、清水でよくすすいだ後、完全に自然乾燥させます。
- [3] フィルタを取付けネジで固定してください。



◆外気フィルタ

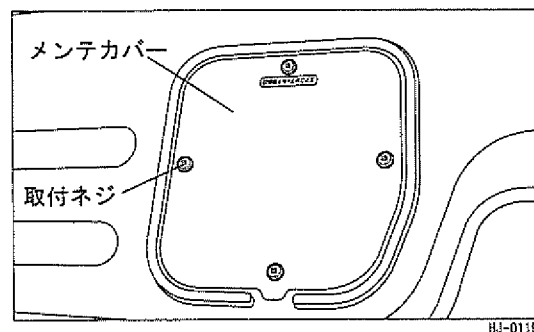
- [1] ノブボルト（4箇所）を取り外しフィルタカバーを開けます。
- [2] エアコンフィルタを取り出してください。
- [3] 風のながれ方向の逆方向より、圧縮空気を吹き付けてください。



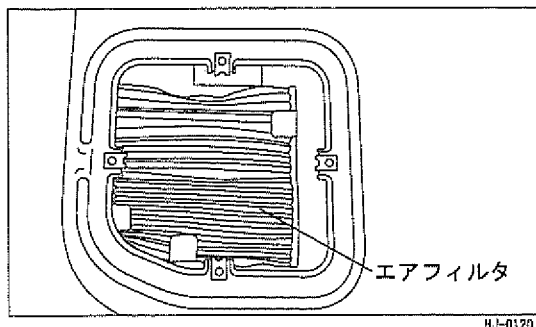
◆エアフィルタ

エアコンの吹出し風量が極端に少なくなった場合、エアフィルタの詰まりが考えられますので点検してください。

- [1] ルーフ左後部のエアフィルタメンテカバー取り付けネジ4本をはずします。
- [2] エアフィルタを抜き出し、圧縮空気で洗浄します。
汚れや詰まりの激しいものは交換してください。
- [3] エアフィルタをすきまができないように取り付けます。
- [4] エアフィルタメンテカバー取り付けます。



15-2. 点検整備



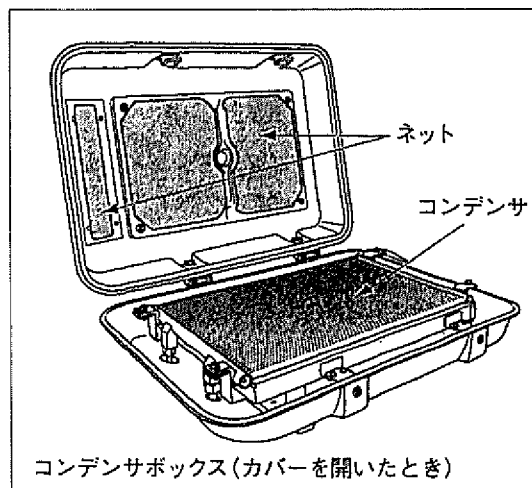
15-2.9.3 コンデンサの点検

作業前にネット、コンデンサのフィンに詰まりがないか点検します。

- (1) ネットを取り外し、やわらかいブラシを使用して水で洗い落とします。
- (2) コンデンサのフィンは、圧縮空気でフィンをつぶさないように汚れを落とします。

《参考》

- フィンがつぶれた場合は元に戻してください。



15-2.9.4 冷媒量の点検

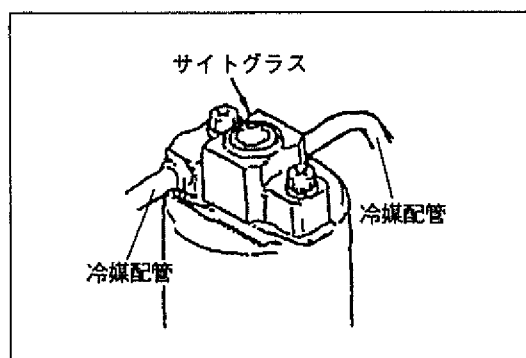
⚠ 注意

- 長期間放置（2週間以上）後、実施する場合は、事前にアイドリング回転にて下記操作（2、3項）をし、ならし運転を5分以上行ってください。
※守らないと、エアコン部品の損傷の原因となります。
- シーズンオフなど長期間保管する場合は、冷媒が漏れていないか点検してください。
漏れた状態で放置しないでください。異常がある場合は、お買い上げ先へお問い合わせください。
※守らないと、エアコン部品の内部にサビが発生する原因になります。

リヤハッチを開けてキャビン背面左のレシーバドライヤのサイトグラス（点検窓）から冷媒の気泡の流れを見て、冷媒量の点検をしてください。

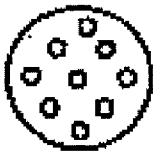
◆準備作業

- [1] エンジンを始動し、定格回転にします。
- [2] エアコンスイッチ「ON」風量調節ツマミを「HI」にします。
- [3] 温度調節レバーCOOLを「左」側いっぱいに動かします。



15-2. 点検整備

●冷媒量チェック表

冷 媒 量	サ イ ト グ ラ ス の 状 態	
適 正		ほとんど透明、泡の流れが見えてもエンジン回転を上げたり下げたりすると透明になる。
不 足		いつも気泡の流れが見える。 透明または白泡のときもある。
なし、または殆どなし		何も見えない。 または、霧のようなものが流れているのがわずかに見える。

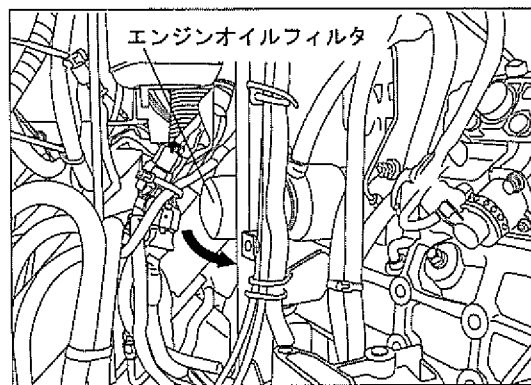
15-2. 10 その他の点検と調整について

15-2. 10. 1 エンジンオイルフィルタカートリッジの交換

エンジンオイルフィルタカートリッジは、1回目50時間、2回目からは400時間ごとに交換してください。

◆交換のしかた

- [1] グレンタンクをオープンします。
- [2] エンジンカバー（後）を外します。
- [3] オイルフィルタを矢印方向にねじってはずします。
- [4] 新しいカートリッジと交換し、カートリッジのゴムシール部にオイルを薄く塗ります。
- [5] エンジンカバー（後）を取り付けて、グレンタンクを閉めます。



HFZ-078

《参 考》

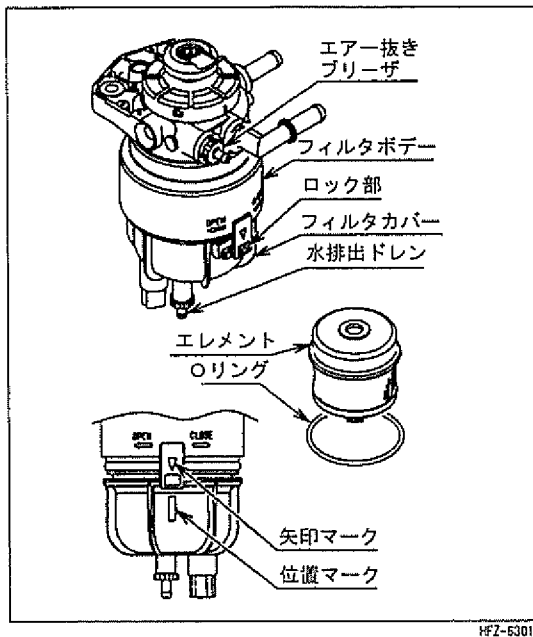
- 交換後エンジンオイルを給油し、エンジンを回すと、オイルフィルタに入っていた量だけエンジンオイルが減ります。規定量までエンジンオイルを補給してください。オイルの種類、検油のしかた等についてはオイル交換のしかたを参照してください。（136ページ）

15-2. 点検整備

15-2.10.2 燃料フィルタエレメントの交換

◆交換のしかた

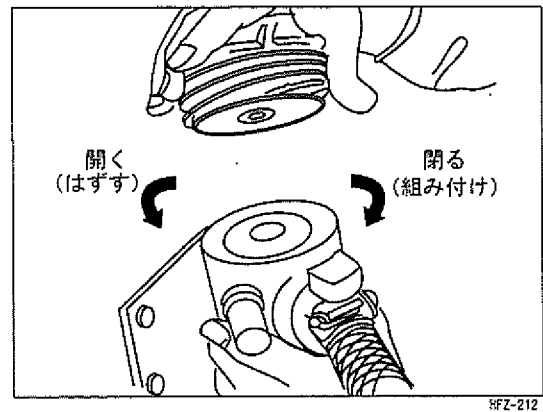
- [1] フィルタカバーのロック部をはずし、OPEN 方向に回して取り付けします。
- [2] エレメントとフィルタカバーのOリングを新品に交換します。
- [3] フィルタカバーの位置マークとロック部の矢印マークを合わせて、カバーをCLOSE 方向に回して組み付けます。



15-2.10.3 ブリーザエレメントの交換

◆交換のしかた

- [1] ブリーザASSY上部のキャップを反時計回りに回してはずします。
- [2] エレメントとキャップ側のOリングを同時に交換します。
- [3] ブリーザASSY上部のキャップを時計回りに回して組み付けます。

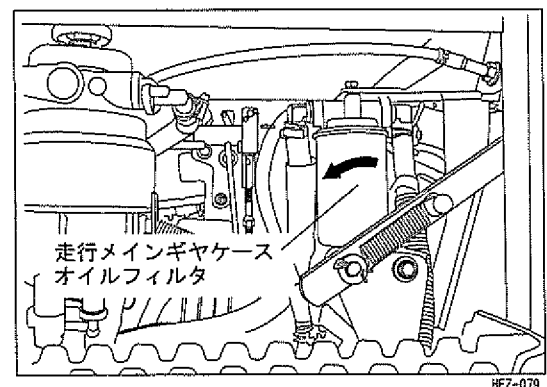


15-2.10.4 走行メインギヤケース オイルフィルタの交換

走行メインギヤケースオイルフィルタは、1 回目50時間、2回目からは200時間ごとに交換してください。

◆交換のしかた

- [1] 運転席ステップ下の走行メインギヤケースオイルフィルタを、矢印方向にねじってはずします。
- [2] 新しいフィルタのゴムシール部にオイルを薄くぬり、元のように締め付けます。



《参考》

- 交換後エンジンを回すと、はずしたオイルフィルタに入っていた量だけ油圧オイルが減ります。規定量まで油圧オイルを補給してください。オイルの種類、検油のしかた等についてはオイル交換のしかたを参照してください。(136ページ)

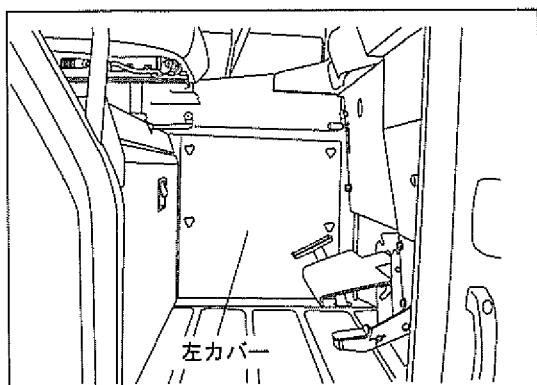
15-2. 点検整備

15-2.10.5 HSTオイルフィルタ エレメントの交換

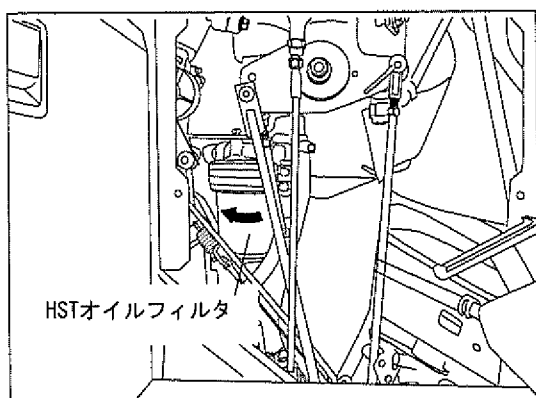
HSTオイルフィルタエレメントは、1回目50時間、2回目からは300時間ごとに交換してください。

◆交換のしかた

- [1] 運転席の左カバーをはずします。
- [2] オイルフィルタを矢印方向にねじってはずします。
- [3] 新しいオイルフィルタと交換し、ゴムシール部にオイルをぬり、元のように組付けます。
- [4] カバーを元の通り取り付けます。



HFZ-066



HFZ-080

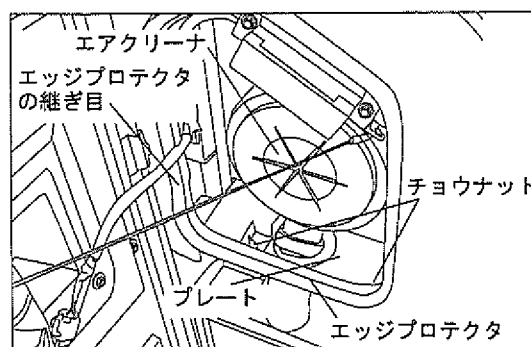
《参考》

- 交換後エンジンを回すと、はずしたオイルフィルタに入っていた量だけ油圧オイルが減ります。規定量まで油圧オイルを補給してください。オイルの種類、検油のしかた等についてはオイル交換のしかた参照してください。（136ページ）

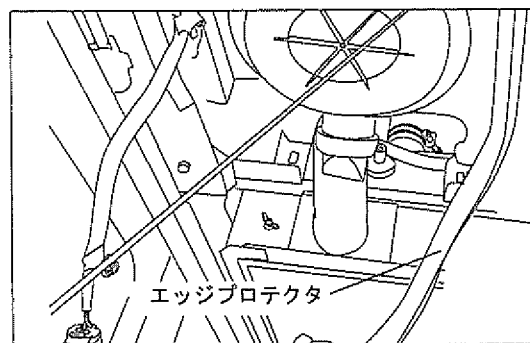
15-2.10.6 エアクリーナエレメント の掃除と交換

◆交換のしかた

- [1] ラジエータカバーを開きます。
- [2] エッジプロテクタをはずし、チョウナット（2ケ）をゆるめてプレートをはずします。

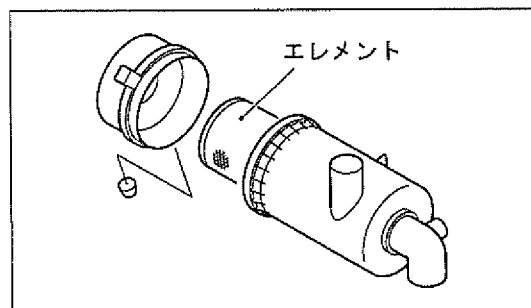


HFZ-082



HFZ-084

- [3] クリップを外し、エレメントを取出します。



CO0536_A

- [4] エレメントの清掃は次の要領で行います。

- 乾いたほこりがついている場合
エレメントの内側から空気を吹き付けるか、または手で軽くたたいてゴミを取り除いてください。
- 湿ったほこり、油分などで汚れている場合
家庭用中性洗剤を水でうすめてエレメントを約30分浸した後、軽くすすぎ洗いをして自然乾燥させてください。

15-2. 点検整備

[5] エLEMENT清掃後、逆の手順で確実に組付けます。

《参考》

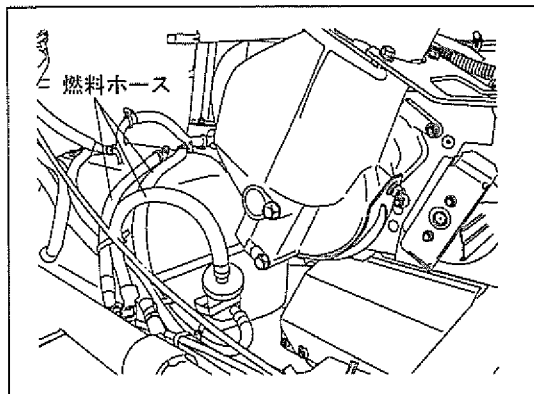
- エLEMENTのほこり溜まりは、エンジン馬力低下の原因となります。ほこりが多い刈取作業の時には、こまめに清掃してください。
- エッジプロテクタの継ぎ目にスキマがないように組立ててください。

15-2.10.7 燃料ホースの点検と交換

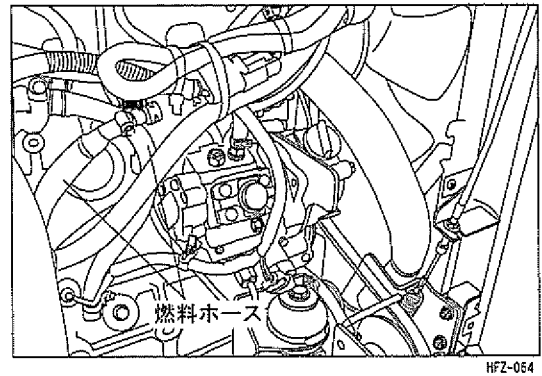
⚠ 危険

- 燃料ホースは必ず点検してください。
※破損していると燃料漏れを起こし、火災発生のおそれがあります。

燃料ホースは使わなくても劣化します。シーズン前および使用時間100時間ごとに、締付バンドのゆるみ、燃料ホースの傷を必ず点検してください。また、使用時間が300時間または2年ごとの早いほうで、「お買い上げ先」で交換してください。



HF2-211



HF2-054

《参考》

- 燃料ホースを交換する場合は、燃料ホース内を軽油で洗ってから組み付けてください。

15-2.10.8 ラジエータ・オイルクーラの掃除

⚠ 警告

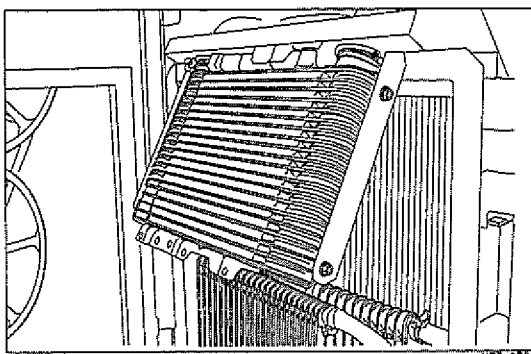
- エンジンは必ず停止し、駐車ブレーキをかけ、メインスイッチキーを抜いて清掃してください。
※守らないと、回転部に巻き込まれる等、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 注意

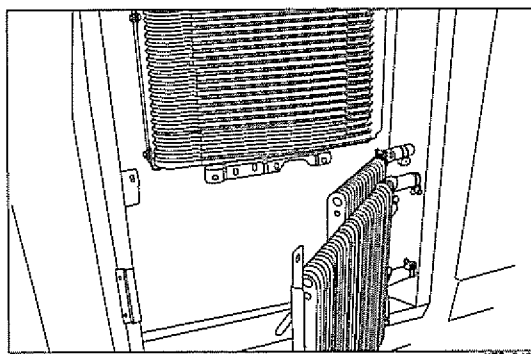
- 強い圧力水をかけないでください。
※守らないと、フィンが変形することがあります。
- エンジンまわりの電気配線・電装品には水をかけないでください。
※守らないと、電気部品の故障の原因となります。

ラジエータのフィンの間にゴミが入った場合は、インタークーラ、オイルクーラをオープンして、水道水で流してください。(109ページ)

15-2. 点検整備



HFZ-073



HFZ-048

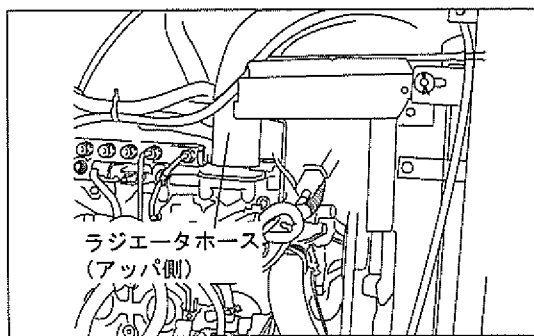
15-2.10.9 ラジエータホースの点検と交換

警告

- ラジエータホースは必ず点検してください。

※運転中に破損すると、熱湯が吹き出し、やけどをするおそれがあります。

ラジエータホースは使わなくても劣化します。シーズン前および使用時間が100時間ごとに、締付バンドのゆるみ、ホースの傷を必ず点検してください。また、使用時間が300時間または2年ごとの早いほうで交換してください。



HFZ-0092A

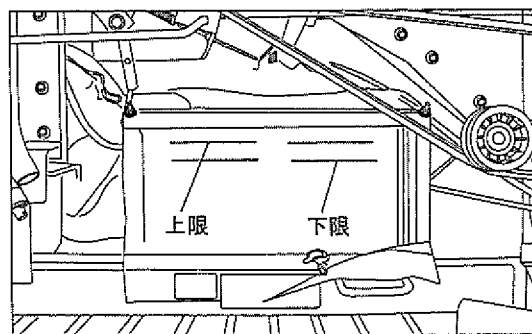
15-2.10.10 バッテリーの点検

危険

- 充電や点検は通風のよいところで行い、火気を近づけないでください。
※引火爆発のおそれがあります。
- バッテリー液を身体や服につけないように注意してください。
バッテリー液（電解液）は希硫酸で劇物です。
※失明ややけどをするおそれがあります。もし、目・皮膚・服についたときは、直ちに多量の水で洗ってください。なお目に入ったときは、水洗い後、医師の治療を受けてください。

バッテリーは、シーズン前に、点検してください。

- (1) カバー（ベルト）を外します。
- (2) 電解液が、液面線の上限、下限の間にあるかどうかを確認します。下限以下の場合には、精製水を補充してください。
- (3) カバー（ベルト）を付けます。



HFZ-081

◆バッテリーの交換について

バッテリーの交換は、下記の型式のものを使用してください。

バッテリー (130E41L-MF)

YUASA

コード No. 3829-260-200-0

15-2. 点検整備

⚠ 注意

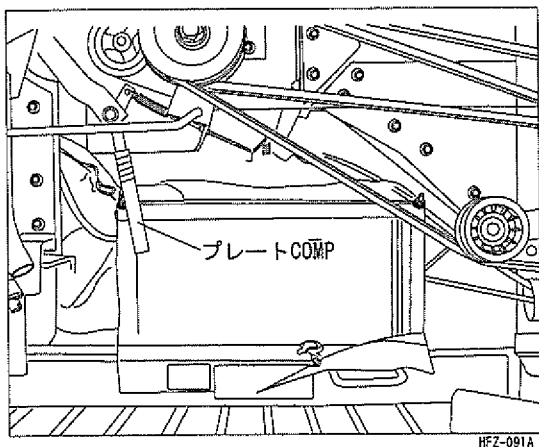
- バッテリーを廃棄するときは、お買い上げ先、または産業廃棄物処理業者等に相談して、所定の規定に従って処理してください。

◆ 補充電について

- [1] エンジンが始動しにくくなったり、ライトが暗くなってきたときには、補充電をしてください。
- [2] 急速充電はしないでください。
- [3] 長期運転しない場合は、夏期2ヶ月、冬期3ヶ月ごとに補充電をしてください。

◆ バッテリーの取り付け、取りはずしについて

- [1] プレートCOMPを取りはずしてください。
- [2] バッテリーをはずすときは、必ずマイナス側端子からはずしてください。
- [3] バッテリーを取り付けるときは、プラス側、マイナス側を間違わないようにし、必ずプラス側端子から取り付けてください。



15-2.10.11 電気配線・ヒューズ関係の点検と交換

⚠ 危険

- 傷んだ配線は、すぐにお買い上げ先で交換・修理してください。

※配線の端子、バッテリーコードの接続部のゆるみ、および配線の損傷は、電気部品の性能を損なうだけでなく、ショート（短絡）・漏電の原因となり火災事故になるおそれがあります。

- バッテリー、電気配線、マフラおよびエンジン周辺部のワラକୁズ・ゴミ等は取り除いてください。

※守らないと、火災の原因となります。

⚠ 注意

- メータパネル、バッテリー、エンジンまわりの電気配線・電装品および電子油圧操作部には圧力水をかけないでください。

※守らないと、電気部品の故障の原因となります。

- 1年に1回、お買い上げ先で定期点検を受けてください。

※守らないと、傷害事故を引き起こす原因となります。

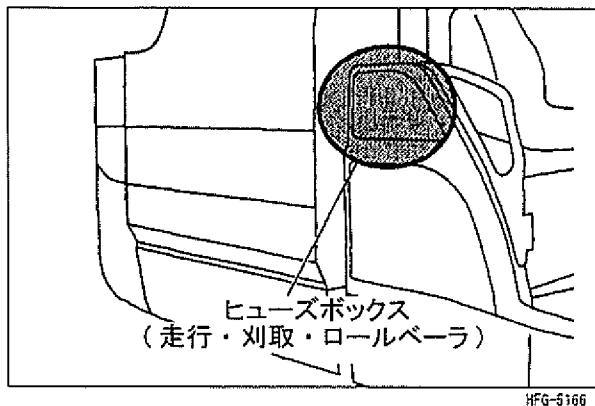
◆ 電気配線の点検

- [1] 配線類やバッテリーコードがねずみのかじりや自然劣化による損傷がないこと。
- [2] 配線のクランプのゆるみがないこと。
配線がクランプより外れているときは、所定のクランプに配線をセットしてください。
- [3] ターミナル、ブロック（ソケット）の接続部のゆるみがないこと。

15-2. 点検整備

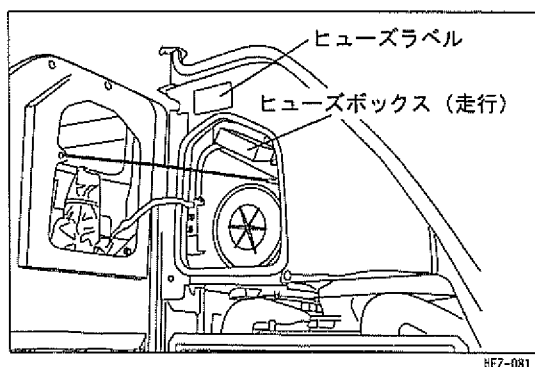
◆ヒューズの点検・交換のしかた

- [1] ヒューズはシーズン前に点検してください。
- [2] 運転席後方のノブボルトをはずした所にヒューズボックスが設置されています。



◆ヒューズボックス（走行）

- [1] ラジエータカバーを開きます。
(109ページ)
- [2] ヒューズボックスのフタを開きます。
- [3] 各ヒューズが切れていないか確認します。
- [4] ヒューズが切れている場合は、必ず同じ容量のヒューズと交換します。
- [5] ラジエータカバーを閉じます。



《参考》

- ヒューズボックスカバーのヒューズラベルにヒューズの回路名称を明記しています。

◆ヒューズボックス（刈取・ロールベアラ）

- [1] 運転席後方のノブボルトをはずします。
- [2] ヒューズボックスのフタを開きます。
- [3] 各ヒューズが切れていないか確認します。
- [4] ヒューズが切れている場合は、必ず同じ容

量のヒューズと交換します。

- [5] ノブボルトを付けます。

◆スローブローヒューズの点検・

交換のしかた

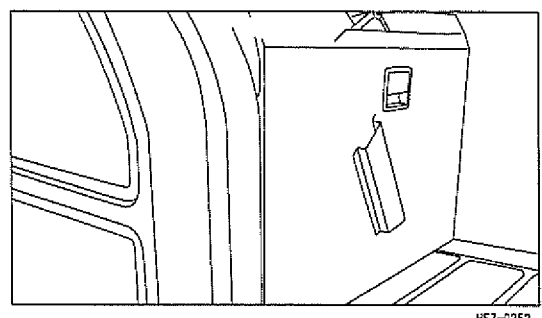
- [1] エンジンハーネス、キャビン用エンジンハーネス、バッテリーケーブルに、スローブローヒューズが設置されています。
- [2] スローブローヒューズはヒューズの種類で、過大電流が流れたり、ショートしたときに熔断して配線の損傷を防ぎます。

《参考》

- エンジンを必ず停止させてください。

◆エンジンハーネス側

座席下のカバーを開きます。



- [1] スローブローヒューズ（電源）
キースイッチを回しても電源が入らないときは、スローブローヒューズ（60 A：赤）を点検し、熔断しているときは交換してください。
- [2] スローブローヒューズ（充電）
スタータモータが回らないときは、スローブローヒューズ（60 A：赤）を点検し、熔断しているときは交換してください。
- [3] スローブローヒューズ（充電）
バッテリーが充電されなくなり、バッテリー上がりを起こすときは、スローブローヒューズ（120 A：白）を点検し、熔断しているときは交換してください。

15-2. 点検整備



[4] スローブローヒューズ

(キャビンエアコン)

ハーネス（エンジン/キャブ）のスローブローヒューズ（60A：黄、ハーネス色赤）を点検し、溶断しているときは交換してください。

[5] スローブローヒューズ (キャビン電装品)

ハーネス（エンジン/キャブ）のスローブローヒューズ（60A：黄、ハーネス色白）を点検し、溶断しているときは交換してください。



◆バッテリーケーブル側

[1] スローブローヒューズ (ズームオーガ)

ズームオーガが伸縮しないときは、スローブローヒューズ（40A：緑）を点検し、溶断しているときは交換してください。

[2] スローブローヒューズ (電源)

作業灯、ウインカが作動しないときは、スローブローヒューズ(60A:黄)を点検し、溶断しているときは交換してください。

[3] スローブローヒューズ (エンジン)

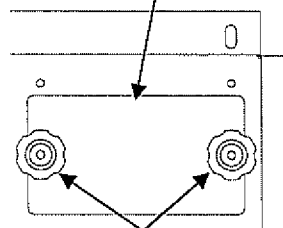
エンジンがかからないときは、スローブローヒューズ (60 A : 黄) を点検し、溶断しているときは交換してください。

座席下のカバーを閉じます。

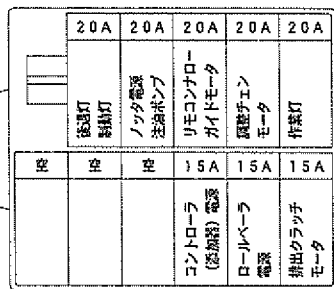


[4] ヒューズボックス (刈取・ロールベアラ)

キャビン後方のノブボルトをはずすとヒューズボックスがありますのでヒューズが切れていないか確認してください。



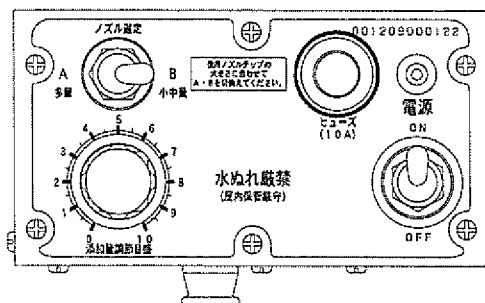
ノブボルト



ヒューズボックス

[5] ヒューズホルダー (添加器)

添加器のポンプが作動しない場合はキャビン内コントローラーのヒューズ(10A管ヒューズ)が切れていないか確認してください。



15-2. 点検整備

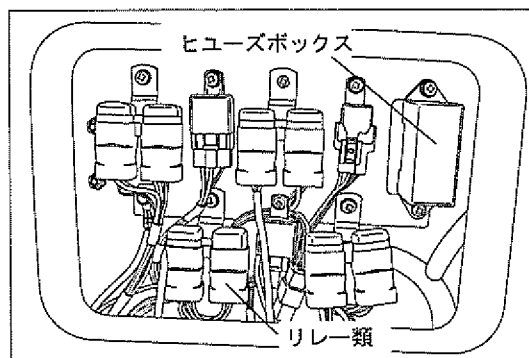
15-2.10.12 リレー・ヒューズの点検のしかた（キャビン関係）

⚠ 警告

- 点検・交換時は、必ずバッテリーの－側を外してから行ってください。
※守らないと、火花がとんだり、感電したり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 点検・交換で取り外したメンテカバーは、必ず元のとおりに取り付けてください。
※守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

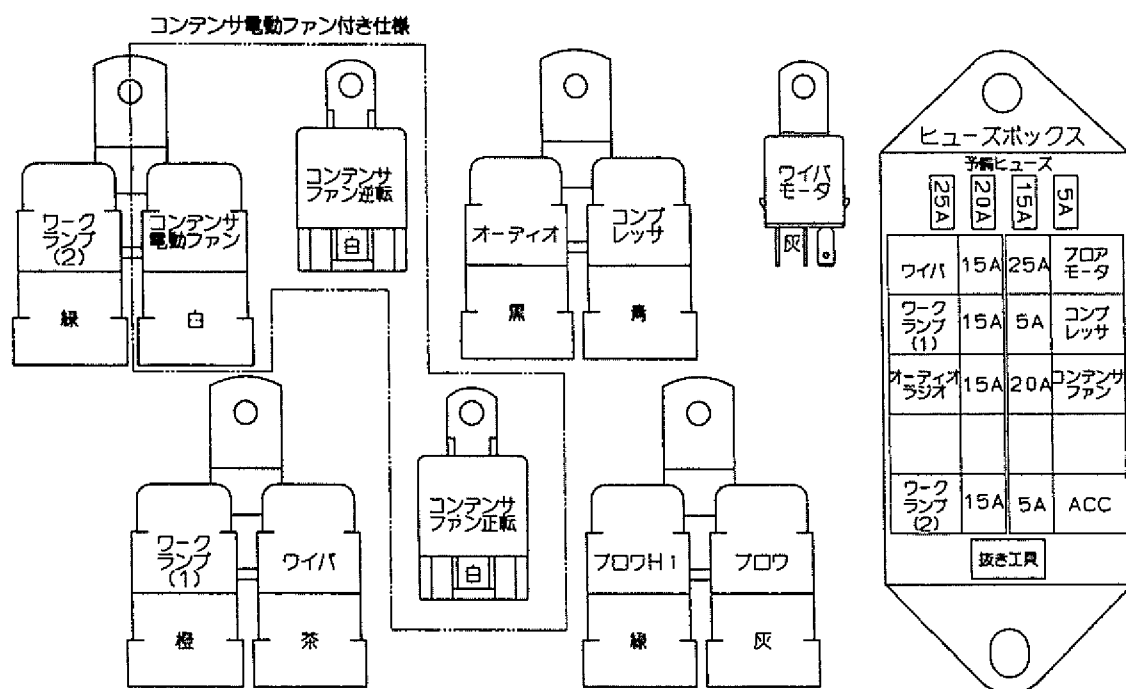
キャビン関係のリレーおよびヒューズは、シート後部リヤカバー内にあります。

- (1) シート後方上部のメンテカバーを取り外します。
- (2) メンテカバー裏に下記ラベルを貼付しています。
ラベルと対比して点検してください。
- (3) シート後方上部のメンテカバーを取り付けます。



HJ-6122

キャビン関係リレー・ヒューズの配置図



注意：点検・交換時には必ず、バッテリーのマイナス側を外してから行ってください。

15-2. 点検整備

15-2.10.13 クローラの点検と調整

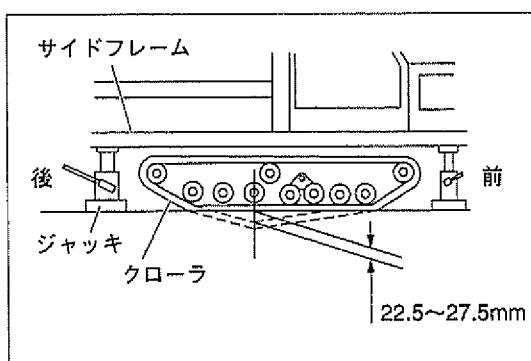
⚠ 警告

- クローラの張りを点検・調整するときは、(1) 平たんで地面の硬い場所で、
(2) 揚力1.5t以上のジャッキを使用し、
(3) コンバインのサイドフレームにジャッキをかけ、(4) コンバインの下にもぐりこまないようにしてください。

※守らないと、傷害事故を引き起こすことがあります。

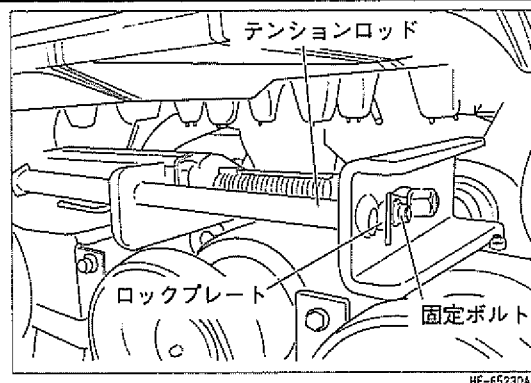
◆点検のしかた

点検する側のサイドフレーム前後をジャッキアップします。後から3番目の転輪で、転輪とクローラのスキマが22.5～27.5mmあるか確認します。



◆調整のしかた

- [1] 固定ボルトをゆるめて、ロックプレートを外します。
- [2] テンションロッドを回して、転輪とクローラのスキマを22.5～27.5mmに調整します。
(車高「下」の状態でもクローラの張りを調整します。)
- [3] テンションロッドを若干回しながらロックプレートを元の位置に組み付け、固定ボルトを締め付けます。



15-2.10.14 冷却水の点検と交換

⚠ 警告

- ラジエータキャップは、エンジン運転中および停止後に十分冷えるまで開かないでください。

※守らないと、熱湯が噴出してやけど等、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

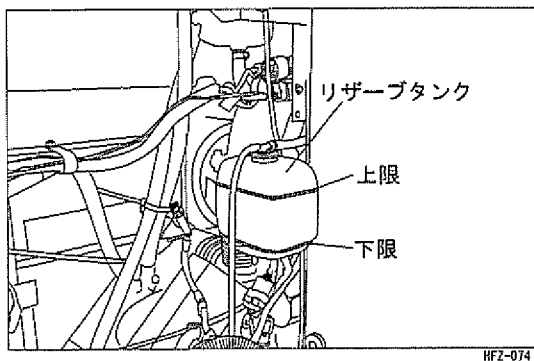
⚠ 注意

- 交換した冷却水(不凍液)は、地面へのたれ流しや河川、湖沼、海洋への投棄はしないでください。環境汚染につながります。廃棄する場合は、「お買いあげ先」または、「産業廃棄物処理業者」等に相談して、所定の規則に従って処理してください。

◆点検のしかた

- [1] グレンタンクを開けます。
- [2] 冷却水のリザーブタンクの水量が、上限と下限の間にあるか確認します。
- [3] 冷却水が不足しているときは、リザーブタンク上限(FULLライン)まで補給します。
- [4] グレンタンクを閉じます。

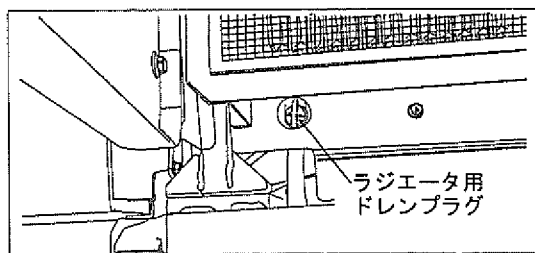
15-2. 点検整備



HFZ-074

◆交換のしかた

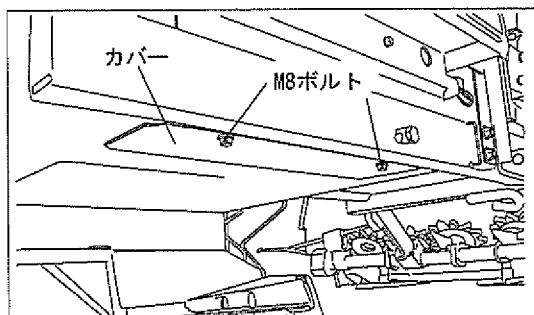
- [1] 冷却水を抜くときは、ドレンプラグを開けて抜きます。ラジエータキャップを同時に開けると冷却水は勢いよく排出されます。



HFZ-213

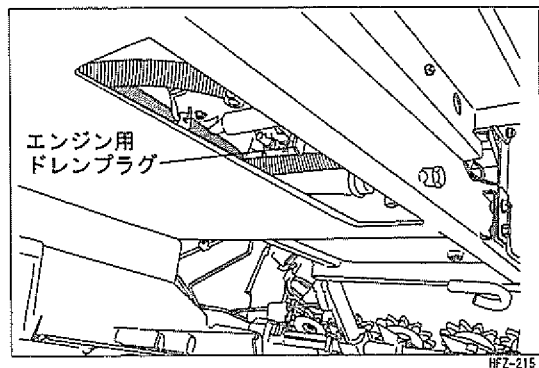
- [2] ドレンプラグはエンジン用とラジエータ用の2ヶ所あります。

- [3] エンジン用ドレンプラグはラジエータ下の走行フレームのカバー（M8ボルト2本）をはずします。



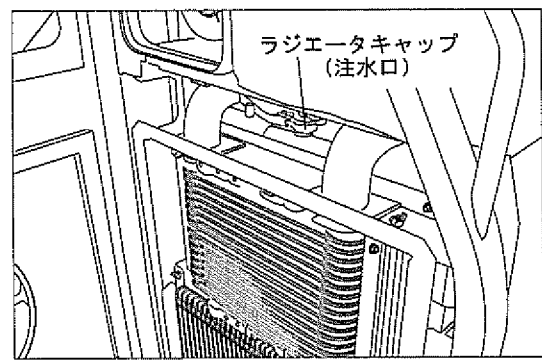
HFZ-214

- [4] 冷却水を完全に抜いた後、水道水を給水口より入れます。
- [5] ゴミや錆が出なくなるまで、ラジエータ内部をよく洗浄します。
- [6] ドレンプラグを閉じ、冷却水（LLC）を注入し、ラジエータキャップを確実に締め付けます。



HFZ-215

- [7] リザーブタンク上限（FULLライン）まで冷却水（LLC）を注入します。冷却水量は約9.0Lです。



HFZ-072

- [8] エンジンを始動し、約5分間ほどアイドリング回転で運転し、再度、冷却水の量を確認します。不足していれば補給してください。

◆不凍液について

- (1) 工場出荷時には不凍性冷却液（ロングライフクーラント）を注入してあります。そのまま作業してください。
- (2) 冷却水交換時には、新たに不凍液を入れます。
- (3) 不凍液の混合比は、気温や不凍液メーカーにより異なります。不凍液メーカーの取扱説明書の指示に従ってください。

15-2. 点検整備

15-2.10.15 刈刃の点検と調整

⚠ 危険

- 刈刃調整後、刈刃を手で動かし、作動が重くないことを確認してください。
※守らないと、発熱してワラ等に着火し、火災の原因になります。

⚠ 警告

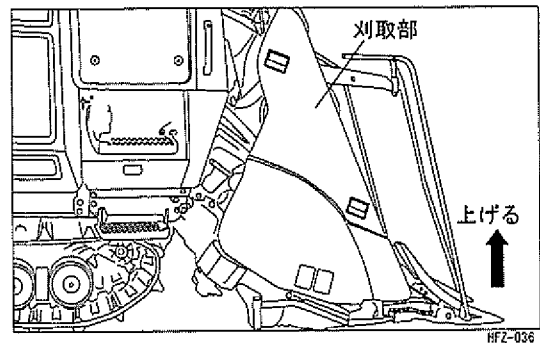
- 必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけ、メインスイッチキーを抜いてください。
※守らないと、傷害事故を引き起すおそれがあります。
- 刈取部を上げて点検・調整するときは、必ず刈取ロックノブを「ロック」位置に回し、さらに刈取部の下に、スタンド等の台を置き、刈取部が下がらないようにしてください。
※守らないと、傷害事故を引き起すおそれがあります。
- 刈刃で手を切らないように手袋をして作業してください。
※守らないと、傷害事故を引き起すおそれがあります。2人で作業してください。
※守らないと、傷害事故を引き起すおそれがあります。
- 刈刃の刃に触れないようにしてください。
※守らないと、傷害事故を引き起すおそれがあります。

◆点検

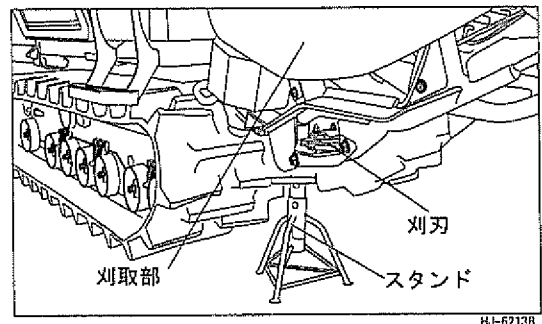
刈刃はシーズン前および100時間ごとに点検し、300時間ごとに交換してください。

◆外しかた

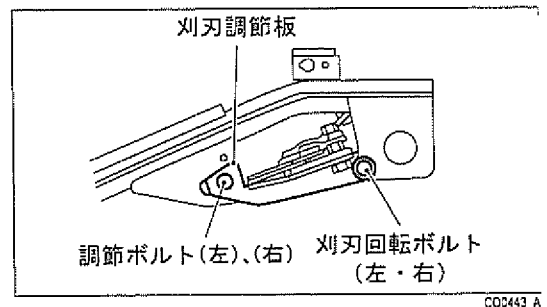
- [1] パワーステアリングレバーで刈取部を上げ、刈取下げロックスイッチを「ロック」側にします。(56ページ)



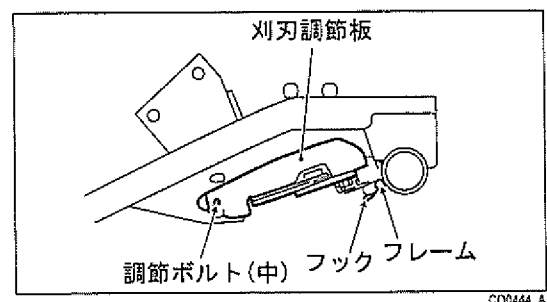
- [2] 刈取部の下にスタンド等の台を置きます。



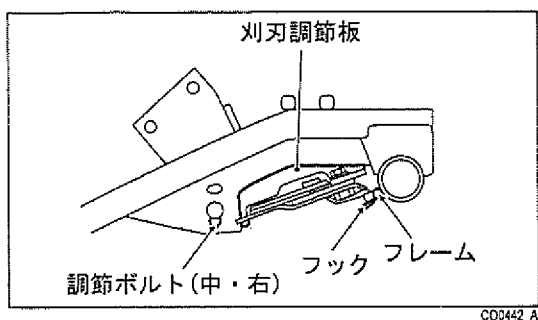
- [3] 刈刃回転ボルト（左・右）をはずします。



- [4] 刈刃調節板を支えながら調節ボルト（左）、（右）、および（中）（中・右）をはずします。



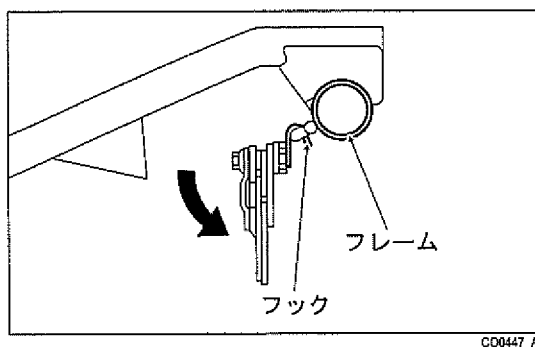
15-2. 点検整備



CD0442_A

[5] 刈刃調節板を上から押さえ、回転させて開きます。

[6] 刈刃調節板を持ち、フックをフレームよりはずし、そのまま地面に降ろします。

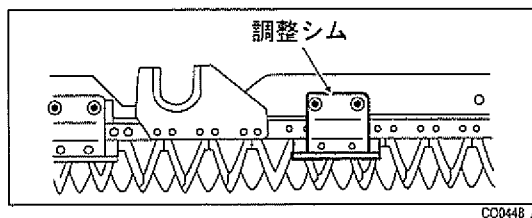


CD0447_A

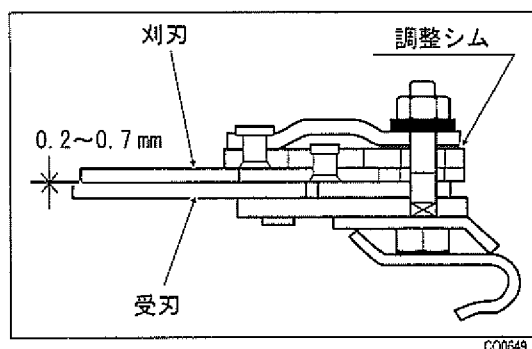
[7] 取り付けは、上記の逆の手順で行います。

◆調整

調整シム (6箇所) で刈刃と受刃のスキマが0.2～0.7mmになるように調整します。



CD0448_A



CD0549_A

《参考》

- 調整後、刈刃ヘッドを手で動かし作動が重くないことを確認してください。
刈刃には、十分注油してください。

15-2. 点検整備

15-2.10.16 サイドクラッチ アーム部のボルトの点検と調整

警告

- 刈取部を上げて点検、整備する場合には、必ず刈取ロックノブを「ロック」位置にし、さらに刈刃の下に木片、ブロック等のしっかりした台を敷いて固定してください。

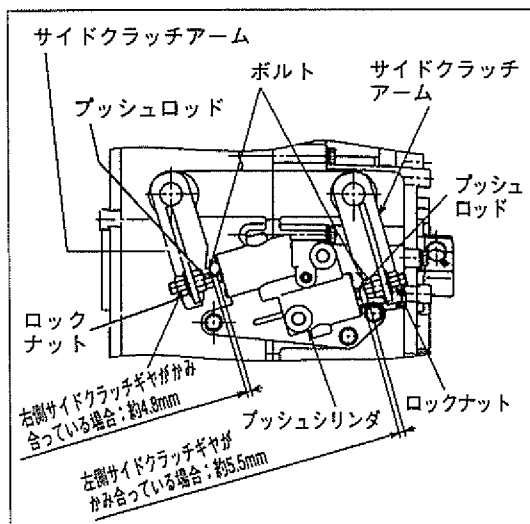
※守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

- 機体を移動させる場合は、低速で行ってください。

※守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

◆点検のしかた

低速で標準モードによる旋回ができるか確認します。

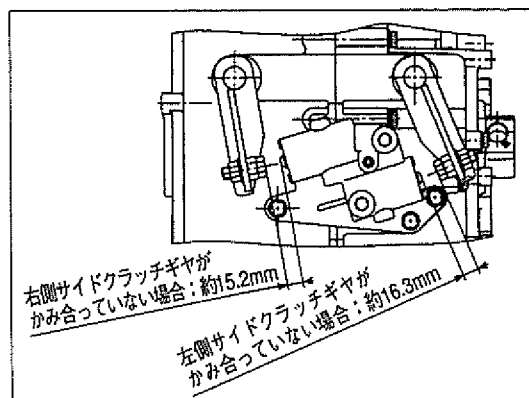


◆調整のしかた

- [1] エンジンを停止します。
- [2] 左右のサイドクラッチアーム部のロックナットを、ゆるめます。
- [3] 左右のサイドクラッチアーム部のボルトをいっぱい、ねじ込みます。
- [4] プッシュシリンダ部の左右のプッシュロッドを押し込みます。

- [5] サイドクラッチギヤがかみ合っていることを確認するため、ボルトとプッシュロッドのスキマを測定します。

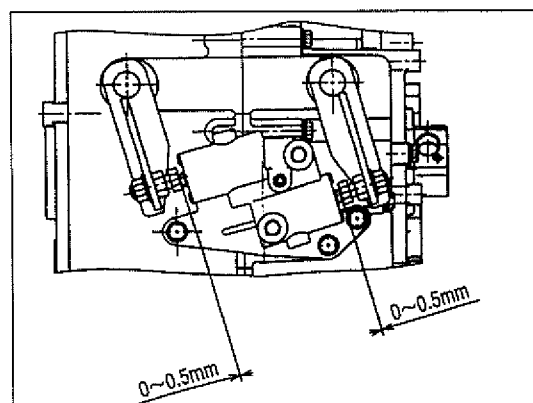
	ボルトとプッシュロッドのスキマ	
	右側	左側
サイドクラッチギヤがかみ合っている場合	約 4.8 mm	約 5.5 mm
サイドクラッチギヤがかみ合っていない場合	約 15.2 mm	約 16.3 mm



- [6] サイドクラッチギヤがかみ合っていることが確認できた側について、ボルトとプッシュロッドのスキマが0～0.5mmになるようにボルトで調整します。

《参考》

- 左右ともサイドクラッチギヤがかみ合っていることが確認できた場合は、左右ともボルトとプッシュロッドのスキマが0～0.5mmになるようにボルトで調整してください。



- [7] 調整した側のロックナットを確実に締め付けます。

15-2. 点検整備

[7] 調整した側のロックナットを確実に締め付けます。

《参考》

- 左右ともスキマ調整ができた場合は、左右ともロックナットを確実に締め付けてください。

以下の調整が不要になります。

[8] 未調整側のサイドクラッチギヤをかみ合わせるため、スキマ調整が完了した側にパワーステアリングレバーを操作し、機体を移動（1m）します。

[9] エンジンを停止します。

[10] 未調整側のサイドクラッチアーム部のボルトを手順2～6で調整します。

《参考》

- サイドクラッチがかみ合っていない場合は再度、手順8以降を実施してください。ロックナットを確実に締め付けます。

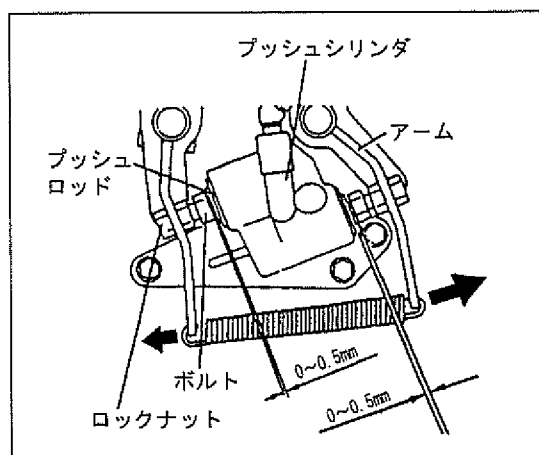
◆点検のしかた

パワーステアリングレバーのききが悪くないかどうか確認します。

[1] プッシュシリンダ部のボルトのロックナットをゆるめます。（2カ所）

[2] ボルトとプッシュロッドのスキマが0 ～ 0.5mmになるようにアームを矢印方向に引いてください。

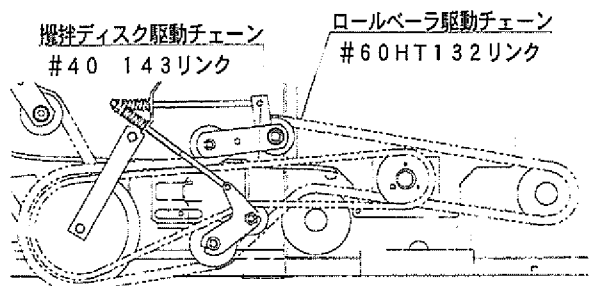
[3] ロックナットを確実に締め付けてください。



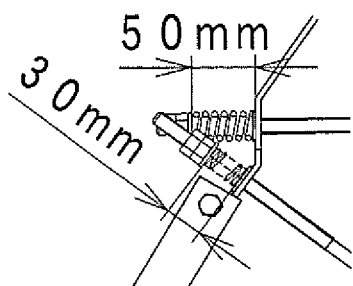
16. ロールベアラ部の点検・調整

16.1. チェーンの点検・調整

◆ロールベアラ、攪拌ディスク駆動チェーン



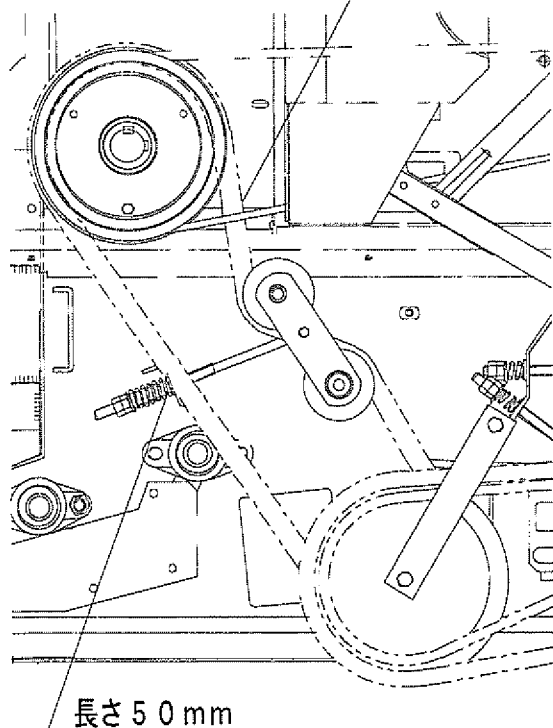
バネの長さを下図のよう調整してください。



◆タイトチェーンの駆動チェーン

タイトチェーンの駆動チェーン

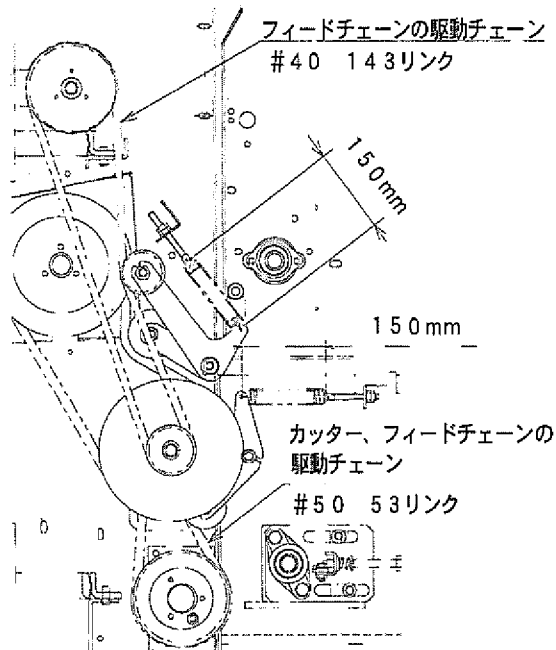
#80 75リンク



バネの長さを50mmにしてください。

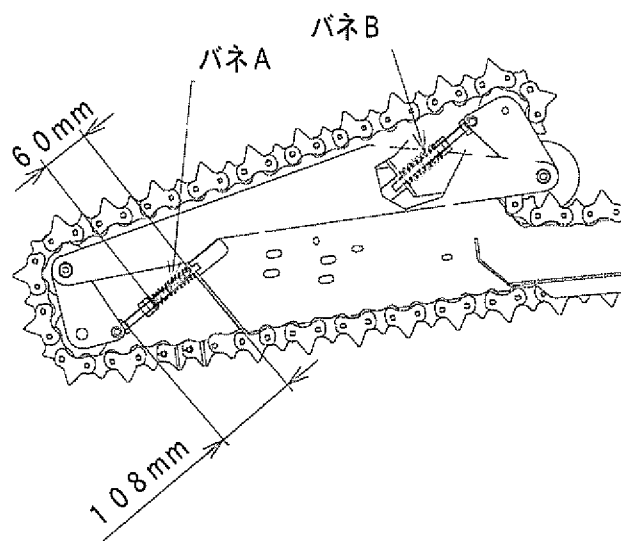
◆カッター、フィードチェーンの駆動チェーン

フィードチェーンの駆動チェーン



バネの長さを150mmにしてください。

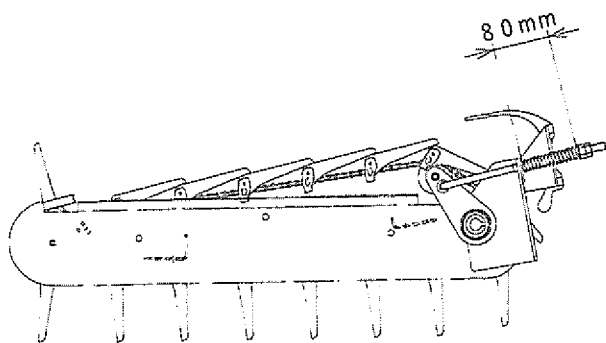
◆ギャザリングチェーン



バネAの長さを60mmになるようにバネB部で調整してください。

16. ロールペーラ部の点検・調整

◆穂先チェーン



バネの長さを 80mm になるように調整してください。

16.2. カッター部の点検・調整

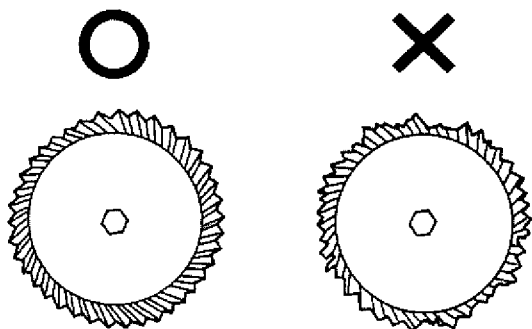
⚠ 警告

- 平たんな場所でエンジンを必ず停止しておこなってください。
- 手袋を使用し、直接カッタ刃に触れないでください。

《参考》

- わらくずなどは取除いてください。

カッターの駆動ベルトを外し、プーリーを手で回転させ刃先の磨耗状態を確認します。刃先が磨耗したり欠けているときは交換してください。



カッターの刃の交換、調整はカッターをロールペ

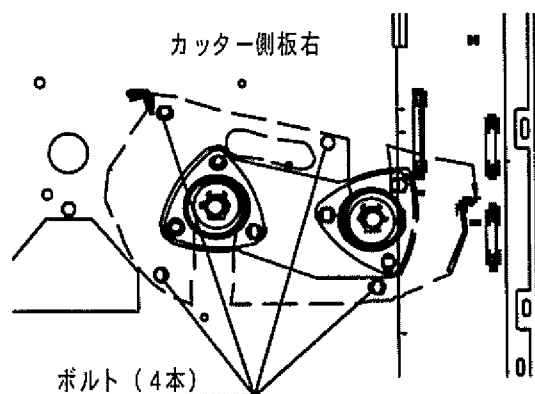
ーラから引き抜いて行ってください。

《重要》

- カッターの引き出しはクレーンのあるところで行ってください。
- 人手で行う時は 4 人で作業してください。必ず手袋をし、直接カッターの刃に触れないでください。

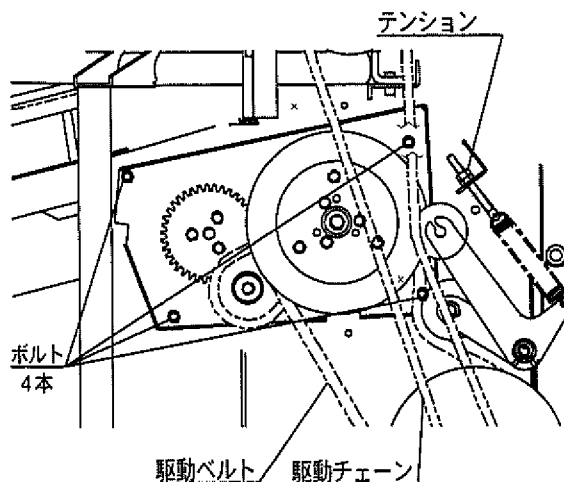
◆カッターの外し方

- (1) カッターカバー外、フロントカバー L、フロントカバー R を外してください。
- (2) カッターフレーム右のボルト 4 本はずしてください。



(3)

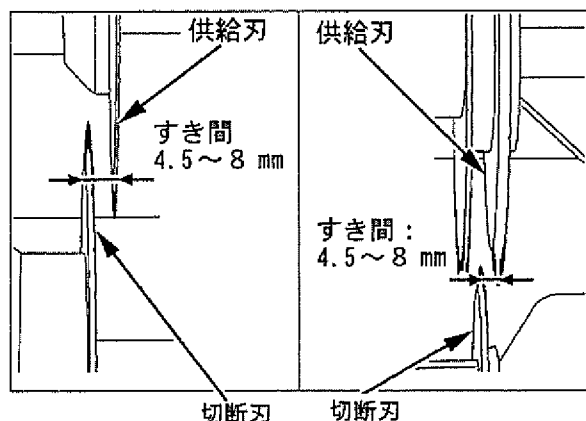
駆動チェーンと駆動ベルトのテンションを緩めチェーンとベルトを外してからカッターを引きだしてください。



16. ロールベアラ部の点検・調整

◆点検

- (1) 両端部の切断刃と供給刃のすき間を確認し、4.5～8.0mm の範囲から外れているときは調整を行ないます。



◆調整

- (1) 38ギヤのボルトを3本はずします。
(2) 38ギヤを左又は、右に回して切断刃と供給刃の隙間を調整します。隙間は左に回すと大きくなり右に回すと小さくなります。
●この調整はカッターをロールベアラに固定した状態で行ってください。

《重要》

- 38ギヤを左に回した場合（すき間を大きくした場合）は、38ギヤとボス部にすき間ができるため、38ギヤを軸方向に必ず押込んだ状態ですき間を調整してください。
- すき間は、株元側と穂先側の両端部で測定してください。

◆切断軸と供給軸の増締め

- (1) 2人作業で株元側から切断軸と供給軸をそれぞれ増締めをします。

《重要》

- 軸の締付けトルクは 98.0～117.6N・m (1000～1200kgf・cm) です。確実に締付けてください。
- 組付け時、刃物・パイプ端面に砂など異物が付着しますと、刃物間寸法が出ない場合がありますので注意してください。

- [1] カッターフレームの内側から切断軸または、供給軸の終端部の六角部にそれぞれスパナを掛けて固定します。
[2] カッターフレーム外側から切断軸または、供給軸の六角部にそれぞれスパナを掛けて増締めします。このとき、供給軸は時計方向、切断軸は反時計方向に締付けます。

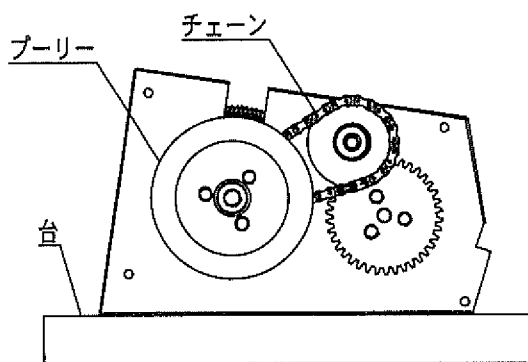
16. ロールベアラ部の点検・調整

◆カッタ刃の交換

⚠ 警告

- カッタ刃を交換するときは、エンジンを必ず止めてください。
- 手袋を使用し、直接カッタ刃に触れないでください。
- 切断軸完備を外すときは、2人でカッタ刃のない両端を持って脱着作業をしてください。
- 切断軸アッシの分解・組立て作業は2人作業で行なってください。

- (1) カッターをロールベアラから外したら上下さかさまに台に置いてください。



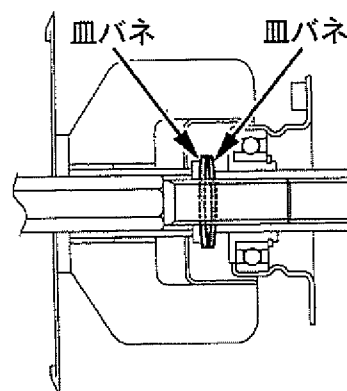
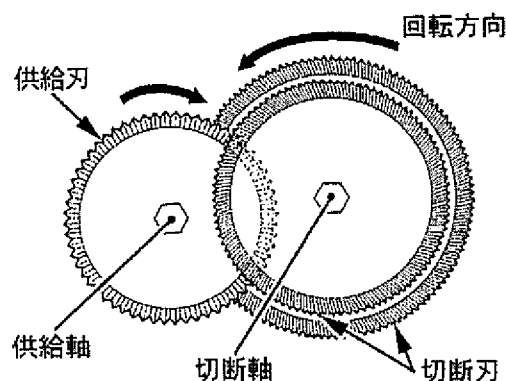
- (2) プーリー、チェーン、スプロケット、カラーを外します。
- (3) 切断軸完備を取り外します。
- (4) カッタ刃（切断刃）の交換を行ないます。交換作業を行なうときは、必ず補助者と共に2人作業で行なってください。
- [1] 切断軸アッシを安定した場所に置き、穂先側のロックナット、調整ナットと順番に取り外して分解します。
- [2] 切断軸の穂先側を上向きにして垂直に立てた状態でカッタ刃の取付方法（刃先の向き）や大きさ（大、小）に注意しながら交換を行ないます。

《重要》

- 取付け後にカッタ刃が切断軸の垂直方向に対して傾いていると、切断軸が軸振れを起こして異音が発生したり破損する原因となります。
- 組付け時にカッタ刃やパイプの端面に砂などの異物が付着すると、カッタ刃と供給刃のすき間及びカッタ刃両端の寸法が規定値の範囲から外れ、上記の軸振れを起こすことやわらの切断性能が悪くなるおそれがあります。

《参考》

- 取付方向（刃先の向き）や大きさを間違えるとわらの切断性能が悪くなります。
- 皿バネ2枚は下図のように組付けてください。
- 刃の向きと回転方法は下図のようになります。



- [3] カッタ刃の交換が終わると、分解と逆の手順で切断軸アッシを組立てます。
- [4] 切断軸アッシを垂直に立てた状態でナットをスパナで軽く締付けます。

16. ロールベアラ部の点検・調整

ットをスパナで軽く締付けます。

- (5) 切断軸完備をカッターフレームに組付けます。
- (6) 切断軸ナット増締め要領 (173 ページ) で締付けます。

《重要》

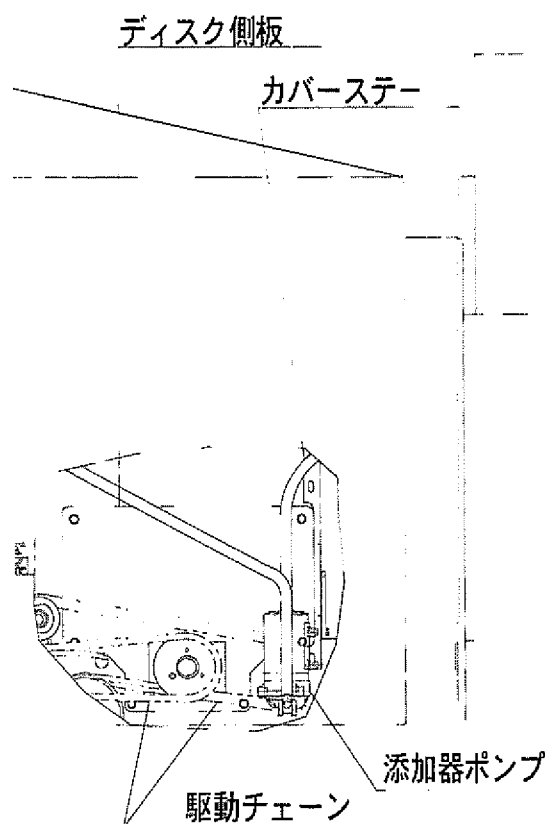
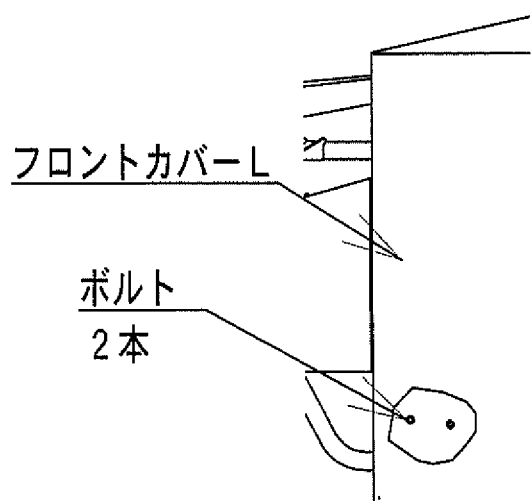
● 軸の締付けトルクは $98.0 \sim 117.6 \text{ N} \cdot \text{m}$ ($1000 \sim 1200 \text{ kgf} \cdot \text{cm}$) です。確実に締付けてください。カッタ刃と供給刃が接触していないか、また、手で切断軸を軽く回して確かめてください。

- (7) 取り外した逆の手順で各部品の取り付けを行います。
- (8) カッターを本体に組み付けます。

16.3. スピンナー部の点検・調整

スピナー部アッシを本体から引き抜いて点検調整してください。

- (1) フロントカバーL内のボルトを2本外します。



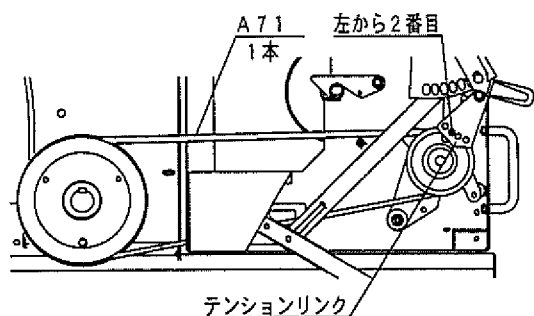
- (2) フロントカバーLを外し、駆動チェーンを2本はずします。
- (3) カバーステーを添加器ポンプごとはずします。
- (4) ディスク側板のボルト6本をはずしスピナー部アッシを本体から引き抜きます。
- (5) スピナーやスピナー羽根が磨耗したり変形すると攪拌性能が悪くなる場合があります。そのときは交換してください。

16. ロールベアラ部の点検・調整

16.4. ベルトの点検・調整

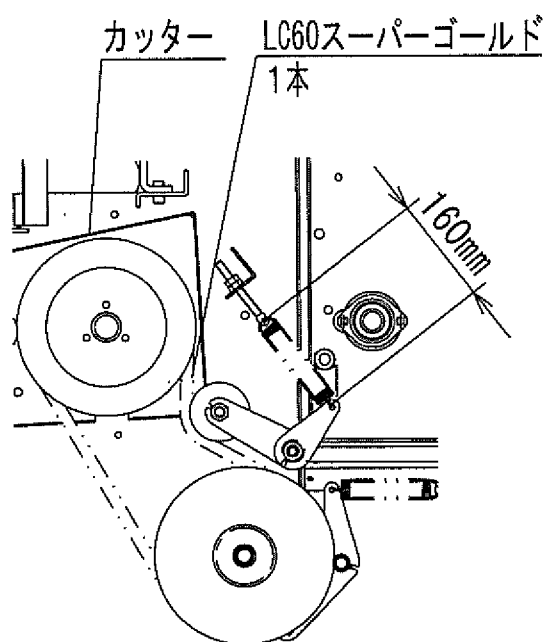
●ネット駆動ベルト

テンションリンクは左から2番目に
取り付けてください。



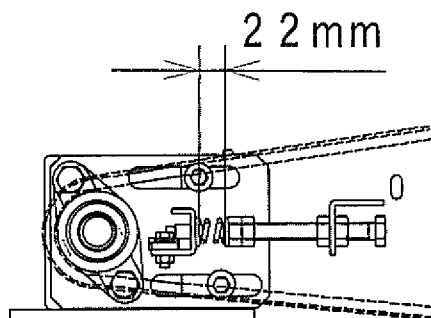
●カッター駆動ベルト

バネの長さが160mmになるようにしてく
ださい。



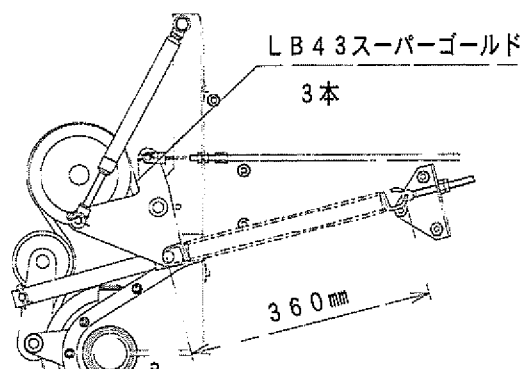
●コンベアーベルト

バネ長を22mmにしてください



●ロールベアラ駆動ベルト②

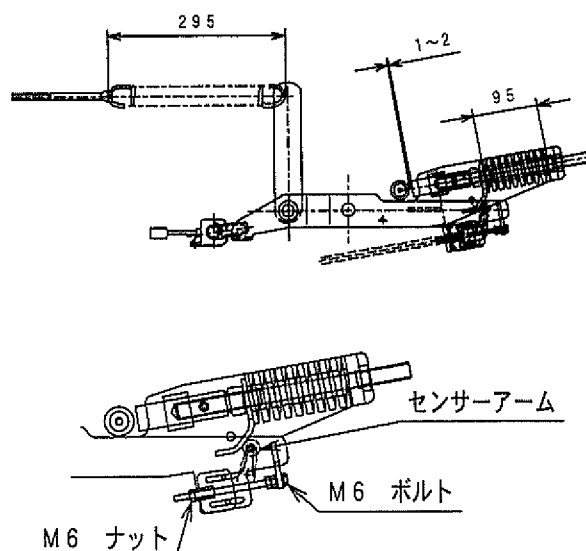
バネの長さが360mmになるように
してください。



16.5. 感知装置の点検・調整

◆満了感知装置の装備位置

下図に示すように進行方向左側のサイドカバ
ーの内側に装備しています。



M6 ナットを緩め、M6 ボルトを締め込み感知
した位置から3回転緩め、再度 M6 ナット
でロックしてください。

(調整後、センサーアームを手で動かし
2~3mm動かし感知することを確認して
ください。)

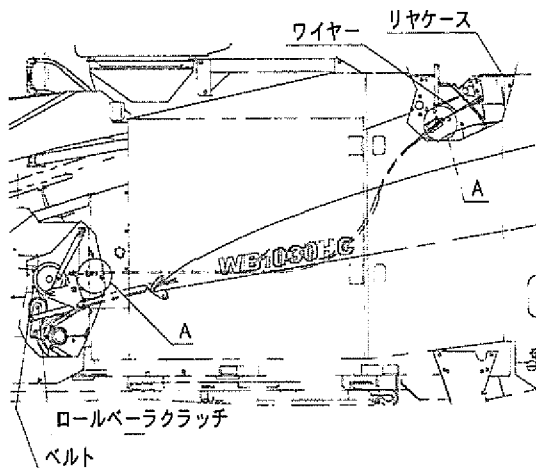
《重要》

感知装置は出荷時に調整済みですので再調
整する場合は、販売店まで連絡してくださ
い。

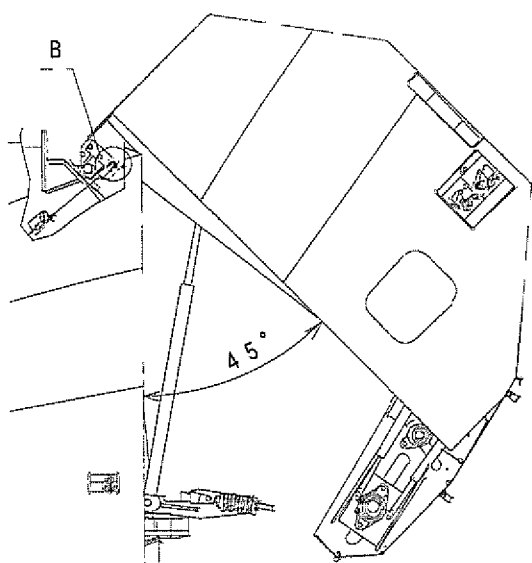
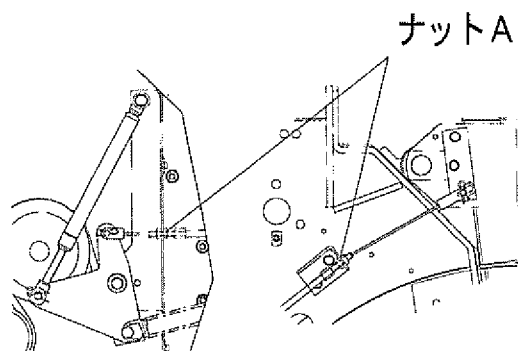
16. ロールベアラ部の点検・調整

16.6. リヤケース連動クラッチの点検・調整

ロール放出時ロールベアラの回転を止めることでロスを少なくする構造になっています。



ベルトが伸びるとロールベアラの回転が止まるのが遅くなり、ロールが放出できなくなります。その時は次ページのようにA部のナットでワイヤーの長さを調整してください

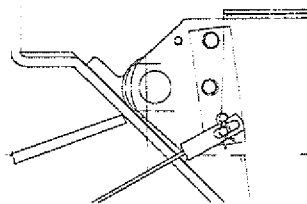


リヤケースが約 45° 開いたときにクラッチが切れるようにしてください。

●掃除などでリヤケースを開いた状態でロールベアラを回したいときはB部のRピンを抜いてワイヤーをはずしてください。

B (Rピン)

ワイヤー



17. 格納時の手入れ

17.1 手入れに関する注意

⚠ 危険

- 機体カバーは、エンジン、マフラーが冷えてからかけてください。
※守らないと、火災の原因となります。

⚠ 警告

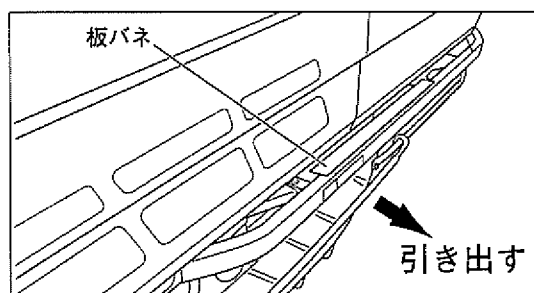
- 点検・整備で取り外した保護カバー類は、必ず元どおりに取り付けてください。
※守らないと、機械に巻き込まれたりして、傷害事故を起こします。
- 清掃する場合は、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけ、メインスイッチキーを抜いて行ってください。
※守らないと、回転部や刈刃等で、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 格納は平たんな場所を選び、コンバインが動かないように車止めしてください。
※守らないと、傷害事故を引き起こす原因となります。
- 格納時は、メインスイッチのキーを抜いてください。
※守らないと、機械の盗難やいたずら等で重大な事故を引き起こすおそれがあります。

17.2 日常の格納

サブナローガイドの開閉のしかた

脱こく部の点検・清掃をするときに利用してください。

- (1) サブナローガイドを開く時は中央部を持って引き出します。

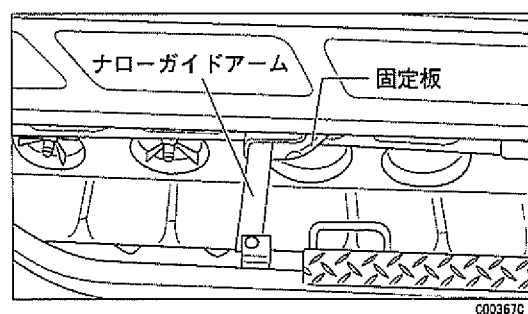


C00367C

《参考》

- 固定板溝部にナローガイドアームが確実に入り込むまで引き出してください。

- (2) サブナローガイドを閉じる時は、固定板溝から持上げて、押し込みます。



C00367C

《参考》

- ピンが板バネに確実に入り込むまで押し込んでください。

17. 格納時の手入れ

17.3 長期の格納

その他の手入れ

各部についた泥やワラくずを取り除いてください。

警告

- 脱穀内部、エンジン部、電装品等には、
圧力水を直接かけないでください。

※守らないと、機械の破損の原因となります。

◆エンジン関係の手入れのしかた

- [1] 燃料タンクは、満タンにして水の発生を防いでください。
- [2] 冷却水は、冬期停止時は抜くか、不凍液を入れてください。

◆バッテリーの保存

- [1] バッテリーを取りはずし、乾燥した日光の当たらない場所に保存してください。
- [2] バッテリーは、夏期は2カ月、冬期は3カ月以内に補充電をしてください。

◆長期格納時の注油

下記の箇所に注油してください。

- [1] 刈取部・脱穀部のチェーンおよび刈刃（自動注油ボタンを押して注油します。）
- [2] 各調節ワイヤのワイヤ露出部。
- [3] 各レバーの支点部。
- [4] 各ベルトのテンションアームの支点部。

◆格納のしかた

- [1] 湿気の少ない風通しの良い所に板をしいて、コンバインをのせてください。
- [2] 各レバーは「切」にしてください。
- [3] ナローガイド等は折りたたんでください。
- [4] サブナローガイドは収納してください。
- [5] 分草杆保護カバーを取り付け、刈取部をいっぱい下げてください。
- [6] メインスイッチキーを抜き取り、機体カバーを掛けてください。

18. 不調時の診断と処置

⚠ 警告

- 点検・整備をする時は、必ずエンジンを停止して、メインスイッチキーを抜いてください。
※守らないと、回転部等に手や衣服が巻き込まれ傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 点検・整備は、平たんで水平な硬い場所で行ってください。
※守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 点検・整備で取りはずしたカバーは、必ず元のとおり取り付けてください。
※守らないと、巻き込まれ、挟まれ等傷害事故を引き起こすおそれがあります。

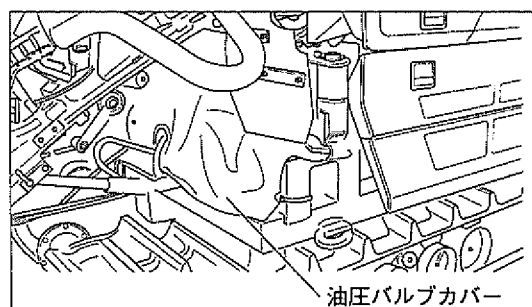
18.1 異常発生時の処置

現 象	原 因	処 置	参照ページ
エンジンが始動しない (セルモータが回らない場合)	ブレーキペダルを踏み込んでいますか。	駐車ブレーキペダルを踏み込んでください。	18
	作業クラッチレバーは「切」になっていますか。	作業クラッチレバーを「切」にしてください。	18
	バッテリーが放電していませんか。	補充電または交換してください。	161
	バッテリーの端子はゆるんでいませんか。	端子を清掃し、締め付けてください。	161
	スローブローヒューズは溶断していませんか。	交換してください。	162
エンジンが始動しない (セルモータは勢い良く回るが、かからない場合)	燃料はありますか。	燃料を入れ、エアー抜きをしてください。	53 136
株の引抜きがある	分草杆が株の根元に突込んでいませんか。	パワーステアリングレバーで分草杆の先端を少し上げてください。分草杆を条間に合わせてください。	56
	作業速度が速すぎませんか。	作物、ほ場の条件に合わせて適切な速度で刈ってください。	71
	刈刃がよく切れますか。	刈刃と受刃のスキマを調整してください。	167
作物を搬送しない 搬送姿勢が乱れる	泥や草などが通路にたまっていませんか。	取り除いてください。	—
	株が抜かれていませんか。	分草杆が地面にささらないように刈ってください。	77
	刈取ベルトがずべていませんか。	刈取ベルトを張る又は、交換してください。	145
	こぎ深さが深すぎか浅すぎになっていませんか。	正しくこぎ深さ指示マークに合わせてください。	71
	引越し装置で作物を切っていませんか。	引起し変速レバーを作物、ほ場の条件に合わせて適正に選んでください。	71

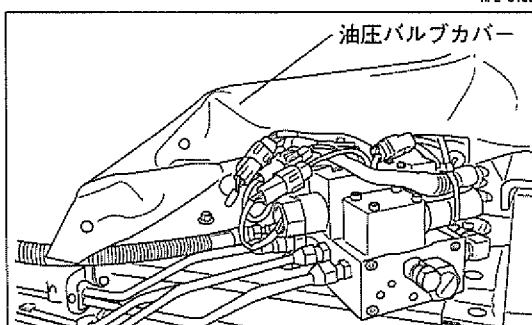
18. 不調時の診断と処置

現 象	原 因	処 置	参照ページ
刈りあとが悪い	刈刃部に泥や草がたまっていますか。	取り除いてください。	—
	刈刃が浮き上がっていませんか。	調整してください。	167
	刈刃がすり減っていませんか。	刈刃を交換してください。	167
	刈刃が折れていませんか。	刈刃を交換してください。	167
長く切れる	こぎ深さが極端な深こぎ、浅こぎになっていませんか。	正しくこぎ深さ指示マークに合わせてください。	71
	排ワラ搬送通路にワラ屑などがたまっていますか。	取り除いてください。	—
	カッタ刃の磨耗、損傷はありませんか。	カッタ刃を交換してください。	174
	切断長さ切換えフックは（L）（R）共、適正位置にセットされていますか。	固定ピンを適正位置にセットしてください。	—
警報ブザーが鳴らない	ヒューズが切れていませんか。	ヒューズを交換してください。	161
	配線が外れていませんか。	ハーネス、端子を点検してください。	161
油圧が作動しない	油圧バルブが詰まって、刈取上下、オーガ上下の作動が不調ではありませんか。	手動のプッシュボタンを数回押してゴミを抜いてください。	181

- (1) 油圧バルブカバーをはずします。
- (2) アンロードのプッシュボタンを押したまま、同時に不調か所に該当するバルブの手動プッシュボタンを数回押してください。
- (3) 油圧バルブカバーをもどします。

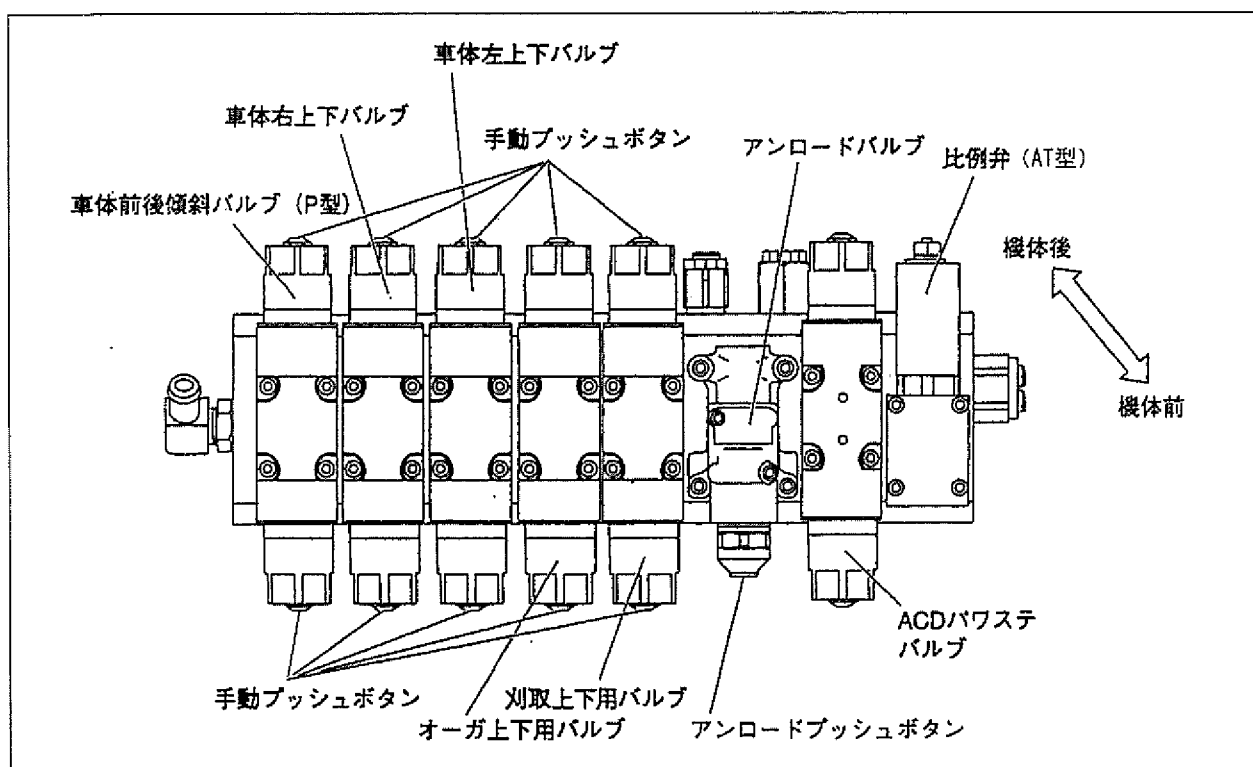


HFZ-5185



HFZ-5186

18. 不調時の診断と処置

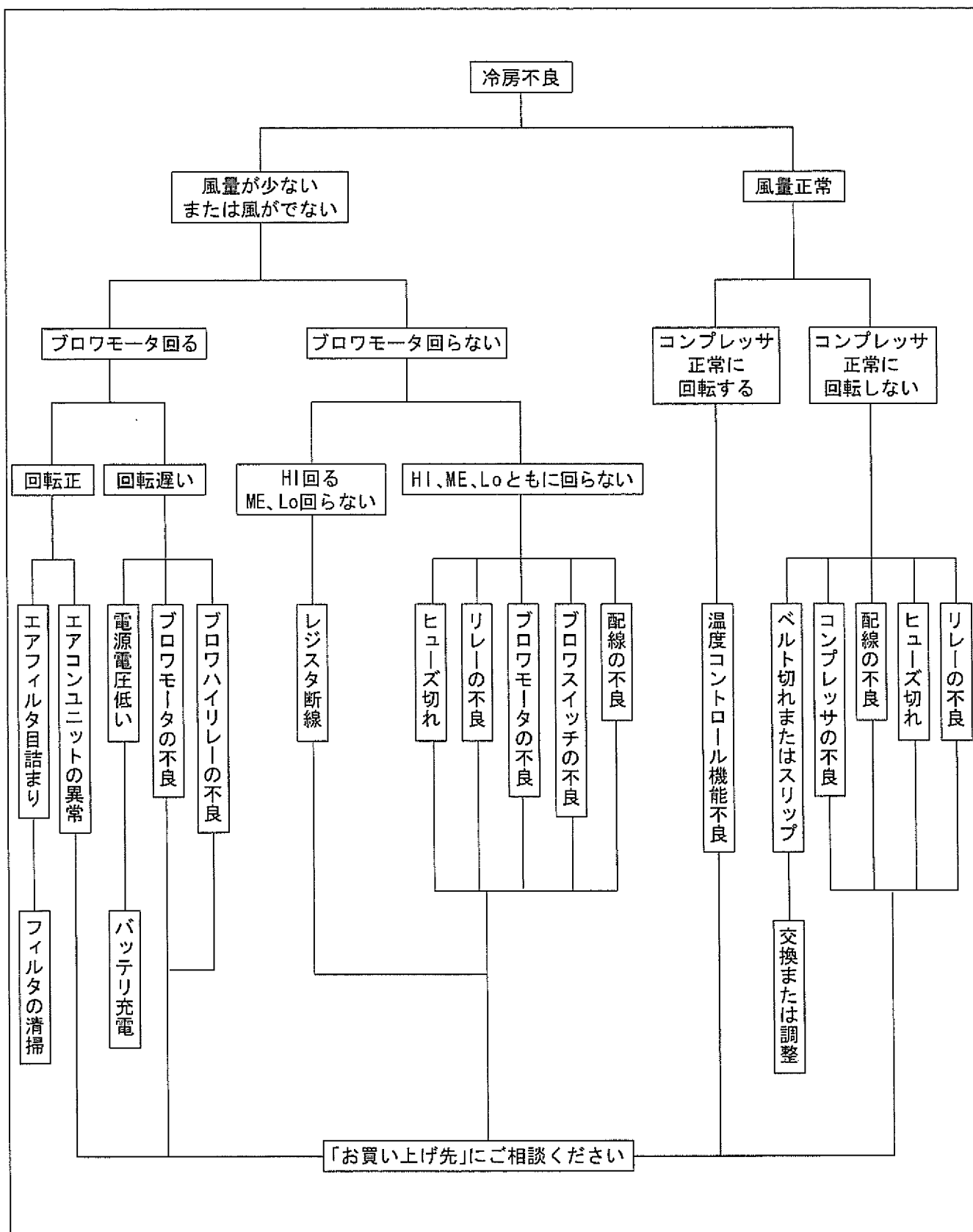


HFZ-5187

現 象	原 因	処 置	参照 ページ
ワイパが作動しない	ヒューズが切れていませんか	ヒューズを交換してください	161
	接触不良	アースおよびターミナルの点検・清掃をしてください	—
	スイッチの断線または不良	「お買い上げ先」に連絡してください	—
	リレーの不良	「お買い上げ先」に連絡してください	—
	モータの損傷	「お買い上げ先」に連絡してください	—
ウォッシャー液が出ない	ウォッシャー液が少ない	規定量まで補給してください	—
	接触不良	アースおよびターミナルの点検・清掃をしてください	—
	スイッチまたはリレーの不良	「お買い上げ先」に連絡してください	—
	モータの損傷	「お買い上げ先」に連絡してください	—
ラジオの音が出ない	ヒューズが切れていませんか	ヒューズを交換してください	161
	本体損傷	「お買い上げ先」に連絡してください	—
ラジオにノイズが入る	アース不良	アンテナおよびCDラジオ等のターミナルの点検・清掃をしてください	—
	本体の不良	「お買い上げ先」に連絡してください	—
ドア、サイドガラス、ハッチの開きが弱い	ダンパ不良	反発力チェックをしてください	—
ドアが走行中開く	ロックとストライカの調整不良	「お買い上げ先」に連絡してください	—
エアコンが冷えない		トラブルシューティングを参照してください	183
エアコンがあたたまらない		トラブルシューティングを参照してください	183

18. 不調時の診断と処置

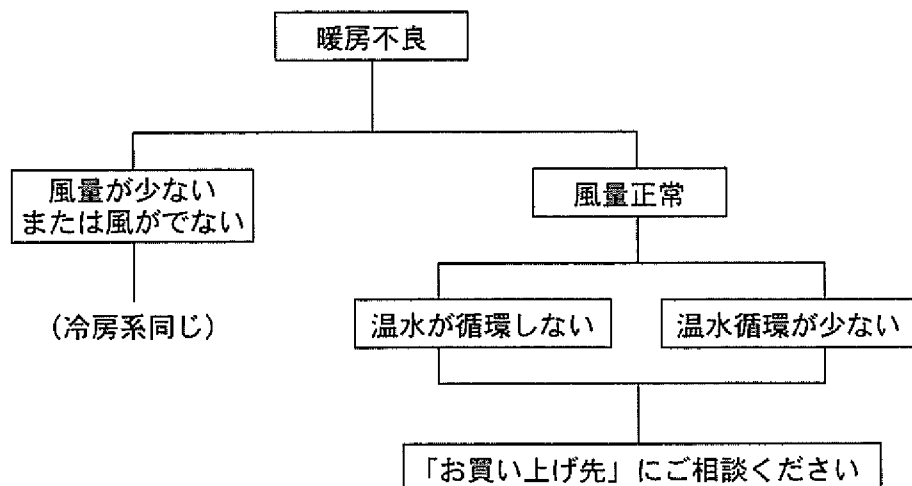
◆冷房関係トラブルシューティング



CO0518_A

18. 不調時の診断と処置

◆暖房関係トラブルシューティング



◆使用冷媒および充填について

冷媒ガスは、HFC-134aです。

充填量は、0.69～0.79kgです。

⚠ 注意

- 冷媒ガスの補充は行わないでください。

冷媒ガスの充填は全量回収し、規定量を入れ直してください。

※守らないと、冷媒ガスの不足や過充填となり、エアコン故障の原因になります。

- 冷媒ガスは、必ずHFC-134aを使用してください。

※守らないと、エアコン故障の原因になります。

18. 不調時の診断と処置

18.2 ロールベアラ部の不調診断

不調内容	診 断	処 置
マイコンリレーボックスが動作しない	1. ヒューズが切れている 2. コネクタが抜けている	1. ヒューズを交換する 2. コネクタを繋ぐ
満了感知しない	1. 電動モーターがロックし、カムセンサが押されていない 2. ゴミがひっかかりチャンバー閉センサ左右が押されていない	1. ブレーキを解除して電動モーターを回転させる 2. チャンバー閉センサ左右を掃除する
パトライトが回転するが点灯しない	電球が切れている	電球を交換する
パトライトが点灯・回転し続ける	タイマーアームがネジタイマーに乗ったままになっている	タイマーアームを下げる
断続音でブザーが鳴り続ける	ホサキセンサにゴミが引っ掛かり、押されたままになっています	ホサキセンサを掃除する
ホサキセンサを押し続けても断続音でブザーが鳴り続けない	タイマーアームがネジタイマーに乗ったままになっている	タイマーアームを下げる
連続音でブザーが鳴り続ける	ゴミがひっかかりチャンバー閉センサ左・右が押されていない	チャンバー閉センサ左右を掃除する
ホーンが鳴らない	コネクタが抜けている	コネクタを繋ぐ
作業クラッチを入れるとエンジンが止まる	1. 緊急停止スイッチが利いている 2. カッターツマリセンサにわらが詰まり、押されている	1. 緊急停止スイッチを解除する 2. カッターツマリセンサを掃除する
ホーンが鳴らない	コネクタが抜けている	コネクタを繋ぐ

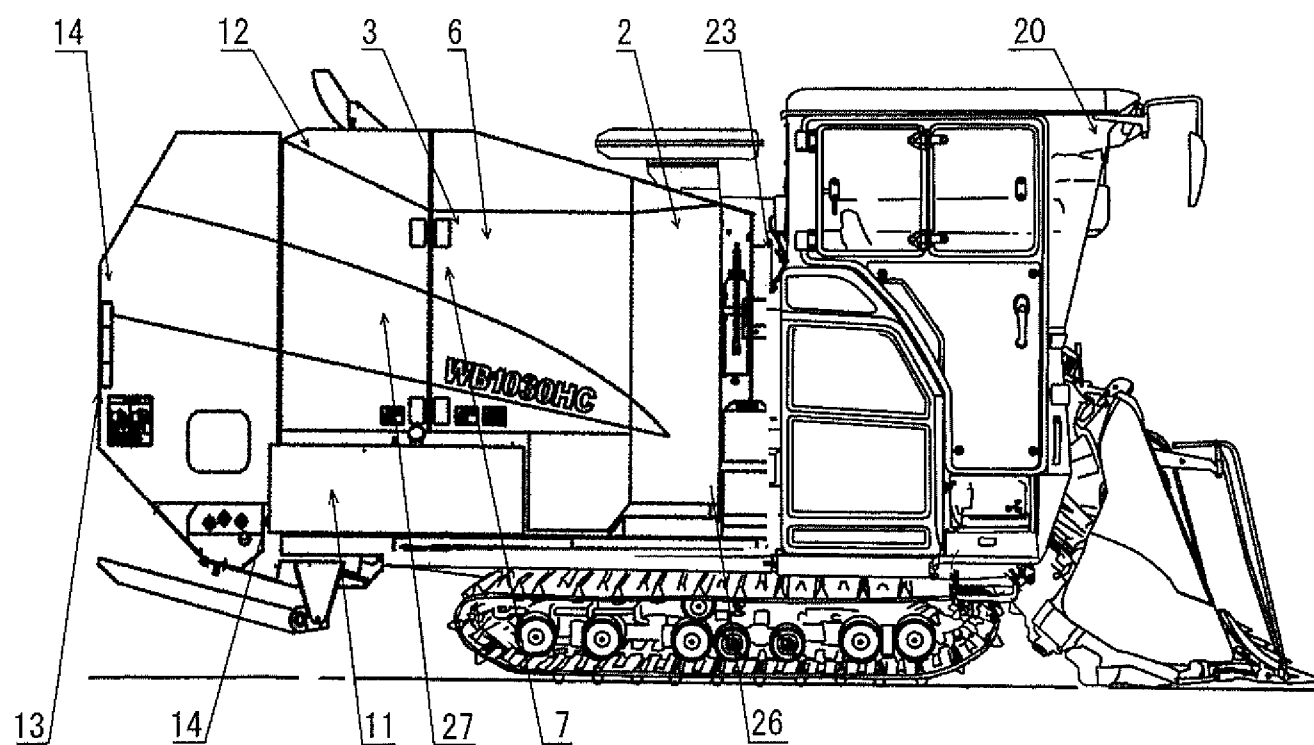
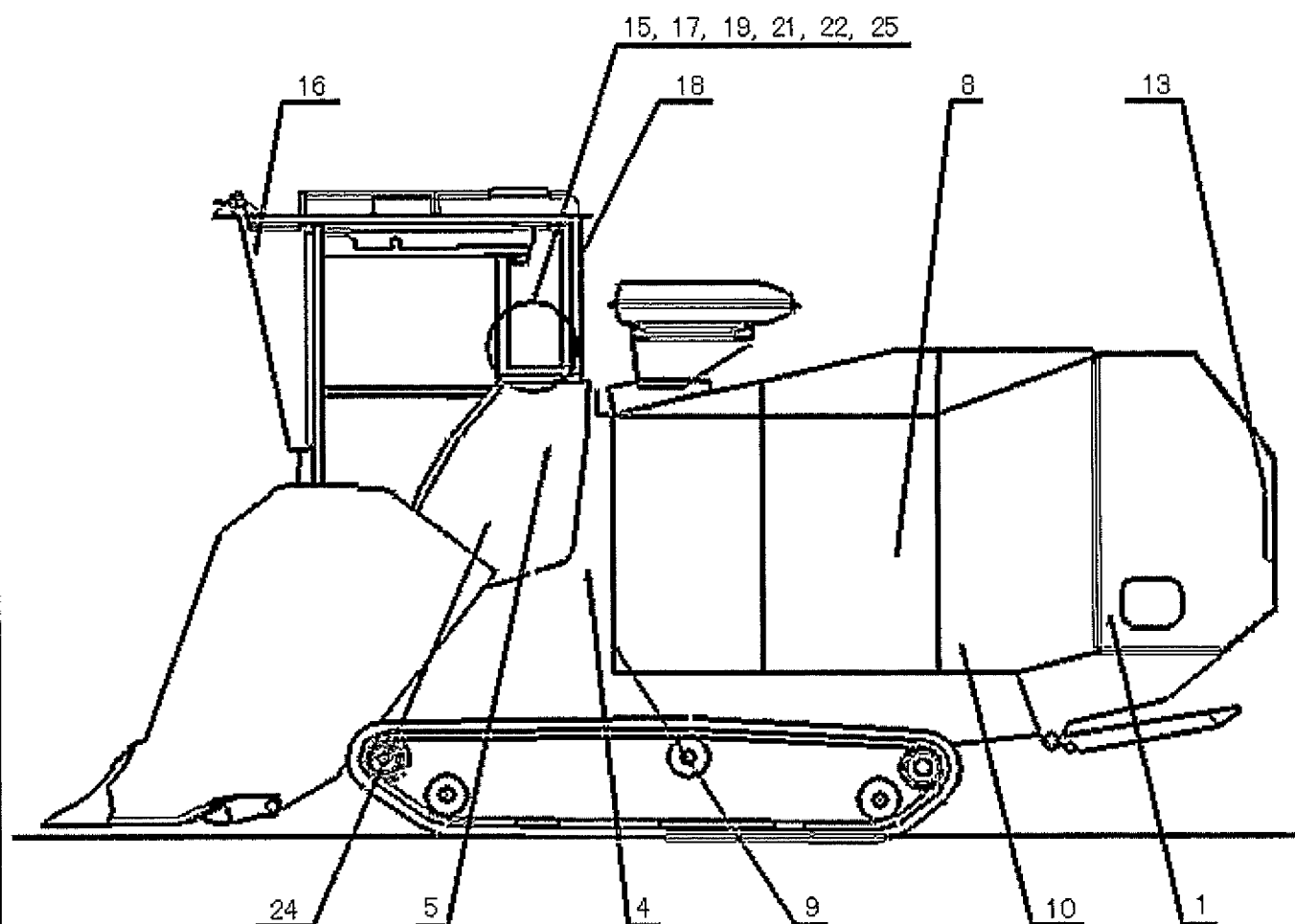
19. 付 表

19.1 主要諸元

品名			細断型ホールクropp収穫機		
型式			WB1030HC		
機体の大きさ	全長 (mm)		5070		
	全幅 (mm)		2130		
	全高 (mm)		2650		
	質量 (kg)		4220		
エンジン	型式		イセキ E4DG-WTIDEA		
	種類		水冷4サイクル4気筒立形ディーゼルトーボ		
	出力／回転速度 (kW{PS}rpm)		62.8{85.4}／2600		
	始動方式		セルモーター式		
走行部	クローラー	中心距離 (mm)	1075		
		幅×接地長 (mm)	500×1760		
	平均接地圧 kPa (kg/cm ²)		23.1{0.235}		
	変速段数		副変速：前進3段 後進3段		
	走行速度 (m／s)	前進	0～0.97 0～1.65 0～2.86		
		後進	0～0.97 0～1.65 0～2.86		
	旋回方式		α-T.a.c.h		
刈取部	刈幅 (mm)		1650～1725		
	刈取条数 (条)		5		
	変速段数		副変速2段＋引起し3段		
切断・形成部	切断方式		ディスクカッタ方式		
	切断長		理論切断長30mm		
	ベール方式		定径式 (チェーン・バー式)		
	ベール寸法 (cm)		Φ100×幅85		
	ベール重量 (kg)		約300 (水分60%)		
	使用ネット幅 {cm}		123、103		
	混合方式		ダブルディスク		
	作業能率 (分／10a)		20～30		

19. 付 表

19.2 電装の位置

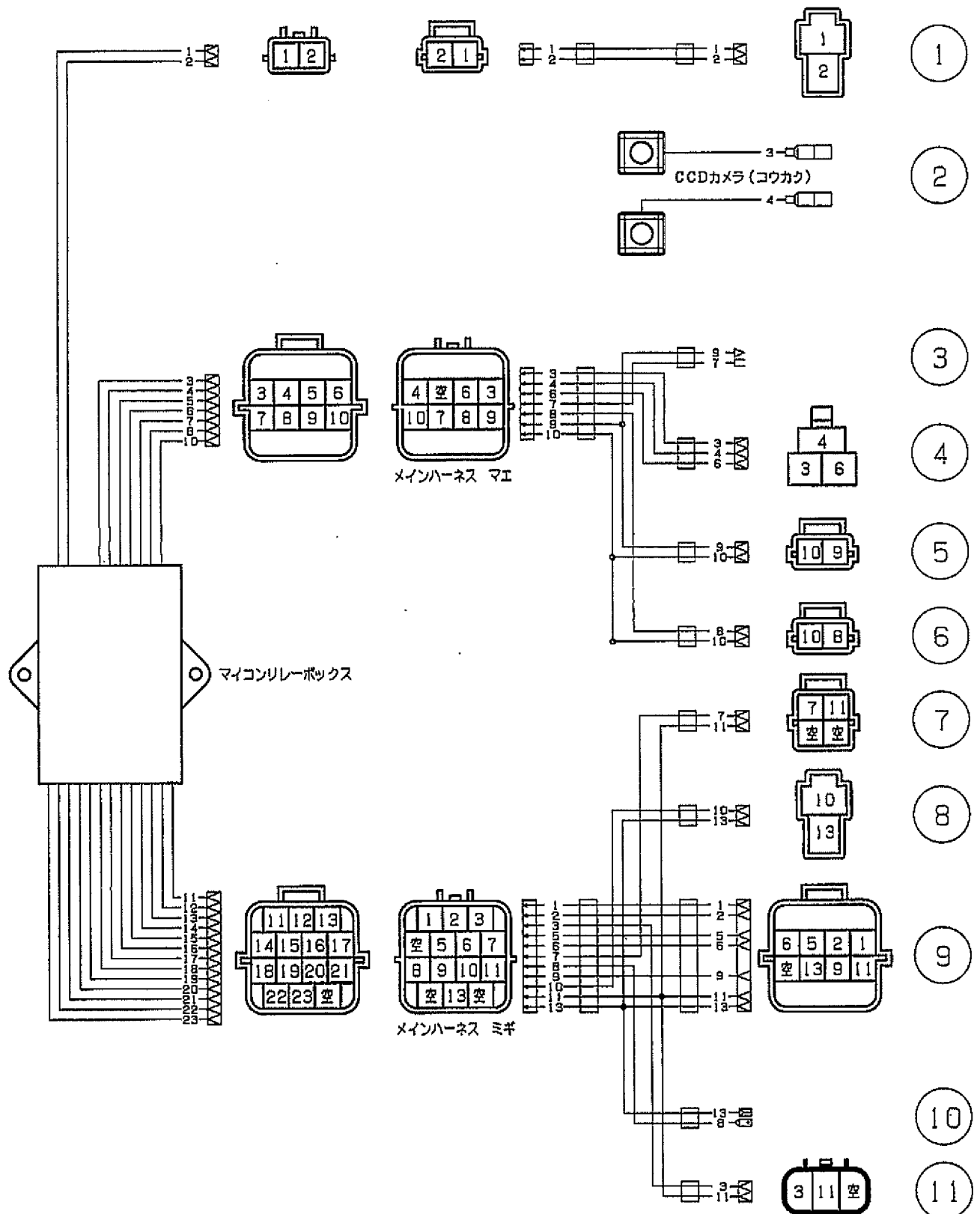


19. 付 表

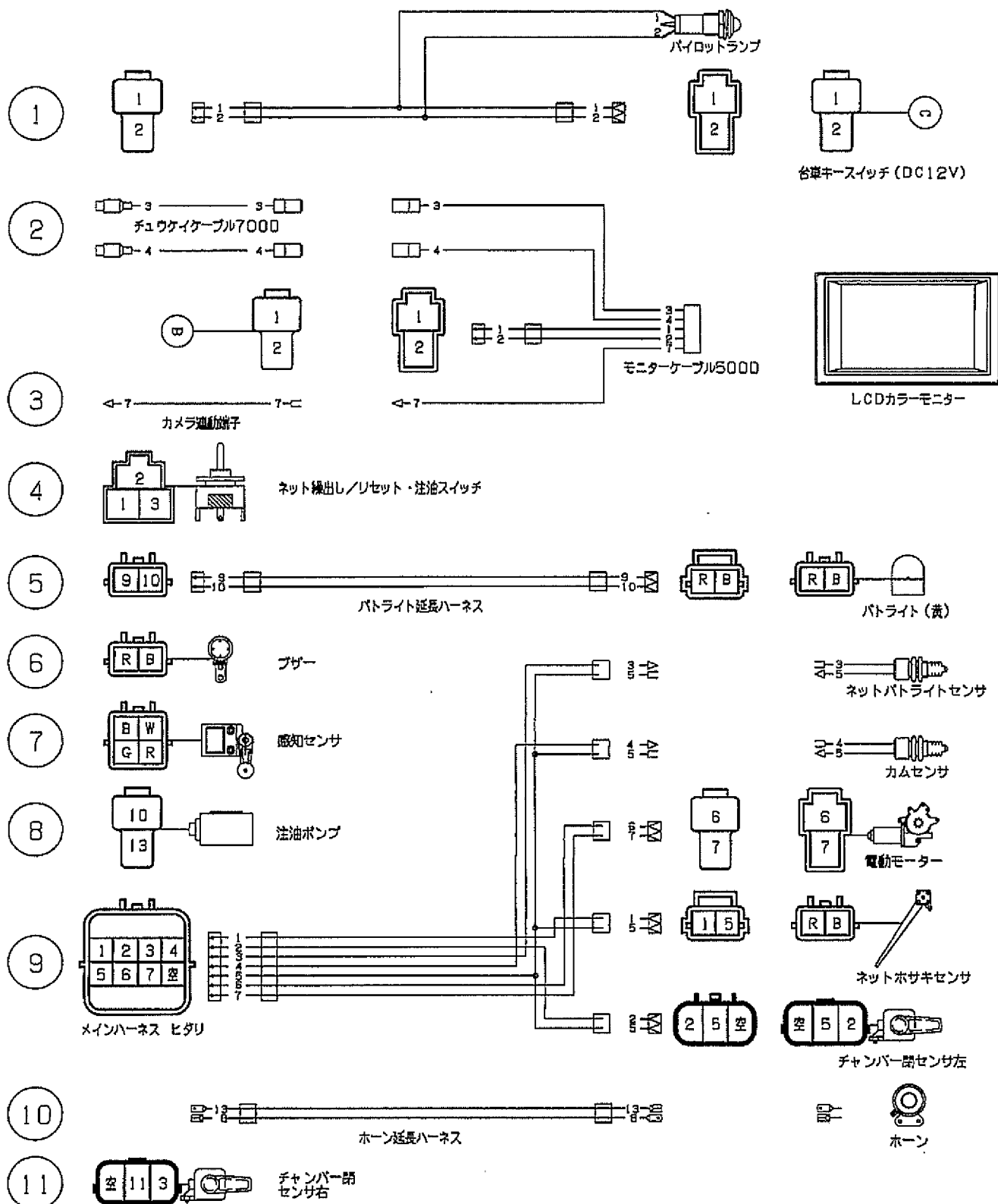
番号	名 称	は た ら き
1	感知センサ	・チャンバー内が満了になったことを検出します。
2	マイコンリレーボックス	・ロールペーラを制御しているボックスです。
3	ネットモータ	・ネット装置のカムを回転させます。
4	緊急停止スイッチ	・緊急に機械を停止したいときに押すと非常停止になります。
5	カッターツマリセンサ	・材料が詰まっていないかを検出します。
6	カムセンサ	・センサが押されている間ホーンが鳴ります。
7	ネットパトライトセンサ	・タイマーナイフが上がっていることを検出します。
8	ホサキセンサ	・材料が流れていることを検出します。
9	NC リレー	・非常停止用のリレーです。
10	チャンバー閉センサ左	・チャンバーが全閉状態になったことを検出します。
11	チャンバー閉センサ右	
12	チャンバー用ポテンションメータ	・チャンバーが開いた時にペーラのクラッチを切るためのものです。
13	テールランプ左・右	・左右ウィンカー、ブレーキランプ、車幅灯
14	CCD カメラ (コウカク)	・後方確認用のバックカメラです。
15	ネット繰出し/リセット・注油スイッチ	・ネットの繰出しを行います。 ・押している間、タイトチェンに注油します。
16	パトライト黄	・ネット巻付け中に点灯します。
17	電子ホーン (連続音)	・チャンバーが開いている時にブザーが鳴ります。
18	作業灯	・暗い場所で作業をする際に付ける灯りです。
19	パイロットランプ	・ロールペーラのヒューズが切れていると消灯します。
20	LCD カラーモニター	・機体後方を確認するのに使用します。
21	ヒューズ 3A	・LCD カラーモニター用のヒューズです。
22	ウズマキホーン	・ネット繰出しを知らせます。
23	ホーン	・満了感知時にホーンが鳴ります。
24	添加器ホサキセンサ	・センサが ON のときに添加器モータを作動させます。
25	添加器ボックス	・添加物を入れるボックスです。
26	添加器モータ	・添加器装置を動かすためのモータです。
27	注油モータ	・ロールペーラ注油用のモータです。

19. 付 表

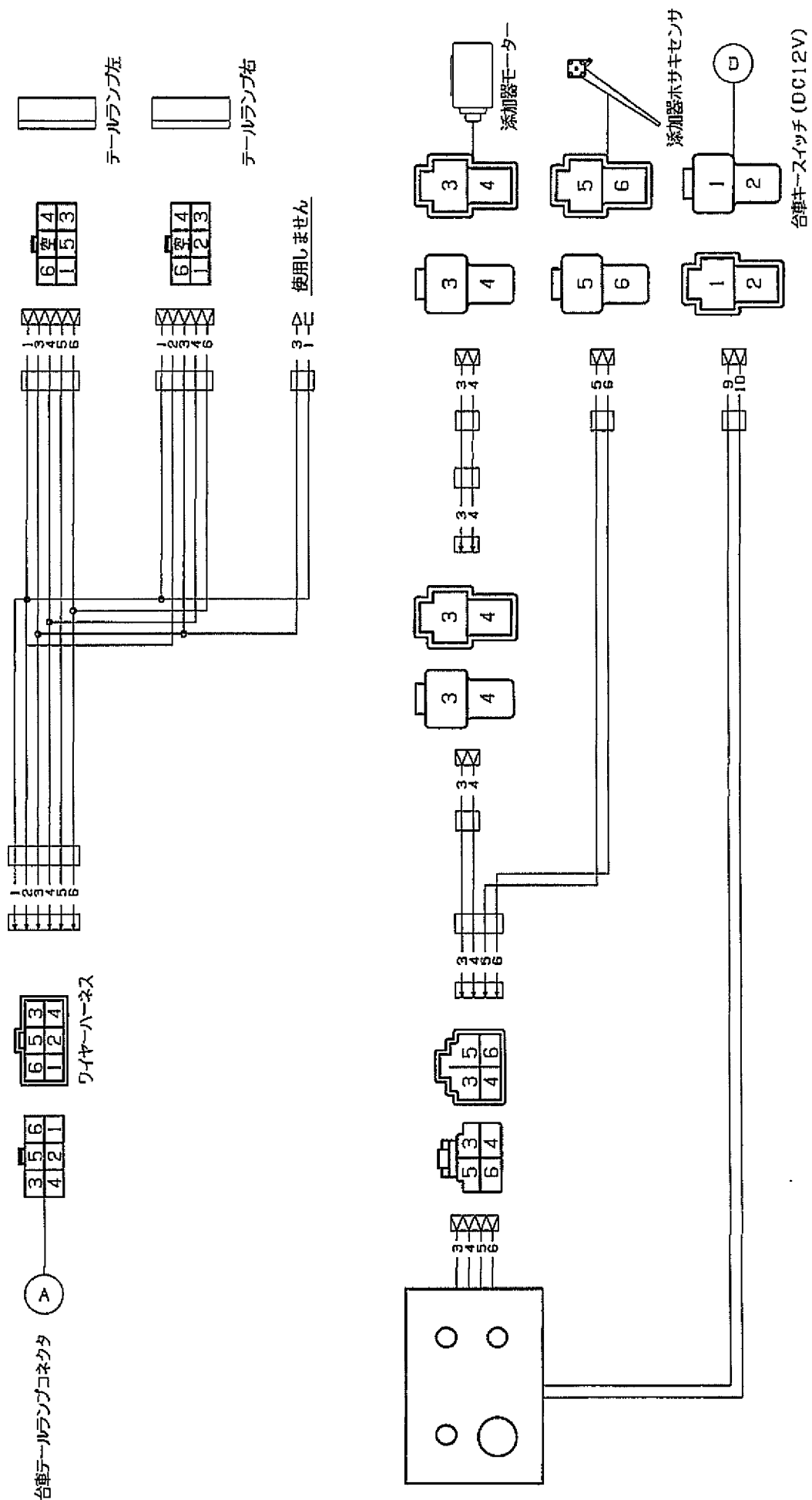
19.3 配線図



19. 付 表



19. 付 表



19. 付 表

19.4 付属品一覧

	品 名	付 属 個 数	備 考
サ ー ビ ス 品	1 取扱説明書	1	
	2 愛用者カード	1	
	3 保証書	1	
附 属 部 品	1 機体カバー	1	
	2 スペアキー	1	
	3 油差し	2	
	4 バックツール	1	

19.5 推奨潤滑油一覧表

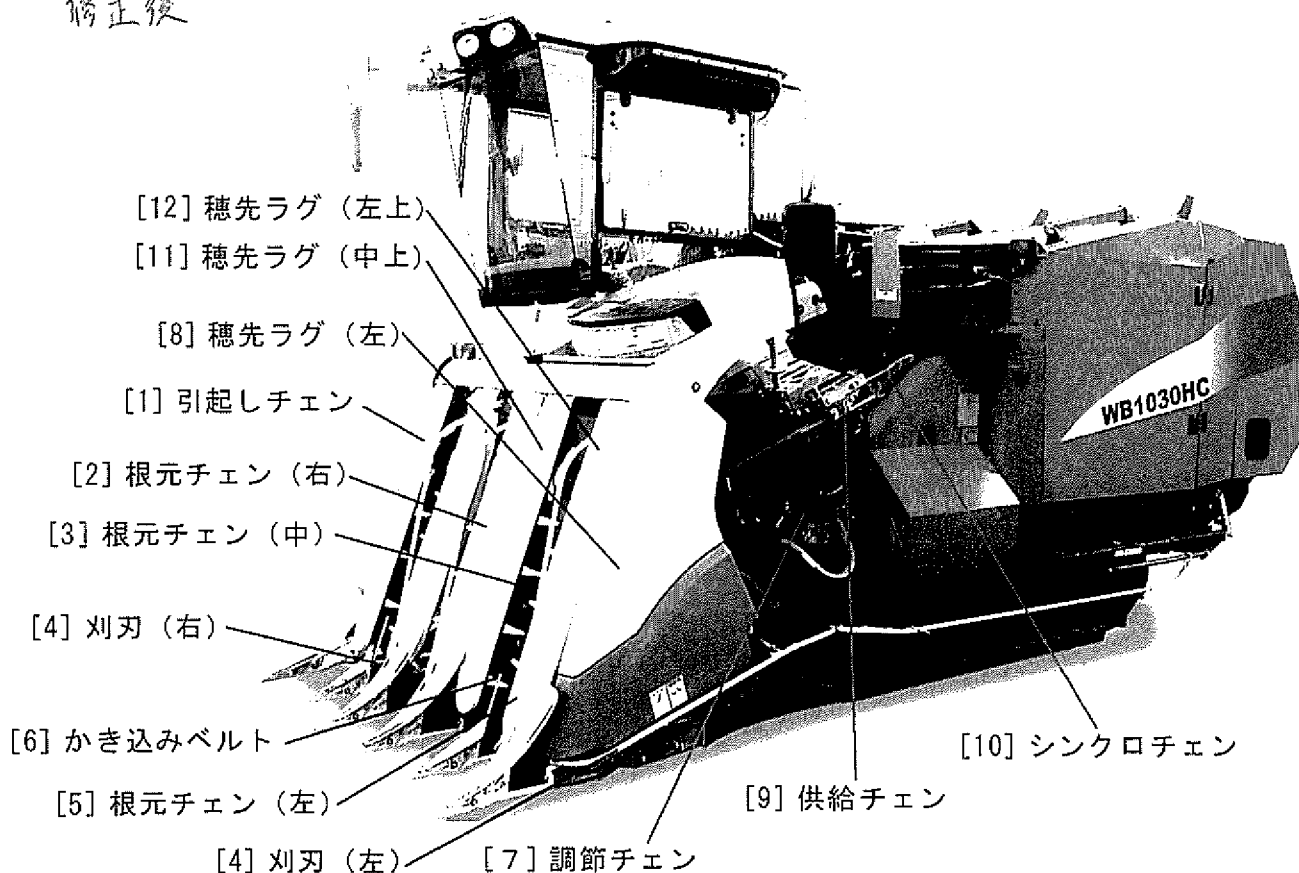
区 分	メーカ品	商品名	出荷時 充填油
ディーゼル エンジンオイル	井関農機	井セキ・スーパーエコディーゼルエンジン オイル (10W-30 CH-4/CF) 200L 缶 ……7019-023-200-00 20L 缶 ……7019-023-300-00	○
		井セキ・ハイドロリックオイル (VG46) 20L 缶 ……7019-012-300-00	○
ギヤ オイ ル	走行メイン ギヤケース	井関農機 井セキ・U・T・H オイル (80W) 20L 缶 ……7019-019-300-00 4L 缶×6……7019-019-400-00	○
	ギヤケース	井関農機 井セキ・ハイポイド・ギヤ・オイル (90#) 20L 缶 ……7019-002-300-00 4L 缶×6……7019-002-400-00 井セキマルチデラックスオイル (90#) 20L 缶 ……7019-002-300-00 4L 缶×6……7019-002-400-00	○
一般グリース	協同油脂	ユニルーフ No. 2	○
	他有名メーカのリチウム系一般グリース		
燃料	有名メーカ品	ディーゼル軽油 JIS2 号～3 号 (3 号は厳寒時)	○
不凍液	モービル石油 シェル石油 他有名メーカ品を使用	モービルロングライフクーラント (L.L.C.) アンチフリーズ	○
エアコンガス	デンソー 有名メーカ品	カーエアコン・クーラ用ガス R-134a (HFC-134a)	○
コンプレッサオイル	デンソー	冷媒機オイル ND-OIL8	○
ウォッシャ液	シェル石油 有名メーカ品	シェルウインドクリーナ	○

19. 付 表

19.6 主要消耗品

◆刈取部チェーン関係

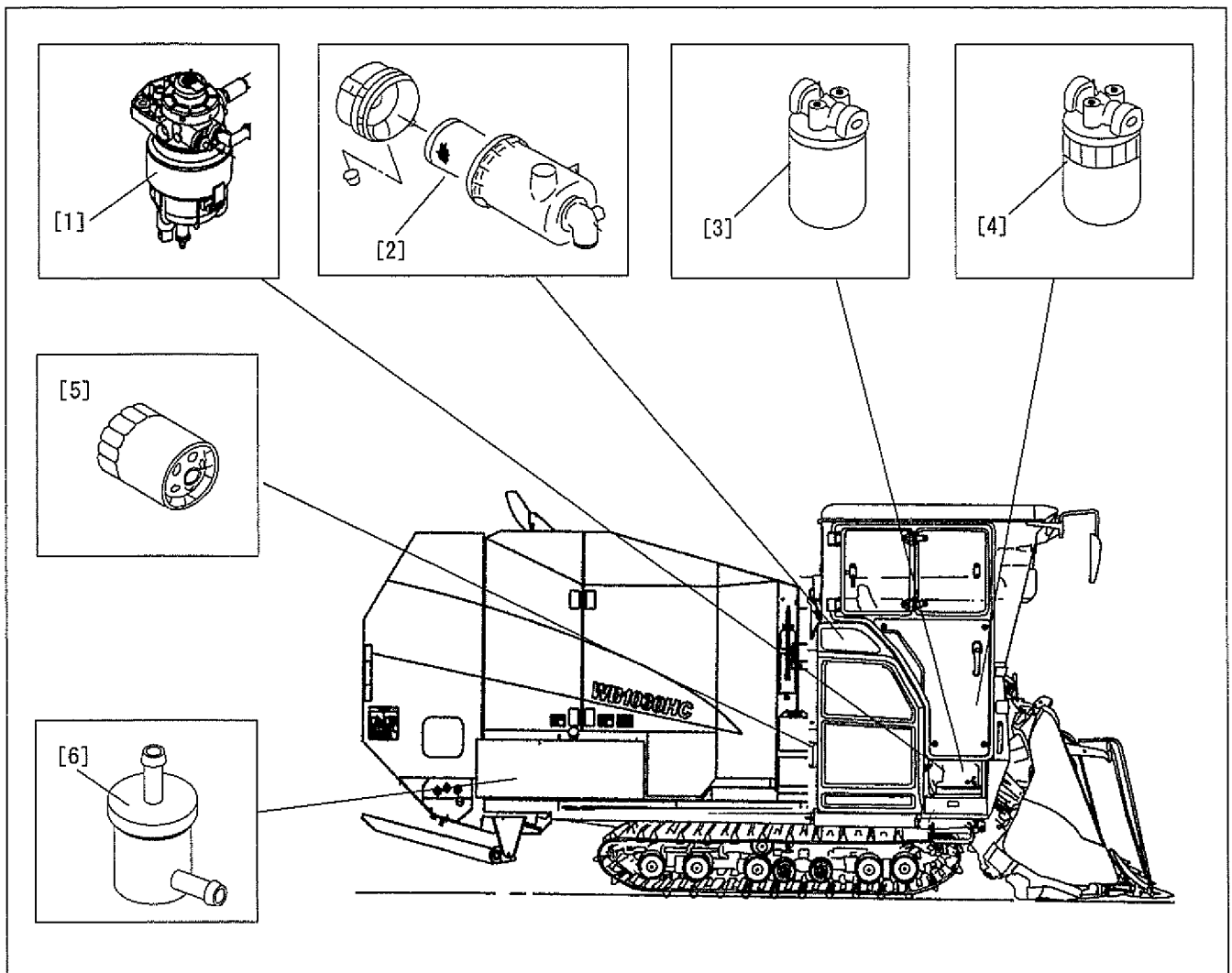
修正後



No.	品 名	品 番	使用個数/台
[1]	ラグ (ライズアップ)	IS3818-410-201	50
[2]	チェーン (フィード/25×81) ASSY	IS3822-470-200	1
[3]	チェーン (フィード/25×33) ASSY	IS3822-465-200	1
[4]	ナイフ (F5) ASSY	IS3822-430-500	1
[5]	チェーン (フィード/25×57) ASSY	IS3822-460-200	1
[6]	ベルト (カキコミ/VA032)	IS3676-440-002	5
[7]	チェーン (フィード/30×45) ASSY	IS3822-480-200	1
[8]	タイン (ホサキ)	IS3818-501-201	43
[9]	チェーン (フィード/30×37) ASSY	IS3817-490-200	1
[10]	チェーン (フィード/33×32) ASSY	IS3824-713-600	1
[11]	タイン	IS3825-508-501	13
[12]	タイン	IS3822-505-501	6

19. 付 表

◆台車部フィルター関係

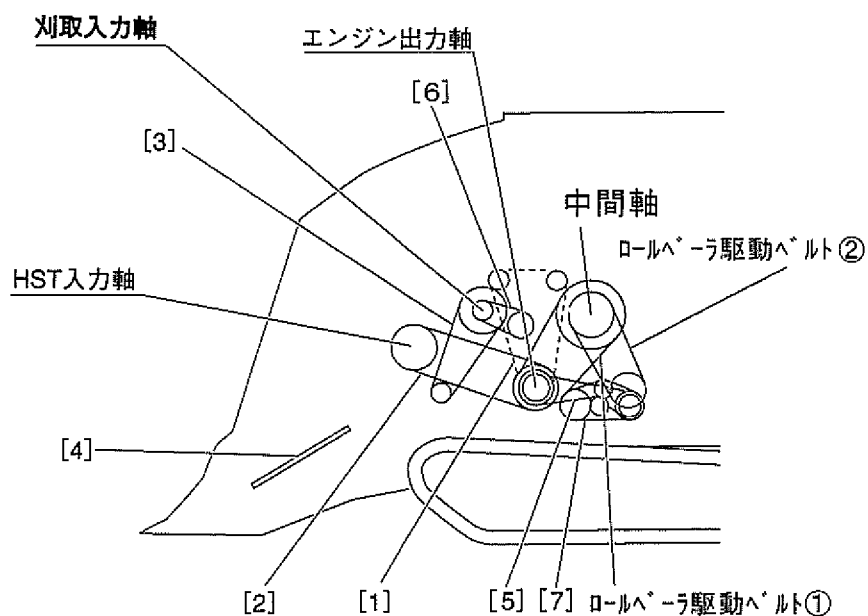


MFZ-5191

No.	品 名	品 番
[1]	フューエルフィルタ エlement	IS6213-240-008
[2]	エアークリーナ エlement	IS3829-331-201
[3]	走行メインギヤケースオイルフィルタ カートリッジ	IS3670-113-212
[4]	HSTオイルフィルタ カートリッジ	IS3680-354-326
[5]	エンジンオイルフィルタ カートリッジ	IS6213-240-005
[6]	フューエル プレフィルタ	IS6213-200-015

19. 付 表

◆台車部ベルト関係



No.	品 名	サイズ	品 番	使用個数／台
[1]	ファンベルト	VR5A46	IS6213-671-048	1
[2]	HSTベルト (HF Z 585)	SB51	IS3871-122-002	3
[3]	刈取ベルト (HF Z 585)	SB68	IS3871-133-001	1
[4]	かき込みベルト	—	IS3676-440-002	5
[5]	駆動ベルト (C型)	LA46	IS3829-387-015	1
[6]	シンクロベルト	SB34	IS3824-705-061	1
[7]	クーラベルト (C型)	LA27 (コグ)	IS3801-248-035	1
	ロールベアラ駆動ベルト①	L B 49 (ス-パ-ゴ-ルト)	03610-5120-490	3
	ロールベアラ駆動ベルト②	L B 43 (ス-パ-ゴ-ルト)	03610-5120-430	3

19. 付 表

19.7 ロールベアラ消耗部品

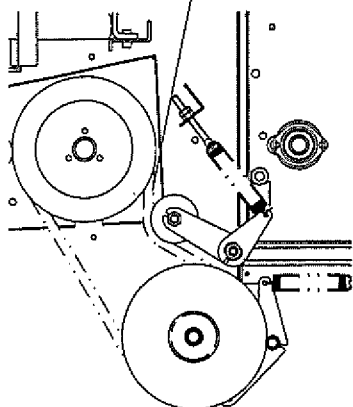
(純正部品を使いましょう)

[番号はタカキタコード]

カッター駆動ベルト

LC60スーパーゴールド

03610-5130-600

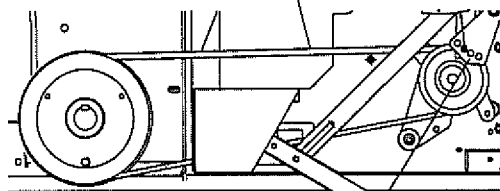


◆ネット駆動部

ネット駆動ベルト

(A71標準)

03610-0010-710



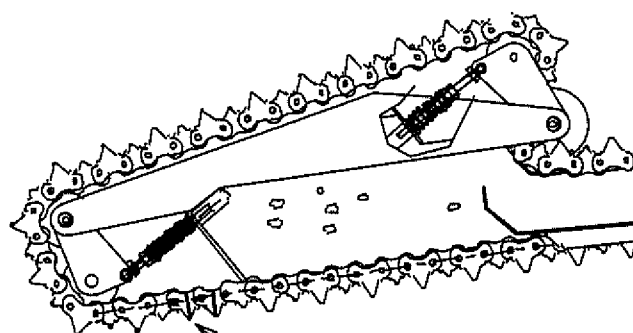
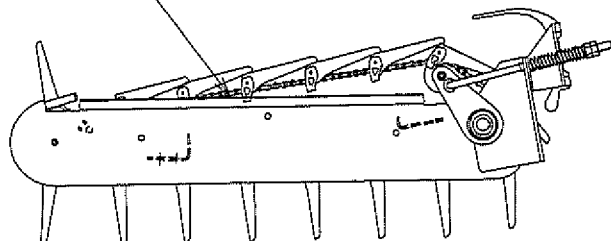
◆ロールベアラ部コンベアベルト

37107-6420-001

◆フィードチェーン部

ホサキチェーンアッシ (128)

39101-5481-000



ギャザリングチェーン66

39101-5370-001

◆タイトチェーン

39101-3280-000

◆ロールベアラ部シェアボルトセット

M8×40 (8T全ネジ) と

M8ナイロンナットが10セット

部品コード 01358-5080-40A

◆逆転軸部シェアボルトセット

M8×30 (8T全ネジ) と

M8ナイロンナットが10セット

部品コード 01358-5080-30A

◆攪拌ディスク部シェアボルトセット

M6×25 (8T全ネジ) と

M6ナイロンナットが10セット

部品コード 01158-5060-25A

◆ギャザリング部シェアボルトセット

M6×25 (8T全ネジ) と

M6ナイロンナットが10セット

部品コード 01158-5060-25A

◆出力軸部シェアボルトセット

M10×35 (8T全ネジ) と

M10ナイロンナットが10セット

部品コード 01158-5100-35A

19. 付 表

19.8 オプション一覧

No.	作業機名称	品 番	品 名	備 考
[1]	補助デバイダ (標準)	IS3840-425-400	DJ590 SET	
[2]	補助デバイダ (右)	IS3840-425-800	DRJ590 SET	
[3]	刈取スタンド	IS3817-590-300	チューブ (スタンド) SET	
[4]	セーフティチャージャー	IS1105-621-270	チャージャー (バッテリー/A) SET	
[5]	灰 皿	IS3857-235-200	アッシュトレイ SET	キャビン用

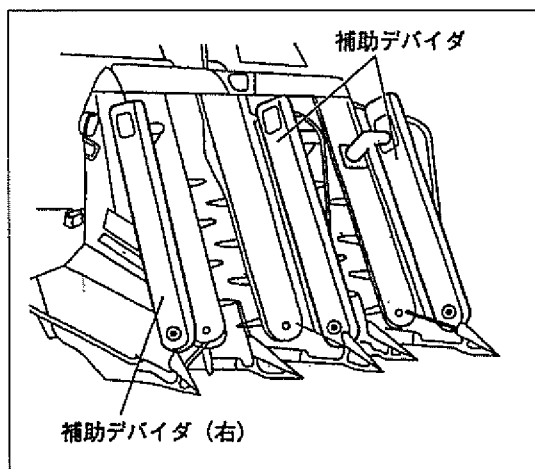
◆補助デバイダ

倒れた稲も作業できます。

ラグ作用高さのワンタッチ切換レバーで簡単にラグ作用高さが換えられます。

◆補助デバイダ (右)

補助デバイダに加えて、補助デバイダ (右) 追加すれば倒伏の方向に関係なく作業できます。

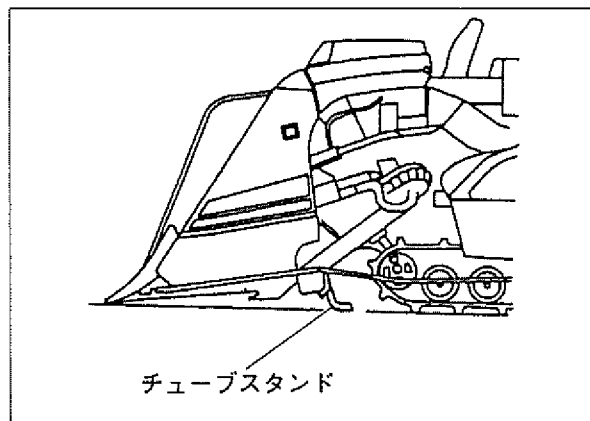


HS-62236

注文部品名	品 番
補助デバイダ (標準) DJ590 SET	IS3840-425-400
補助デバイダ (右) DRJ590 SET	IS3840-425-800

◆刈取スタンド

刈取部を脱着するとき使用してください。



HF-64271

注文部品名	品 番
チューブ (スタンド) SET	IS3817-590-300

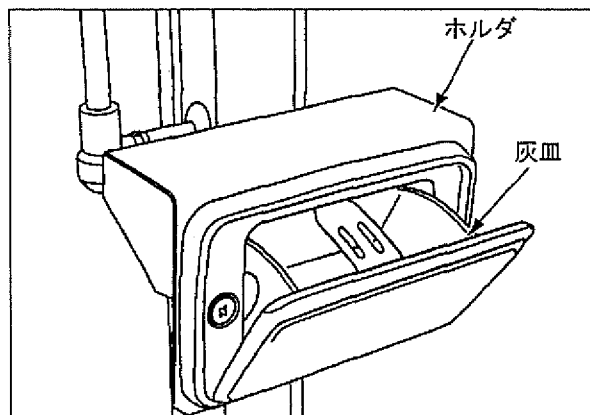
◆セーフティチャージャー

本機格納時、家庭用電源 (AC100V) を使用してバッテリー電流を供給しバッテリー放電防止、および充電が行えます。

注文部品名	品 番
チャージャー (バッテリー/A) SET	IS1105-621-270

◆灰皿

キャビン仕様に灰皿が装着できます。



HC-0130

注文部品名	品 番
アッシュトレイ SET	IS3857-235-000

補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限(期間)は製造打ち切り後9年といたします。
ただし、供給年限内であっても特殊部品につきましては、納期等について
ご相談させていただく場合もあります。

純正部品を使いましょう

補修用部品は、安心してご使用いただける純正部品をお買い求めください。
市販類似品をご使用になりますと機械の不調や、機械の寿命を短くする原因に
なります。

純正アタッチメントを使いましょう

純正アタッチメントは一番よくマッチするように研究され、徹底した品質管理
のもとで生産・出荷していますので、安心して使ってください。
市販類似品をお使いになりますと、作業能率の低下や機械の寿命を短くする
原因となります。

株式会社 **9nキ9**

本社工場 〒 518-0441 三重県名張市夏見 2828 番地
TEL 0595-63-3111(代)
FAX 0595-64-0857

札幌工場 〒 007-0882 北海道札幌市東区北丘珠 2 条 3 丁目 1 番 20 号
TEL 011-781-1111(代) FAX 011-781-1113

札幌 〒 007-0882 北海道札幌市東区北丘珠 2 条 3 丁目 1 番 20 号
TEL 011-781-1111(代) FAX 011-781-1113

豊富 〒 098-4110 北海道天塩郡豊富町大通り 12 丁目
TEL 0162-82-1245(代) FAX 0162-82-1885

北見 〒 099-2103 北海道北見市端野町 3 区 305-1
TEL 0157-56-3326(代) FAX 0157-56-3674

中標津 〒 086-1001 北海道標津郡中標津町東 1 条南 10 丁目
TEL 0153-72-2983(代) FAX 0153-72-3080

帯広 〒 082-0005 北海道河西郡芽室町東芽室基線 13-3
TEL 0155-62-3311(代) FAX 0155-65-3312

東北 〒 020-0891 岩手県柴波郡矢巾町流通センタ-南 3 丁目 2 番 6 号
TEL 0196-37-2841(代) FAX 0196-38-7225

南東北 〒 981-3602 宮城県黒川郡大衡村大衡字尾西 373 番 8 号
TEL 022-345-6951(代) FAX 022-345-6952

関東 〒 323-0012 栃木県小山市大字羽川字下田 66
TEL 0285-24-4481(代) FAX 0285-24-3791

関西 〒 518-0441 三重県名張市夏見 2828 番地
TEL 0595-63-3111(代) FAX 0595-64-0857

中国 〒 708-1123 岡山県津山市下高倉西 845-1
TEL 0868-29-3131(代) FAX 0868-29-3132

九州 〒 834-0115 福岡県八女郡広川町大字新代 1389-163
TEL 0943-33-1311(代) FAX 0943-33-1312

南九州 〒 885-0003 宮崎県都城市高木町 4917 番 1
TEL 0986-38-4321(代) FAX 0986-38-4342

部 品 コ ー ド

4 0 1 2 1 9 9 1 0 0 0 5
